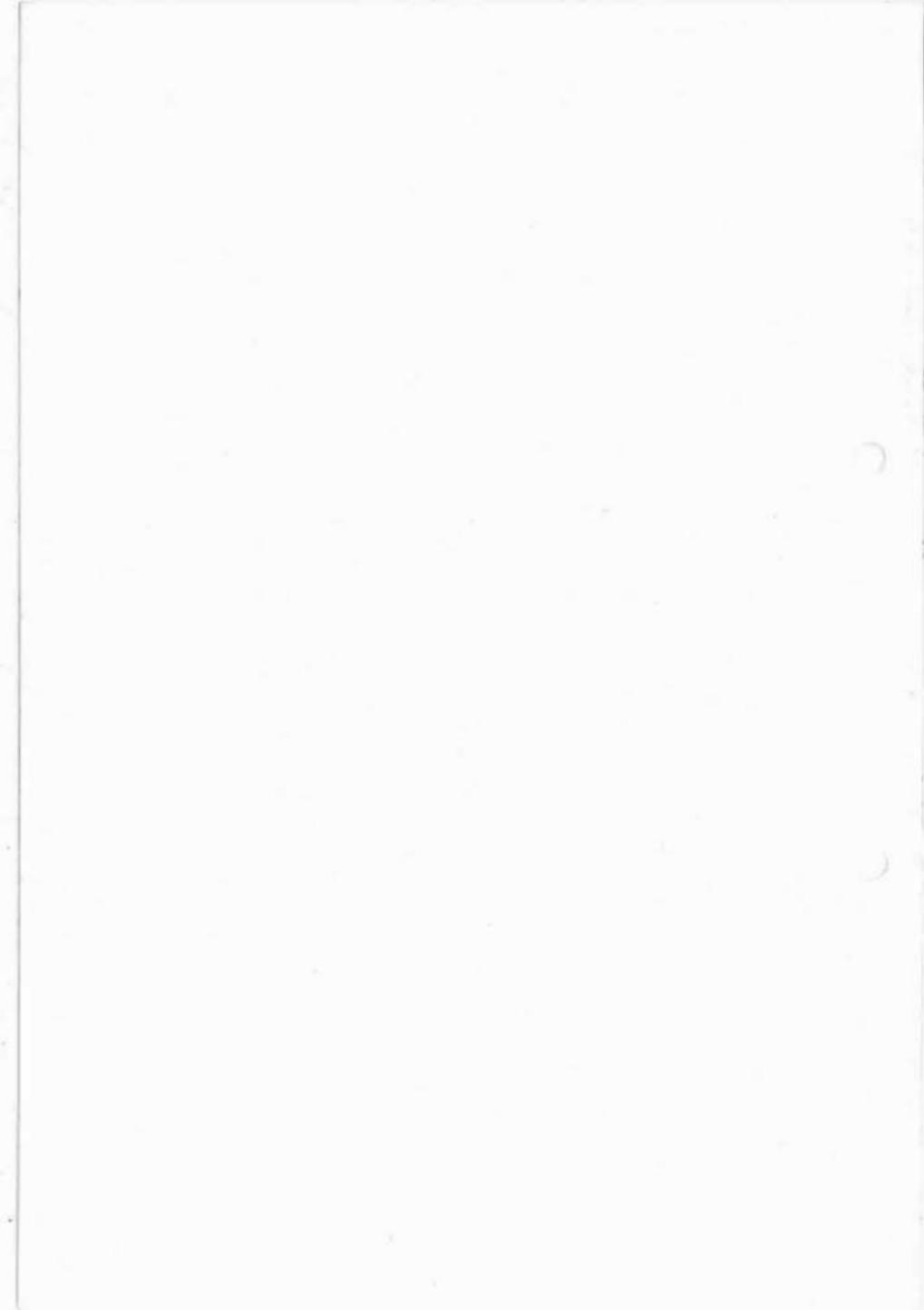


〒371 前橋市上泉町 664-4
前橋市教育委員会管理部文化財保護課
TEL 0272-31-9531

柳久保遺跡群 VI

1988

前橋市教育委員会
前橋市埋蔵文化財発掘調査団



柳久保遺跡群 VI

—城南住宅団地内造成内発掘調査報告書—

1988

前橋市教育委員会
前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序 文

前橋市は上毛三山の一峰赤城山を北に望み、坂東太郎で名高い利根川の清流が市街地の西部を流れる、詩情豊かな県都である。

赤城南麓、前橋台地上には旧石器時代から人々の生活の痕跡を示す遺物が認められ、縄文時代から近代に至るまで、数多くの遺跡が存在する。特に古墳時代には前橋天神山古墳を始め数々の古墳が作られ、東国の中心とも言える文化を築いています。

柳久保遺跡は前橋市工業団地造成組合による城南住宅団地造成に伴う発掘調査である。調査は昭和59年度から行なわれ、昭和62年度が最終年度となります。

本報告書を刊行するにあたり物心両面から援助、協力をいただいた前橋市工業団地造成組合に厚くお礼を申し上げます。

また本発掘調査に際し、山武考古学研究所・所長をはじめ調査担当者・作業員に感謝申し上げます。

本報告書が斯学の発展のため寄与できれば幸いと存じます。

昭和63年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 関口和雄

例　　言

1. 本書は、前橋市荒子町に所在する城南住宅団地造成予定地における御久保遺跡群中鶴谷遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は前橋市工業団地造成組合（管理者　清水一郎）の依頼により前橋市教育委員会指導のもと山武考古学研究所が担当した。
3. 現地調査は山武考古学研究所調査研究員千田幸生、肥田順一が行なった。
4. 本書の作成、図面整理において郡司勝子、平山史子、増田敏子、福地文子、芦田和義の協力を得た。
5. 本書の遺構写真は、千田、肥田が撮影し、遺物写真は千田、調査研究室室長大和久震平が撮影した。
6. 墓書土器の赤外線テレビカメラによる撮影は国立歴史民俗博物館歴史研究部の平川南氏にお願いした。
7. 本書の編集は千田が行ない平岡和夫が総括した。
8. 本書の執筆分担は以下の通りである。

　　肥田紀雄 第Ⅰ章

　　千田幸生 第Ⅲ章第1、3節 第Ⅳ章 第Ⅴ章 第Ⅵ章Ⅰ

　　肥田順一 第Ⅱ章 第Ⅲ章第2節 第Ⅵ章Ⅱ

附章は元国立科学博物館研究部の山内文氏に鑑定を依頼し、玉稿を賜った。

9. 発掘調査から本書刊行に至るまで、下記の機関に御指導、御助言を賜った。記して感謝の意を表す次第であります。

前橋市教育委員会、前橋市工業団地造成組合

凡　　例

1. 本書に使用した遺構番号は現地調査において使用したものそのまま用いている。このため住居址、井戸には欠番が生じている。
　　住居址 8・13・19・22・25・34・49・55・59・68号住居址 井戸 7・9号井戸
2. 第1図は国土地理院発行2万5千分の1「大胡」を使用した。
3. スクリントーンは遺構で焼土の範囲を示し、遺物で織維土器の断面、灰釉陶器内黒処理土器を示す。
4. 古墳石室は保存されるため、石室展開図に使用してあるスクリントーンは未調査部分を示す。
5. 遺物断面の黒塗りは須恵器を示す。
6. 挿図中のドットは床着の遺物を示し、●で土器、▲で鉄器、■で石製品を示す。
7. 遺物の写真横に付した番号は、挿図中の番号と一致し、写真を割愛した遺物の番号は欠番となっている。

目 次

本 文 目 次

序 文	
例 言	
凡 例	
第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と考古学的環境	3
第1節 遺跡の位置	3
第2節 考古学的環境	3
第Ⅲ章 調査の概要	5
第1節 調査の方法	5
第2節 調査の経過	5
第3節 土 層	6
第Ⅳ章 検出された遺構と遺物	7
第1節 繩文・弥生時代の遺構と遺物	7
第1項 土 坑	7
第2項 遺構外出土遺物	9
第2節 古墳・歴史時代の遺構と遺物	11
第1項 住居址	11
第2項 捏立柱建物址	117
第3項 井 戸	123
第4項 土 坑	125
第5項 炭 窯	130
第6項 横 列	130
第7項 溝	130
第8項 古 墳	131
第Ⅴ章 ま と め	137
第Ⅵ章 考 察	139
I 集落の変遷について	139
II 墓畫土器について	141
附 章 科学分析 中鶴谷遺跡出土の木片・種	145

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第34図 27号住居址・出土遺物	39
第2図 調査区設定図	4	第35図 28号住居址	40
第3図 標準堆積土層	6	第36図 29号住居址・出土遺物	41
第4図 遺跡全測図	-折込図	第37図 30号住居址	42
第5図 87号土塹出土遺物	7	第38図 31号住居址・出土遺物	43
第6図 縄文時代試掘坑・土塹	8	第39図 32号住居址・出土遺物	44
第7図 遺構外出土土器	9	第40図 33号住居址	46
第8図 遺構外出土石器	10	第41図 33号住居址出土遺物	47
第9図 1号住居址・出土遺物	11	第42図 35号住居址	48
第10図 2号住居址	12	第43図 35号住居址出土遺物	
第11図 2号住居址出土遺物	13	36号住居址・出土遺物	49
第12図 3号住居址・出土遺物	14	第44図 37号住居址	50
第13図 4号住居址・出土遺物	15	第45図 37号住居址出土遺物(1)	51
第14図 5号住居址	17	第46図 37号住居址出土遺物(2)	52
第15図 5号住居址出土遺物	18	第47図 38号住居址・出土遺物	53
第16図 6号住居址・出土遺物	19	第48図 39号住居址	54
第17図 7号住居址・出土遺物	20	第49図 39号住居址出土遺物(1)	55
第18図 9号住居址(1)	21	第50図 39号住居址出土遺物(2)	56
第19図 9号住居址(2)・出土遺物	22	第51図 40号住居址・出土遺物	57
第20図 10号住居址・出土遺物	24	第52図 41号住居址・出土遺物	58
第21図 11号住居址・出土遺物	25	第53図 42号住居址	59
第22図 12号住居址・出土遺物	26	第54図 42号住居址出土遺物	60
第23図 14号住居址・出土遺物	27	第55図 43号住居址・出土遺物	61
第24図 15号住居址・出土遺物	28	第56図 44号住居址・出土遺物	62
第25図 16号住居址・出土遺物	29	第57図 45号住居址	64
第26図 17号住居址	30	第58図 45号住居址出土遺物	65
第27図 18号住居址・出土遺物	31	第59図 46号住居址	65
第28図 20号住居址・出土遺物	32	第60図 47号住居址	66
第29図 21号住居址・出土遺物	33	第61図 48号住居址(1)	66
第30図 23号住居址・出土遺物	34	第62図 48号住居址(2)	67
第31図 24号住居址・出土遺物	36	第63図 48号住居址出土遺物(1)	67
第32図 26号住居址	37	第64図 48号住居址出土遺物(2)	68
第33図 26号住居址出土遺物	38	第65図 50号住居址・出土遺物	70

第66図	51号住居址・出土遺物	71	第101図	83号住居址	107
第67図	52号住居址・出土遺物	73	第102図	84号住居址	107
第68図	53号住居址・出土遺物	74	第103図	84号住居址出土遺物	108
第69図	54号住居址・出土遺物	75	第104図	85号住居址	108
第70図	56号住居址・出土遺物	75	第105図	86号住居址	109
第71図	57号住居址	76	第106図	86号住居址出土遺物	110
第72図	57号住居址出土遺物	77	第107図	87号住居址	111
第73図	58号住居址・出土遺物	79	第108図	88号住居址・出土遺物	112
第74図	60号住居址・出土遺物	80	第109図	89号住居址	112
第75図	61号住居址(1)	81	第110図	90号住居址	113
第76図	61号住居址(2)・出土遺物	82	第111図	90号住居址出土遺物	114
第77図	62号住居址・出土遺物	84	第112図	91号住居址・出土遺物(1)	115
第78図	63号住居址・出土遺物	85	第113図	91号住居址出土遺物(2)	116
第79図	64号住居址	86	第114図	1・2号掘立柱建物址	117
第80図	65号住居址	87	第115図	3・4号掘立柱建物	118
第81図	65号住居址出土遺物	88	第116図	5・6・7号掘立柱建物址	119
第82図	66号住居址・出土遺物	89	第117図	8・9号掘立柱建物址	120
第83図	67号住居址・出土遺物	90	第118図	10・11号掘立柱建物址	121
第84図	69号住居址	91	第119図	12・13号掘立柱建物址	122
第85図	70号住居址・出土遺物	92	第120図	井戸出土遺物	123
第86図	71号住居址・出土遺物	93	第121図	井戸	124
第87図	72号住居址・出土遺物	94	第122図	90号土塙出土遺物(1)	127
第88図	73号住居址	95	第123図	90号土塙出土遺物(2)	128
第89図	74号住居址・出土遺物	96	第124図	炭窯	130
第90図	75号住居址	97	第125図	柵列	130
第91図	75号住居址出土遺物	98	第126図	古墳全測図	131
第92図	76号住居址・出土遺物	99	第127図	古墳展開図・掘り方	132
第93図	77号住居址	99	第128図	古墳周溝・前庭断面	133
第94図	78号住居址・出土遺物	100	第129図	古墳周溝・石室出土遺物	134
第95図	79号住居址・出土遺物	101	第130図	古墳前庭出土遺物(1)	135
第96図	80号住居址・出土遺物	102	第131図	古墳前庭出土遺物(2)	136
第97図	81号住居址	103	第132図	集落変遷図	138
第98図	81号住居址出土遺物	104	第133図	I～Ⅳ期出土遺物	140
第99図	82号住居址	105	第134図	90号土塙	141
第100図	82号住居址出土遺物	106	第135図	3・10号井戸出土木片	143

図 版 目 次

図版 1-1 調査前全景（南側から）	図版 6-6 37号住居址
2 確認全景（南側から）	7 38号住居址
図版 2-1 全景南側（東側から）	8 39号住居址
2 終了全景（空撮）	図版 7-1 40号住居址
図版 3-1 1号住居址	2 41号住居址
2 2号住居址	3 42号住居址
3 3号住居址	4 43号住居址
4 4号住居址	5 44号住居址
5 5号住居址	6 45号住居址
6 6号住居址	7 46号住居址
7 7号住居址	8 47号住居址
8 9号住居址	図版 8-1 48号住居址
図版 4-1 10号住居址	2 50号住居址
2 11号住居址	3 51号住居址
3 12号住居址	4 52号住居址
4 14・15号住居址	5 53号住居址
5 16号住居址	6 54・56号住居址
6 17号住居址	7 57号住居址
7 18号住居址	8 58号住居址
8 20号住居址	図版 9-1 60号住居址
図版 5-1 21号住居址	2 61号住居址
2 23号住居址	3 62号住居址
3 24号住居址	4 63号住居址
4 26号住居址	5 65号住居址
5 27号住居址	6 66号住居址
6 28号住居址	7 67号住居址
7 29号住居址	8 69号住居址
8 30号住居址	図版 10-1 70・88号住居址
図版 6-1 31号住居址	2 71号住居址
2 32号住居址	3 72号住居址
3 33号住居址	4 73号住居址
4 35号住居址	5 74号住居址
5 36号住居址	6 75号住居址

図版10-7	76号住居址	図版14-7	85号土塙
8	77号住居址	8	87号土塙
図版11-1	78号住居址	図版15-1	90号土塙遺物出土状況
2	79・80号住居址	2	90号土塙
3	81号住居址	3	炭 窯
4	82号住居址	4	柵 列
5	83号住居址	5	古墳全景
6	84・85号住居址	図版16-1	古墳・石室
7	86号住居址	2	古墳・周溝北側断面
8	87号住居址	3	古墳・前庭断面
図版12-1	64・89・90号住居址	4	古墳・前庭遺物出土状況(1)
2	91号住居址	5	古墳・前庭遺物出土状況(2)
3	1号掘立柱建物址	6	古墳・石室掘り方
4	3号掘立柱建物址	7	古墳・石室奥壁
5	5号掘立柱建物址	図版17	2・3・4・5・6・7・9号住居
6	8号掘立柱建物址	址出土遺物	
7	9号掘立柱建物址	図版18	11・16・20・21・23・24・26・29・
8	10号掘立柱建物址	33・35・37号住居址出土遺物	
図版13-1	1号井戸	図版19	37・38・39号住居址出土遺物
2	2号井戸断面	図版20	39・40・41・42・44・45号住居址出
3	3号井戸	土遺物	
4	5号井戸	図版21	48・50・52・57・60・62・63号住居
5	6号井戸	址出土遺物	
6	13号井戸	図版22	65・74・75・79・82・84・86・91号
7	35号土塙	住居址出土遺物	
8	72号土塙	図版23	住居址出土墨書き土器・石製品・鉄製
図版14-1	64号土塙	品・木製品	
2	75号土塙	図版24	井戸・土塙出土遺物
3	76号土塙	図版25	古墳出土遺物
4	78号土塙	図版26	縄文土器・石器・弥生土器
5	83号土塙		
6	84号土塙		

表 目 次

表1 遺跡地名表	2	表40 51号住居址出土遺物観察表	72
表2 繩文時代土坑一覧表	7	表41 52号住居址出土遺物観察表	72
表3 1号住居址出土遺物観察表	11	表42 53号住居址出土遺物観察表	74
表4 2号住居址出土遺物観察表	12	表43 54号住居址出土遺物観察表	75
表5 3号住居址出土遺物観察表	12	表44 56号住居址出土遺物観察表	75
表6 4号住居址出土遺物観察表	14	表45 57号住居址出土遺物観察表	78
表7 5号住居址出土遺物観察表	16	表46 58号住居址出土遺物観察表	79
表8 6号住居址出土遺物観察表	18	表47 60号住居址出土遺物観察表	81
表9 7号住居址出土遺物観察表	21	表48 61号住居址出土遺物観察表	83
表10 9号住居址出土遺物観察表	23	表49 62号住居址出土遺物観察表	83
表11 10号住居址出土遺物観察表	25	表50 63号住居址出土遺物観察表	86
表12 11号住居址出土遺物観察表	25	表51 65号住居址出土遺物観察表	88
表13 12号住居址出土遺物観察表	26	表52 66号住居址出土遺物観察表	90
表14 14号住居址出土遺物観察表	27	表53 67号住居址出土遺物観察表	90
表15 15号住居址出土遺物観察表	28	表54 70号住居址出土遺物観察表	92
表16 16号住居址出土遺物観察表	29	表55 71号住居址出土遺物観察表	94
表17 18号住居址出土遺物観察表	30	表56 72号住居址出土遺物観察表	95
表18 20号住居址出土遺物観察表	32	表57 74号住居址出土遺物観察表	97
表19 21号住居址出土遺物観察表	33	表58 75号住居址出土遺物観察表	98
表20 23号住居址出土遺物観察表	35	表59 76号住居址出土遺物観察表	99
表21 24号住居址出土遺物観察表	35	表60 78号住居址出土遺物観察表	100
表22 26号住居址出土遺物観察表	38	表61 79号住居址出土遺物観察表	102
表23 27号住居址出土遺物観察表	39	表62 80号住居址出土遺物観察表	102
表24 29号住居址出土遺物観察表	41	表63 81号住居址出土遺物観察表	104
表25 31号住居址出土遺物観察表	43	表64 82号住居址出土遺物観察表	106
表26 32・33号住居址出土遺物観察表	45	表65 84号住居址出土遺物観察表	108
表27 35号住居址出土遺物観察表	47	表66 86号住居址出土遺物観察表	110
表28 36号住居址出土遺物観察表	50	表67 88号住居址出土遺物観察表	111
表29 37号住居址出土遺物観察表	52	表68 90号住居址出土遺物観察表	114
表30 38号住居址出土遺物観察表	53	表69 91号住居址出土遺物観察表	116
表31 39号住居址出土遺物観察表	56	表70 井戸一覧表	123
表32 40号住居址出土遺物観察表	57	表71 井戸出土遺物観察表	123
表33 41号住居址出土遺物観察表	58	表72 古墳・歴史時代土坑一覧表(1)	125
表34 42号住居址出土遺物観察表	60	表73 古墳・歴史時代土坑一覧表(2)	126
表35 43号住居址出土遺物観察表	62	表74 90号土坑出土遺物観察表	128
表36 44号住居址出土遺物観察表	63	表75 棚列(ピット)計測表	130
表37 45号住居址出土遺物観察表	63	表76 古墳周溝・石室出土遺物観察表	135
表38 48号住居址出土遺物観察表	69	表77 古墳前庭出土遺物観察表	136
表39 50号住居址出土遺物観察表	70	表78 墓畫土器一覧表	137

第Ⅰ章 調査に至る経緯

昭和57年12月に前橋市工業団地造成組合（管理者 清水一郎）より城南住宅団地造成区内に埋蔵文化財の有無の調査依頼が前橋市教育委員会にあった。そこで教育委員会は昭和58年1月末に城南住宅団地造成予定地内の遺物分布状況の調査を実施した。その結果当該地区の台地上に遺物包蔵地、谷地部分に浅間B軽石下の水田址が推定された。さらに遺跡の調査範囲を把握するために試掘調査をして、より精度が高い調査計画を策定する必要があった。

試掘調査は前橋市教育委員会の指導のもと前橋市発掘調査団が実施することになった。前橋市埋蔵文化財発掘調査団は試掘調査業務を山武考古学研究所に依頼をし、昭和59年10月から昭和60年2月にかけて実施した。

その結果遺構・遺物の集中地区と遺構の内容・性格等が把握された。試掘調査結果に基づき昭和60年度、昭和61年度、昭和62年度の調査計画が立案された。

本開発地区面積が20haに及ぶため造成計画、造成工区分けに基づき3ヶ年で市教育委員会と前橋市埋蔵文化財発掘調査団（業務実施は山武考古学研究所）が分担調査を実施する。

最終年度にあたる昭和62年度は第3工区の北側を山武考古学研究所が実施し、南側を市教育委員会が実施する。

調査組織

団長	関口 和雄	(前橋市教育委員会 教育次長)
調査指導	福田 紀雄	(前橋市教育委員会 文化財保護室 室長)
	浜田 博一	(前橋市教育委員会 文化財保護室 係長)
	平岡 和夫	(山武考古学研究所 所長)
	大和久賀平	(山武考古学研究所 室長)
調査担当	千田 幸生	(山武考古学研究所 調査研究員)
	肥田 順一	(山武考古学研究所 調査研究員)

発掘作業参加者

阿久沢静 阿久沢福造 新井ヒロ子 飯島キタ枝 飯島奈美知 飯島美枝 石関こずえ 石関とく子 井田見一郎 井田年代 梅沢八重子 大沢一江 大沢光子 大沢やよい 大塚作一小川悦子 小倉いのち 勝田きみ江 鹿沼さとる 神沢方子 木島ヒサ子 小屋たみ子 小屋ハル子 高坂エイ子 高坂花子 高坂やす 高坂やすの 高坂なみ 小林厚 板巻光江 佐鳥直子 新保永二 新保勝太郎 新保隆 新保富恵 新保昌子 新保まつ 新保松乃 須藤か津ゑ 須藤なを子 須藤理恵野 須藤ハツ江 烏山初子 蜂須賀もとめ 羽鳥イソロ 堀越うめ子 堀越くに子 堀越豊 松永シマ子 真庭卯平 真庭とし 森下幸司 山口きく 山田由美子 横沢信子 六木本勝造 六木本とも



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

表1 遺跡地名表

No.	遺跡名	概要	No.	遺跡名	概要
1	柳久保遺跡群		12	東延隈跡西邊跡	古墳後期-奈良-平安集落。
a	中筋谷遺跡	古墳後期-平安集落、古墳。	13	東京遺跡	古墳後期-奈良-平安集落。
b	南訪遺跡	塚。	14	宮下遺跡	古墳後期-奈良-平安集落。
c	柳久保遺跡	先土器、繩文包含層、古墳後期-平安集落、古墳。	15	京延田遺跡	古墳後期-奈良-平安集落。
d	下鷺谷遺跡	先土器、繩文包含層-前期住居、奈良集落。	16	京延中尾敷遺跡	古墳後期-平安集落。
e	原無遺跡	先土器、繩文包含層。	17	尾延下押切遺跡	古墳後期-奈良-平安集落。
f	柳久保水田址	B瓶石下水田。	18	道無遺跡	平安集落。
2	九山遺跡	奈良-平安集落。	19	電延大日摩遺跡	a区:古墳後期-奈良-平安集落。
3	西山遺跡	古墳群。			c区:古墳後期集落。
4	上西原遺跡	基壇を有する柱穴列と構、奈良-平安集落。	20	尾口前原遺跡	平安住居。
5	伊勢山古墳群		21	東延北原遺跡	奈良-平安集落。
6	阿久山古墳群		22	轟谷遺跡	古墳後期-奈良-平安集落。
7	川瀬皆戸遺跡	奈良-平安集落。	23	立野古墳群	
8	延東遺跡	奈良-平安集落。	24	尾延鬼子遺跡	古墳後期-奈良-平安集落。
9	鬼子小学校跡周辺	古墳後期-奈良集落、奈良墓。	25	尾延上之坊遺跡	奈良-平安集落。
10	柳久保遺跡	古墳後期-平安住居、古墳	26	荒延北三本堂遺跡	古墳後期集落、古墳。
11	大久保遺跡	奈良-平安集落。			

第Ⅱ章 遺跡の位置と考古学的環境

第1節 遺跡の位置 (第1図)

柳久保遺跡群は前橋市の東部にある荒口町字諏訪、荒子町字柳久保・下鶴谷・中鶴谷・頭無に所在し、西方の市街地には約8km、北方の勢多郡大胡町には約2.5km、東方の佐波郡赤堀村には約4kmの距離にある。

本遺跡群の立地する赤城山南麓は緩やかで、広大な裾野地形となり、赤城・榛名・浅間山等の火山灰が風化したローム層によって厚く覆われている。この斜面を荒砥川・神沢川などの多くの中小河川や溜池・沼を水源とした河川が南下して、舌状台地・沖積地・裾野扇状地を形成している。

本遺跡群は大胡町の千貫沼を水源とする宮川の中流に存在し、遺跡群東側を宮川の開析谷が南北に走る。この本谷と東西に樹枝状に延びる支谷が台地を分断して舌状台地を形成している。これらの台地上に各遺跡が存在する。西側の同一台地上には北に諏訪遺跡、南に下鶴谷遺跡、中央の台地には柳久保遺跡、東側の台地には北に中鶴谷遺跡、南に頭無遺跡がある。また、宮川の沖積地には柳久保水田址が存在する。標高は103m～116mである。

中鶴谷遺跡は本遺跡群北東側の舌状台地と台地先端部の沖積地に所在する。標高は台地北東部が115mと高く、北から南に緩やかに傾斜するが、台地先端部はやや傾斜を強める。西側斜面は傾斜が強い。沖積地は標高104m～105mで、現水田面との標高差がない。台地、沖積地とも近年まで桑畠となっていた。

第2節 考古学的環境 (第1図)

柳久保遺跡群周辺には、旧石器時代から近世に至る多くの遺跡が存在する。また、近年、土地改良事業や大規模な開発事業に伴う発掘調査によって遺跡数も急増している。

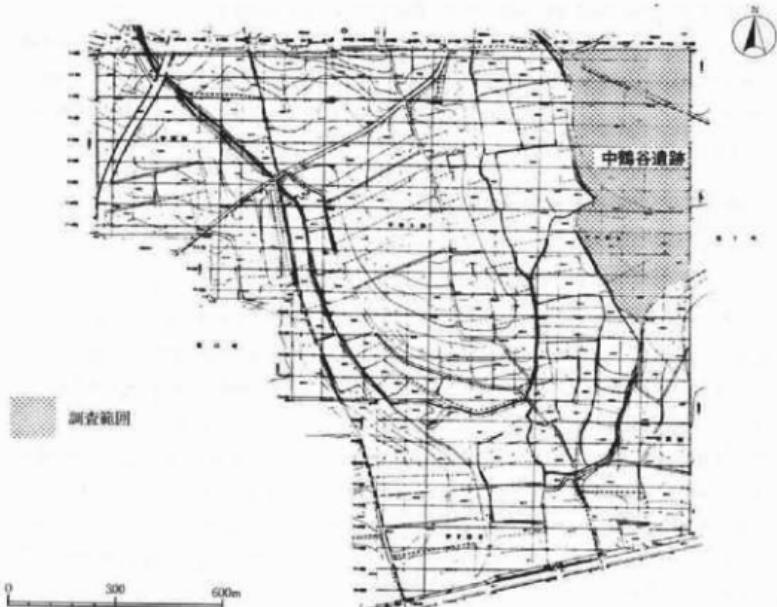
中鶴谷遺跡の調査では、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の遺構を検出したが、ここでは特に遺構の多かった古墳時代、奈良・平安時代を中心に、周辺の遺跡を概観してみたい。

本遺跡群のある荒砥地区は、古墳の多い群馬県下にあっても、有数の古墳密集地域である。遺跡群の東を流れる神沢川流域には、国指定の三二子古墳をはじめ、伊勢山古墳群(5)、阿久山古墳群(6)、立野古墳群(23)などがある。また、西を流れる荒砥川流域にも多くの古墳群が見られる。本遺跡群内でも4基の古墳が調査された。柳久保遺跡(1c)の台地北端で3基、中鶴谷遺跡(1a)で、1基である。また、は場整備事業に先行して調査された柳久保遺跡(10)でも古墳2基が調査されている。その他、新山遺跡(3)、東原遺跡(13)、荒砥諏訪西遺跡(12)、荒砥宮田遺跡(15)、荒砥北三木堂遺跡(26)があげられる。

一方、古墳時代の集落は縄文・弥生時代と比べると、遺構数が圧倒的に増加する。本遺跡群の中鶴谷遺跡(1a)では古墳時代後期の集落、柳久保遺跡(1c)では古墳時代前・中・後期

の集落が検出された。後者のように前・中・後期を通じて人々の生活した遺跡は、鶴谷遺跡(22)、荒砥宮田遺跡(15)があげられる。また、中・後期の造構の検出された遺跡は、荒砥北三木堂遺跡(26)がある。

奈良・平安時代となると近隣した台地上に多数の集落が出現する。本遺跡群においても中鶴谷遺跡(1a)、柳久保遺跡(1c)、下鶴谷遺跡(1d)に集落が作られる。さらに近接する台地上に柳久保遺跡(10)、大久保遺跡(11)、頭無遺跡(18)がある。また荒砥上之坊遺跡(25)では約200軒の住居が調査されており、上西原遺跡(4)では、住居址89軒と、一辺約70mの溝で方形に区画された中に、溝と柱穴列によって囲まれた基壇建物跡や掘立柱建物跡が検出され、本地域の発展の様子を窺うことができる。その他に、丸山遺跡(2)、川龍皆戸遺跡(7)、堤東遺跡(8)、荒砥小学校校庭遺跡(9)、荒砥諏訪西遺跡(12)、東原遺跡(13)、宮下遺跡(14)、荒砥宮田遺跡(15)、荒砥中屋敷遺跡(16)、荒砥下押切遺跡(17)、荒砥大日塚遺跡(19)、荒砥北原遺跡(21)、鶴谷遺跡(22)、荒砥荒子遺跡(24)があげられる。また、柳久保水田址(1f)、荒砥諏訪西遺跡(12)、荒砥宮田遺跡(15)、荒砥大日塚遺跡(19)で、浅間B軽石によって埋没した水田址が検出されている。



第2回 調査区設定図

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 調査の方法 (第2図)

今回の本調査は柳久保遺跡群の発掘調査の最終年度にあたり、中鶴谷遺跡（第15地点）の全面調査（21,000m²）である。

調査グリッドは、公共座標を基準に20×20mの大グリッドを設定し、更にその中を4×4mの小グリッドに分割した。

表土排土後、確認精査を行ない遺構確認図を製作し、遺構調査を行なった。遺構調査と併行して2×2mの縄文包含層及び遺構確認用の試掘グリッドを68ヶ所掘り下げた。その結果縄文時代の遺構及び遺物が検出されたグリッドは任意に拡張して調査を行なった。

第2節 調査の経過

中鶴谷遺跡の本調査は、61年度と62年度に分けて実施した。61年度の調査は11月4日から12月24日まで、62年度の調査は4月6日から9月25日までである。

昭和62年11月4日より中鶴谷遺跡北側部分（道路より北側の3,700m²）の表土排土を開始した。11月中は下鶴谷遺跡（第13地点）、柳久保遺跡（第16地点）と併行して調査を行なった為、表土排土、遺構確認を終了したに留まった。

12月に入り、本格的に中鶴谷遺跡の遺構調査に着手した。中旬には旧石器、縄文包含層の試掘調査を行なったが、関連する遺構及び遺物は検出されなかった。12月24日に全体測量図の作成を終え、61年度の調査を終了した。

62年度は残りの南側部分（道路より南側の17,300m²）の調査を4月6日より開始した。4月は表土排土、遺構確認を行なった。遺構確認は南側斜面を除いた部分を終えたところで一時中断し、古墳・溝・土坑・炭窯・ピットの遺構調査を行なった。

5月中旬には表土排土、遺構確認が終了し、古墳周溝と重複する64・89・90号住居址を調査した。また5月下旬より他の住居址の調査を開始した。調査は住宅団地造成の工程上、南から北へ進めた。古墳の調査は5月末に終了した。

6・7月は住居址の調査を進め、7月中旬より8月上旬まで旧石器、縄文包含層の試掘を行なった。

8月7日から作業員の人数を減らし、カマドの調査、実測を行なった。8月下旬には中鶴谷遺跡、頸無遺跡（第16地点）の現地説明会を開いた。また、空撮を行なった。

9月上旬は主に実測を行ない、9月中旬から下旬にかけて図面、遺物の整理をして、中鶴谷遺跡の全調査を終了した。

昭和61年度調査（11月4日—12月25日）

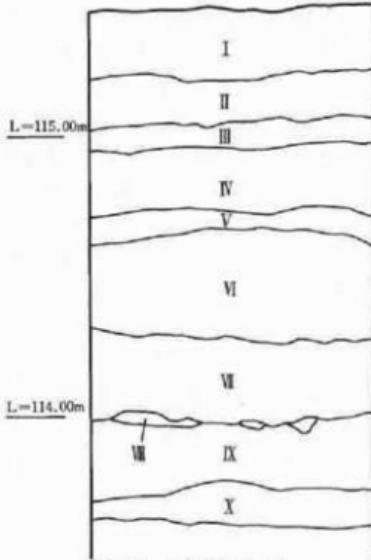
表土排土 11月4日—14日

遺構確認 11月17日、27日、28日
 遺構調査 12月5日—12月23日
 旧石器、縄文包含層の試掘調査 12月11日、12日
 全体測量図作成 12月23日、24日
昭和62年度調査（4月6日—9月25日）
 表土耕土 4月8日—5月1日
 遺構確認 4月10日—4月28日、5月8日、11日、12日
 遺構確認図作成 4月17日、18日、20日
 遺構調査 4月21日—9月8日
 旧石器、縄文包含層の試掘調査 7月16日—8月6日
 現地説明会 8月22日、23日
 空撮 8月28日
 全体測量図作成 9月8日—9月10日
 図面、遺物の整理 9月10日—9月23日
 器材搬出 9月21日
 調査終了 9月25日

第3節 土 層 (第3図)

調査区北東側X154、Y75グリッドで観察した。Ⅲ層上面が古墳時代以降の遺構確認面で、Ⅳ層が縄文時代の遺物包含層及び確認面である。

- I層 黒褐色土 表土。浅間A軽石を少量含む。
- II層 黒褐色土 浅間C軽石をやや多く含み、榛名山二ヶ岳FPを少量含む。
- III層 暗褐色土 C軽石を少量含む。
- IV層 褐色土 斑状に暗褐色土を含み、少量のローム粒子を含む。
- V層 明褐色土 ソフトローム層。
- VI層 黄褐色土 ハードローム層。直径1mm以下 の白色の軽石を含む。
- VII層 黄褐色土 ハードローム層。白色の軽石がVI層より少ない。
- VIII層 茶褐色土 鹿沼軽石層。
- IX層 黄褐色土 VI・VII層よりやや暗いローム層
- X層 灰褐色土 粘土層



第3図 標準堆積土層

第IV章 検出された遺構と遺物

第1節 繩文・弥生時代の遺構と遺物

本遺跡で検出された縄文・弥生時代にかかる遺構は縄文時代の土塙14基である。14基のうち陥し穴状を呈する土塙が12基、貯蔵穴状を呈する土塙2基である。弥生時代の遺構はない。

遺物は縄文時代前期・中期を中心とする土器片、石器類が大型整理箱2箱分出土し、弥生時代後期の土器片も數点出土している。

第1項 土 塙 (第6図 図版14 表2)

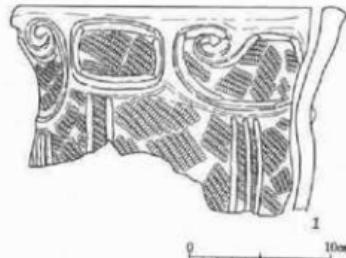
検出された14基の土塙は、主軸方向、位置などに企画性がない。またそれぞれの土塙からは土器片もほとんど出土していない。しかし、古墳時代以降の遺構とは層位が明らかに異なり、縄文時代の土塙と考えられる。尚87号土塙からは中期の土器が出土している。

87号土塙出土遺物 (第5図 図版26)

平縁の口縁で稍円形の区画が口縁部に認められる。胴部は巾の狭い懸垂文があり、地文は縄文である。下半部は欠損している。

本塙の覆土上層出土土器で、中期後半加曾利E III式土器である。

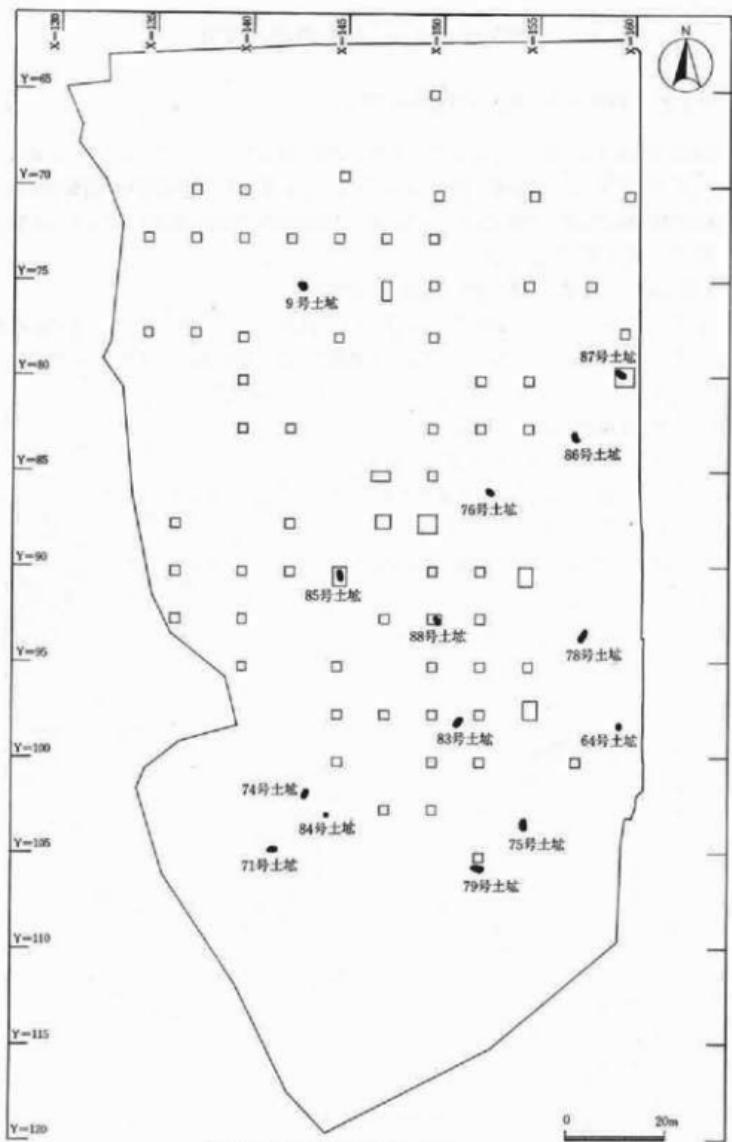
本遺物は本塙に併なうものか不明である。



第5図 87号土塙出土遺物

表2 縄文時代土塙一覧表

番号	検出グリッド	主軸方向	平面形	規模(m) 北緯 南緯	深さ(cm)	備 考
9	X=142 Y= 75	N-65°-W	椭円形	1.75×不明	55	試掘坑にかかる。陥し穴状。
64	X=159 Y= 98	-	椭円形	1.36×1.14	71	貯蔵穴状。
71	X=141 Y=104	N-79°-E	椭円形	1.99×1.25	93	X=140 Y=104にまたがる。 陥し穴状。
74	X=142 Y=101	N-21°-E	隅丸長方形	1.70×0.70	95	X=142 Y=102にまたがる。 陥し穴状。
75	X=154 Y=103	N- 6°-W	不整形	2.57×1.34	112	陥し穴状。
76	X=152 Y= 86	N-66°-W	椭円形	1.83×1.03	77	ビット2。陥し穴状。
78	X=158 Y= 93	N-31°-E	椭円形	2.63×1.39	185	ビット2。陥し穴状。
79	X=151 Y=105	N-68°-W	椭円形	2.39×不明	110	X=152 Y=105にまたがる。 陥し穴状。
83	X=150 Y= 98	N-48°-E	椭円形	2.86×1.56	125	陥し穴状。
84	X=142 Y=102	-	円形	0.95×0.95	55	X=144 Y=103にまたがる。 貯蔵穴状。
85	X=144 Y= 90	N-17°-W	椭円形	2.28×1.16	65	陥し穴状。
86	X=156 Y= 83	N-29°-W	椭円形	2.30×1.26	106	陥し穴状。
87	X=159 Y= 79	N-53°-W	楕円形	2.53×1.07	128	陥し穴状。 中期加曾利E式土器出土。
88	X=149 Y= 92	N-33°-W	椭円形	2.20×1.10	80	陥し穴状。



第6図 繩文時代試掘坑・土塚

第2項 遺構外出遺物

土 器 (第7図 図版26)

11片について掲げた。1～10までは縄文土器、11は弥生土器である。

1～3は共に底部片で胎土中に纖維を多量に含む。1・2は尖底、3は上げ底ぎみの平底である。1・2は縄文が施文される。1・2は早期末葉から前期初頭、3は前期前葉と思われる。

4は平縁の口縁で竹管文が描かれる。5はほぼ完形に近く、沈線と地文に撚糸が認められる。4・5共に前期後半の土器で、4は諸磯a式、5は浮島I式である。

6・7は中期中葉と思われ、6は平縁の口縁部片、7は胴部片である。

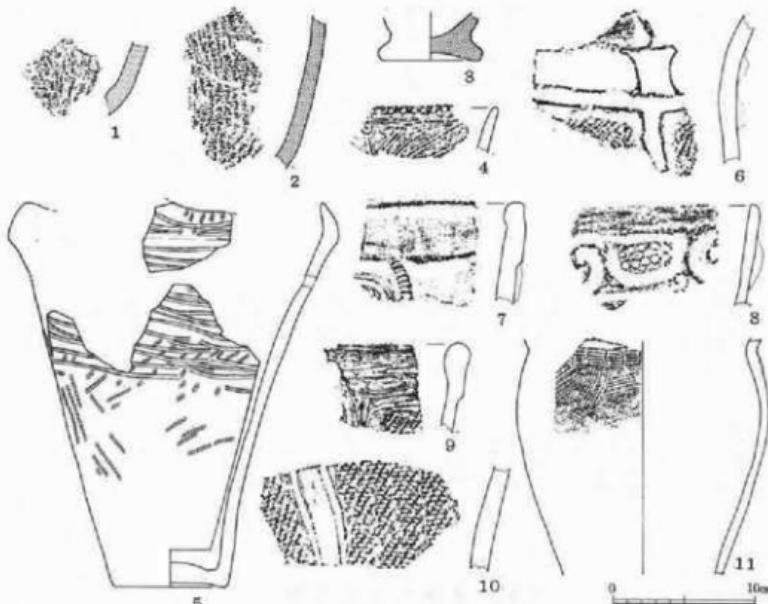
8・9・10は中期後葉加曾利E式と考えられる。8・10は平縁の口縁部片、9はキャリバー状に広がる胴部片で、加曾利E式でも後半に位置づけられる。

11は弥生後期樽式の甕と思われ、頸部に等間隔止め簾状文が認められる。

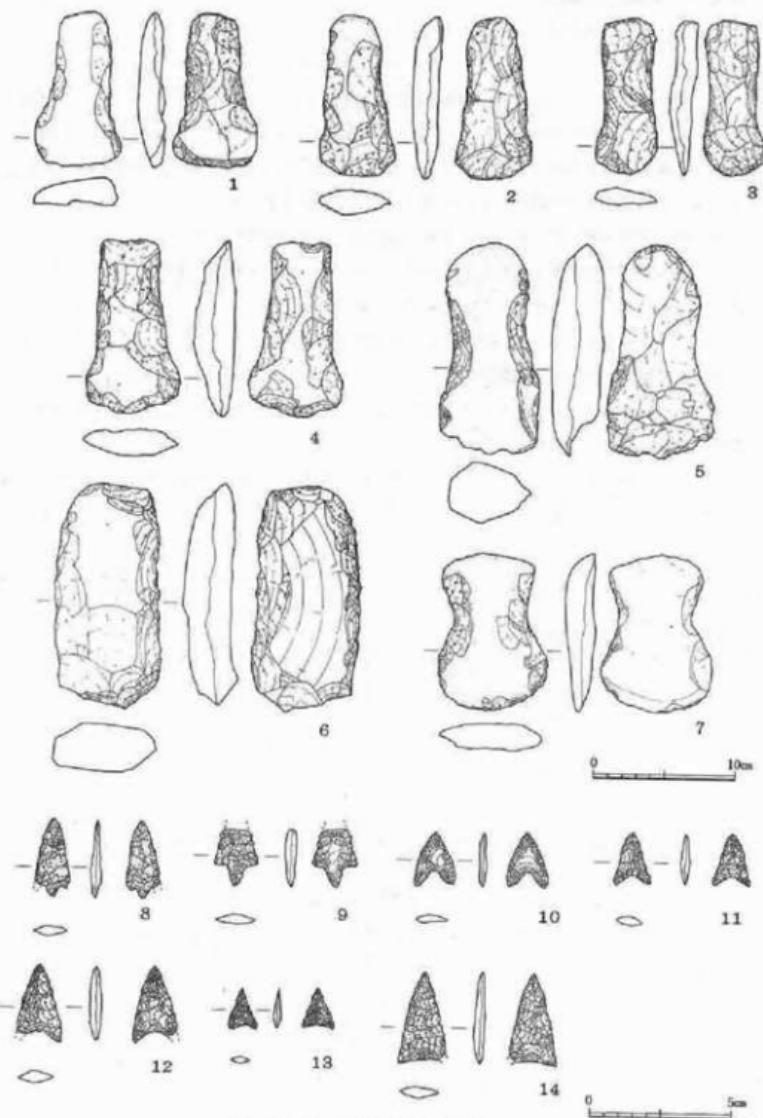
石 器 (第8図 図版26)

1～7は打製石斧である。1～5は撥形、6は短冊形、7は分錐形を呈する。石材はすべて頁岩と考えられる。

8～14は石鎌である。8・9は有茎で、頁岩製である。10・11は黒耀石製で、10は快りが深い。12～14はチャート製である。



第7図 遺構外出土土器



第8図 遺構外出土石器

第2節 古墳・歴史時代の遺構と遺物

住居址81軒、掘立柱建物址13棟、井戸址11基、土塙76基、炭窯1基、溝3条、柵列1列、古墳1基が検出された。各遺構の分布は南東側にやや多く集まる傾向にあり、北西側は少なくなる。

第1項 住居址

81軒が検出されている。古墳時代後期後半から平安時代の中頃にかけての集落である。各住居址は古墳時代のものは調査区南側に集まり、奈良・平安時代のものは北西側を除く全体に分布する。



第9図 1号住居址・出土遺物

1号住居址 (第9図 図版3-1 表3)

本址は調査区北東側X153・160、Y62・63グリッドで検出された。南西側を除く3方向が調査区外となっている。平面形、規模、主軸方向とも不明で壁高は20cmを計る。床面は平坦で踏み固めは認められない。

ピットは1基検出されている。壁溝、カマド等は不明である。

遺物は甕の破片が少量出土している。

表3 1号住居址出土遺物観察表

番号	部 構	遺存度	法 量 (cm)	器 形、或・整 形 の 特 徴	胎 土	陶成	色 調	出土位置
1	土 蔵 小形窓	口縁部 1/3	口徑 9.2 残存高 9.3	口縁「く」の字状に外反する。器内薄い、外面横方向へのラ テラ。内面横方向の削り。	緻密	良好	暗褐色	覆土

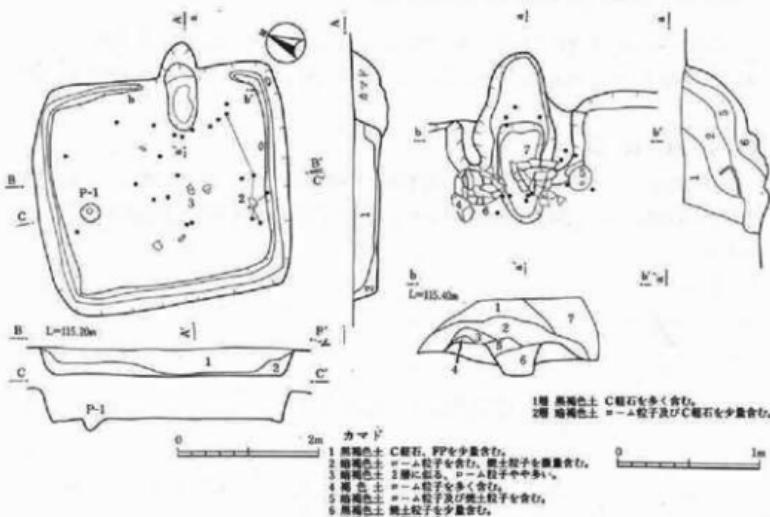
2号住居址 (第10・11図) 図版3-2・17 表4)

本址は調査区北東側X153・154、Y64・65グリッドで検出された。主軸方向はN-58°-Eである。規模は長軸3.5m、短軸3.2mではほぼ正方形を呈する。壁高は40cmを計り、床面は平坦で全体に踏み固めがやや認められる。

ピットは1基検出されている。壁構はカマド付近を除いて全周する。

カマド 東壁中央に位置する。袖は粘土で構築され、壁外への掘り込みは40cmである。

遺物はカマド、床着遺物共にやや多く出土している。



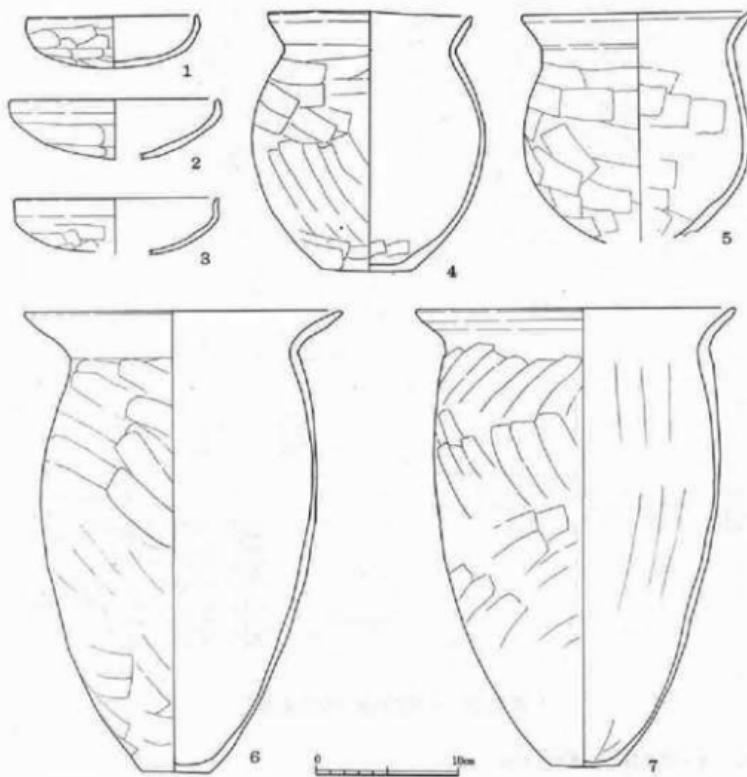
第10図 2号住居址

表4 2号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器 形、成・整 形 の 特徴	胎 土	焼成	色 調	出土位置考
1	土器 环	完形	口径 器高 底径	12.0 3.6 底径九底。口縁部内両ぎみに直立する。外側カゲ、指圧痕。	石英を少 量含む。	良好	黒褐色	灰青
2	土器 环	ほぼ完形	口径 器高 底径	14.0 4.7 底径九底。口縁部弱い後を持ち、内両ぎみに直立。外側へ テナゲ、指圧痕。	石英を少 量含む。	良好	黒褐色	灰青
3	土器 环	ほぼ完形	口径 器高 底径	14.4 4.7 底径九底。口縁部後を持ち、直立する。外側へテナゲ。	石英を少 量含む。	良好	黒褐色	米青
4	土器 小形壺	1/2	口径 器高 底径	14.4 5.6 口縁「く」の字形に外反する。外側上部横方向へのハラ削り。 底部付近は横方向へのハラ削り。内面カゲ。	緻密	良好	黒褐色 黒斑あ る。	カマド
5	土器 小形壺	底部欠	口径 機存高 底径	16.4 16.2 口縁部外反する。外側へテナゲ。内面削りとナゲ。	緻密	良好	黒褐色 黒斑あ る。	カマド
6	土器 壺	ほぼ完形	口径 器高 底径	22.6 32.8 4.8 口縁外反する。側中央部ふくらむ。外側上部横方向へのハラ削り。 側部は底方向。斜方向へのハラ削り。内面カゲ。	石粒を少 量含む。	良好	外表面褐 色。内面 黒褐色。	カマド
7	土器 壺	ほぼ完形	口径 器高 底径	22.7 32.6 4.8 口縁外反する。外側削り。斜方向へのハラ削り。	砂粒をや や多く含 む。	良好	黒褐色	カマド

表5 3号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器 形、成・整 形 の 特徴	胎 土	焼成	色 調	出土位置考
1	土器 环	ほぼ完形	口径 器高 底径	13.5 3.9 底径丸底。口縁部内両ぎみに直立する。外側へテナゲ。内 面カゲ、指圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	黒褐色	灰青
2	土器 环	4/5	口径 器高 底径	13.0 3.6 底径丸底。口縁部内両ぎみに直立する。外側へテナゲ。内 面カゲ、指圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	黒褐色	灰青



第11図 2号住居址出土遺物

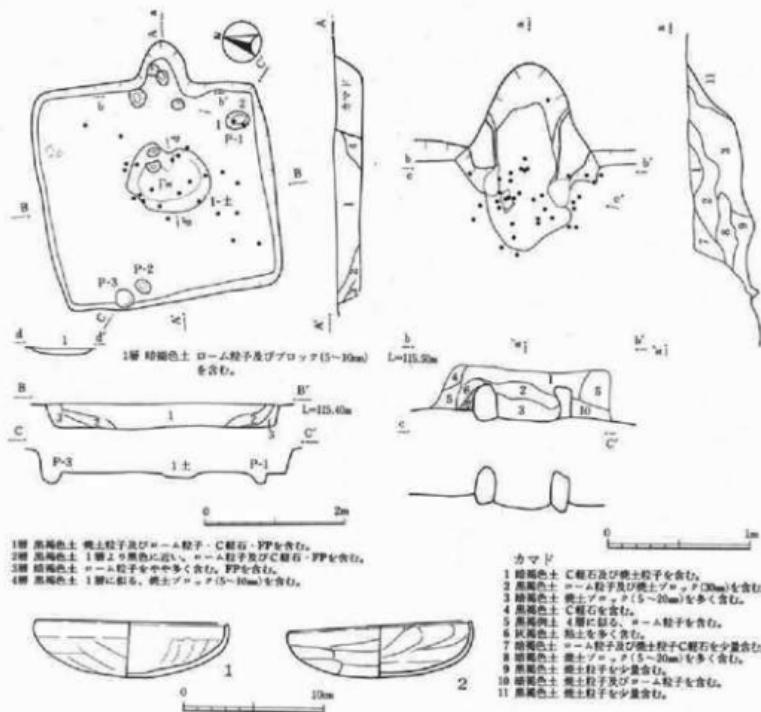
3号住居址 (第12図 図版3-3・17 表5)

本址は調査区北東側X158・159、Y65・66グリッドで検出された。主軸方向はN-73°-Eである。規模は1辺3.3mで正方形を呈する。壁高は30cmで、床面は全体に踏み固めが認められる。

ピットは中央に浅い掘り込みのもの1基と、小ピット3基が検出されている。壁高は検出されていない。

カマド 東壁中央に位置する。袖は粘土で構築され、補強材として石を利用している。壁外への掘り込みは55cmである。

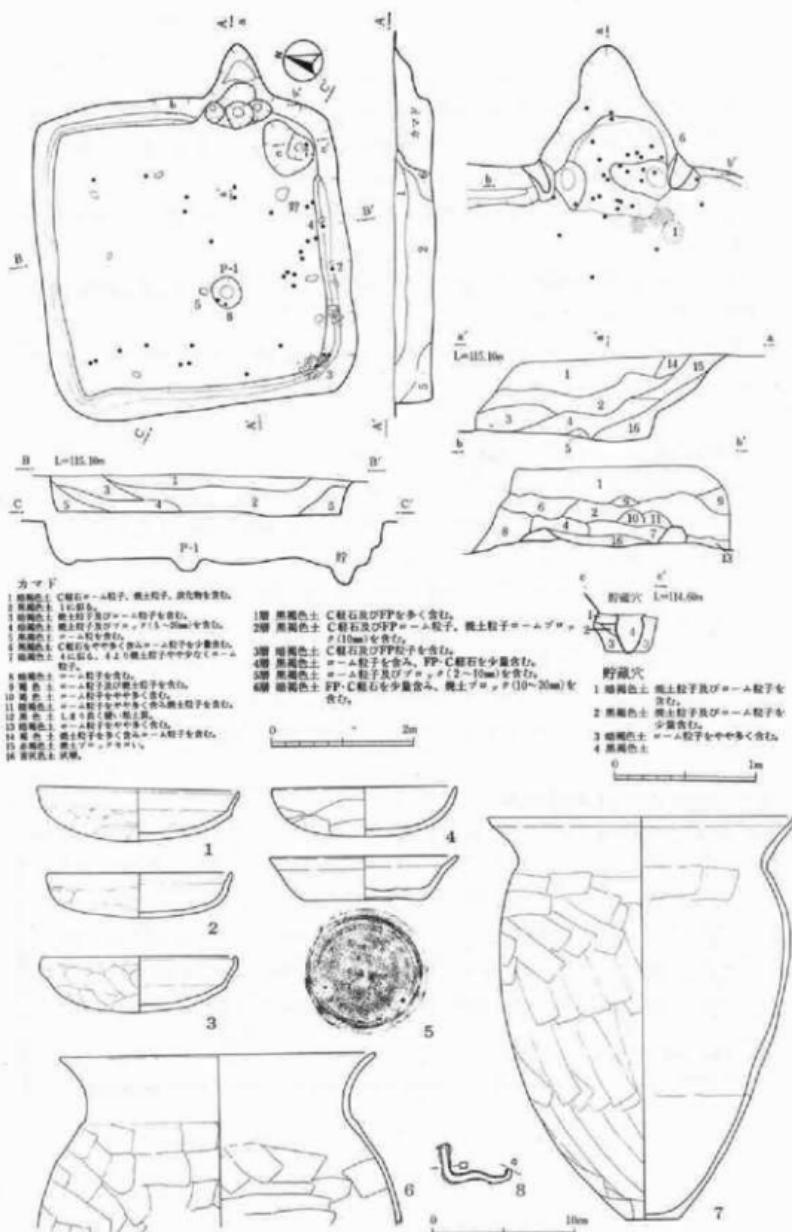
遺物は覆土中にやや多く、床着遺物は少ない。



第12図 3号住居址・出土遺物

表6 4号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	径量 (cm)	断面形・成・態形の特徴	胎土	焼付	色調	出土位置
1	土器	ほぼ完形	口径 底高 壁高	14.2 4.1 4.1	底部丸底。口縁部棱を持ち外反ぎみに立ち上がる。外面へ 斜面 内面ナデ、指圧痕	緻密 良好	深褐色	カマド
2.	土器	4/5	口径 底高	13.0 3.3	底部底がみになら。口縁部外反ぎみに立ち上がる。外面 斜面の上半のみナデを施し、棱縫を横にへラ削りとな る。内面ナデ、指圧痕。	緻密を少 量含む。	深褐色	床着
3	土器	4/5	口径 底高	13.7 3.5	底部底がみ。口縁部指押されによる側・縫を持ち外反ぎみに 立ち上がる。外面へラ削り、指圧痕。内面ナデ、指圧痕。	緻密、石 粒を少量 含む。	深褐色	床着
4	土器	2/3	口径 底高	13.0 3.5	底部丸底。口縁部外反ぎみに立ち上がる。外面へラ削り。 内面ナデ、指圧痕	石粒を少 量含む。	良好	床着
5	瓦	4/5	口径 底高 壁高	13.2 3.1 8.0	口縁部外反する。口縁部歪形。底部回転へラ削り調整。	石粒を含 む。	灰色	床着
6	土器	1/5	口径 底存高 底径	22.3 12.3 12.3	圓筒形。口縁部外反する。外面側面横方向へラ削り。 内面ナデ後、ナデ。	緻密	良好 外面赤褐色、内面 深褐色。	カマド
7	土器	ほぼ完形	口径 器高 底径	22.0 28.8 3.7	口縁部「く」の字状に外反する。器内や中薄い。外面胴上部 側面方向の、中部以下側面のへラ削り。内面削りとナデ。輪 郭線は粗穢。	緻密	良好 深褐色、 底面赤 土色あり	窓櫛穴 寸付付着
8	鉄製品	先端欠		底角に折れている。断面は方形を呈する。全体に頗る青 銅色で表面に斑点がある。				床着



第13図 4号住居址・出土遺物

4号住居址 (第13図 図版3-4・17表6)

本址は調査区北東側X154・155、Y66・67・68グリッドで検出された。南側で6号住居址と接する。主軸方向はN-81°-Eである。規模は1辺4.4mで正方形を呈する。壁高は55cmで、床面にはやや凹凸が認められ、踏み固めは弱いが認められる。

ピットは1基検出され、南東側には貯蔵穴がある。壁溝はカマドと貯蔵穴部分を除いて認められる。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土で構築されているが、依存状態は悪い。壁外への掘り込みは55cmである。

遺物は南側にやや多く集まる。南東側隅角より長さ15cm、幅5cm前後の棒状の石がやや多く出土している。

5号住居址 (第14・15図 図版3-5・17表7)

本址は調査区北東側X157・158、Y67・68・69グリッドで検出された。主軸方向はN-17°-Eである。規模は長軸6.0m、短軸5.7mで方形を呈する。壁高は50cm、床面は平坦で、踏み固めはほとんど認められない。

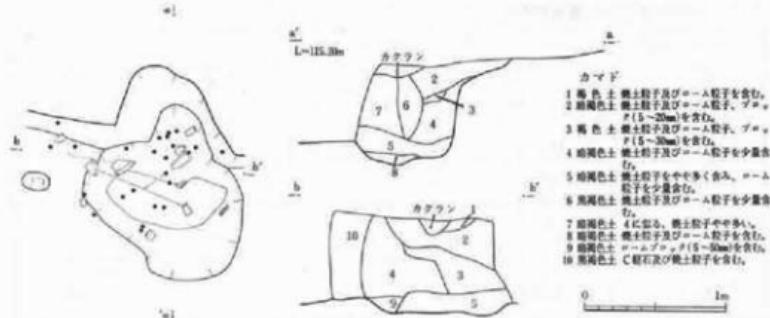
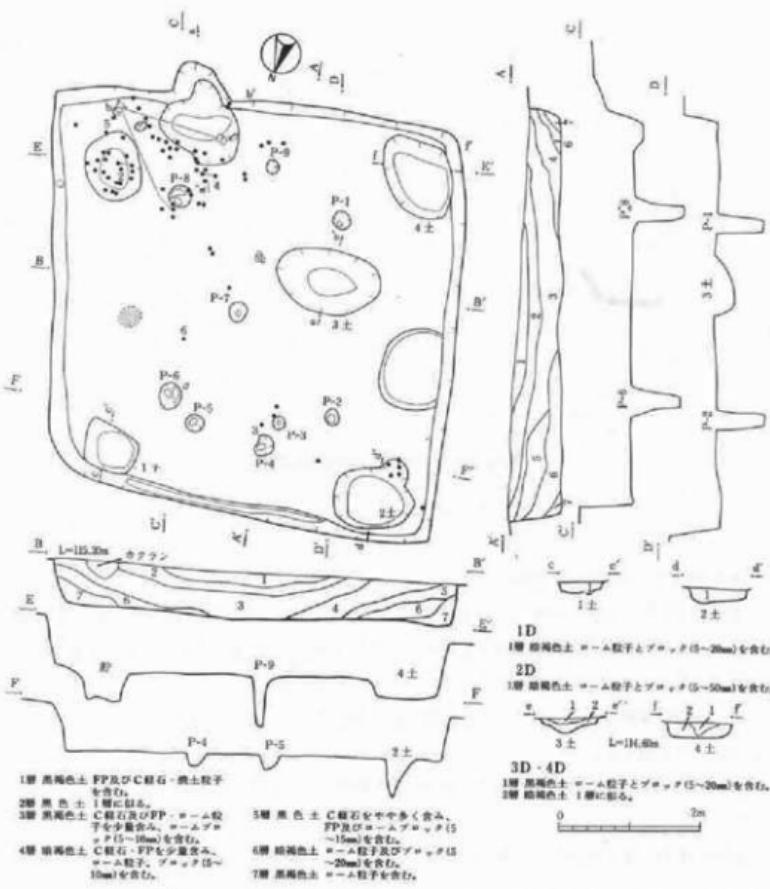
ピットは主柱穴4基、他に6基の計10基が認められ、他に南側壁際に貯蔵穴1基と土壙状の掘り込み5基が検出されている。壁溝は北側のみである。

カマド 南壁東寄りに位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは35cmである。カマドや床面の状態からこの住居址は短期間の使用と考えられる。

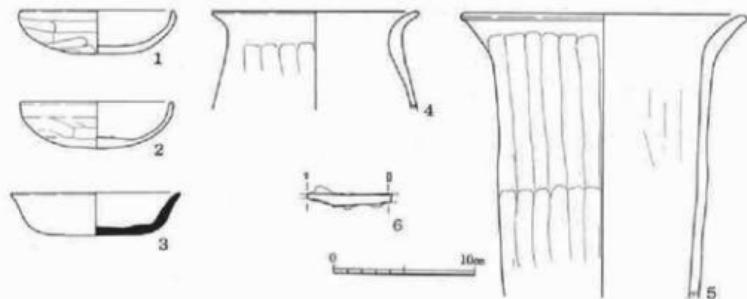
遺物は覆土上層に土器の細片が集中して検出され、床着遺物は比較的少ない。

表7 5号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、或・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土器 环	完形	口径 3.1 壁高 3.1	10.8 底部丸底。口縁部内凹する。外面へテ崩り。内面ナゲ、僅 半底。	砂粒を少 量含む。	良好	赤褐色	床着
2	土器 环	1/3	口径 3.3	10.6 底部丸底で肥厚する。口縁部弱い傾を持ち。外面へテ崩 り。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	棕褐色	軒端六
3	粗底 环	2/3	口径 3.0	11.9 口縁部外反する。ロコロ形。底部へテ崩り調整。	石粒を少 量含む。	良好	灰白色	覆土
4	土器 環	口縁部 残存高	14.6 7.0	14.6 小形甕と思われる。口縁部外反する。外面へテ崩り。内面ナ ゲ。	石粒を多 く含む。	良好	褐色	カマド
5	土器 甕	口縁部 2/3	口径 残存高 19.2	19.9 長胴甕。口縁部外反する。外曲線方向へテ崩り。内面ナ ゲ。	砂粒、石 粒を多く 含む。	やや 不良	褐色	床着
6	鉢形 刀子	刃身欠 陥存長	6.1	刃の部分内凹ぎみになる。				床着



第14号 5号住居址



第15図 5号住居址・出土遺物

6号住居址 (第16図 図版3-6-17 表8)

本址は調査区北東側X154・155、Y68・69グリッドで検出された。主軸方向はN-78°-Eである。規模は長軸5.8m、短軸4.7mで縦長長方形を呈する。壁高は72cmである。床面はほぼ平坦で、踏み固めはやや認められる。

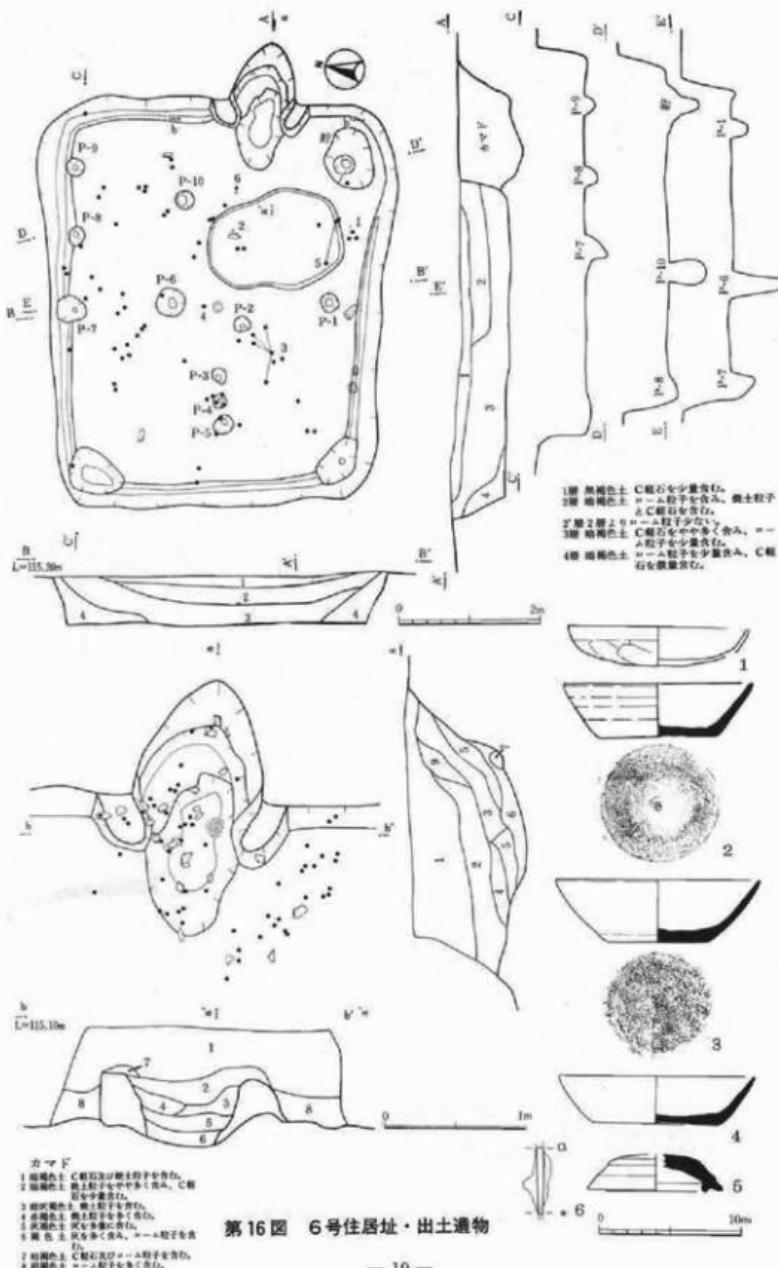
ピットは12基検出されている。南東側壁際には貯蔵穴が存在する。壁高はカマド、貯蔵穴付近を除いて全周する。

カマド 東壁中央寄りに位置する。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは85cmである。

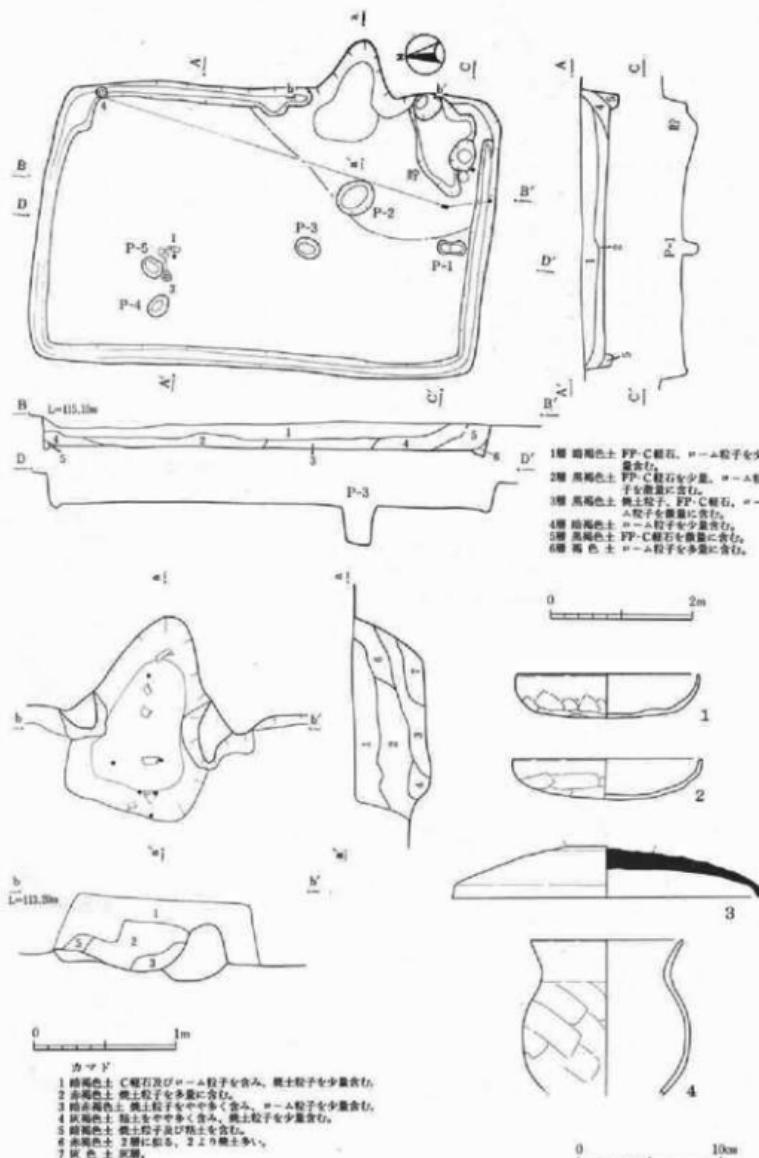
遺物は床着、覆土中共にやや多いが、ほとんどは細片である。

表8 6号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、皮・型の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	
1	土器 杯	1/3	口径 器高	12.7 2.7	底面平底に近くなる。口縁部外反ぎみに立ち上がる。外面 ヘラ削り。内面ナガ、指圧痕	砂粒を少 量含む。	良好	褐色 灰褐色	床着
2	乳頭 杯	完形	口径 器高 底径	13.3 3.8 8.5	口縁部外反する。ロクロ整形。底部ハラ削り。	石粒を少 量含む。	良好	灰色	床着
3	乳頭 杯	2/3	口径 器高 底径	14.4 6.4 7.0	口縁部外反する。ロクロ整形。底部凹転へラ削り。	緻密	良好	灰色	床着
4	乳頭 杯	3/4	口径 器高 底径	13.8 3.4 8.7	ロクロ整形。底部凹転へラ削り。後周辺部へ や削り調整。	石粒をや や多く含 む。	良好	灰色	床着
5	乳頭 器	1/2	底径	9.6	かえりを有する。つまみ不明。ロクロ整形。	緻密	やや 不良	外表面灰色 内面褐色	覆土
6	鉄製品 不明	刀身先 茎部次	現存長	4.9	断面方形。刃であろうか。				覆土



第16図 6号住居址・出土遺物



第17図 7号住居址・出土遺物

7号住居址（第17図 図版3-7-17 表9）

本址は調査区東側X158・159、Y76・77グリッドで検出された。主軸方向はN-103°-Eである。規模は長軸6.5m、短軸5.5m、短軸4.0mで横長長方形を呈する。壁高は40cmを計り、床面は平坦で南東部分に硬質部分がある。

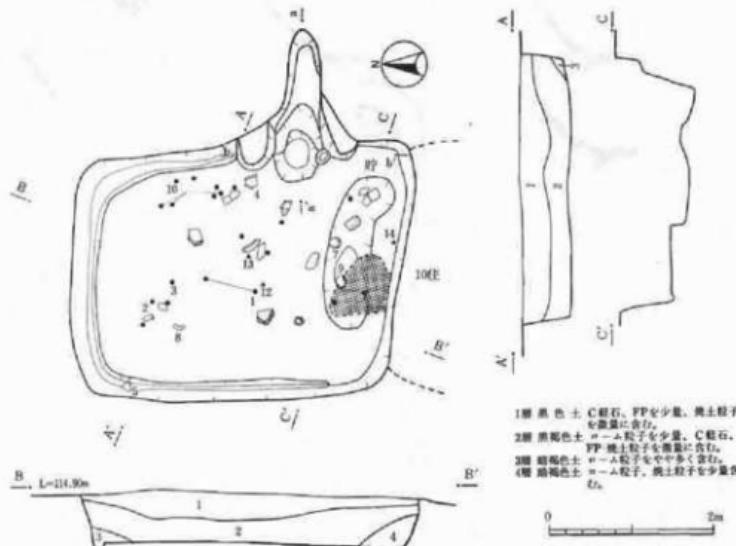
ピットは5基検出されているが、いずれも浅い。南東側壁際には貯蔵穴が存在する。壁溝はカマド付近を除き全周する。

カマド 東壁中央やや寄りに位置する。袖は依存状態が悪いが、粘土とロームの混合土で構築されている。壁外への掘り込みは70cmである。

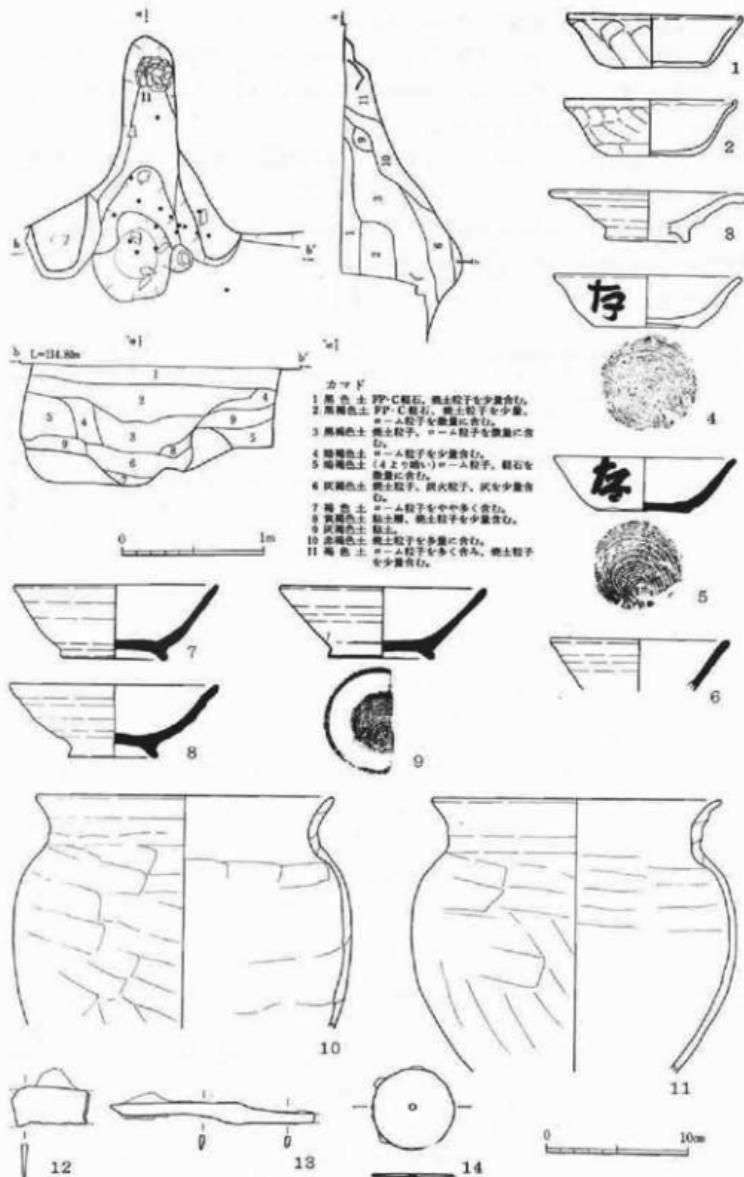
遺物は床着のものは少なく、覆土中にやや多く集まる。

表9 7号住居址出土遺物観察表

番号	跡種	深度	法量(cm)	跡形、成・整形の特徴	加土	洗成	色調	出土位置
1	土器环	ほぼ定形	口径 12.8 底高 3.3	底部平底に近くなる。口唇部直立する。外面へテ割り。内面カナヅチ痕有。	砂粒少 量含む	良好	褐色	床着
2	土器环	3/4	口径 13.4 底高 3.2	底部平底に近くなる。口縁部外反ぎみになる。内面へテ割り。内面カナヅチ痕有。	砂粒少 量含む	良好	褐色	床着
3	乳頭	3/4	口径 21.6 残存高 3.7	つまみ欠損。ロ繩部かえりなく直角に近く曲がる。外面上に回転ヘテ割り。他は回転カナヅチ。	石粒を含 む	良好	灰色	床着
4	土器 小形器	1/3	口径 10.8 残存高 11.1	ロ繩部外反する。器内陶泥。外面へテ割り。内面カナヅチ。	無	良好	褐色	覆土



第18図 9号住居址(1)



第19図 9号住居址(2)・出土遺物

9号住居址 (第18・19図 図版3-8・17・23 表10)

本址は調査区東側X156・157、Y77グリッドで検出された。主軸方向はN-90°-Eである。南側で10号住居址と重複し、本址の方が新しい。規模は長軸4.0m、短軸3.1mで方形を呈する。壁高は65cm、床面は北側から南側へ緩く傾斜し、踏み固めは全体にやや認められる。

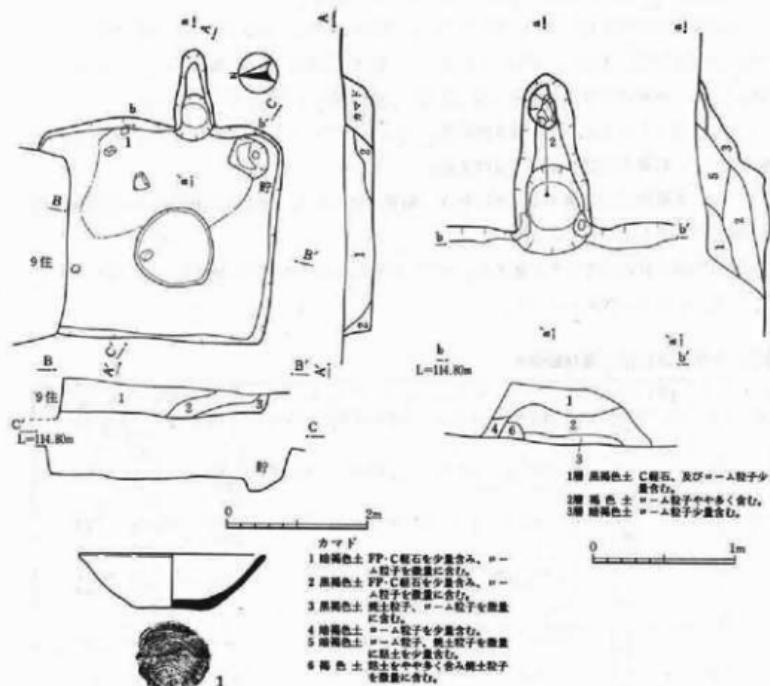
ピットは検出されなかった。南東側壁際には貯蔵穴と思われる、不整な掘り込みがある。壁溝はカマド、貯蔵穴付近を除いて全周する。

カマド 東壁中央に位置する。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは140cmと長く、緩やかに立ち上がっていいる。

遺物は貯蔵穴付近にやや多く集まる。カマドの周辺には、カマドの補強材として用いられていたと思われる石が散乱している。

表10 9号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	重量 (kg)	形、式・盤形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土器 环	底部一部 欠	12.2 3.7 6.6	底部平底。口縁部外反し、口唇部肥厚する。外腹底部へフ 削り。内面ナデ。	石粒を含む。	良好	二色焼成 を受ける黒 褐色。	床着
2	土器 环	1/3	12.1 4.0 5.9	底部平底。口縁部外反し、口唇部肥厚する。外腹底部へフ 削り。内面ナデ。	石粒を少 量含む。	良好	褐色色。 外側黒 斑。	床着
3	土器 皿	1/3	14.2 3.5 6.0	口縁部強く外反する。底部の盤形不明。内、外面ナデ。竹 筋高台。	石粒を少 量含む。	良好	褐色	床着
4	陶器 环	3/4	13.2 3.7 7.1	平底。口縁部外反する。底部回転系切り未調整。ロクロ痕。 内、外面ナデ。	石粒を少 量含む。	良好	灰色。黑 斑あり。	床着 裏面
5	陶器 环	洋行形	12.9 3.8 9.3	平底。口縁部外反する。底部回転系切り未調整。ロクロ 痕。内、外面ナデ。	石粒を少 量含む。	良好	灰白色。 黒斑あり。	床着 裏面
6	陶器 环	口縁部 1/4	12.5 3.6	口縁部外反する。ロクロ盤形。内外面ナデ。	緻密	良好	灰色	覆土 裏面
7	陶器 环	4/5	14.3 5.2 7.4	口縁部外反する。ロクロ盤形。底部回転系切り、竹高台。	石粒を少 量含む。	良好	灰色	床着
8	陶器 環	1/3	14.7 5.2 6.3	口縁部外反する。ロクロ盤形。底部回転系切り、竹高台。	石粒を含 む。	良好	灰色。黑 斑あり。	床着
9	陶器 环	1/3	14.6 5.0 7.4	口縁部外反する。ロクロ盤形。底部回転系切り、竹高台。	石粒を少 量含む。	やや 不良	灰褐色	住居址内土 坑
10	土器 皿	上半部 1/2	21.0 16.5	口縁部「コ」の字状を呈する。外腹へフ削り。内腹上部へフ 削り。他ナデ。	石粒を少 量含む。	良好	褐色色。	床着
11	土器 皿	上半部	20.4 19.5	口縁部「コ」の字状を呈する。外腹へフ削り。内腹へフ削 り。ナデ。	石粒を少 量含む。	良好	褐色色	カマド
12	鉄製品 鋸	先端部 欠損	現存長 5.4	基部のみ				床着
13	鉄製品 刀子	基部欠損	現存長 14.6	刀の部分内両ぎみにすりへっている。				床着
14	鉄製品 柄車	鍛なし	直徑 5.8	中央の孔の直徑4mm、厚さ2.5mm。水平。				床着



第20図 10号住居址・出土遺物

第10号住居址 (第20図 図版4-1 表11)

本址は調査区東側X156、Y78・79グリッドで検出された。主軸方向はN-102°-Eである。北側で9号住居址と重複し、本址の方が古い。規模は長軸は長軸3.4m、短軸3.1mで方形を呈する。壁高は40cm、床面はほぼ平坦で、カマド付近は良く踏み固められている。

南東側壁際には貯蔵穴があり、中央には浅い土壇状のピットが存在する。壁溝はない。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。袖は石を利用してしていたと思われ、左袖には石が残っていた。壁外への掘り込みは110cmである。

遺物はカマドの煙道部から甕が出土しているが、床着遺物は少ない。

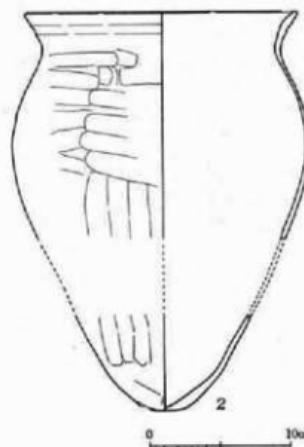
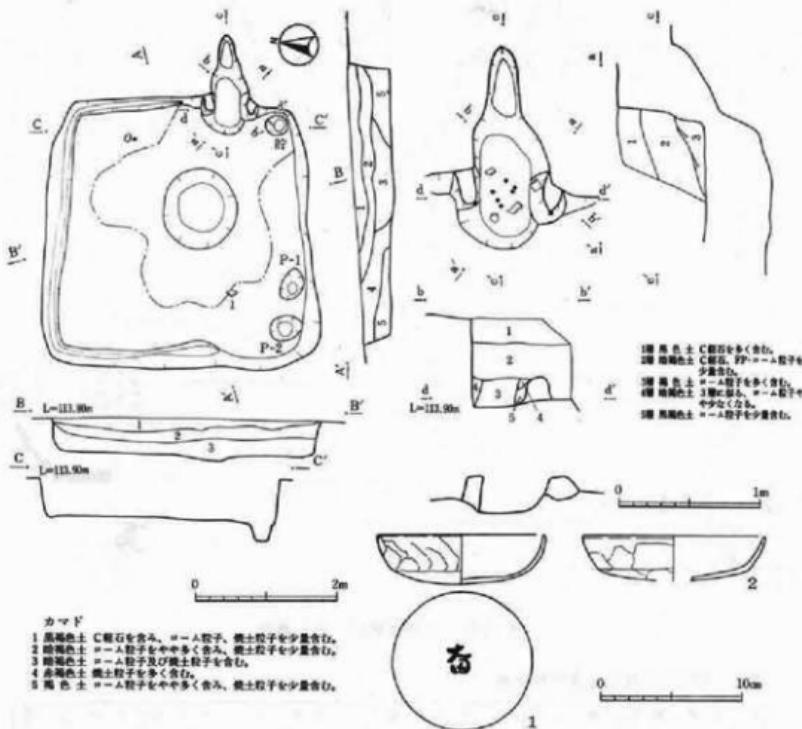


表11 10号住居址遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 層
1	乳頭 環	2/3	口径 13.0 基高 3.8 底径 5.1	口縁部直線的に外反する。=コモ整形。底部曲輪み切り未 調整。内、外面ナデ。	石粒を少 量含む。	良好	灰褐色	床着
2	土器 環	1/2	口径 19.2 底径 3.0	口縁部外反する。器四薄く底部すぼまる。外面上面傾方 向、中部以下瓶方向へのり削り。内面ナデ。	緻密	良好	灰褐色	カマド

表12 11号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 層
1	土器 環	4/5	口径 11.8 基高 3.5	底部平底に近くなる。口縁部内側にて立ち上がり直立す る。外面へラ削り。内面ナデ、指圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	灰褐色	床着 壁掛
2	土器 環	1/2	口径 12.9 基高 3.1	底部平底に近くなる。口縁部外反ぎみに立ち上がる。外面 へラ削り。内面ナデ。	砂粒を含 む。	良好	灰褐色	貯藏穴



第21図 11号住居址・出土遺物

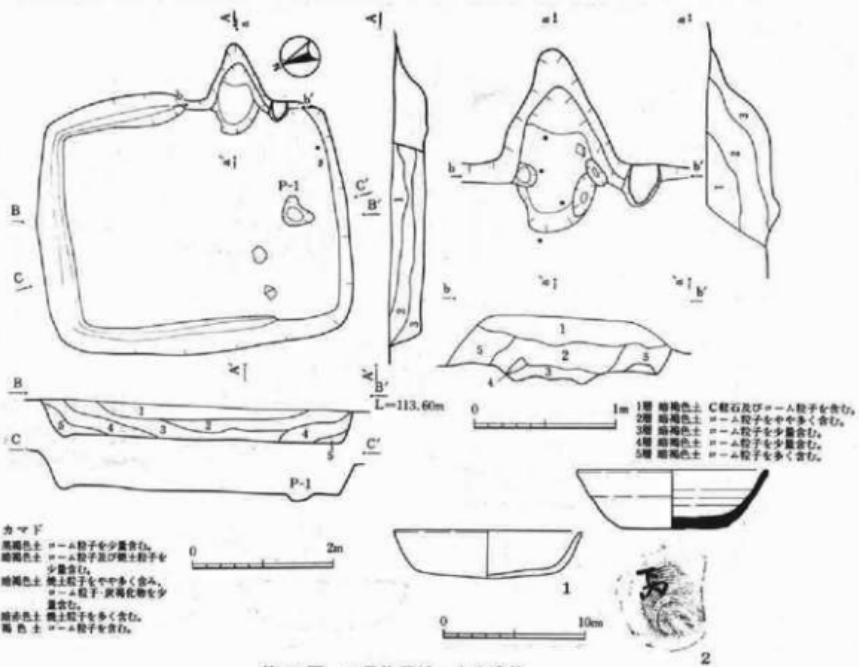
11号住居址 (第21図 図版4-2-18・23 表12)

本址は調査区北側中央X142・143、Y77・78グリッドで検出された。主軸方向はN-79°-Eである。規模は長軸3.9m、短軸3.7mで方形を呈する。壁高は55cm。床面はほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められている。

南東側壁際に貯藏穴があり、他に小ピット2基が検出されている。壁高は北側と西側の一部に認められる。

カマド 東壁中央南寄りに位置する。袖は粘土とロームの混合土で構築されている。壁外への掘り込みは90cmである。

遺物はほとんど出土していないが、墨書き器が出土している。



第22図 12号住居址・出土遺物

表13 12号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	生量 (cm)	器 形・底 形 の 特 徴	胎 土	焼成	色 調	出土位置
1	土器 环	1/2	口径 壁高 底径	平底。口縁直線的に外反する。外表面底部へ2割り。内面ナ ル粒を少 量含む。	良好	黒褐色 外腹黒 斑。	良好	黒褐色 裏土 墨痕
2	便器 环	1/3	口径 壁高 底径	口縁部外反する。ロクロ形。底部切削未切り後、周縁部 細密	良好	黒褐色	良好	黒褐色 裏土 墨痕

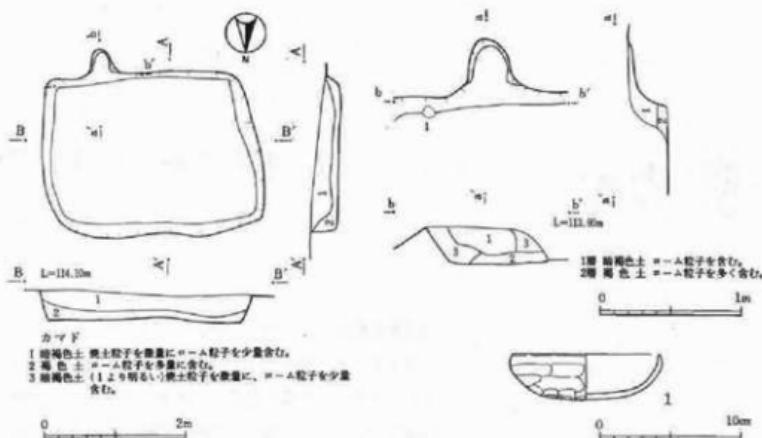
12号住居址 (第22図 図版4-3 表13)

本址は調査区北側中央X143・144、Y78・79グリッドで検出された。主軸方向はN-122°-Eである。規模は長軸4.4m、短軸3.7mで方形を呈する。壁高は45cm。床面は平坦で、踏み固めはやや認められる。

ピットは浅いものが1基検出されている。壁溝はカマド付近と南側を除いて検出された。

カマド 東壁中央やや南寄りで検出された。袖は流失が激しいが粘土で構築されている。壁外への掘り込みは75cmで、壁はなだらかに立ち上がる。

遺物は床着遺物は1点のみで、カマド、覆土中の遺物も少ない。



第23図 14号住居址・出土遺物

14号住居址 (第23図 図版4-4 表14)

本址は調査区東側X159・160、Y83グリッドで検出された。主軸方向はN-175°-Eである。規模は長軸3.1m、短軸2.3mで方形を呈する。壁高は38cm。床面はやや凹凸があり、踏み固めはほとんど認められない。

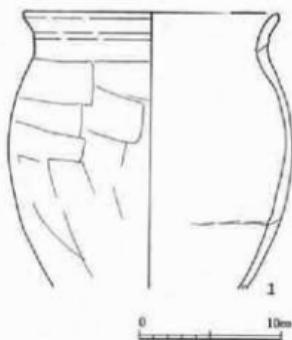
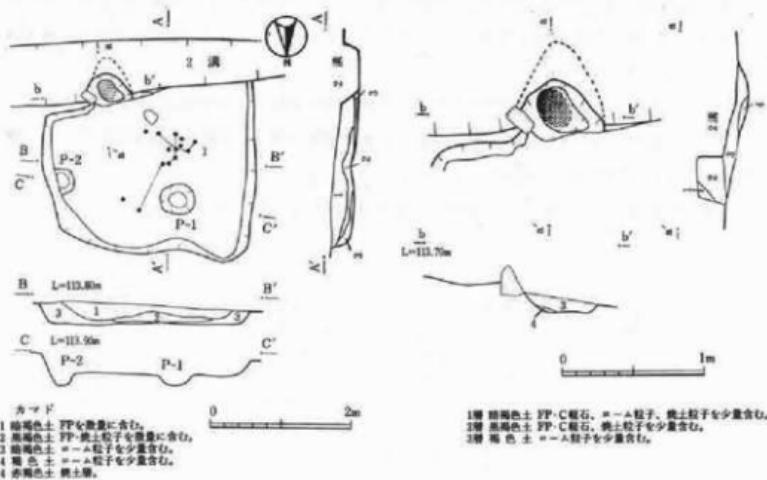
ピット・壁溝共に検出されていない。

カマド 南壁中央やや東寄りに位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは30cmで急激に立ち上がる。充填土には焼土がほとんど含まれていない。

遺物は覆土中から細片が少量出土し、他はカマドより1片出土。

表14 14号住居址出土遺物観察表

番号	形 型	遺存度	法 量 (cm)	器 形、成、體 形 の 特 徴	胎 土	燒 成	色 調	出土位置
1	土器 杯	1/2	口径 16.4 底 3.2	丸底。口縁内面青する。外縁へテリあり、内面ナメ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	カマド



第24図 15号住居址・出土遺物

15号住居址 (第24図 図版4-4 表15)

本址は調査区東側X159・160、Y84グリッドで検出された。南側に2号溝と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN-177°-Eである。規模は長軸3.0m、短軸2.1mでやや歪な長方形を呈する。壁高は25cm。床面はやや凹凸があり、踏み固めはほとんど認められない。

ピットは2基検出されているが深さ15cm前後で浅い。壁溝は検出されなかった。

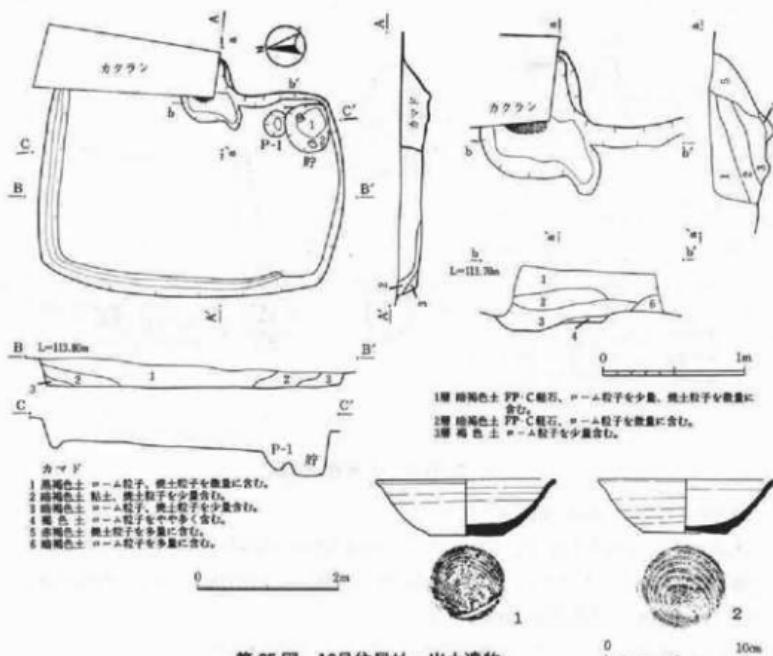
カマド 南壁中央やや東寄りに位置する。ほとんどが2号溝によって破壊されている。東袖に石が残っていることから、石組のカマドであったと思われる。壁外への

掘り込みは30cm程度と思われる。火床部は30cm×20cmの卵形を呈する。

遺物は中央部を中心に細片がややまとめて出土している。

表15 15号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	土	焼成	色調	出土位置
1	土器 釜	上半部 1/2	口径 15.2 器高 19.5	口縁部がV字状になる。器内やや厚い。外面上部横方向 の、中部縦方向のハラ削り。内面ナデ、輪ぢみ底。	赤色石粒 を含む。	良好	灰褐色 に近い褐 色	床着



第25図 16号住居址・出土遺物

16号住居址 (第25図 図版4-5・18 表16)

本址は調査区東側X175・176、Y83・84グリッドで検出された。カクランのため東壁の北側とカマドの一部が不明である。主軸方向はN-99°Eである。規模は長軸4.3m、短軸2.9mで、横長長方形を呈する。壁高は35cm。床面は北側から南側へ緩く傾斜しており、踏み固めは弱いが認められる。

ピットは1基検出されている。南東側壁際には貯蔵穴が存在する。

カマド 東壁中央に位置する。袖は検出されず、火床部が認められる。壁外への掘り込みは50cmで、なだらかに立ち上がる。

遺物はほとんど出土していないが、貯蔵穴から須恵器の壺が出土している。

表16 16号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法 量 (cm)	器 形、成・整 形 の 特 徴	胎 土	陶 灰	色 調	出土位置	
1	須恵 壺	4/5	口径 器高 底径	12.6 4.0 5.2	口縁部外反する。ロフタ整形。底部凹軸あ切り未調整。	無害	良好	灰色。内 外表面黒 斑。	床着
2	須恵 壺	4/5	口径 器高 底径	12.6 3.9 6.0	口縁部外反する。ロフタ整形。底部凹軸あ切り未調整。	石粒を少 量含む。	良好	灰色	貯蔵穴



第26図 17号住居址

17号住居址 (第26図 図版4-6)

本址は調査区東側X153、Y83・84グリッドで検出された。南西側に18号住居址が近接する。主軸方向はN-94°-Eである。規模は長軸2.4m、短軸1.7mで不整形を呈する。壁高は60cm。床面はほぼ平坦で、踏み固めは軟弱である。

ピットは検出されなかった。壁溝は北側と東側の半分で検出されている。

カマド 東壁の中央に位置する。石組のカマドである。壁外への掘り込みは30cmである。

本址は遺物もほとんどなく、住居址としての機能よりも、カマド専用として使用されていたものと考えられる。

18号住居址 (第26図 図版4-7 表17)

本址は調査区中央東寄りのX152・153、Y84・85グリッドで検出された。南側で2号溝と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN-80°-Eである。規模は長軸6.9m、短軸3.1mで縦長長方形を呈する。壁高は45cm。床面はほぼ平坦で、踏み固めは弱い。

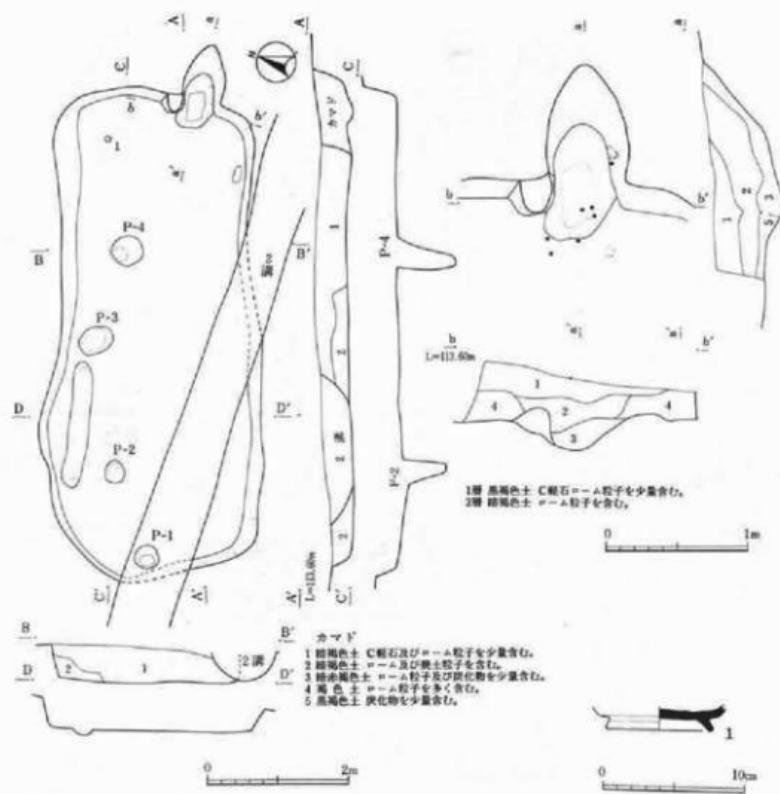
ピットは4基検出されているが、主柱穴とは考えられない。壁溝はなく、北側に一部溝状の落ち込みが検出されている。

カマド 東壁の中央南寄りに位置する。袖は依存が悪いが粘土で構築されている。壁外への掘り込みは80cmである。

遺物は覆土中にやや多く、床着遺物は少ない。

表17 18号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量(cm)	器形、成・整形の特徴		胎土	焼成	色調	出土位置
				高台	ハコ				
1	須恵 片	底面のみ 既存	7.4 1.9	高台ハコの字状に開く。 ハコ整形。底部高台付粘付。ナ ジ調整。		軟陶	良好	灰褐色	床着



第27図 18号住居址・出土遺物

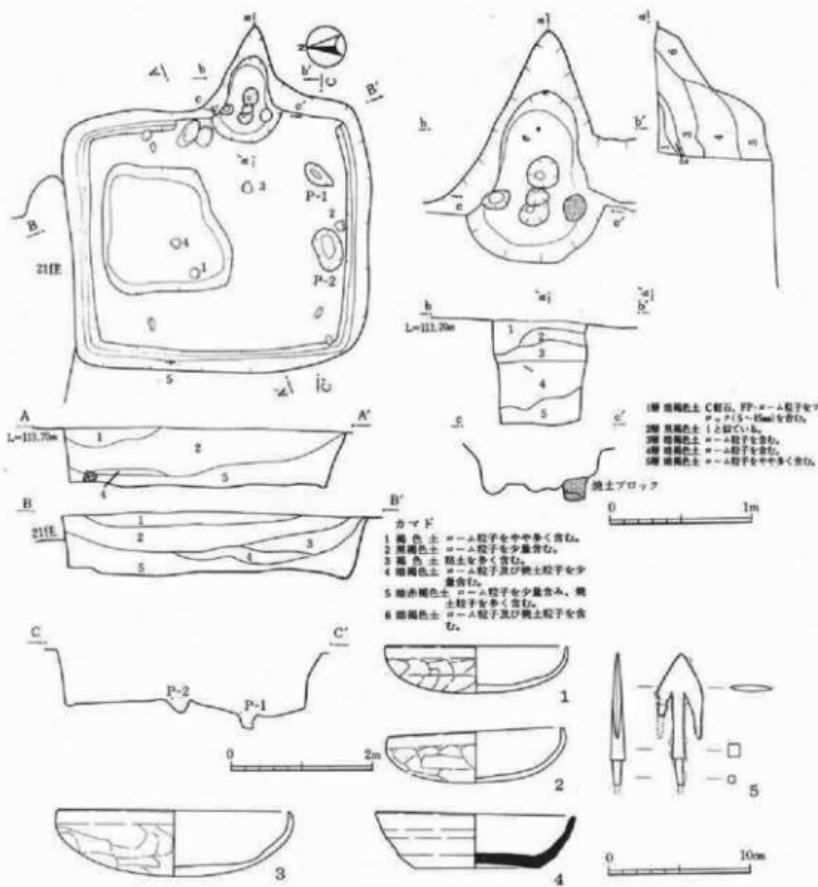
20号住居址 (第28図 図版8・18・23 表18)

本址は調査区中央X146・147、Y81・82グリッドで検出された。北側で21号住居址と重複し本址の方が古い。主軸方向はN-92°-Eである。規模は長軸4.2m、短軸3.9mで方形を呈する。壁高は80cm。床面はほぼ平坦で、踏み固めが認められる。

ピットは2基検出されているがいずれも浅い。壁溝はカマド付近を除いて全周する。

カマド 東壁中央やや東寄りに位置する。袖は右袖に焼土化した粘土ブロックが置かれていた。壁外への掘り込みは75cmである。

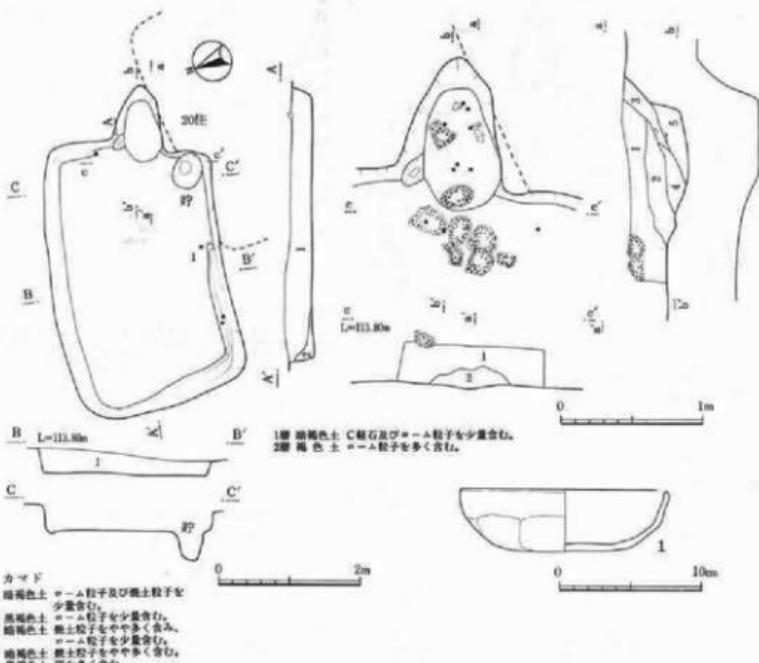
遺物は西側の壁溝より鐵鎌が出土している。他にカマド付近に石が散乱していた。



第28図 20号住居址・出土遺物

表18 20号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存状	法量 (cm)	器形、皮・堅形の特徴	胎土	微度	色調	出土位置
1	土器 环	浅浮彫形 口徑 器高	12.0 3.4	丸底。口縁部内側ぎみに立ち上がり。直立する。外面ヘラ 削り。内面ナザ。指圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	赤褐色	床面
2	土器 环	4/5 口徑 器高	12.4 4.0	丸底。口縁部内側する。外縁ヘラ削り。内面はナザ。指圧 痕。	緻密	良好	褐褐色	床面
3	土器 环	2/3 口徑 器高	16.4 4.7	丸底。口縁部直立ぎみに立ち上がり。口唇部内側ぎみにな る。外面ヘラ削り。内面ナザ。指圧痕。	緻密	良好	褐褐色	床面
4	樂器 环	4/5 圓錐 高 底径	14.0 4.1 8.7	口縁部外反する。リニア形。底部回転糸切り後。回転ヘ ラ削り調整。	砂粒をや や多く含 む。	やや不良	灰褐色	床面
5	鉄製品 環	現存形 現存共	9.5	基部の端と刃部の先端を欠損する。環形。				壁裏内



第29図 21号住居址・出土遺物

21号住居址 (第29図 図版5-1・18 表19)

本址は調査区中央X146・147、Y80・81グリッドで検出された。南側で20号住居址と重複する。主軸方向はN-104°-Eである。規模は長軸3.9m、短軸2.5mで、長方形を呈する。壁高は40cm。床面はほぼ平坦で、踏み固めがやや認められる。

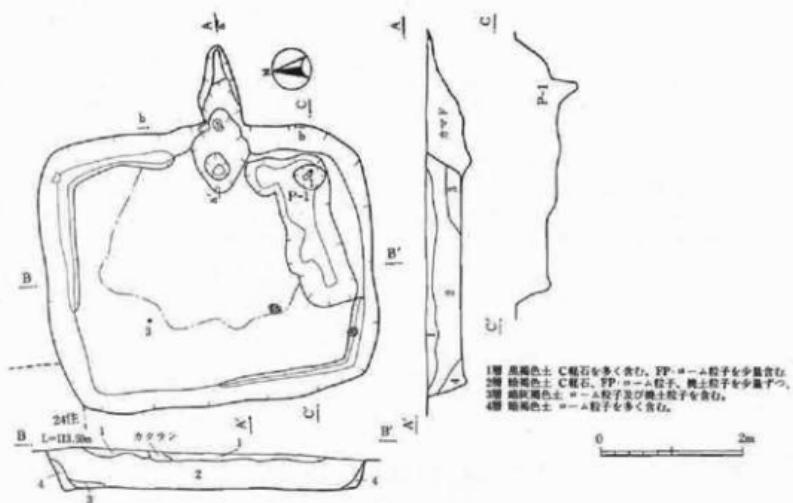
南東側壁際には貯蔵穴が存在する。ピットは検出されなかった。壁溝はカマド・貯蔵穴付近を除いて全周する。

カマド 東壁中央南寄りで検出された。袖等は検出されていないが、付近に石が散乱していた。壁外への掘り込みは75cmである。

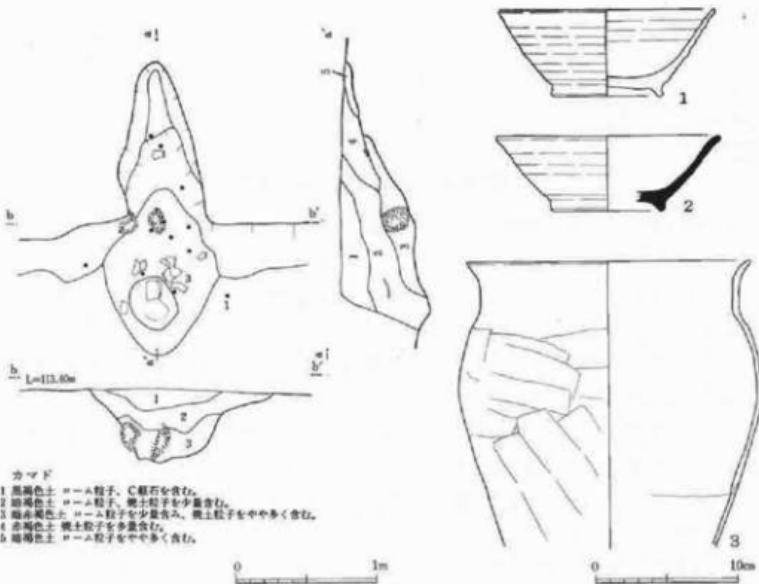
遺物は全体的に少ない。床面に少量の炭化物が散乱していた。

表19 21号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法縦 (cm)	器形、底・蓋形の特徴		胎土	焼成	色調	出土位置考
				器形	底・蓋形				
1	土瓶 环	2/3	口径 深	14.5 4.5	平底。外底ケズリと口縁底の内面ナゲの残。破壊状となる。外 面へラブリ。内面ナゲ。	粗密	良好	暗褐色	床面



1層 黒褐色土 C粗石を多く含む。FP ラーム粒子を少量含む
2層 棕褐色土 C粗G. FP ラーム粒子、鐵土粒子を少すづ。
3層 棕赤褐色土 ラーム粒子及び鐵土粒子を含む。
4層 黑褐色土 ラーム粒子を多く含む。



第30図 23号住居址・出土遺物

23号住居址 (第30図 図版5-2-18 表20)

本址は調査区中央X146・147、Y82・83グリッドで検出された。北西側で24号住居址と重複し、本址の方が新しい。主軸方向はN-97°-Eである。規模は長軸4.6m、短軸4.0mで方形を呈する。壁高は50cm。床面は平坦で、中央部分はかなり良く踏み固められている。

南東側壁際には不整な掘り込みがあり、貯蔵穴と思われる。他に浅いピット1基が検出されている。壁溝は北東側と南西側で検出されている。

カマド 東壁中央やや南寄りで検出された。左袖には石が利用されていた。壁外への掘り込みは110cmである。

遺物は貯蔵穴と床面から少量出土している。覆土中からは細片がやや多く出土している。

表20 23号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量(cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 番号
1	土器 碗	3/4	口径 15.4 壁高 6.2 底径 8.0	口縁部外反する。円高台。 周辺均齊。	軟質	不良	褐褐色	貯蔵穴
2	灰壺 壺	1/3	口径 16.0 壁高 5.4 底径 8.2	口縁部外反する。口クロ型、円高台。	砂質を少 量含む。	良好	灰褐色	床着
3	土器 壺	1/2	口径 20.2 残存高 20.5	口縁部「コ」の字状になる。外面上部横方向、中部直角方向の へり削り。内面ナゲ。複合模が認められる。	砂質を少 量含む。	良好	褐褐色	カマド

24号住居址 (第31図 図版5-3-18 表21)

本址は調査区中央X145・146、Y82・83グリッドで検出された。南東側で23号住居址と、北西側で26号住居址と重複し、いずれも本址の方が古い。主軸方向はN-81°-Eである。規模は長軸4.8m、短軸4.0mで方形を呈する。壁高は60cm。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

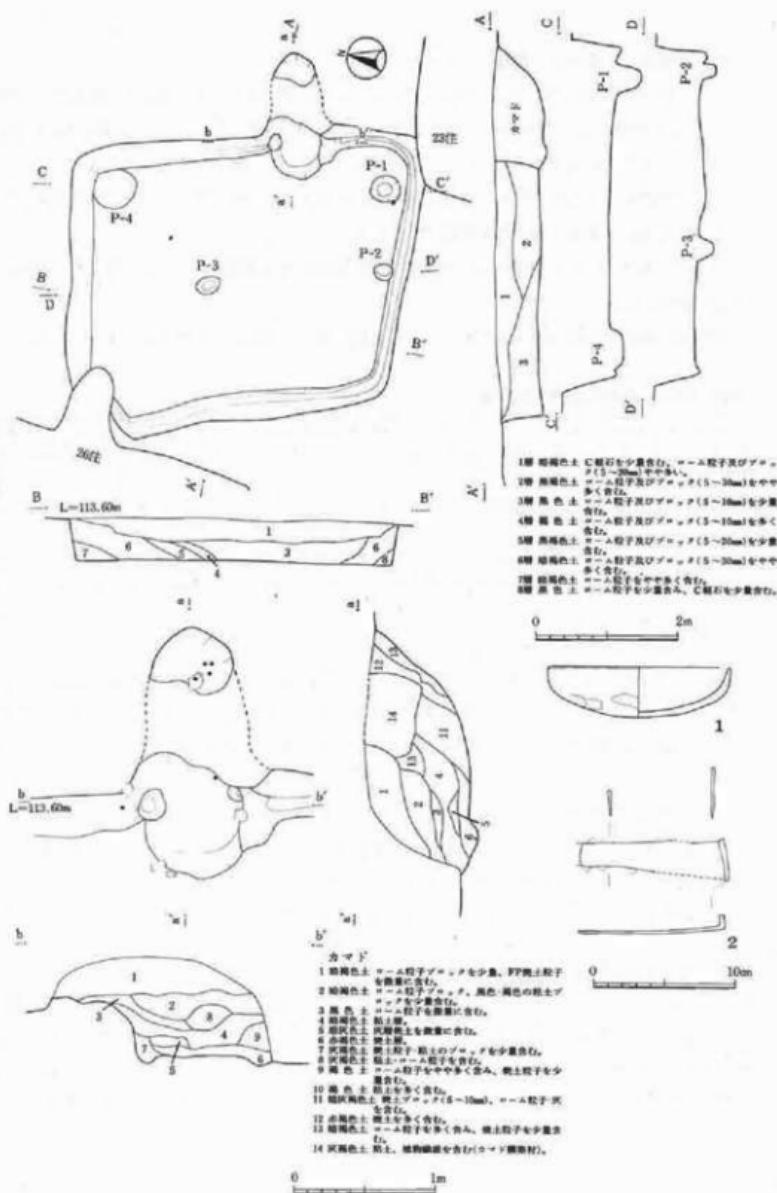
ピットは4基検出されているが、いずれも浅い。壁溝はカマドを除いて全周する。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。構築材は粘土や植物繊維などで、天井部が残る。壁外への掘り込みは110cmで、なだらかに立ち上がる。

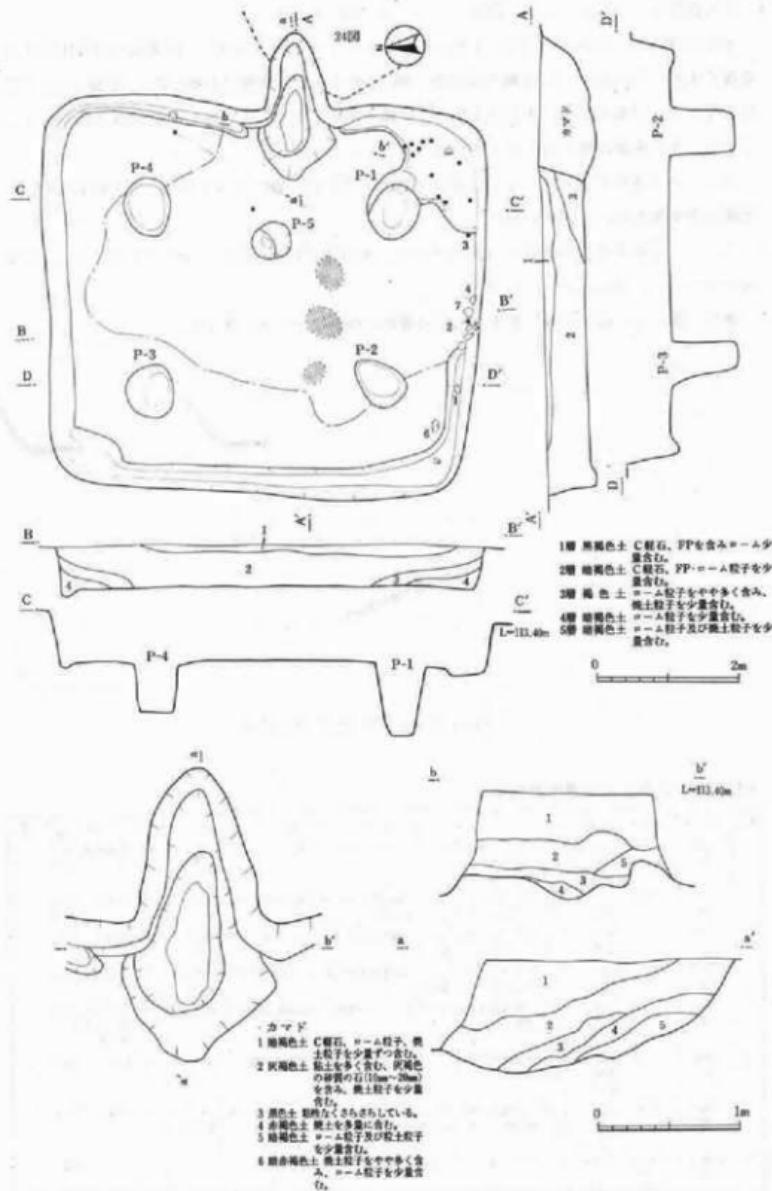
遺物は床着のものは少なく、覆土中から土器の細片がやや多く出土している。

表21 24号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量(cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 番号
1	土器 碗	4/5	口径 12.8 壁高 3.6	丸底。口縁部内側ざらに立ち上がり口唇部直立する。外側 へり削り。内面ナゲ、微圧痕。	軟質	良好	褐褐色	床着
2	鉄製品 鏃	先端部 欠損	現存長 10.3	基底直角に折れ曲がる。				覆土



第31図 24号住居址・出土遺物



第32図 26号住居址

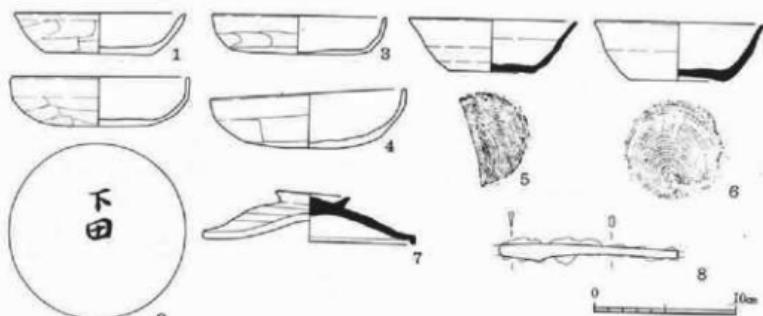
26号住居址 (第32・33図 図版5-4・18・23 表22)

本址は調査区中央X144・145、Y80・81・82グリッドで検出された。南東側で24号住居址と重複し本址の方が新しい。主軸方向はN-95°-Eである。規模は長軸6.2m、短軸5.5mで方形を呈する。壁高は60cm。床面は平坦でよく踏み固められている。特に中央部分は固くしまっている。また床面に焼土痕が3ヶ所検出されている。

ピットは5基検出されている。4基は主柱穴と思われ、掘り込みも90cmから100cmと深い。壁溝は南東側を除いて認められる。

カマド 東壁中央やや南寄りで検出された。袖は依存状態が悪い。壁外への掘り込みは110cmでだらかに立ち上がっている。

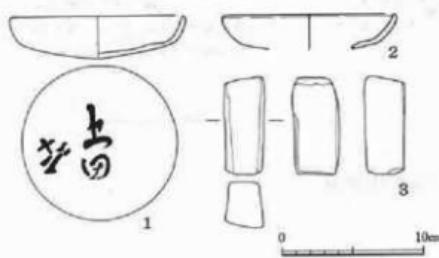
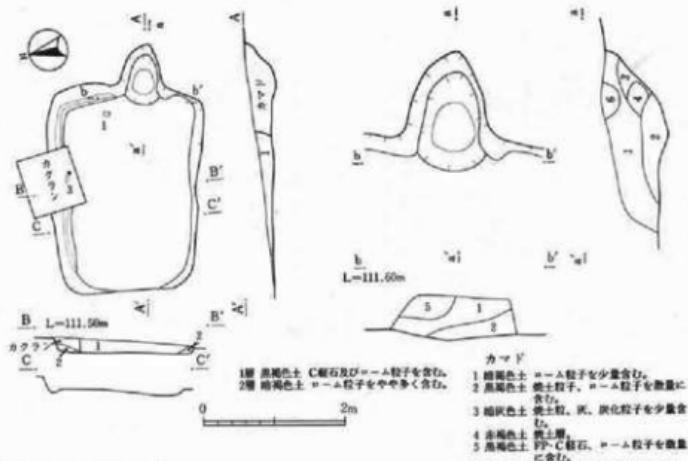
遺物は覆土中に細片が多く集まる。床着遺物は南側にやや多く集まる。



第33図 26号住居址 出土遺物

表22 26号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法重 (kg)	形、底・蓋の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土器 环	一部欠	12.2 2.9 2.4	口径平底部外反する。外縁へテ角り。内面: ガヤとナ ゲ。	石粒を少 量含む。	良好	灰褐色	床着 内窓
2	土器 环	一部欠	12.6 3.5	底部平底に若干なる。口縁部堅く、袋を持ち直立する。外縁 へテ角り。内面ナダ、指圧痕。	砂粒を含 む。	良好	棕褐色	床着 墨渦
3	土器 环	2/3	12.6 2.8	底部ほぼ平底になる。口縁部外反ぎみになる。外縁へテ角 り。内面ナダ、指圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	棕褐色	床着
4	土器 环	3/4	14.0 3.9	底部平底に若干なる。口縁部やや外反する。外縁へテ角 り。内面ナダ、指圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	棕褐色	床着
5	陶器 环	1/2	12.1 3.8 3.8 6.0	口縁部直線的に外反する。ロクモ整形。底部回転糸切り未 調整。	粗面	やや 不良	外側灰黒 色 内面 灰白色。	床着
6	陶器 环	2/3	12.6 4.2 6.8	ロクモ外反する。ロクモ整形。底部回転糸切り未調整。	緻密	良好	灰色	床着
7	陶器 蓋	4/5	15.2 3.5 5.3	ロクモ底部直角に折れる。歪みが激しい。ロクモ整形。天井 部回転へテ角り。内面ナダ。	石粒を少 量含む。	良好	灰褐色	床着
8	鉄製品 刀子	先端部 欠損	12.6	万刃のほとんどが欠損している。				覆土



第34図 27号住居址・出土遺物

面は軟弱で踏み固めはほとんど認められない。

ピットは検出されなかった。壁溝は北側と東側の一部に認められる。

カマド 東壁中央に位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは70cmである。

遺物は覆土中、床着遺物ともに少ない。

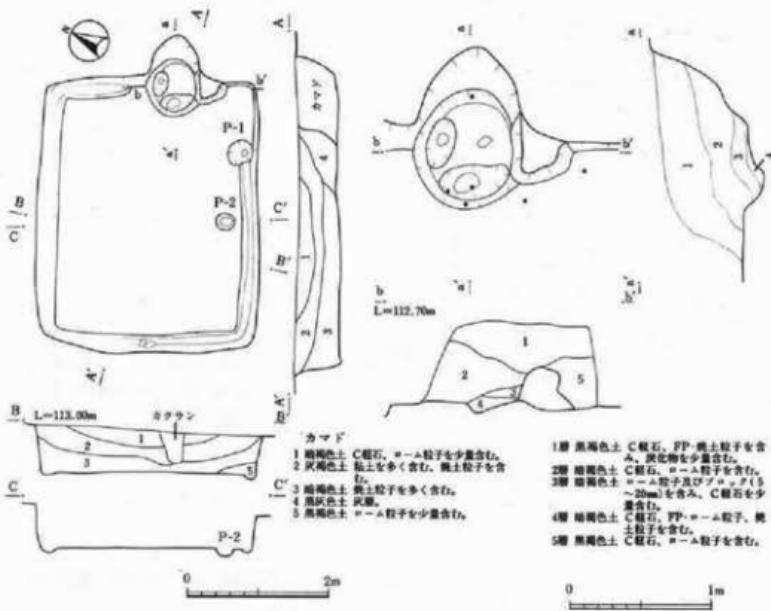
27号住居址 (第34図 図版5-5)

表23)

本址は調査区西側X136、Y83・84グリッドで検出された。斜面上に位置しているためか、依存状態は悪い。主軸方向はN-107°-Eである。規模は長軸3.0m、短軸2.1mで縦長方形を呈する。壁高は東側で25cmを計る。床

表23 27号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、皮・輪形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土鍋 环	1/3	口径 12.2 器高 3.0	底部平底に近くなる。外面ヘラ削り。内面ナメ。	砂粒を少 量含む。	良好	棕褐色	覆土 墨面
2	土鍋 环	1/5	口径 12.1 器高 3.4	底部ほぼ平底。外面ヘラ削り。内面ナメ、曲田底。	砂粒を少 量含む。	良好	棕褐色	覆土 墨面
3	石製品 籠石			使用面2面。	灰白色			床着



第35図 28号住居址

28号住居址 (第35図 図版5-6)

本址は調査区東側X158・159、Y88グリッドで検出された。主軸方向はN-62°-Eである。規模は長軸4.0m、短軸3.2mで方形を呈する。壁高は60cm。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

ピットは浅いものが2基検出されている。壁溝はカマドと南東側隅角を除いて認められる。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土で構築され、右袖のみが一部残っている。壁外への掘り込みは半円形で、60cmである。

遺物は覆土中、床着ともに少ない。

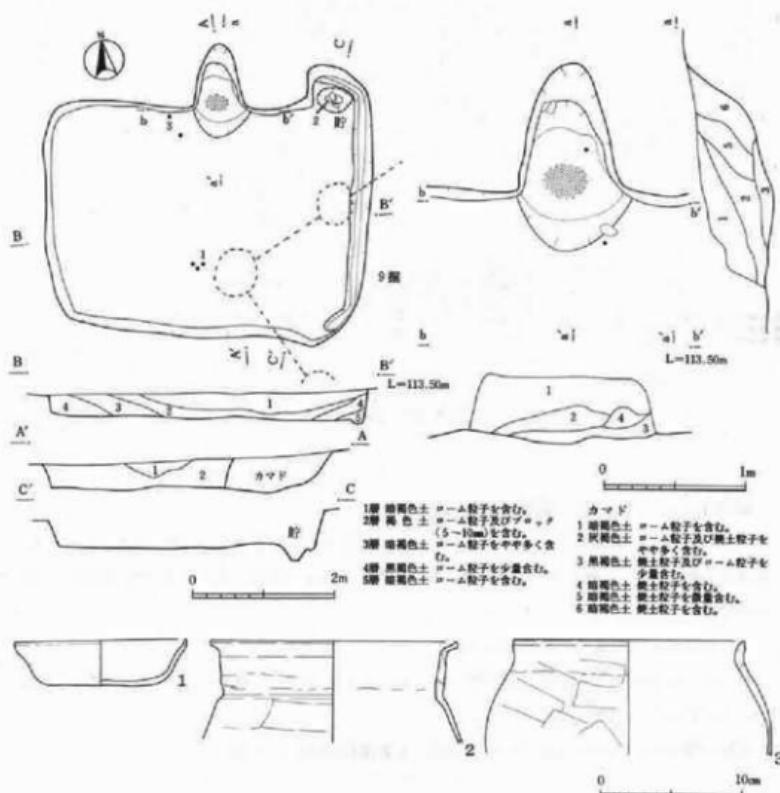
29号住居址 (第36図 図版5-7・18 表24)

本址は調査区東側X154・155、Y84・85グリッドで検出された。9号掘立と重複し本址の方が新しい。主軸方向はN-12°-Eである。規模は長軸4.6m、短軸3.3mで横長長方形を呈する。北東側には半円形の張り出しが認められる。壁高は40cm。床面は平坦で踏み固めは弱いが全体に認められる。

北東壁際の張り出し部分に貯蔵穴が存在する。壁溝は東側のみ検出されている。

カマド 北壁中央で検出された。袖は検出されなかった。火床部は $20\text{cm} \times 30\text{cm}$ の椭円形を呈する。壁外への掘り込みは 100cm で、なだらかに立ち上がる。

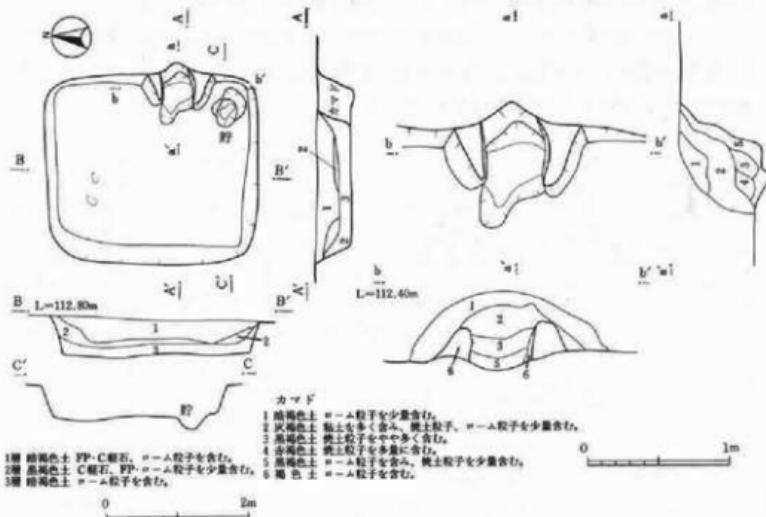
遺物はカマド、貯蔵穴から少量ずつ出土している。



第36図 29号住居址・出土遺物

表24 29号住居址出土遺物観察表

番号	断面	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 場所
1	土部 灰	4/5	口徑 12.2 想高 3.2	平底。口縁部外反する。外側へラ剣り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	淡褐色	床着
2	土部 便	口縁部 1/4	口徑 17.5 想存高 7.2	口縁「ノ」字状を呈する。外側へラ剣り。内面ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	淡褐色	貯蔵穴
3	土部 裏	口縁部 1/3	口徑 16.4 想存高 8.1	口縁部直立する。外側へラ剣り。内面「ガキ」。	砂粒を含 む。	良好	淡褐色	床着



第37図 30号住居址

30号住居址 (第37図 図版5-8)

本址は調査区東側X155・156、Y89グリッドで検出された。主軸方向はN-88°-Eである。規模は長軸3.0m、短軸2.7mで方形を呈する。壁高は55cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東側壁際には貯蔵穴が検出されている。ピット、壁溝はない。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土とロームで構築されている。壁外への掘り込みは15cmで、急激に立ち上がる。

遺物は覆土中から細片が出土しているが、床着遺物はほとんどない。

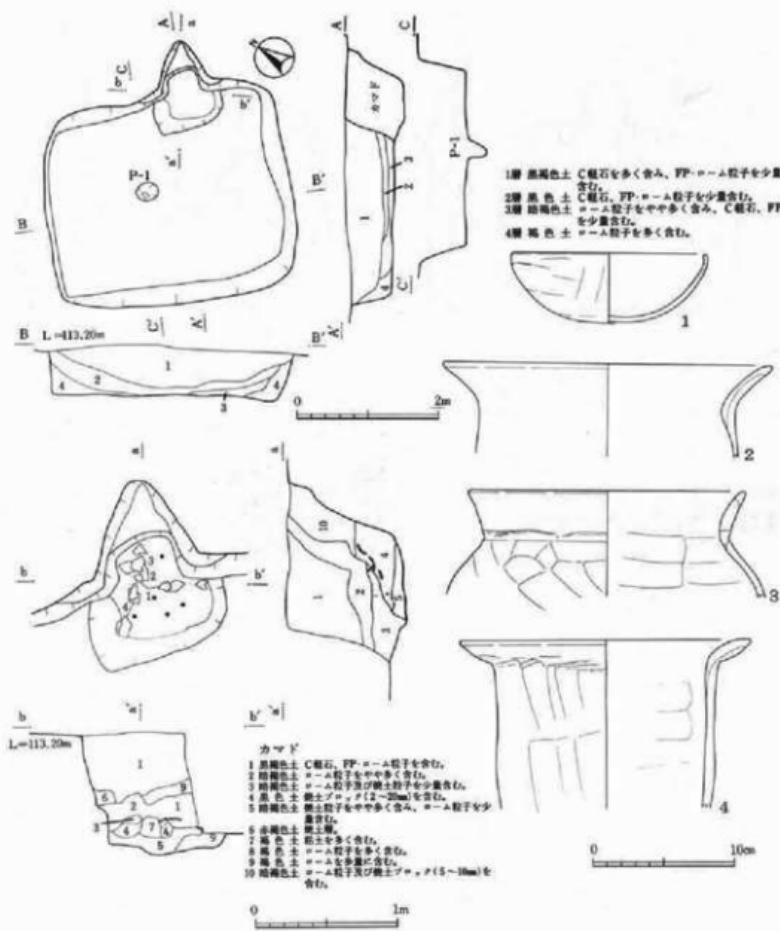
31号住居址 (第38図 図版6-1 表25)

本址は調査区中央X152・153、Y85・86グリッドで検出された。主軸方向はN-48°-Eである。規模は長軸3.5m、短軸3.0mで方形を呈する。壁高は70cm。床面は平坦で踏み固めが認められる。

ピットは中央に1基検出されている。深さは25cm。壁溝はない。

カマド 東壁中央で検出された。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは70cmである。

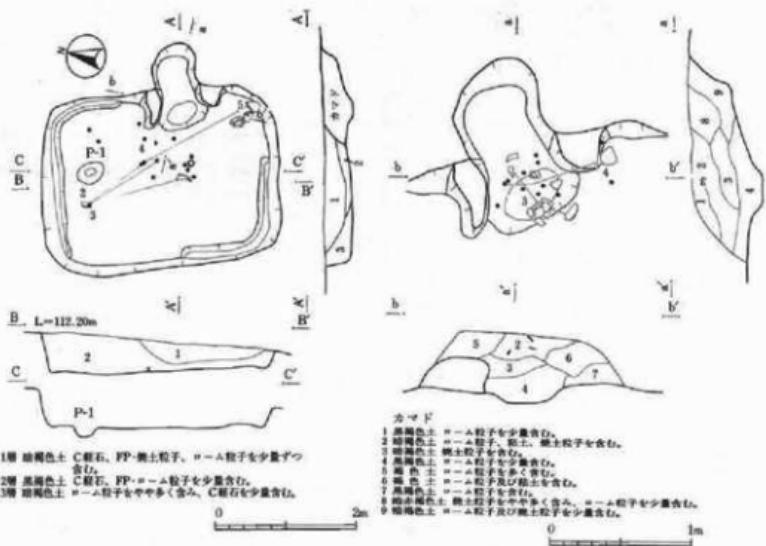
遺物はカマドから少量出土している。床着のものは少ない。



第38図 31号住居址・出土遺物

表25 31号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、或・整 形 の 特徴	胎 土	焼成	色 調	出土位置 参考
1	土器 环	1/2	口径 13.7 脚高 5.5 内面ナデ。	口径 丸底。半球形を呈する。口唇部肥厚する。外面へリ削り。	砂粒を少 量含む。	良好	暗褐色	カマド
2	土器 甌	口縁部 1/3	口径 23.3 残存高 6.5 X 不明。	口縁部外反する。器内厚い。内、外面ナデ。外面削方のナ ジ。	砂粒を少 量含む。	良好	暗褐色	カマド
3	土器 甌	口縁部 1/3	口径 19.4 残存高 7.5	口縁部外反する。削方球形を呈すると思われる。外面削方 のナジ。	砂粒を少 量含む。	良好	暗褐色	カマド
4	土器 甌	口縁部 1/4	口径 20.5 残存高 12.0	口縁部強く外反する。 外面削方のヘタ削り。内面ナデ。	砂粒、石 粒を食 入る。	良好	褐色	カマド



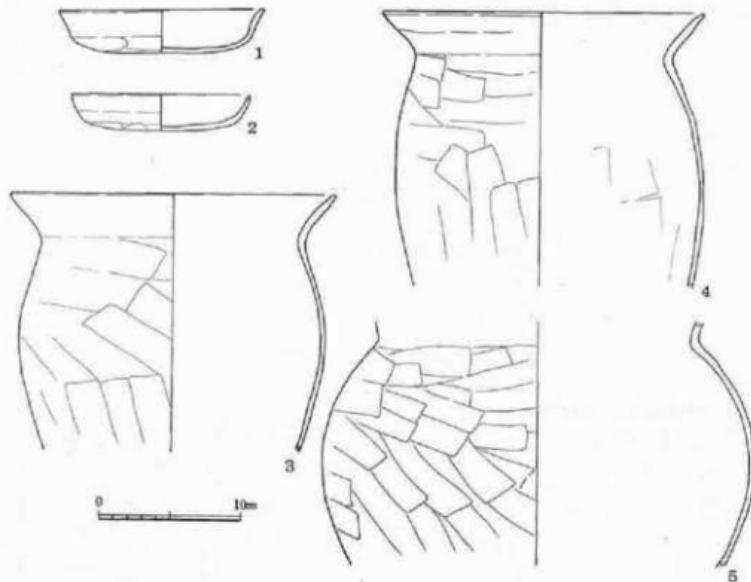
1号 黑褐色土 C粗石、PP・微細粒子。m・m粒子を少量ずつ含む。

2号 黑褐色土 C粗石、PP・m・m粒子を少量含む。

3号 黑褐色土 m・m粒子をやや多く含み、C粗石を少量含む。

0 2m

0 1m



第39図 32号住居址・出土遺物

32号住居址 (第39図 図版6-2 表26)

本址は調査区中央X147、Y89グリッドで検出された。主軸方向はN-77°-Eである。規模は長軸3.4m、短軸2.6mで方形を呈する。壁高は北側で55cm、南側で20cmである。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

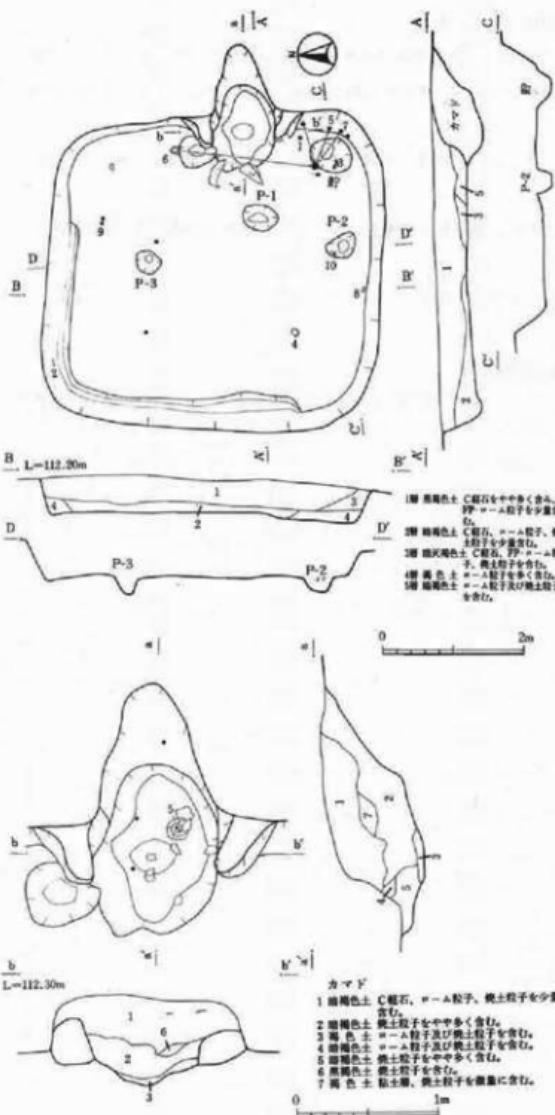
ピットは1基検出されているが浅い。壁溝は北側と東側の半分、南東側隅角で検出されている。

カマド 東壁中央で検出された。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは60cmで、半円形を呈する。

遺物はカマド及びその周辺にやや多く集まっている。

表26 32・33号住居址出土遺物観察表

番号	器種	残存度	汎量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 圖
1	土間 坪	4/5	口徑 3.0	ほぼ平底。口縁外反する。外面へラ削り。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	覆土
2	土間 坪	1/3	口徑 2.7	ほぼ平底。外面へラ削り。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	床着
3	土間 坪	上半部 1/2	口徑 18.3	口縁部「く」の字状に外反する。器内や薄い。外面胴上部 中腹、斜方向へラ削り。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	カマド
4	土間 坪	上半部 1/3	口徑 19.5	口縁部「く」の字状に外反する。外面胴上部斜方向のへラ削 り。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	カマド
5	土間 坪	胴部 1/3 最大径 30.8	口徑 17.3	蝶形の胴部。最大径は胴部にある。外面へラ削り。内面丁 寧なナゲ。	緻密	良好	褐色	床着
1	土間 坪	完形	口徑 3.6	ほぼ平底。口縁底弱い後を持ち、外反する。外面へラ削 り。内面ナゲ。	石粒を含 む。	良好	褐色	床着
2	土間 坪	完形	口徑 7.6	ほぼ平底。口縁底弱い後を持ち、外反する。外面へラ削 り。内面ナゲ。	石粒を含 む。	良好	褐色	床着
3	須恵 坪	ほぼ完形	口徑 7.2	口底平底。口縁底弱い後を持ち、外反する。外面へラ削 り。内面ナゲ。	石粒を少 量含む。	良好	褐色	床着
4	須恵 坪	1/3	残存高 6.2	平底。口縁部外反。口縁部切込調査。	石粒を少 量含む。	良好	灰色	床着
5	土間 台付坪	ほぼ完形	口徑 10.2	底膨らみより、口縁部ゆるく外反する。脚部「く」字状に広 がる。器内や薄い。外面へラ削り。内面ナゲ。	砂粒を含 む。	良好	褐色	カマド 床着
6	土間 坪	口縁部	15.4	口縁部「く」の字状に外反する。器内薄い。外面胴上部横方 向へラ削り。内面ナゲ。	緻密	良好	褐色	床着
7	土間 坪	2/3	口徑 4.6	口縁部「く」の字状に外反する。器内や薄い。底盤すぼま る。外面胴上部横方向の、中、下部強、斜方向のへラ削 り。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	床着
8	石製品 砥石	完形	長さ 2.5	4面に使用痕。内溝している。	緻密岩			床着
9	鉄製品 不明	先端欠	残存長 7.9	茎部のみ。鏽であろう。				床着
10	鉄製品 刀子	刀部欠	残存高 5.9	刀部のほとんどが欠損している。				床着
11	鉄製品 刀子	先端欠	残存長 10.2	先刃と茎部欠。				覆土
12	鉄製品 不明	基部のみ	残存長 4.5	基部であろう。				覆土



33号住居址

(第40・41図)

図版3・18 表26

本址は調査区中央X

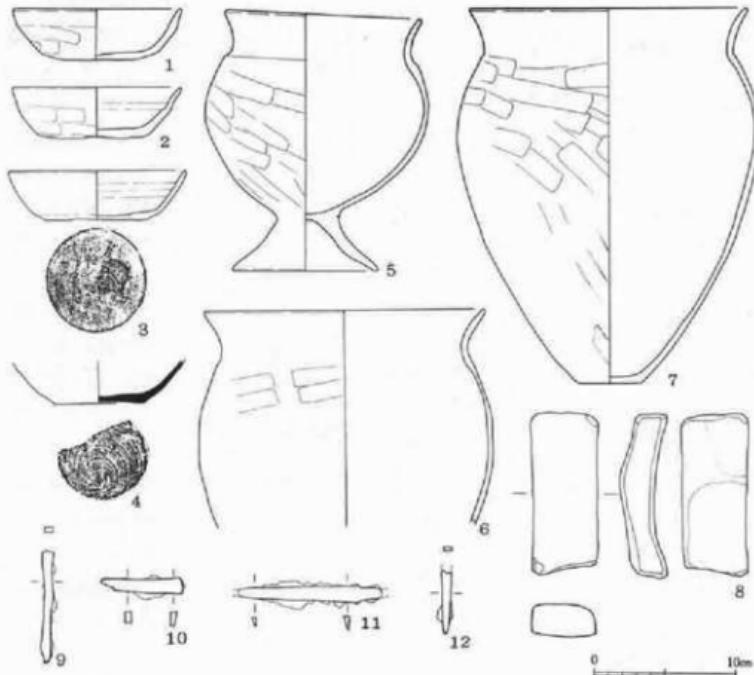
143・144、Y87・88グリッドで検出された。主軸方向はN-93°-Eである。規模は長軸4.8m、短軸4.5mで方形を呈する。壁高は40cm。床面は中央付近にやや踏み固めが認められる。

ピットは4基検出されているが、いずれも20cm前後である。南東壁には貯藏穴がある。壁溝は北側と西側に認められる。

カマド 東壁中央に位置する。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは100cmである。又カマドの手前には長方形の石が検出されており、カマド材と考えられる。

遺物は覆土中に多く、床着遺物は少ない。

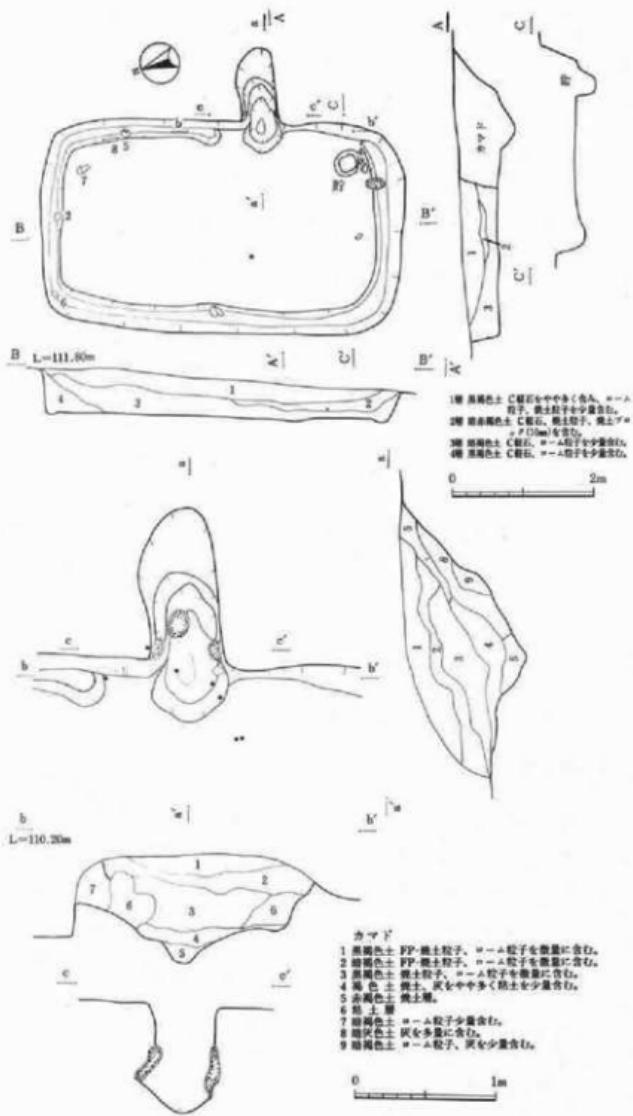
第40図 33号住居址



第41図 33号住居址出土遺物

表27 35号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	底量(cm)	器形・成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 参考
1	土師 环	ほぼ完	口径 器高 3.4	平底ざみの丸底。口縁部弱い破壊部も外反する。外面へラ削り。内面ナ ナフ。指圧痕。	緻密	良好	褐褐色	床着
2	土師 环	1/2	口径 器高 3.1	平底ざみの丸底。口縁部外反する。外面へラ削り。内面ナ ナフ。指圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	床着
3	土師 环	2/3	口径 器高 2.3	ほぼ平底。外面へラ削り。内面ナナフ。	砂粒を含 む。	やや 不良	褐色	床着
4	瓶底 环	2/3	口径 器高 底径 4.0 7.6	平底。口縁部外反する。ミクロ整形。底部回転糸切り後、 周縁部回転へラ削り。	赤色粘物 含む。	不良	黒褐色	床着
5	瓶底 环	完形	口径 器高 底径 3.3 7.1	平底。口縁部直線的に外反する。ミクロ整形。底部回転へ テ切り、周縁部回転へラ削り。内面底底ミクロ底。	石粒を少 量含む。	良好	灰色	床着
6	瓶底 环	4/5	口径 器高 底径 4.0 7.4	平底。口縁部外反する。ミクロ整形。底辺切り離し技法不 明。回転へラ削り調整。	石粒を含 む。	良好	褐褐色	床着
7	土師 环	上半部	口径 器高 15.0	口縁部「く」の字状に外反する。外面胴上部横方、中腹斜方	石粒を少 量含む。			
8	鉄製品 鋸	完形	全長 20.9	刃部内凹する。柄部直角に折れ曲がる。				床着
9	鉄製品 不明	先端欠損	残存長 13.1	基部のみ。錐であろう。				覆土



35号住居址

(第42図 図版)

6-4-18-23

表27)

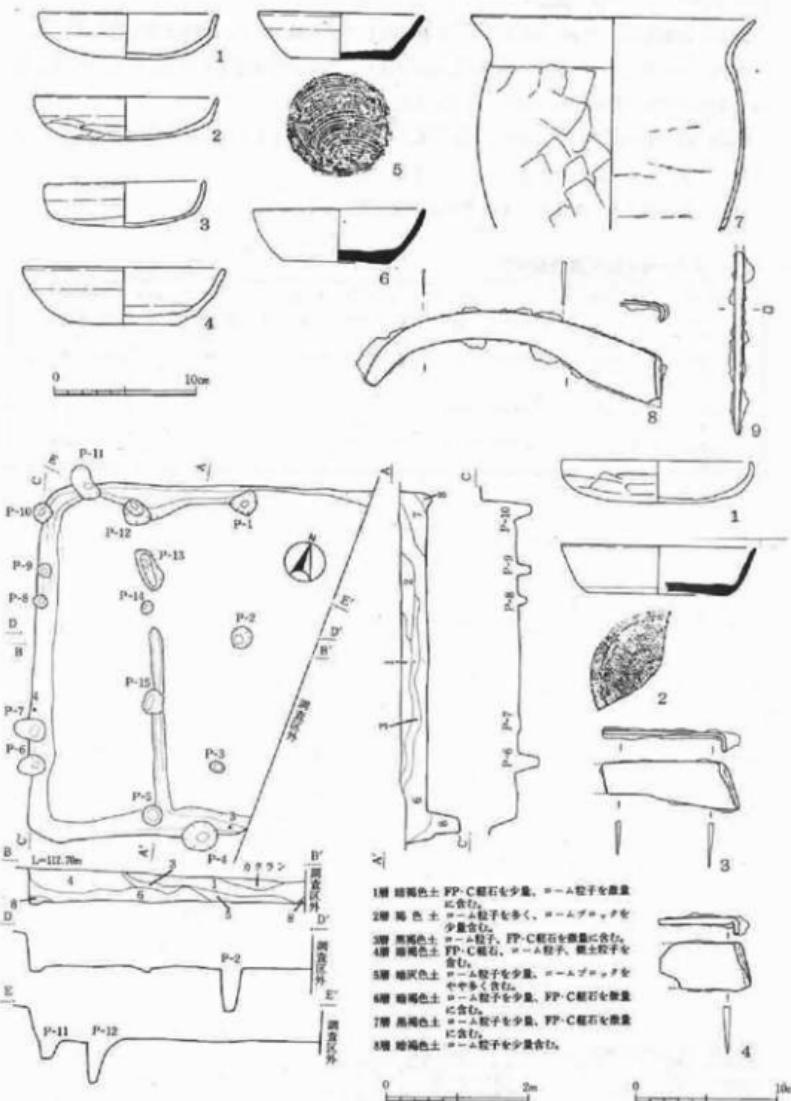
本址は調査区中央西寄り、X140、Y86・87グリッドで検出された。主軸方向はN-114°-Eである。規模は長軸5.1m、短軸2.9mで横長長方形を呈する。壁高は250cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東側壁際には貯蔵穴が存在する。ピットではなく、壁溝はカマド付近を除いて全周する。

カマド 東壁中央や南寄りに位置する。右袖には石が利用されている。壁外への掘り込みは110cmである。

遺物は覆土中に細片が多く集まり、床着遺物は少ない。

第42図 35号住居址



第43図 35号住居址出土遺物、36号住居址・出土遺物

36号住居址 (第43図 図版6-4・18・23 表28)

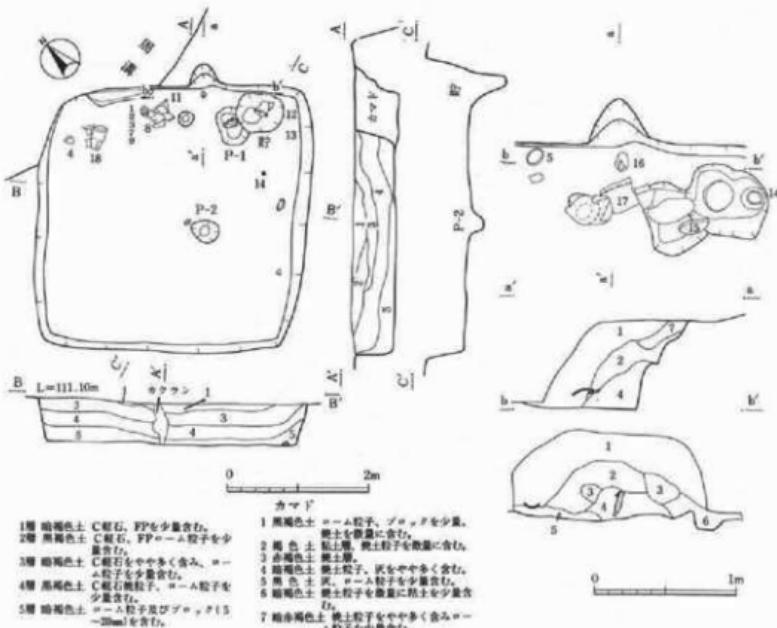
調査区東側X159、Y89・90グリッドで検出された。東側の一部が調査区外となっている。主軸方向は不明である。規模は西側で5.0mを計り、方形を呈するものと思われる。壁高は50cm。床面は平坦で踏み固めは全体に認められる。

壁際には10基の壁柱穴が存在し、他に5基のピットが検出されている。壁溝は調査区内では北側の一部を除いて認められる。カマドは不明である。

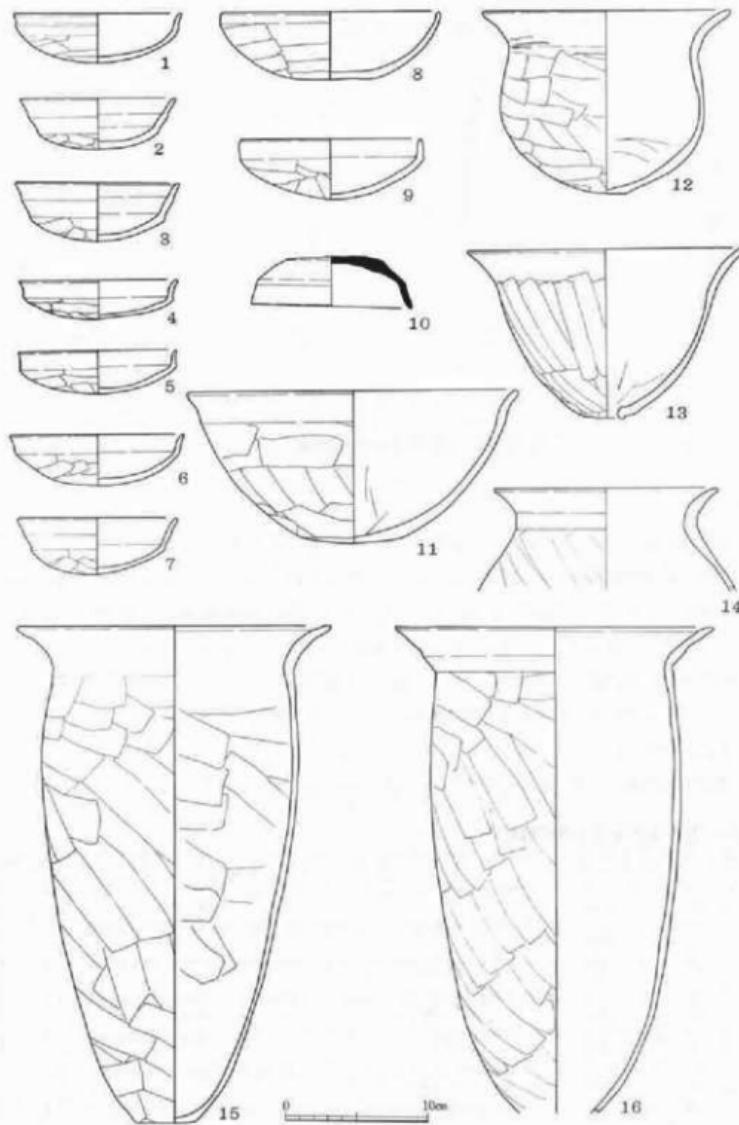
遺物は覆土中に多く集まり、床着遺物は少ない。

表28 36号住居址出土遺物観察表

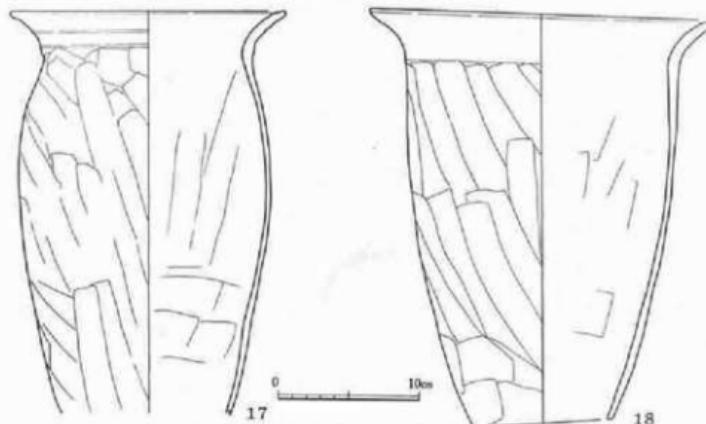
番号	部 位	遺存状	法 量 (cm)	形 态、成・整 形 の 特 徴	胎 土	施 施	色 調	出土位置
1	土瓶 环	1/2 口径 脚高	13.4 3.0	ほぼ平底。口縁部分内側に立ち上がり直立する。外面 ヘタ崩り。内面ナメ、指圧印。	砂粒を少 量含む。	良好	暗褐色	覆土
2	酒器 杯	1/3 口径 脚高 底径	13.7 3.4 9.8	口縁部外反。口縁部膨らみ、底部回転ヘタ削り。	砂質	良好	灰褐色	覆土
3	鉄製品 鍵	刃部欠 残存長	9.7	柄部直角に折れ曲がる。				床着
4	鉄製品 鍵	刃部欠 残存長	6.3	柄部直角に折れ曲がる。				床着



第44図 37号住居址



第45圖 37號住居址出土遺物（1）



第46図 37号住居址出土遺物(2)

37号住居址 (第44・45・46図 図版6-6・18・19 表29)

本址は調査区東側X159、Y93・94グリッドで検出された。北側の一部が古墳の周溝と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN-45°-Eである。規模は長軸3.8m、短軸3.7で、ほぼ正方形を呈する。壁高は60cm。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東壁際には貯蔵穴が存在する。壁溝は検出されなかった。

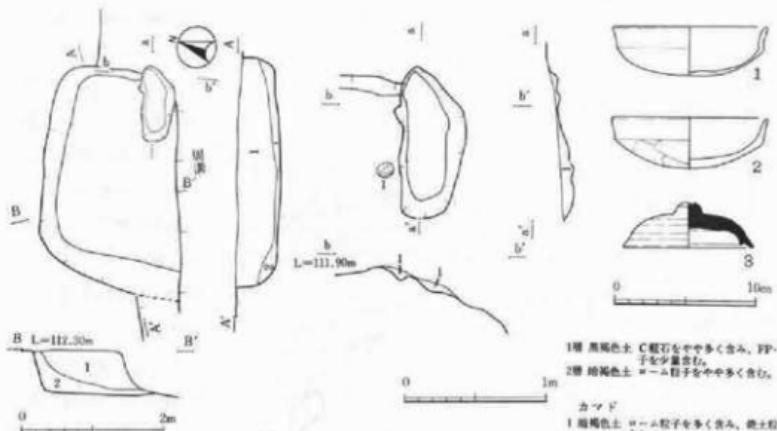
カマド 東壁中央に位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みはほとんどなく、急激に立ち上がる。

遺物は、貯蔵穴・カマド付近を中心に、完形の杯・瓶・甕が出土している。

表29 37号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	径高 径高	断形・成形・形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土瓶 甕	完形	11.8 3.5	口縁部を持ち外反ぎみに立ち上げる。外面へテ割り。内面ナガ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	床着
2	土瓶 甕	完形	11.0 3.5	口縁部二段の縫を持ち外反する。外面へテ割り。内面ナ	石粒を含 む。	良好	褐褐色	床着
3	土瓶 甕	完形	11.6 4.2	口縁部二段の縫を持ち外反する。外面へテ割り。内面ナ	石粒を含 む。	良好	褐褐色	床着
4	土瓶 甕	4/5	11.2 2.7	口縁部を持ち直立ぎみに立ち上がり、口唇部外反する。外面へテ割り。内面ナガ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	床着
5	土瓶 甕	ほぼ完形	11.2 3.0	口縁部を持ち直立し、口唇部外反ぎみになる。外面へテ 割り。内面ナガ。	無	良好	褐褐色	床着
6	土瓶 甕	ほぼ完形	12.2 3.5	口縁部を持ち直立ぎみに立ち上がり、口唇部外反する。外 面へテ割り。内面ナガ。	無	良好	褐褐色	壁土
7	土瓶 甕	ほぼ完形	11.2 4.0	口縁部二段の縫を持ち外反する。外面へテ割り。内面ナ ガ。	石粒を多 く含む。	良好	褐褐色	床着
8	土瓶 甕	4/5	15.4 4.8	口縁部内湾ぎみに立ち上がり、口唇部直立する。外面へテ 割り。内面ナガ。	石粒を含 む。	良好	褐褐色	床着

番号	器種	遺存状	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 参考
9	土器 环	口徑定形	口径 器高 4.8 4.4	口縁部破を持ち直立する。外面へラ削り。内面ナダ	細密	良好	褐色	床着
10	直底 盆	口徑定形	口径 器高 3.5 3.5	天井部と口縁部の窪いに横をもつ。天井の中央部回転ヘラ削り	石粒少 量含む	良好	灰色	覆土
11	土器 鉢	4/5	口径 器高 18.8	口縁部外反する。外面上部横方向の中凹部、下部横方向のへラ削り。内面ナダ、内面底部窪方向のへラ調整。	砂粒少 や多く含 む。	良好	灰褐色	床着
12	土器 便	4/5	口径 器高 12.9	丸底。口縁部強く外反する。外面横方向のへラ削り。内面ナダ、底部へラ削り。	砂粒少 含む。	良好	褐色	床着
13	土器 瓶	口徑定形	口径 器高 12.0	平底。瓶形を呈する。孔径 2 cm。外面腹方向のへラ削り。内面ナダ、底部へラ削り。	砂粒・石 粒を含 む。	良好	褐色	床着
14	土器 便		口径 残存高 7.2	口縁部外反する。外面腹方向のへラ削り。内面ナダ。	石粒を含 む。	良好	褐色	カマド
15	土器 長柄便	口徑定形	口径 器高 4.2	口縁部外反する。底面すぼまる。外面腹上部横方向の、中 部斜、腹方向のへラ削り。内面へラ削りとナダ。	石粒多 く含む。	良好	褐色	カマド
16	土器 長柄便	底部欠	口径 残存高 34.7	口縁部外反する。外面腹上部横方向、底の部分斜、腹方向 のへラ削り。	砂粒を含 む。	良好	褐色	カマド
17	土器 長柄便	底部欠	口径 残存高 28.5	口縁部外反する。底部ケズがありやしめる。外面腹部 付近横方向の、他は腹方向のへラ削り。内面ケズりとナ ダ。	砂粒・石 粒を多く 含む。	良好	褐色 外表面二次 焼成色	カマド
18	土器 瓶	一部欠	口径 器高 29.1	平底。瓶形の孔径 9.8 cm。口縁部外反する。外面腹方向の、 底部付近横方向のへラ削り。内面へラ削りとナダ。	砂粒・石 粒を少 量含む。	良好	褐色	床着



第 47 図 38号住居址・出土遺物

表30 38号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存状	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 参考
1	土器 环	口徑定形	口径 器高 3.6 3.6	丸底。口縁部持ち、外反する。外面へラ削り。内面ナ ダ。	砂粒少 量含む。	良好	赤褐色	床着
2	土器 环	3/4	口径 器高 3.6	11.0 丸底。口縁部持ち、外反する。外面へラ削り。内面ナ ダ。	砂粒少 量含む。	良好	褐色	床着
3	直底 盆	一部欠	口径 残存高 3.2	小さなつまみ。かえりを有する。クロ形態。天井部中央 回転へラ削り。	石粒少 量含む。	良好	灰褐色	覆土

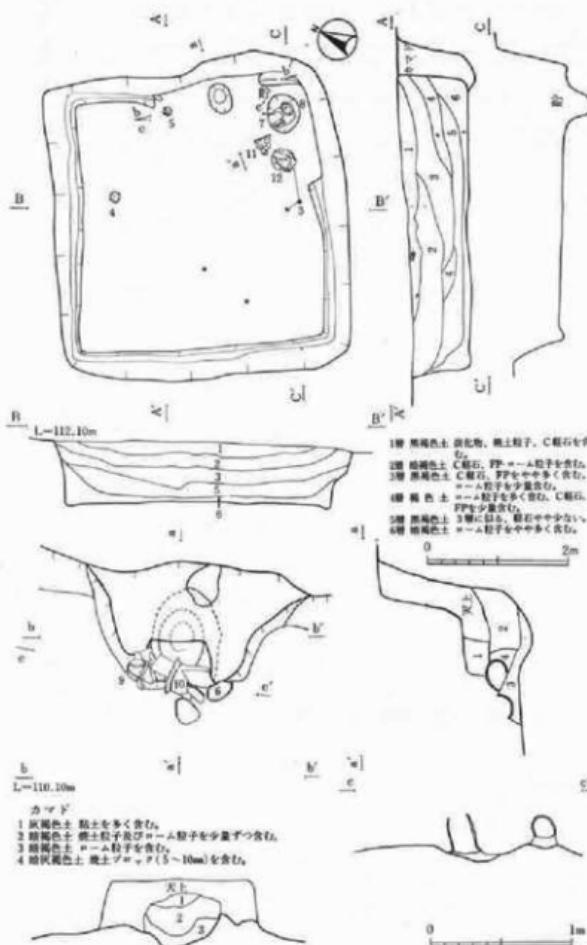
38号住居址 (第47図 圖版6-7・19 表30)

本址は調査区東側X158・159、Y91・92グリッドで検出された。南側で古墳の周溝と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN-48°-Eである。規模は不明であるが、東西方向で3.2mで方形を呈すると思われる。壁高は60cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは軟弱である。

ピット・壁溝等は検出されていない。

カマド 東壁中央に長椭円形の掘り込みと、わずかな焼土が認められた。

遺物はカマド付近からほぼ完形の环が出土しているが、全体的に少ない。



39号住居址 (第48

~50図 圖版6-8

・19・20 表31)

本址は調査区東側X

154・155・156、Y92

・93グリッドで検出さ
れた。主軸方向はN-
63°-Eである。規模
は長軸4.4m、短軸4.2
mで方形を呈する。壁
高は90cm。床面は西側
から東側へいくぶん傾
斜しており、踏み固め
が認められる。

南東側壁際には貯藏
穴が検出されている。

壁溝は南東側を除いて

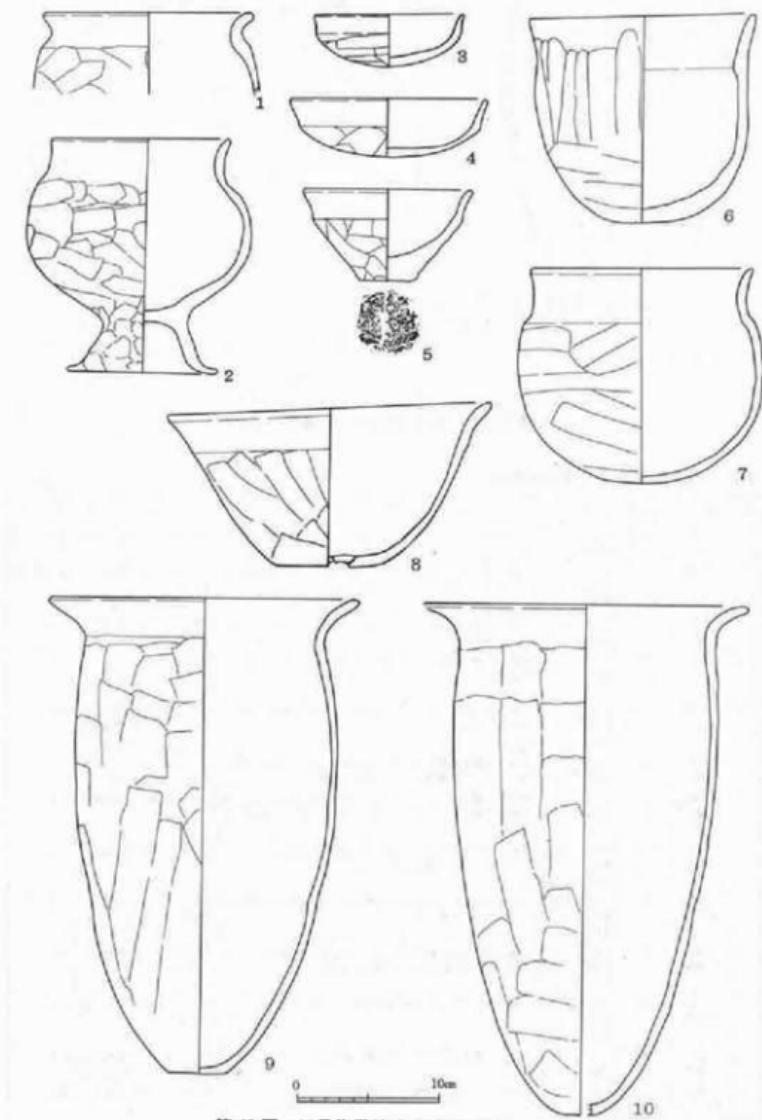
認められる。

カマド 東壁中央や
や南寄りで検出され
た。袖は粘土で構築さ
れ、先端に甕を利用し
ている。天井は一部残
っており、壁外への掘
り込みはほとんどない。

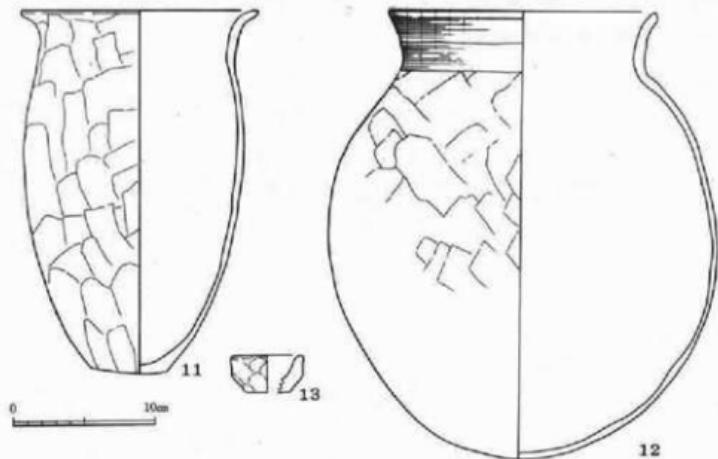
本址の覆土最上層に
は焼土と共に大量の投
げ込みと思われる遺物

第48図 39号住居址

が検出されている。他の覆土中からはほとんど遺物は出土しておらず、床着・貯藏穴・カマドから完形の杯・甕・瓶等が出土している。



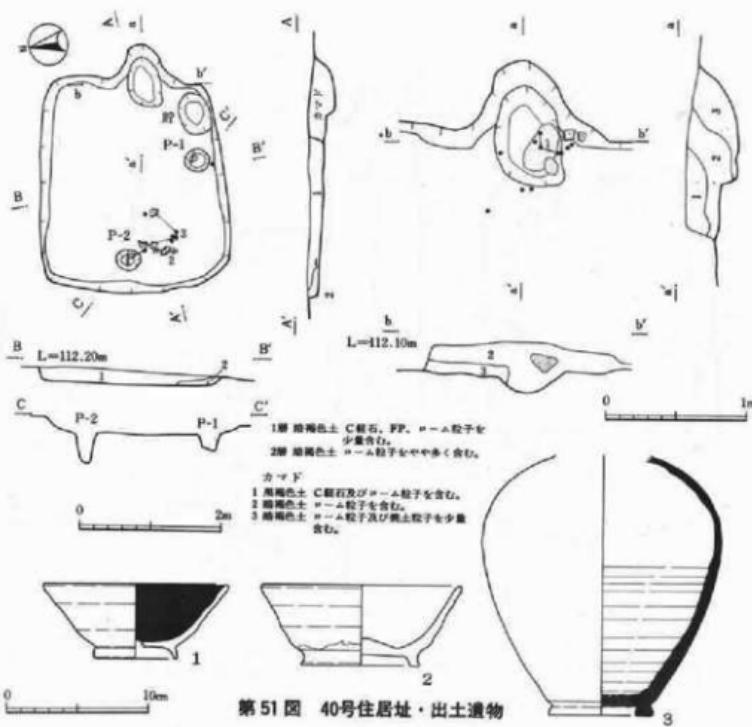
第49図 39号住居址出土遺物(1)



第50図 39号住居址出土遺物(2)

表31 39号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量(cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 層中。
1	土器 裏	口縁部 既存高	14.4 5.5	口縁部斜く、「く」の字状に外反する。外面へラ削り。内面ナゲ。	砂粒を多く含む。	良好	暗赤褐色	
2	台付壺	2/3	口径 底径 既存高	12.5 16.8 10.6	口縁部直立する。脚部「ハ」の字状に開く。外面部斜方方向へラ削り。脚部丹全なへラ削り。内面ナゲ。	石粒を少 量含む。	良好 褐色	覆土第1層 中。
3	土器 环	1/3	口径 既存高	10.4 3.7	丸底。口縁部環を持ち、直立ぎみに外反する。外面へラ削り。内面ナゲ。	石粒を少 量含む。	良好 橙褐色	床着
4	土器 环	完形	口径 既存高	13.8 4.3	丸底。口縁部環を持ち直線的に外反する。外面へラ削り。内面ナゲ。	砂粒・石 粒を含む。	良好 にぶい褐色	床着
5	土器 鉢	2/3	口径 既存高 底径	11.8 6.5 3.8	口縁部環を持ち外反する。器内厚い。底部木葉底。外面へラ削り。内面ナゲ。	砂粒を多 く含む。	良好 褐色	床着
6	土器 環	完形	口径 既存高	15.9 14.8	丸底。口縁部直立ぎみに立ち、口唇部外反ぎみになる。外面上部斜方 向の、中、下部横方向のへラ削り。内面ナゲ。	石粒を多 く含む。	やや 不良	にぶい褐色 カマド色
7	土器 裏	完形	口径 既存高	15.7 15.2	丸底。口縁部直立ぎみに立ち、口唇部外反ぎみになる。外 面上部斜方方向の、中、下部斜方方向のへラ削り。内面丁寧なナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好 暗灰褐色	床着
8	土器 鉢	完形	口径 既存高 底径	22.9 11.2 3.0	鉢形を呈する。孔 3×3.5 cmの梢円形。外面部、斜方向の へラ削り。内面丁寧なナゲ。	石粒を含 む。	良好 橙褐色	床着
9	土器 共脚盤	一部欠	口径 既存高 底径	22.1 33.9 4.2	口縁部外反する。外面部上部横方向の、中部・下部斜方向の へラ削り。内面ナゲ。	砂粒・石 粒を含む。	良好 橙褐色	床着、カマ ド
10	土器 共脚盤	4/5	口径 既存高 底径	23.2 36.3 2.3	口縁部外反する。底部すぼまる。外面部上部斜方方向の、中 部・下部斜・一部横方向のへラ削り。内面ナゲ。	石粒を多 く含む。	橙褐色	床着、カマ ド
11	土器 共脚盤	一部欠	口径 既存高 底径	16.6 25.9 5.4	口縁部外反する。外面部斜方方向のへラ削り。内面ナゲ。	砂粒・石 粒を多く含む。	良好 にぶい褐色	床着
12	土器 裏	一部欠	口径 既存高	19.1 81.9	丸底。口縁部外反する。外面部、斜方向のへラ削り。内面 ナゲ。	石粒を少 量含む。	良好 赤褐色、 外面部黒斑	床着
13	土製品 手すくね	1/3	口径 既存高	4.5 3.1	器内厚い。外面一部削り。内外面共にナゲ。	砂粒を含 む。	良好 橙褐色	覆土



第51図 40号住居址・出土遺物

40号住居址 (第51図 図版7-1-20 表32)

本址は調査区東側X154・155、Y91・92グリッドで検出された。主軸方向はN-104°-Eである。規模は長軸3.1m、短軸2.7mで方形を呈する。壁高は20cm。床面は平坦で踏み固めは軟弱である。

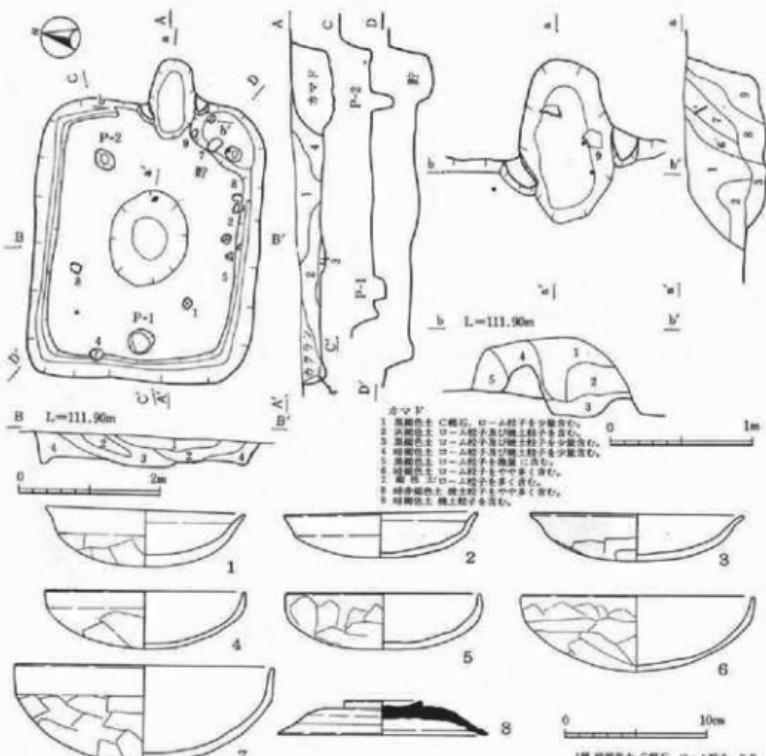
ピットは2基検出されている。南東側壁際には貯蔵穴がある。壁溝はない。

カマド 東壁中央やや南寄りで検出された。袖は検出されていない。壁外への掘り込みは50cmで、なだらかに立ち上がる。

遺物は床着で須恵器の長頸壺が出土しているが、他はほとんど出土していない。

表32 40号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、或・鑑形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土鍋 壺	1/3	口径 13.0 脚高 5.3 底径 5.8	高台付。八の字状に開く。口縁部外反する。底部高台貼付後、へら削り。須恵器の模倣。内面：ガヤとナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	外表面褐色 内黑	カマド 内無
2	土鍋 壺	1/2	口径 14.0 脚高 5.7 底径 8.4	高台付。厚く長方形。口縁部外反する。須恵器の模倣。内面：ナゲ。	石粒を含 む。	良好	深褐色	カマド
3	須恵 壺	破片欠	残高 18.5 底径 7.4	高台部太く粗い。長頸になると思われる。口クロ圆形。	石粒を少 量含む。	やや 不良	灰褐色	床着



第52図 41号住居址・出土遺物

表33 41号住居址出土遺物観察表

番号	器種	深程度	法量(cm)	器形・成・態形の特徴	胎土	焼度	色調	出土位置
1	土器 碗	ほぼ完形	口径 脚高 14.0 4.3	丸底。口縁部弱い梗を持ち外反する。外面へラ削り。内面 ナゲ。	砂粒を含む。	良好	褐褐色	床着
2	土器 碗	ほぼ完形	口径 脚高 13.6 3.3	丸底。口縁部後を持ち外反する。外面底部へラ削り。内面 ナゲ。	砂粒を少 量含む。	F.P. P.P.	褐色	床着
3	土器 碗	2/3	口径 脚高 14.8 3.5	丸底。口縁部強く外反する。外面へラ削り。内面丁寧なナ ゲ。	砂粒	良好	褐褐色	床着
4	土器 碗	完形	口径 脚高 14.2 4.2	丸底。口縁部内肉ぎみに立ち上がりやや外反する。外面へ ラ削り。内面ナゲ、粗面肌。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	床着
5	土器 碗	2/3	口径 脚高 13.8 4.0	丸底。口縁部内肉ぎみに立ち上がり直立する。外面へラ削 り。内面ナゲ、粗面肌。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	床着
6	土器 碗	2/3	口径 脚高 16.4 6.7	丸底。口縁部内肉ぎみに立ち上がりやや外反する。外面へ ラ削り。粗面肌。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	床着
7	土器 碗	2/3	口径 脚高 18.2 6.7	丸底。口縁部梗を持ち直立する。外面へラ削り。内面ナ ゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	床着
8	調理盤	ほぼ完形	口径 脚高 14.8 2.5	扁平。大型のつまみ。弱いかきりを持つ。ヨコ=整形。天 井の中央部圓弧へラ削り。	石粒を少 量含む。	良好	灰白色	床着

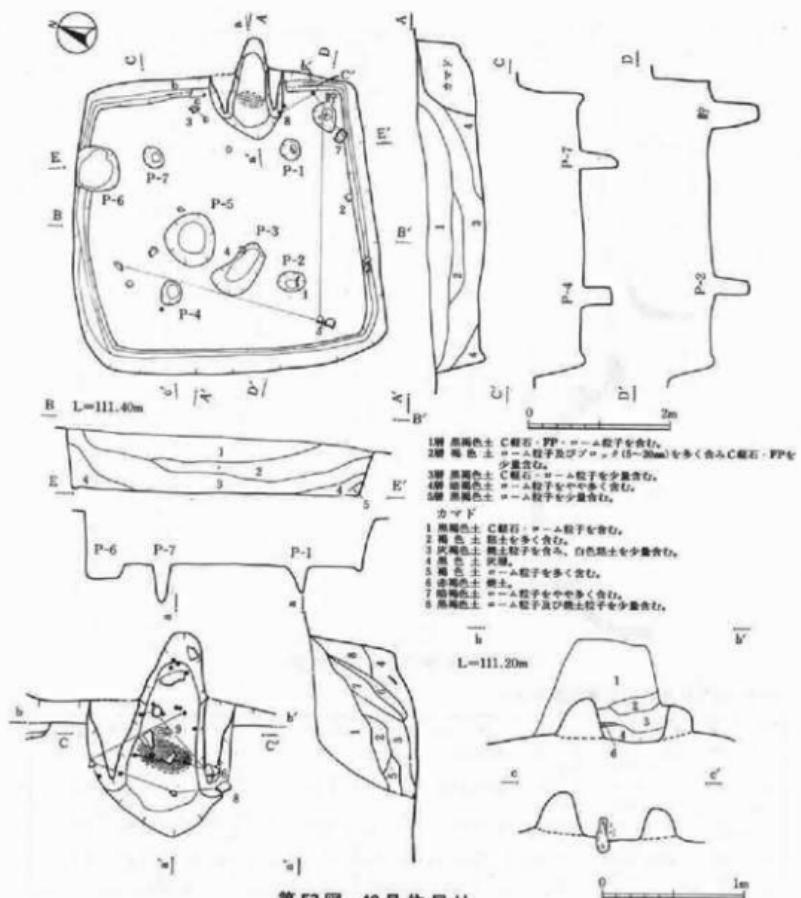
41号住居址 (第52図 圖版7-2-20 表33)

本址は調査区中央X147・148、Y90グリッドで検出された。主軸方向はN-81°-Eである。規模は長軸4.0m、短軸3.2mで方形を呈する。壁高は35cm。床面は平坦で、踏み固めは弱い。

ピットは2基検出されている。南東側壁際には貯藏穴があり、中央には浅い皿状の掘り込みがある。壁溝はカマド、貯藏穴付近を除いて認められる。

カマド 東壁中央に位置する。袖は褐色の粘土で構築されている。壁外への掘り込みは60cmで、急激に立ち上がる。

遺物は貯藏穴及び南側に集中する傾向がある。



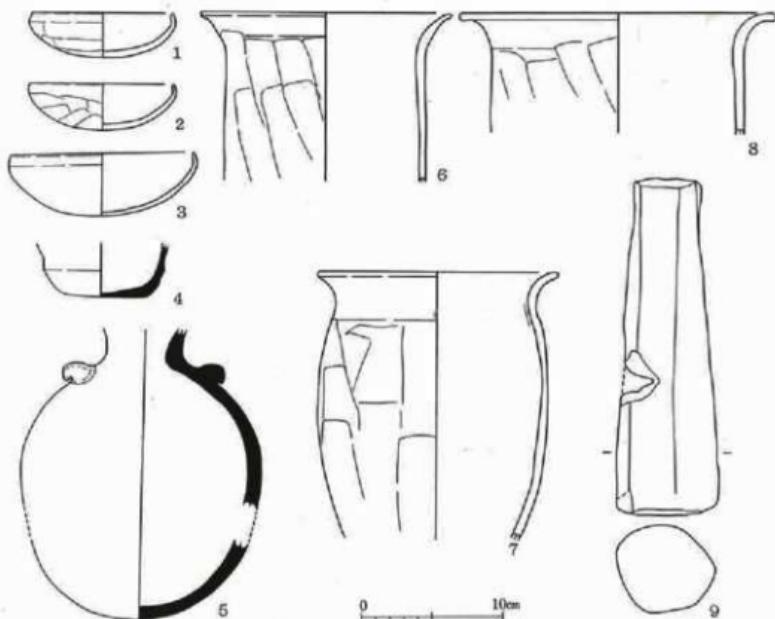
第53図 42号住居址

42号住居址 (第54図 図版7-3・20 表34)

本址は調査区中央X144・145、Y91・92グリッドで検出された。主軸方向はN-66°-Eで、規模は1辺4.2mで正方形を呈する。壁高は75cm。床面は平坦で全体に踏み固めが認めている。

東側壁際には貯蔵穴があり、主柱穴4基が検出されている。壁溝はカマド付近を除いて認められる。

カマド 東壁中央南寄りで検出された。袖は基部が地山のローム、先端部がロームと粘土の混合土で構築されている。支脚は土製品である。壁外への掘り込みは40cmで急激に立ちあがる。遺物は覆土中に細片が多く、床着遺物は少ない。



第54図 42号住居址出土遺物

表34 42号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 参考
1	土器 环	4/5	口径 9.8 壁高 3.2	丸底。口縁部内凹する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒少量 含む。	良好	赤褐色。 外面黒漆	柱穴内
2	土器 环	1/3	口径 9.9 壁高 3.3	丸底。口縁部内凹する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	微褐色。 外面黒漆	床着
3	土器 环	2/3	口径 12.6 壁高 4.3	丸底。口縁部内凹する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粉少 量含む。	良好	微褐色。	床着
4	瓦器 环	口縁部欠	残存高 3.7 底径 6.0	口縁部外反ざまに立ち上がると思われる。ロクロ型。外 底面ヘラ削り。	砂粒を含 む。	やや 不良	茶褐色。	床着

番号	器種	遺存度	底量 (cm)	器形、底、蓋形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考
5	重底 深腹	1/2	既存高 20.5	把手横状。最大径中央下部。口縁堅厚。一部自然物付着。	石粒を含む。 やや良好	灰褐色	灰褐色	東壁
6	土師 長柄甌	口縁部 1/2	口径 17.5 既存高 12.0	口縁部外反する。ふくらみのない側面。外面面白向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石粒を含む。 良好	褐色	カマド	
7	土師 長柄甌	底部欠	口径 16.8 既存高 18.8	底部やしりまし、口縁部外反する。胴部やふくらむ。外側削り方向のヘラ削り。内面ナデ。	石粒を含む。 良好	暗赤褐色	灰褐色	
8	土師 長柄甌	口縁部 1/2	口径 22.0 既存高 8.6	口縁部強く外反する。外面削り方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石粒を含む。 良好	褐色	カマド	
9	土製品 支撑	ほぼ完形	長さ 23.8 上面径 4.3	断面円形。円柱形。丁寧な作り。上面なめらか。	砂粒を含む。 良好	褐色	カマド支脚	

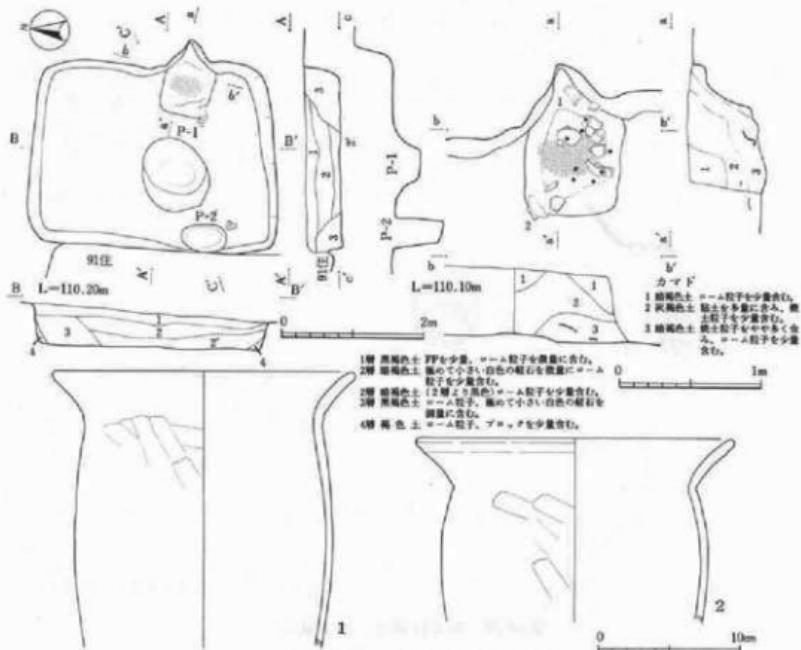
43号住居址 (第55図 国版7-4 表35)

本址は調査区東側X154、Y98・99グリッドで検出された。西側で一部91号住居址と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN-87°-Eである。規模は長軸3.6m、短軸2.6mで方形を呈する。壁高は55cm。床着は平坦で踏み固めは軟弱である。

ピットは2基検出されている。壁溝はない。

カマド 東壁中央やや南寄りで検出された。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは20cmと少なく、急激に立ち上がる。

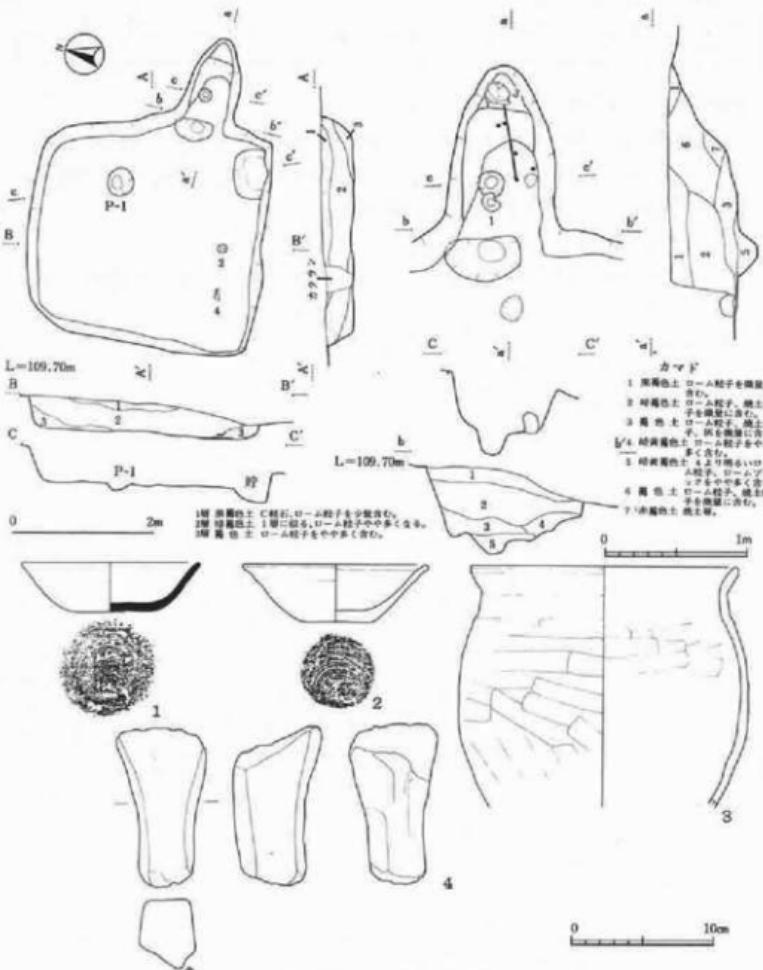
遺物は全体に少ないが、カマドからややまとまって出土している。



第55図 43号住居址・出土遺物

表35 43号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	参考
					口縁部	口径	残存高		
1	土器 長胴壺	1/4	21.0 19.7	口縁部外反する。肩部やふくらむ。外面斜方向へのラブリ。内面ナダ。	砂粒・葉 骨を含 Tr.	良好	褐褐色	床面	
2	土器 長胴壺	1/4	22.0 13.0	頂部ややしまり。口縁部外反する。外面斜、縱方向へのラブリ。内面ナダ。	砂粒・葉 骨を含 Tr.	良好	褐褐色	カマド	



第 56 図 44号住居址・出土遺物

44号住居址 (第56図 図版7-5・20・23 表36)

本址は調査区東側X154・155、Y99・100グリッドで検出された。主軸方向はN-87°-Eである。規模は長軸3.4m、短軸3.3mで方形を呈する。壁高は依存の良い北側で55cmを計る。床面はやや凹凸があり、踏み固めは弱い。

南東側壁際には貯蔵穴があり、他にピット1基が検出されている。

カマド 東壁中央やや南寄りで検出された。石組みのカマドであったと思われる。壁外への掘り込みは120cmで、なだらかに立ち上がる。

遺物は少量であるがカマド及び床着で完形に近い坏が検出されている。

表36 44号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (m)	器 形・成・整 形 の 特 徴	胎 土	模 塗	色 調	出土位置
1	環状 環	一部欠	口径 12.4 断高 3.5 底径 5.6	口縁部外反する。内クレセント。底部回転未切り未調整。 砂粒・骨 粉を含む。	良好	灰褐色	カマド	
2	瓦塵 环	完形	口径 13.0 断高 4.0 底径	口縁部外反する。内クレセント。底部回転未切り未調整。 石粒を少 量含む。	良好	灰褐色	床着	
3	土師 甕	口縁部 2/3	口径 18.8 残存高 17.2	強度しまり、口縁部外反する。外面部上部横方向のヘラ削 り。内面へラ削り、ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	灰褐色	カマド
4	石製品 瓦石		残存長 11.4	石質やや薄く、瓦紙として使用したと思われる。内面に復 用紙。	石材不明	灰褐色	床着	

45号住居址 (第57・58図 図版7-6・20 表37)

本址は調査区中央X145・146、Y94・95グリッドで検出された。主軸方向はN-68°-Eである。規模は長軸6.0m、短軸5.7mで方形を呈する。壁高は40cm。床面は平坦で踏み固めが認められる。

南東側壁際には貯蔵穴があり、深さ65cmから95cmの主柱穴4基が検出されている。又中央北寄りには深さ90cmの大形のピットが検出され、覆土中には炭化材を含んでいる。壁溝はカマド貯蔵穴付近を除いて認められる。

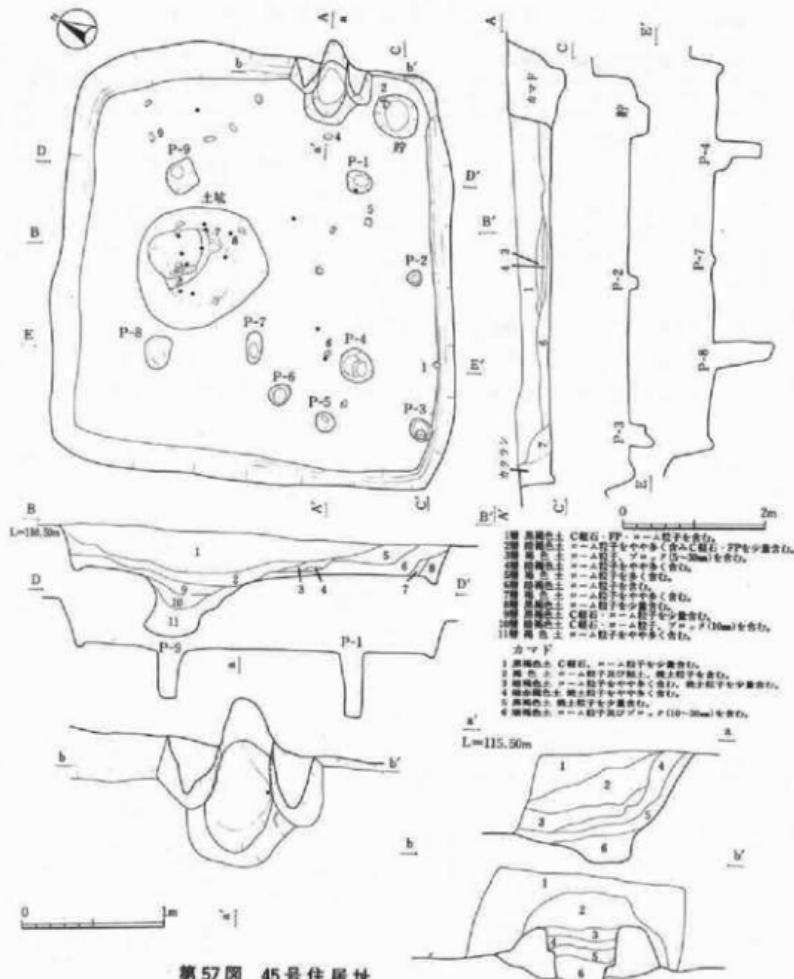
カマド 東壁中央やや南寄りで検出された。袖は粘土とロームの混合土である。壁外への掘り込みは30cmで急激に立ち上がる。

遺物は覆土中に細片が多く集まる。床着遺物は比較的少ないが、大形のピットからはややまとまって出土している。

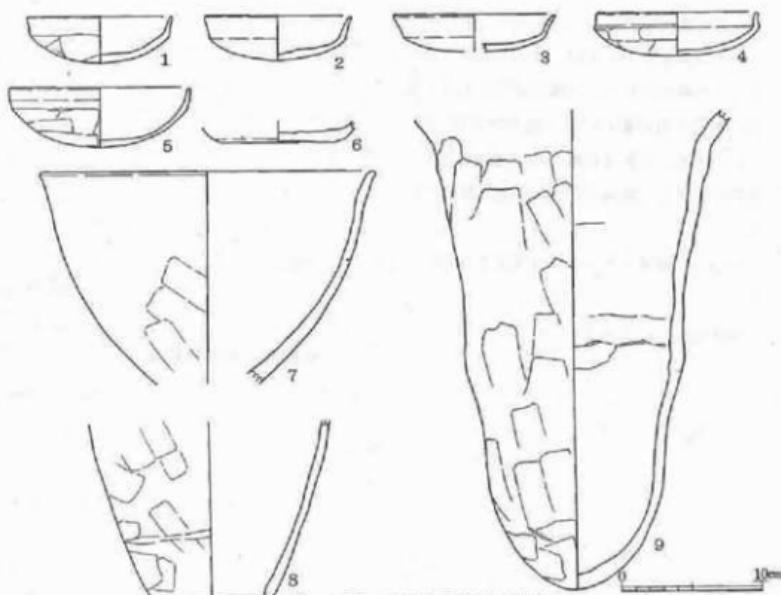
表37 45号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (m)	器 形・成・整 形 の 特 徴	胎 土	模 塗	色 調	出土位置
1	土師 甕	4/5	口径 10.1 断高 3.2	丸底。口縁部破を持ち、外反する。外面へラ削り。内面ナ ゲ有り。	石粒を少 量含む。	良好	灰褐色	床着
2	土師 甕	1/3	口径 10.2 断高 3.1	丸底。口縁部破を持ち外反する。外面へラ削り。内面ナ ゲ有り。	繊密	良好	灰褐色	貯蔵穴
3	土師 甕	1/6	口径 11.1 断高 2.6	丸底。口縁部破を持ち外反する。外面へラ削り。内面ナ ゲ有り。	石粒を少 量含む。	良好	灰褐色	床着
4	土師 甕	1/2	口径 11.2 断高 3.0	丸底。口縁部破を持ち直立する。外面へラ削り。内面ナ ゲ有り。	繊密	良好	灰褐色	床着
5	土師 甕	1/2	口径 12.6 断高 4.3	丸底。口縁部側・破を持ち、やや外反する。外面へラ削 り。内面ナゲ。	石粒を含 む。	良好	灰褐色	覆土下層

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
6	環底 杯	底部	残存高 1.5 底径 7.5	口アーチ型。底部切削へり削り。	石粒を少 量含む。	真好	灰褐色	壁上層
7	土瓶 鉢	1/4	口径 23.5 残存高 15.0	口縁部外反する。腹の可能性ある。外面へア削り。内面ナ ド。外面磨耗し、調整痕不明の部分多い。	石粒を多 く含む。	真好	褐色	住居址内土 坑
8	土瓶 鉢	1/3	残存高 12.5 底径 8.4	单孔。共脚を留すると思われる。外面へア削り。内面ナ ド。	石粒を含 む。	真好	褐色	住居址内土 坑
9	土瓶 長脚甌	1/2	残存高 33.9	丸底。口縁部外反する。胴中央部に輪状痕による段が認め られる。外周延方向へア削り。内面ナ ド。	石粒を多 く含む。	真好	赤褐色	壁上層



第57図 45号住居址



第58図 45号住居址出土遺物

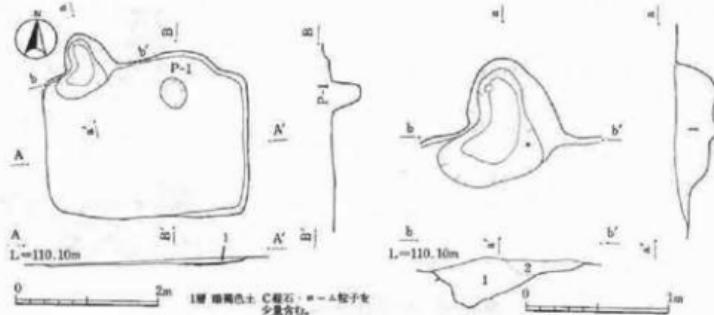
46号住居址（第59図 図版7-7）

本址は調査区中央X150・151、Y97・98グリッドで検出された。主軸方向はN-26°-Wである。規模は長軸2.8m、短軸2.3mで方形を呈する。壁高は最大で10cm、床面は軟弱である。

ピットは1基検出されている。壁溝はない。

カマド 北壁西寄りで検出された。焼土がわずかに分布するのみで、袖は検出されていない。壁外への掘り込みは25cmである。

遺物はほとんど出土していない。



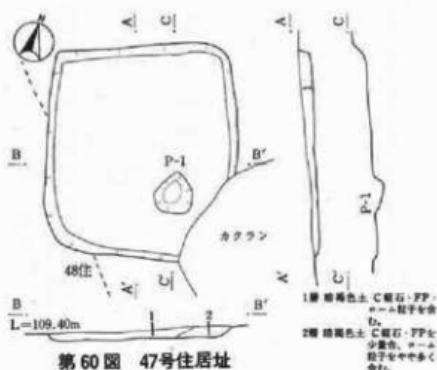
第59図 46号住居址

47号住居址 (第60図 圖版7-8)

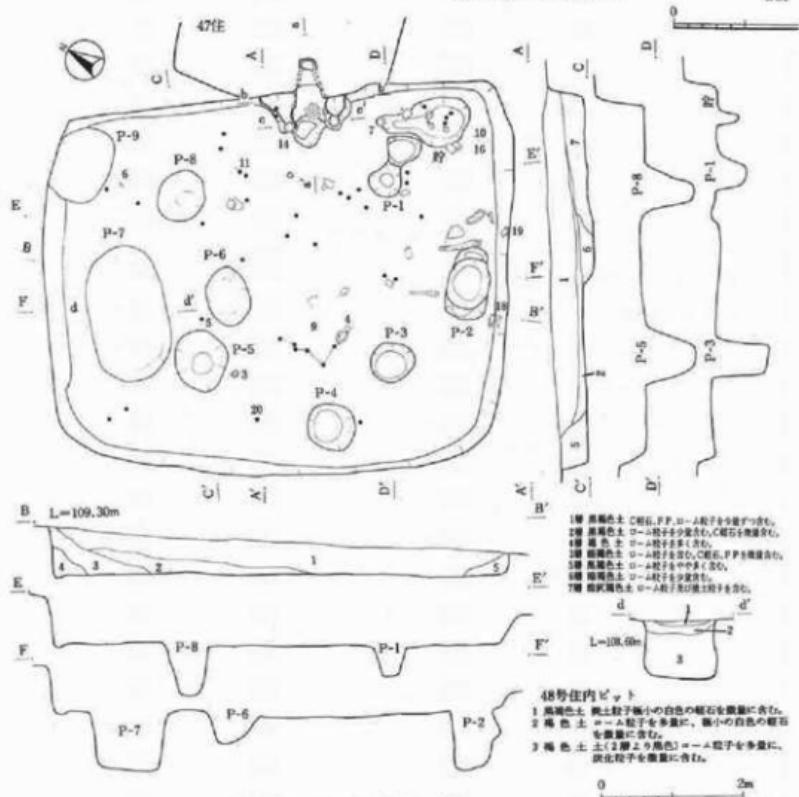
本址は調査区中央X147・148、Y98・99グリッドで検出された。西側で48号住居址と重複し本址の方が新しい。主軸方向はN-84°-Eである。規模は長軸3.0m、短軸2.7mで方形を呈する。壁高は15cm。床面は軟弱である。

ピット・壁溝・カマド等は検出されていない。

遺物はほとんど出土していない。



第60図 47号住居址



第61図 48号住居址 (1)

48号住居址 (第61~64図 図版8-1・21・23 表38)

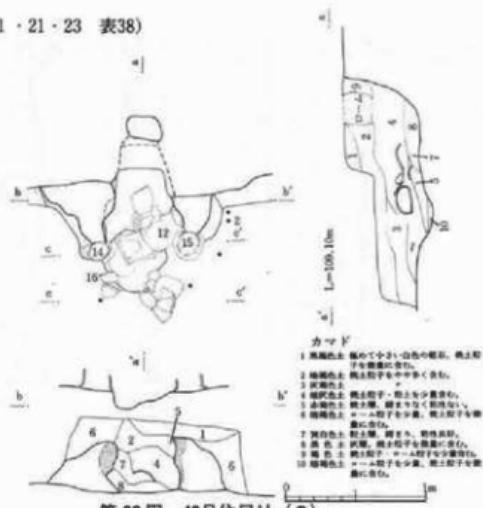
本址は調査区中央X146・147、Y98

・99グリッドで検出された。主軸方向はN-60°-Eである。規模は長軸6.5m、短軸5.4mで方形を呈する。壁高は65cm。床面は中央部がやや深くなり、踏み固めはやや認められる。

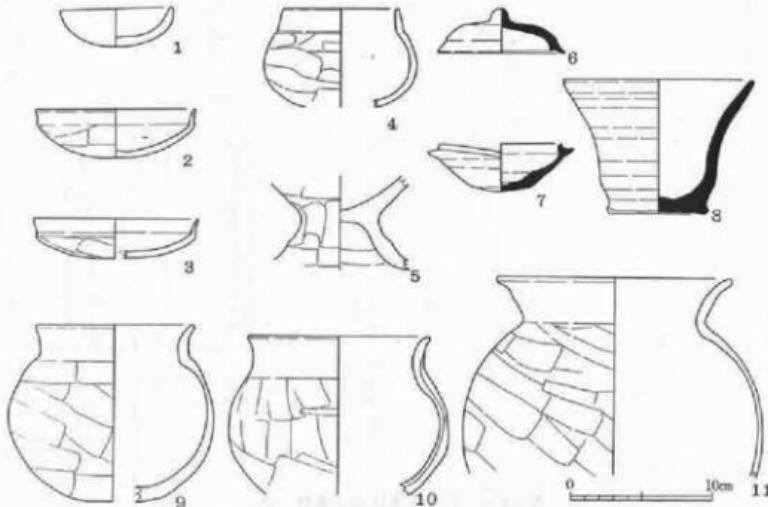
南東側壁際には貯蔵穴がある。ピットは主柱穴と思われる4基を含め9基検出され、他に北側に大型の椭円形の掘り込みが検出されている。壁溝は北側のみ認められる。

カマド 東壁中央やや南寄りで検出された。袖は粘土で構築され、先端に長胴甕が埋め込まれている。中央部には火床部が認められ、煙道部の天井は一部残っている。壁外への掘り込みは50cmで、急激に立ち上がっている。

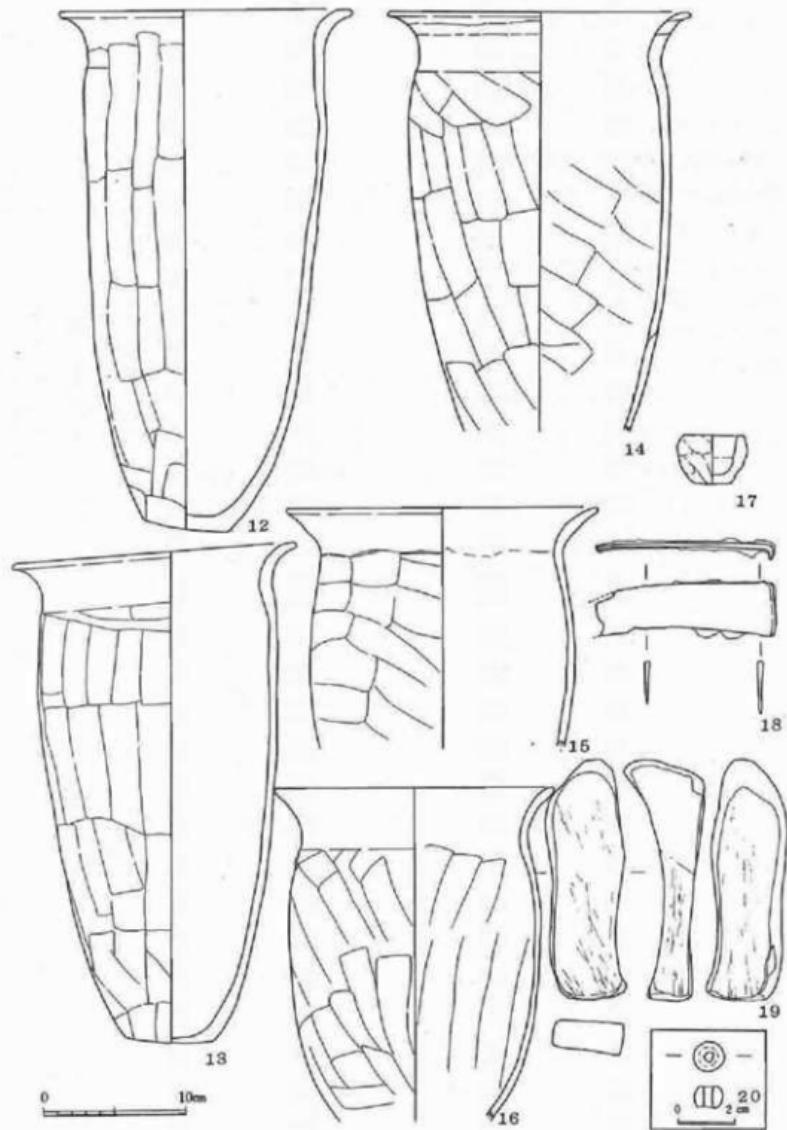
遺物は覆土中から多量の土器片が検出されている。床着・カマドからもやや多く出土し、玉製品も1点出土している。



第62図 48号住居址 (2)



第63図 48号住居址出土遺物 (1)



第64図 48号住居址出土遺物(2)

表38 48号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量(cm)	器形・成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 参考		
1	土器 环	1/2	口径 器高	7.7 2.6 ゲ。	底丸。口縁部内側がみに立ち上がり、直立する。内外面ナ ゲ。	石粒を少 量含む。	良好	褐色	柱穴内	
2	土器 环	1/4	口径 器高	11.0 3.4 ゲ。	丸底。口縁部縦を持ち直立する。外縁ヘラ削り。内面ナ ゲ。	石粒を少 量含む。	良好	褐褐色	カマド	
3	土器 环	1/3	口径 器高	11.5 2.8 ゲ。	丸底。口縁部縦を持ち直立する。外縁ヘラ削り。内面ナ ゲ。	無	良好	褐褐色	床着	
4	土器 環	1/3	口径 残存高	8.0 7.0 ゲ。	口縁部短かく内側がみになる。外縁横方向のヘラ削り。内 面ナゲ。	石粒を少 量含む。	良好	赤褐色	床着	
5	土器 高环	脚部 2/3	残存高	6.0 ゲ。	脚部への上部縦方向のヘラ削り。内面ナゲ。	石粒を含 む。	良好	褐色	床着	
6	瓦	完形	口径 器高	8.9 3.2 ゲ。	つまみ小さい。えりを有する。ヨコは整形。天井肩部凹 軸。	小石粒を 含む。	良好	褐褐色	覆土	
7	瓦	完形	口径 器高	10.3 3.4 ゲ。	底部平底に近い。受部底かく直立する。ヨコは整形。底部 ヘラ削り。	石粒を少 量含む。	良好	灰色	床着	
8	瓦	すり跡	1/2	口径 器高 底径	13.4 9.5 6.6 ゲ。	口縁部外反する。ヨコは整形。底部ヘラ削り。	石粒を少 量含む。	良好	褐褐色	覆土
9	土器 甕	4/5	口径 器高 底径	11.0 12.4 6.0 ゲ。	口縁部直立ぎみに立ち上がり、口唇部外反する。外縁横、 新方向へのヘラ削り。内面ナゲ。	石粒を多 く含む。	良好	褐色	床着	
10	土器 甕	1/3	口径 残存高	12.7 11.2 ゲ。	口縁部内側がみに立ち上がり、口唇部外反する。外縁横方 向、下部付近横方向のヘラ削り。内面ナゲ。	小石粒を 含む。	良好	褐色	床高	
11	土器 甕	1/2	口径 残存高	18.5 14.0 ゲ。	口縁部外反する。胴部形状を呈する。外縁横方向のヘラ削 り。内面ナゲ。	石粒を少 量含む。	良好	褐褐色	床着	
12	土器 長胴甕	ほぼ完形	口径 器高 底径	28.5 36.8 6.0 ゲ。	口縁部短かく外反する。外縁横方向のヘラ削り。内面ナ ゲ。	石粒を多 く含む。	良好	褐褐色	カマド油垢 被材	
13	土器 長胴甕	底部欠 長胴甕	口径 残存高	21.7 29.7 ゲ。	口縁部短かく外反する。外縁横方向のヘラ削り。内面ナ ゲ。	石粒を多 く含む。	良好	褐色	カマド油垢 被材	
14	土器 長胴甕	底部欠 長胴甕	口径 残存高	21.7 29.7 ゲ。	口縁部外反する。外縁脇部横方向、胴部縦方向のヘラ削 り。内面ヘラ調整、ナゲ。	砂粒・石 粒を少量 含む。	良好	褐色	カマド	
15	土器 長胴甕	上半部 2/3	口径 残存高	21.8 17.0 ゲ。	口縁部外反する。脇部ややくらむ。外縁横、新方向のヘ ラ削り。内面ナゲ。	砂粒を含 む。	良好	褐褐色	カマド	
16	土器 長胴甕	上半部 1/3	口径 残存高	19.6 23.5 ゲ。	口縁部外反する。脇部ややくらむ。外縁横、新方向のヘ ラ削り。内面ヘラ調整、ナゲ。	石粒を少 量含む。	良好	褐褐色	カマド	
17	土製品 手づくね	完形	口径 残存高	4.1 3.5 ゲ。	口縁部直立する。外縁ヘラ削り。内面ナゲ。	無	良好	褐褐色	覆土	
18	鉄製品 鍔	刃先欠 鍔	残存高	12.6 ゲ。	柄部直角に折れ曲がる。			床着		
19	石製品 砾石	完形	長さ	17.0 ゲ。	4面に使用底。	無灰岩		床着		
20	石製品 臼玉	完形	直径	1.1 ゲ。	孔径3mm。穿孔は両方向から。全面ミガキ。	黒色のな めらかな 石材。		床着		

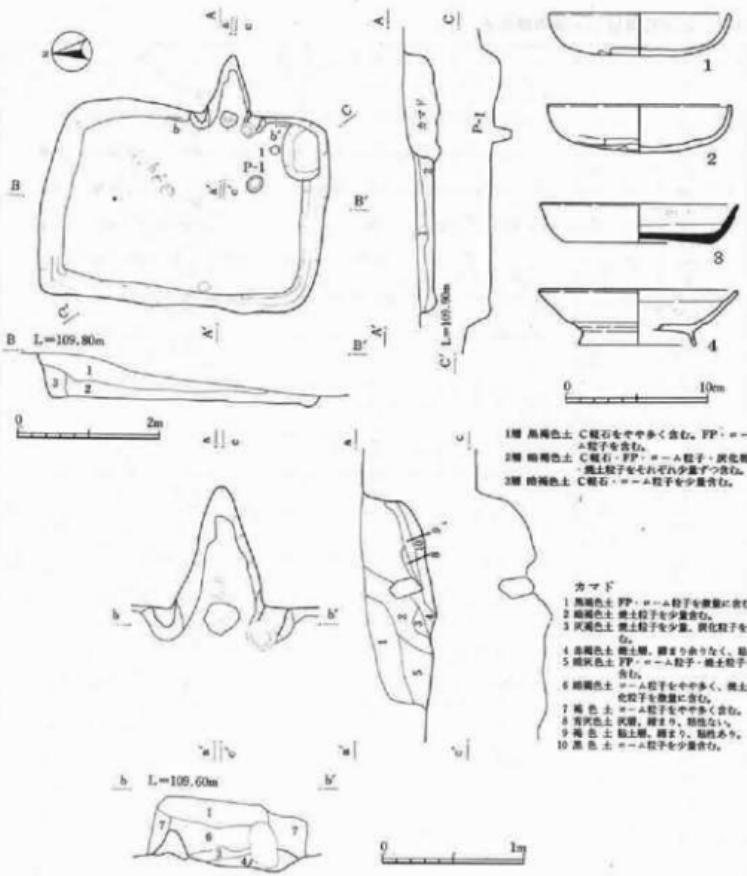
50号住居址 (第65図 図版8-2-21 表39)

本址は調査区西側X141、Y94・95グリッドで検出された。主軸方向はN-109°-Eである。規模は長軸4.0m、短軸2.8mで横長長方形を呈する。壁高は30cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東側壁際には一段底くなる部分があり、他に小ピット1基が検出されている。壁溝はカマドと南東側隅角付近を除いて回る。

カマド 東壁中央やや南側に位置する。右袖には石が利用されている。壁外への掘り込みは180cmでなだらかに立ち上がる。

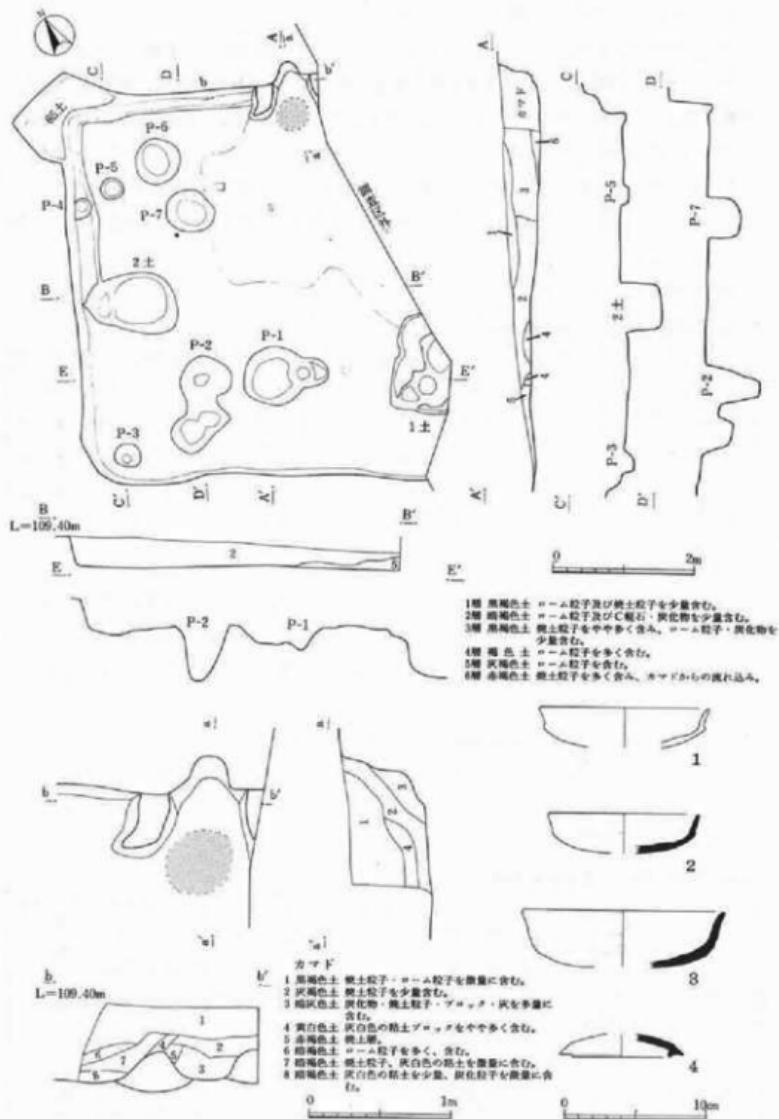
遺物は少量出土している。



第 65 図 50号住居址・出土遺物

表39 50号住居址出土遺物観察表

番号	形 樹	遺存度	高 度 (cm)	器 形、成・整 形 の 特 徴	胎 土	施 成	色 調	出土位置
1	土器 杯	4/5	口径 深高 3.0 2.0	口径平底。口縁部や外反する。外面ヘラ削り。内面ナ カ削り。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	床着
2	土器 杯	3/4	口径 深高 3.4 3.4	ほぼ平底。口縁部外反ぎみになる。外面ヘラ削り、指圧 痕。内面ナカ、指圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	覆土下部
3	頸壺 环	2/4	口径 深高 2.6 10.4	口縁部は緩慢に外反する。コトロ整形。外底底面削ヘラ 削り。	石粒を少 量含む。	良好	灰褐色	覆土下部
4	頸壺 环	1/4	口径 深高 3.9 8.1	高台付「ハ」の字状に開く。口縁部外反する。コトロ整形。 底部削削ヘラ削りと思われる。高台貼付後ナガ調整。	細砂粒を 含む。	良好	灰褐色	床着



第66図 51号住居址・出土遺物

51号住居址 (第66回 図版8-3 表40)

本址は調査区南東側X159・160、Y100・101グリッドで検出された。東側の一部は調査区外となっており、西側で52号住居址と重複し本址の方が古い。主軸方向はN-36°-Eである。規模は南北で5.5mを計り、方形を呈すると思われる。壁高は45cm。床面はほぼ平坦で北側中央部は良く踏み固められている。

P-1、P-2、P-4が主柱穴と思われ、壁溝は北側の一部で検出されている。

カマド 北壁中央で検出されている。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは20cmで急激に立ち上がる。

遺物は覆土中に多く、床着は少ない。

表40 51号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	施成	色調	出土位置考
1	土器 环	1/5	口径 12.0 残存高 2.8	丸底。口縁部破片を持ち戻す。外縁へテ崩り。内面ナメ少。砂粒を少量含む。	良好	赤褐色	床着	
2	陶器 环	1/3	口径 10.6 残存高 2.8	口縁部破片を持ち戻す。ロタロ型。底部へテ崩り。	石粒を含む。	良好	赤褐色	覆土下層
3	陶器 环	1/4	口径 14.2 残存高 4.0	口縁部破片を持ち戻す。ロタロ型。底部へテ崩り。	緻密	良好	灰白色	覆土下層
4	陶器 环	1/3	口径 8.8 残存高 1.6	小形。つまみ欠損。 ロタロ型。天井部崩壊へテ崩り。	石粒を少 量含む。	やや 不良	茶褐色	覆土下層

52号住居址 (第67回 図版8-4-21 表41)

本址は調査区南東側X158・159、Y100・101グリッドで検出された。主軸方向はN-68°-Eである。平面形は北側がふくらむ台形を呈し、長軸は4.5m、短軸は北側3.5m、南側で2.2mである。壁高は最大で60cm。床面は北側から南側へやや傾斜しており、踏み固めは全体にやや認められる。

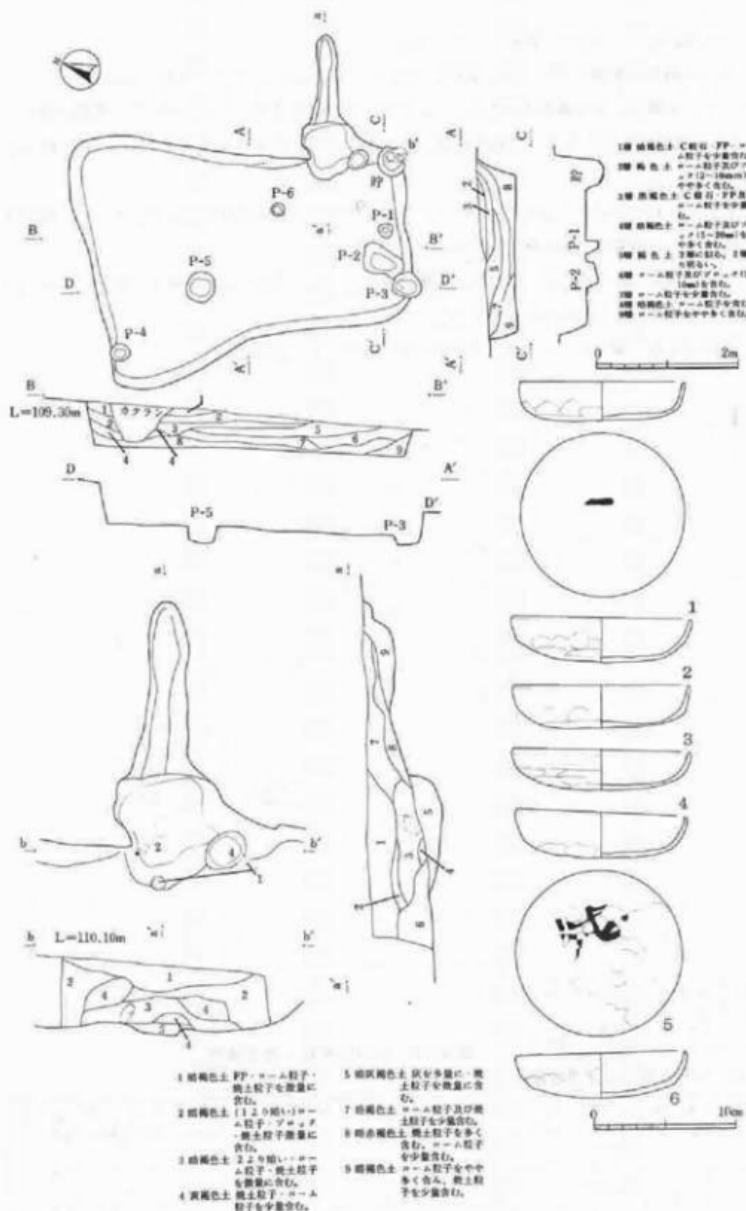
ピットは浅いものが多い。南東側壁際には貯蔵穴が存在する。

カマド 東壁の南側に位置する。袖は石を利用していたと思われる。壁外への掘り込みは170cmで、ゆるやかに立ち上がる。

遺物は覆土中に細片が多く、床着は少ない。

表41 52号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	施成	色調	出土位置考
1	土器 环	ほぼ完形	口径 11.6 器高 2.8	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外縁へテ崩り。内面ナメ少。指圧痕。	緻密	良好	赤褐色	カマド 裏面
2	土器 环	2/3	口径 12.6 器高 3.2	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外縁へテ崩り。指圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	赤褐色	カマド
3	土器 环	2/3	口径 12.5 器高 3.1	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外縁へテ崩り。指圧痕。	緻密	良好	赤褐色	床着
4	土器 环	1/2	口径 12.6 器高 3.0	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外縁へテ崩り。指圧痕。	緻密	良好	赤褐色	カマド
5	土器 环	ほぼ完形	口径 12.0 器高 3.5	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外縁へテ崩り。内面ナメ少。	砂粒を少 量含む。	良好	赤褐色	貯蔵穴 裏面
6	土器 环	完形	口径 12.0 器高 3.4	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外縁へテ崩り。内面ナメ少。	砂粒を少 量含む。	良好	赤褐色	貯蔵穴



第67図 52号住居址・出土遺物

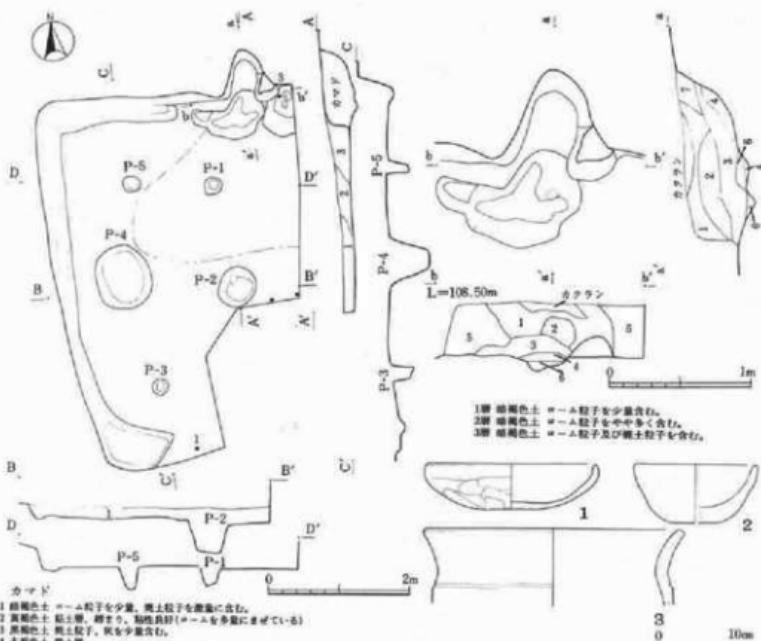
53号住居址 (第68図、図版8-5 表42)

本址は調査区東側X159・160、Y102・103グリッドで検出された。主軸方向はN-21°-Eである。東側の一部が調査区外となっているが、方形を呈するものと思われる。規模は南北で5.1m、東西は不明である。壁高は北側で30cmを計る。床面は平坦でカマド付近は良く踏み固められている。

P-1、P-2はやや大型のピットで、他は小形。いずれも主柱穴とは思われない。壁溝は調査区内では南側の一部を除いて図る。

カマド 北壁に位置する。袖は粘土で構築されていたと思われるが、保存は悪い。壁外への掘り込みは50cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は床着・覆土中とも少量の土器片が出土したのみである。



第68図 53号住居址・出土遺物

表42 53号住居址出土遺物観察表

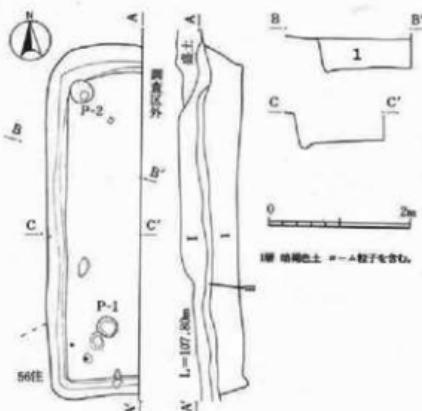
番号	器種	遺存度	径 直 (cm)	器 形、底、壁 形 の 特 徴	地 土	被成	色 調	出土位置
1	土器 杯	1/3	口径 底高 3.2	丸底。口縁部内凹みに立ち上がり。口部部やや内凹す。 外縁へテ削り。内面ナデ。	細密	良好	深褐色	床面
2	土器 杯	1/4	口径 底高 3.2	丸底。底部の鋸歯状。外縁へテ削り。内面ナデ。	石粒を多 く含む。	良好	黑色	床面
3	土器 壺	1/4	口径 底高 5.4	口縁部外反する。器肉やや厚い。内面ナデ。	石粒を多 く含む。	良好	赤褐色	床面

54号住居址 (第69図 図版8-6 表43)

本址は調査区東側X159 Y103・104グリッドで検出された。西側の一部のみの調査で、南側で56号住居址と重複し本址の方が新しい。主軸方向、規模等は不明であるが、南北で4.9mを計る。壁高は40cm。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

ピットは2基検出されているがいずれも浅い。壁溝は調査区内ではすべて回る。

遺物はほとんど出土していないが、床面に石が散乱していた。



第69図 54号住居址・出土遺物

表43 54号住居址出土遺物観察表

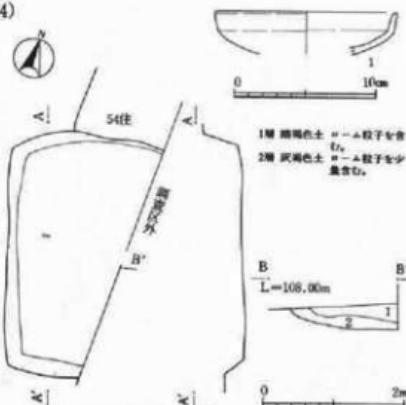
番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、或・整形の特徴	胎土	表皮	色調	出土位置 備考
I	鉄製品 不明	先端部の 残存部のみ	残存高 2.5	断面方形。丁字状に曲がっている。				覆土

56号住居址 (第70図 図版8-6 表44)

本址は調査区南東側X159、Y103・104グリッドで検出された。西側の一部のみの調査で他は調査区外となっている。主軸方向、規模等は不明である。壁高は55cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは弱い。

ピット・壁溝・カマド等は検出されなかった。

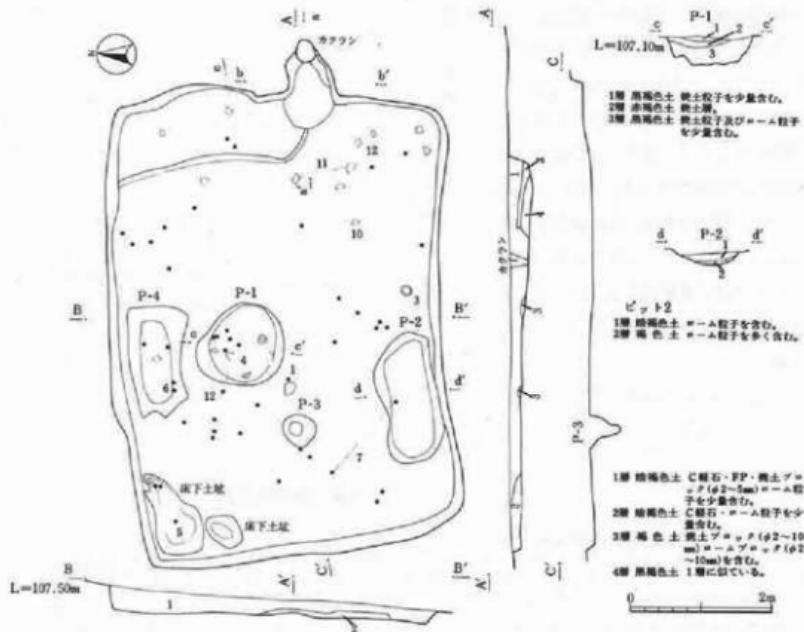
遺物は覆土中から少量出土している。



第70図 56号住居址・出土遺物

表44 56号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、或・整形の特徴	胎土	表皮	色調	出土位置 備考
I	土器 耳	1/5	口径 12.8 残存高 3.0 径	丸底。口縁部腹を持ち外反する。外面ハテ削り。内面ナ ギ	堅密	良好	深褐色	覆土



57号住居址 (第71・72図 圖版8-7・21-23 表45)

本址は調査区南側X155・156、Y105・106グリッドで検出された。主軸方向はN=81° Eである。規模は長軸6.5m、短軸4.7mで方形を呈する。壁高は30cm床面はやや凹凸があり、踏み固めはやや認められる。北東側隅角はテラス状に一段高くなる部分がある。

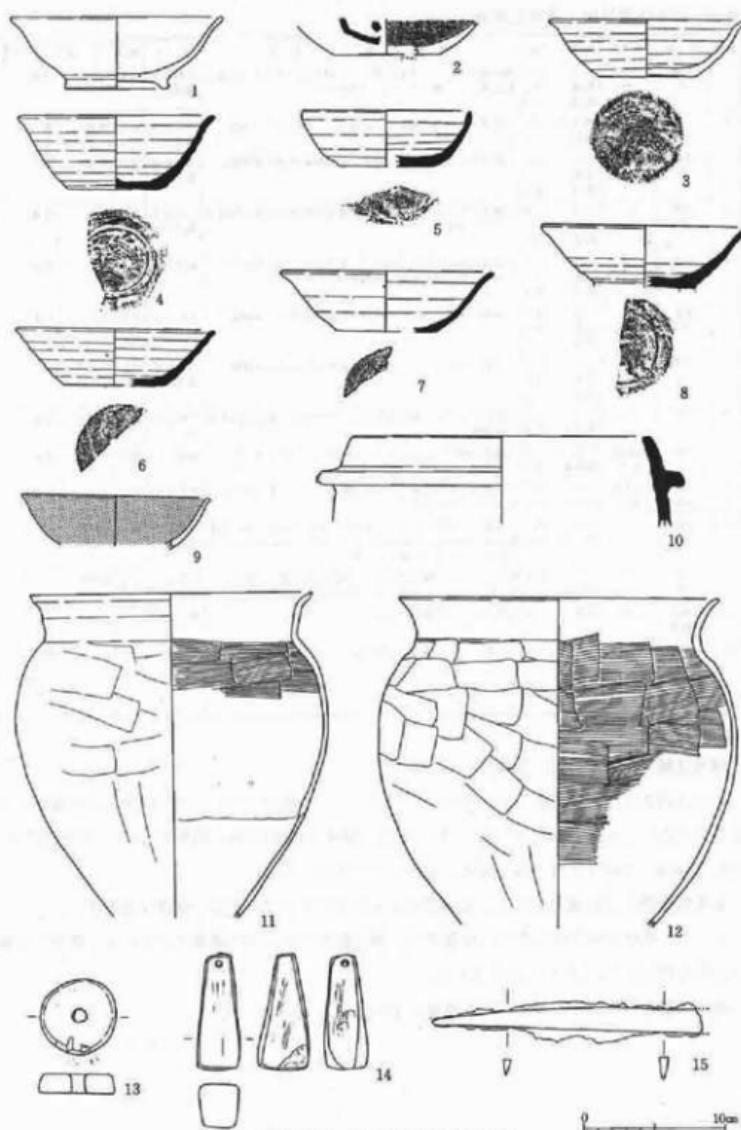
ピットは3基検出されている。壁溝はない。床面下からは3基の土塙が検出されている。

カマド 東壁中央やや南寄りで検出された。袖には石が利用されている。壁外への掘り込みは60cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は覆土中・床着とともにやや多く出土している。



第71図 57号住居址



第72圖 57号住居址出土遺物

表45 57号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	直量(cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 場所	
1	土器 灰	1/3	口径 器高 底径	15.0 5.2 7.3 高台型かく「へ」の字状に開く。口縁部外反する。底部高台 付後、へつ削りとナメ。内外面ナメ。	石粒を少 量含む。	良好	灰褐色	床着	
2	土器 灰	1/5	残存高	2.3 ロ縁部外反すると思われる。底部へリ削り。内無名窓、I 7.4 ギヤ。	石粒を少 量含む。	良好	灰褐色	覆土 堆積	
3	須恵 灰	4/5	口径 器高 底径	14.0 4.0 5.8 ロ縁部外反する。ミクロ整形。底部回転糸切り未調整。	石粒を少 量含む。	良好	灰褐色	床着	
4	須恵 灰	1/2	口径 器高 底径	13.8 5.3 6.4 ロ縁部外反する。ミクロ整形。底部回転糸切り後、周縁部 へリ削り調整。	石粒を少 量含む。	良好	灰褐色	床着	
5	須恵 灰	1/3	口径 器高 底径	11.8 4.0 5.8 ロ縁部外反して立ち上がり。ロ唇部立ぎみになる。ミク ロ整形。底部回転糸切り未調整。	無	良好	灰色	床着	
6	須恵 灰	1/4	口径 器高 底径	14.0 4.0 7.0 ロ縁部外反する。ミクロ整形。底部回転糸切り未調整。	石粒を少 量含む。	良好	灰色	床着	
7	須恵 灰	1/3	口径 器高 底径	15.0 4.3 7.0 ロ縁部外反する。ミクロ整形。底部回転糸切り未調整。	石粒を少 量含む。	良好	灰白色	ピット内 床着	
8	須恵 灰	1/3	口径 残存高	14.6 4.4 水洗痕。	ロ縁部外反する。高台型欠損。ミクロ整形。底部回転糸切 り未調整。	石粒を含 む。	良好	灰褐色	床着
9	灰陶 灰		ロ縁部 破片	13.4 3.5 ロ縁部内両ぎみに立ち上がり、外反する。袖は薄け傾げ。	無	良好	灰白色	床着	
10	須恵 羽釜		ロ縁部 破片	21.6 6.2 ロ縁部は平で、内傾する。肩は断面方形で、先はやや丸み を帯びる。内外面ナメ。	砂粒を多 く含む。	良好	灰白色	床着	
11	土器 灰	1/2	口径 残存高	19.3 23.0 ロ縁部の「へ」字状を呈する。最大径は胸上半部にある。外 側上部張力方向の、下部張力方向のヘリ削り。内面胸上部小口 状工具によるナメ。輪すみの結合部。	砂粒を少 量含む。	良好	灰褐色	カマド	
12	土器 灰	1/3	口径 残存高	22.4 23.0 器部つまり、ロ縁部外反する。整形111の變と同様である が、小口状工具によるナメが胸中央部にまで及ぶ。	砂粒を少 量含む。	良好	灰褐色	カマド	
13	石製品 物語車	完形	底径	5.4 孔径1cm。ほぼ水平である。	無			覆土	
14	石製品 瓦石	完形	長さ	8.2 孔を有する。6面全面に使用痕。	無			覆土	
15	武製品 刀子	刃部	残存長	19.0 縁により腐食している。				床着	

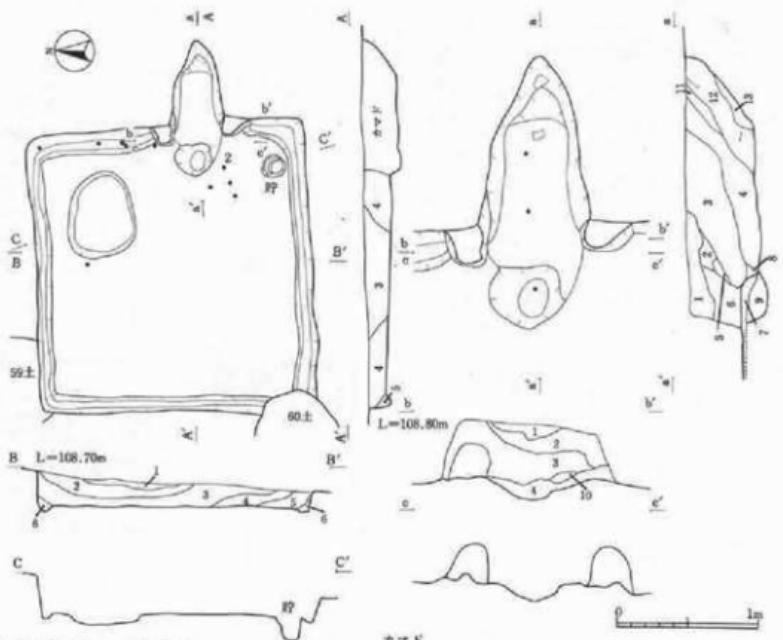
58号住居址 (第73図 図版8-8 表46)

本址は調査区中央X150・151、Y101・102グリッドで検出された。59・60号土塙と重複し本址の方が古い。主軸方向はN-80°-Eである。規模は長軸4.0m、短軸3.9mで方形を呈する。壁高は40cm。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東側壁際には貯蔵穴があり、北東側には土塙状のピットがある。壁溝は全周する。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土とロームで構築されている。壁外への掘り込みは120cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は覆土中に細片が多く、床着遺物は少ない。



1層 淡褐色土 C粒石: △—△粒子及び細土粒子を少量含む。

2層 黒褐色土 C粒石: △—△粒子を少く含む。

3層 淡褐色土: △—△粒子を含む。

4層 淡褐色土: △—△粒子及びゴマ・P(3~20 mm)を含む。

5層 黑褐色土: △—△粒子を少く含む。

6層 黑褐色土: △—△粒子を多く含む。

カマド

1層 淡褐色土: △—△粒子及び細土粒子を少量含む。

2層 淡褐色土: △—△粒子を少く含む。

3層 田面土: △—△粒子を含む。細土粒子を少く含む。

4層 淡褐色土: △—△粒子及び細土粒子、炭化物を少く含む。

5層 黑褐色土: 粘土。

6層 淡褐色土: △—△粒子及び細土粒子をやや多く含む。

7層 黑褐色土: △—△粒子含む。粘土質。

8層 黑褐色土: 粘土を少く含む。

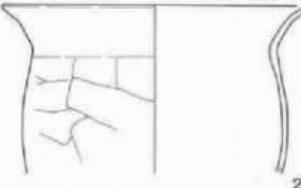
9層 黑褐色土: △—△粒子及びゴマ・P(4.5~10mm)を多く含む。粘土粒子を少く含む。

10層 淡褐色土: 細土粒子を多く含む。△—△粒子を少く含む。

11層 黑褐色土: 粘土を少く含む。

12層 黑褐色土: 粘土粒子を含む。粒子度い。

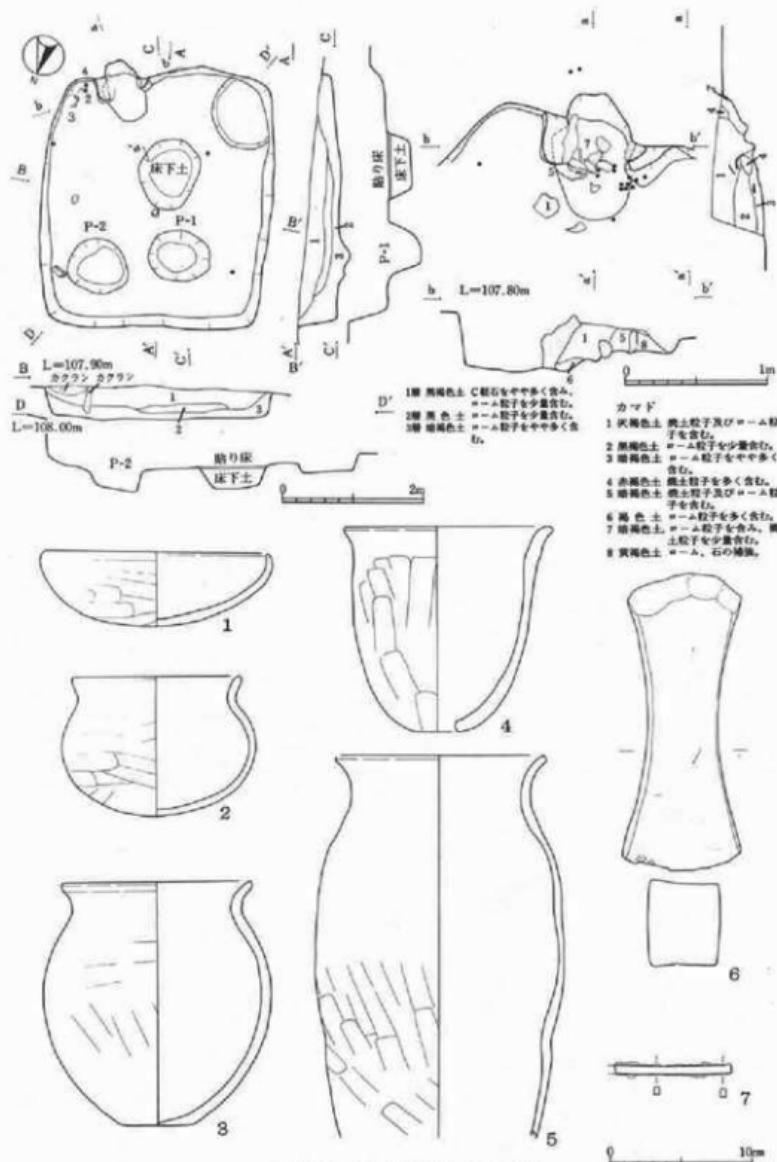
13層 淡褐色土: △—△粒子、粘土粒子を含む。



第73図 58号住居址・出土遺物

表46 58号住居址出土遺物観察表

番号	形 種	遺存度	法 量 (cm)	部 形、底・壁・蓋 形 の 特 徴	粘 土	硬 底	色 調	出土位置 及び参考
1	瓦塊 瓦	鏡片	口径 16.2 残存高 3.0	つまみ部分不明。かえりを有する。△—△型。自然断面	緻密	良好	灰色	壁土
2	土器 器	口縁部 鏡片	口径 21.8 残存高 12.0	長胴型と思われる。口縁部外反する。外面横方向にハラ削り。内面ナガ。	石粒を少 量含む。	良好	褐褐色	床土



第74図 60号住居址・出土遺物

60号住居址 (第74図 図版9-1・21・23 表47)

本址は調査区南側X155・156、Y103・104グリッドで検出された。主軸方向はN-141°-Eである。規模は長軸3.7m、短軸3.3mで方形を呈する。壁高は55cm。床面は平坦で踏み固めは全体に軟弱である。

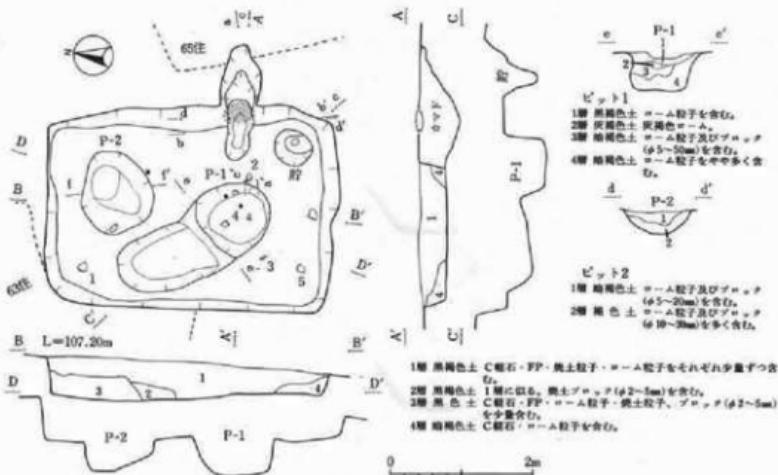
ピットは大形のものが4基検出されており、中央に位置するピットは床下土塙である。壁溝はない。

カマド 南壁東寄りで検出された。袖には石が利用されている。壁外への掘り込みは20cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は南東側壁際とカマドからやや多く出土している。

表47 60号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 参考
1	土器 杯	3/4	口徑 器高 15.9	口縁部内側で立ち上がり、口唇部内側する。外面へラ削りあり。内面ナゲ、崩壊。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	カマド
2	土器 小形甕	ほぼ完形	口径 器高 11.8	口縁部弧かく、外反する。外面横方向へのラ削り。内面ナ ゲなし。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	床面
3	土器 甕	2/3	口径 器高 13.3	口縁部外反する。器身厚い。外面胴上部裏方向の、下部 縦、斜方向へのラ削り。内面ナゲ。	砂粒・石 粒を多く 含む。	良好	褐色、外 面黒斑	床面
4	土器 甕	3/4	口径 器高 14.4	単孔。孔径3cm。口縁部弧かく、外反する。外面裏方向の へラ削り。内面ナゲ。	砂粒を多 く含む。	良好	褐色、外 面黒斑	床面
5	土器 長柄甕	底部欠	口径 器高 14.8	口縁部弧かく、外反する。外面裏方向のへラ削り。内面ナ ゲなし。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	カマド
6	石製品 認定	完形	長さ 21.2	4面に使用痕。	無灰岩			覆土上層
7	鉄製品 不明		長さ 8.3	断方長方型。柄の部分と思われる。				カマド



第75図 61号住居址 (1)

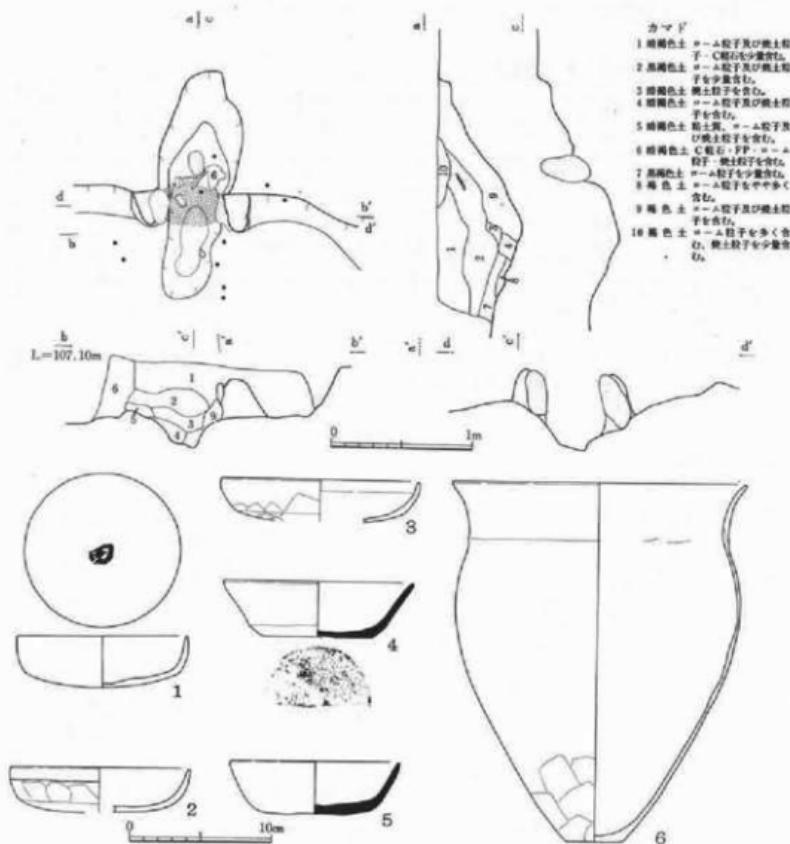
61号住居址 (第75・76図 図版9-2 表48)

本址は調査区南側X151・152、Y105・106グリッドで検出された。西側で63・東側で65号住居址と重複し、いずれも本址の方が新しい。主軸方向はN-84°-Eである。規模は長軸4.1m、短軸2.9mで方形を呈する。壁高は40cm。床面はやや凹凸があり、踏み固めはやや弱い。

南東側壁際には貯蔵穴があり、他の3基の土坑は貼り床下のものである。壁溝はない。

カマド 東壁中央に位置する。袖には石が利用されている。壁外への掘り込みは70cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は覆土中にやや多く、床着のものは少ない。



第76号 61号住居址(2)・出土遺物

表48 61号住居址出土遺物観察表

番号	器種	深度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 番号	
1	土器 环	2/3	口径 器高	12.9 3.7 底径	内縫平底。口縫部直立する。外面へラ削り。内面ナナフ。頂部を少 量含む。	良好	赤褐色	覆土下層	
2	土器 环	2/3	口径 器高	12.6 3.2 底径	内縫平底。口縫部や外反する。外面へラ削り。内面ナ ナフ。頂部を少 量含む。	良好	褐色	床着	
3	土器 环	1/5	口径 器高	14.0 4.0 底径	内縫平底。口縫部や外反する。外面へラ削り。内面ナ ナフ。頂部を少 量含む。	良好	赤褐色	床着	
4	陶器 环	1/3	口径 器高 底径	13.4 4.0 7.8	内縫平底。口縫部外反する。ミクニ整形。底部凹凸へラ削り。	微密	良好	灰色	ミット内
5	陶器 环	2/3	口径 器高	12.0 3.8	内縫平底。口縫部外反する。ミクニ整形。底部凹凸へラ削 りの後、周縁部へラ削り。	砂粒・石 粒を多く 含む。	良好	灰褐色	覆土下層
6	土器 甕	1/3	口径 器高 底径	20.8 25.7 4.0	口縫部外反する。器内滑い。外面全体にすす付着。外面肩 部横方向の、他は斜、縱方向へのラ削り。内面ナナフ。	砂粒を含 む。	良好	赤褐色	カマド

62号住居址 (第77図 図版9-3・21-23 表49)

本址は調査区南側X152・153、Y106・107グリッドで検出された。65・66号住居址と重複し
い、いずれも本址の方が古い。主軸方向はN-64°-Eである。規模は長軸4.0m、短軸3.8mで方
形を呈する。壁高は40cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは軟弱である。

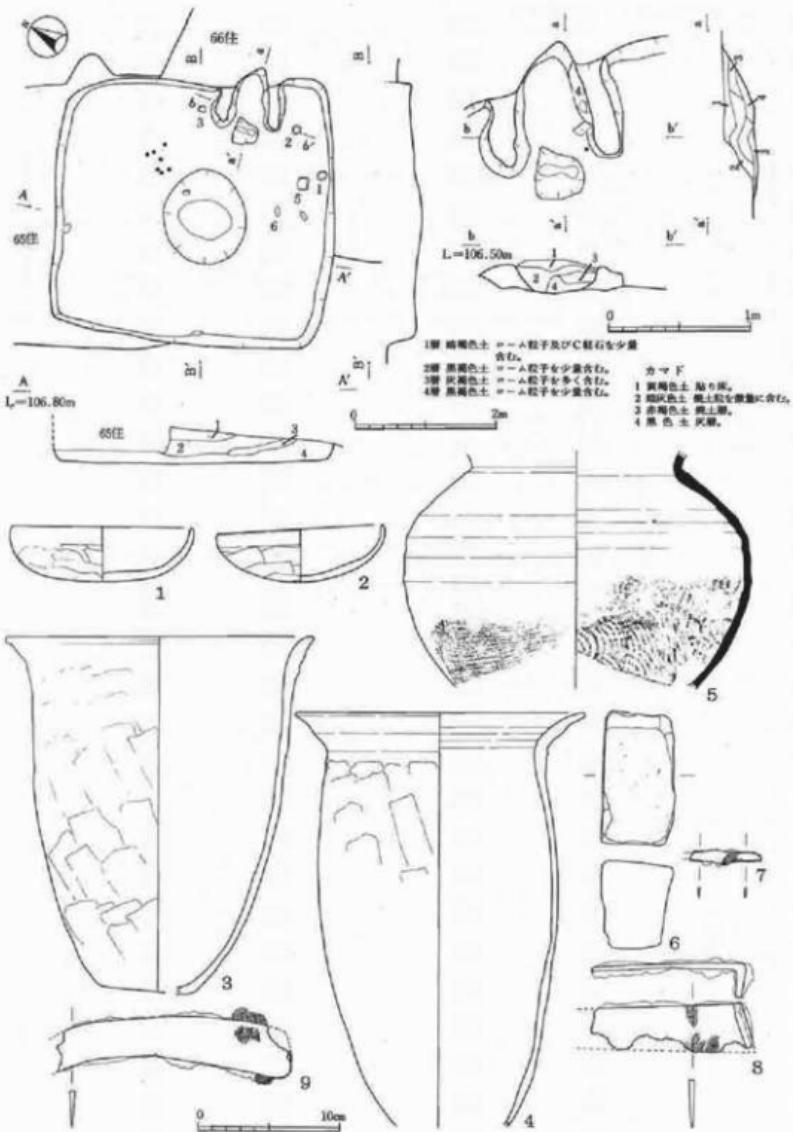
中央には浅い皿状の掘り込みが検出されている。壁溝はない。

カマド 66号住居址貼り床下で検出。東壁やや南寄りに位置する。袖は灰褐色粘土で構築さ
れ、60cm程壁内にはり出る。壁外への掘り込みは30cmでなだらかに立ち上がる。

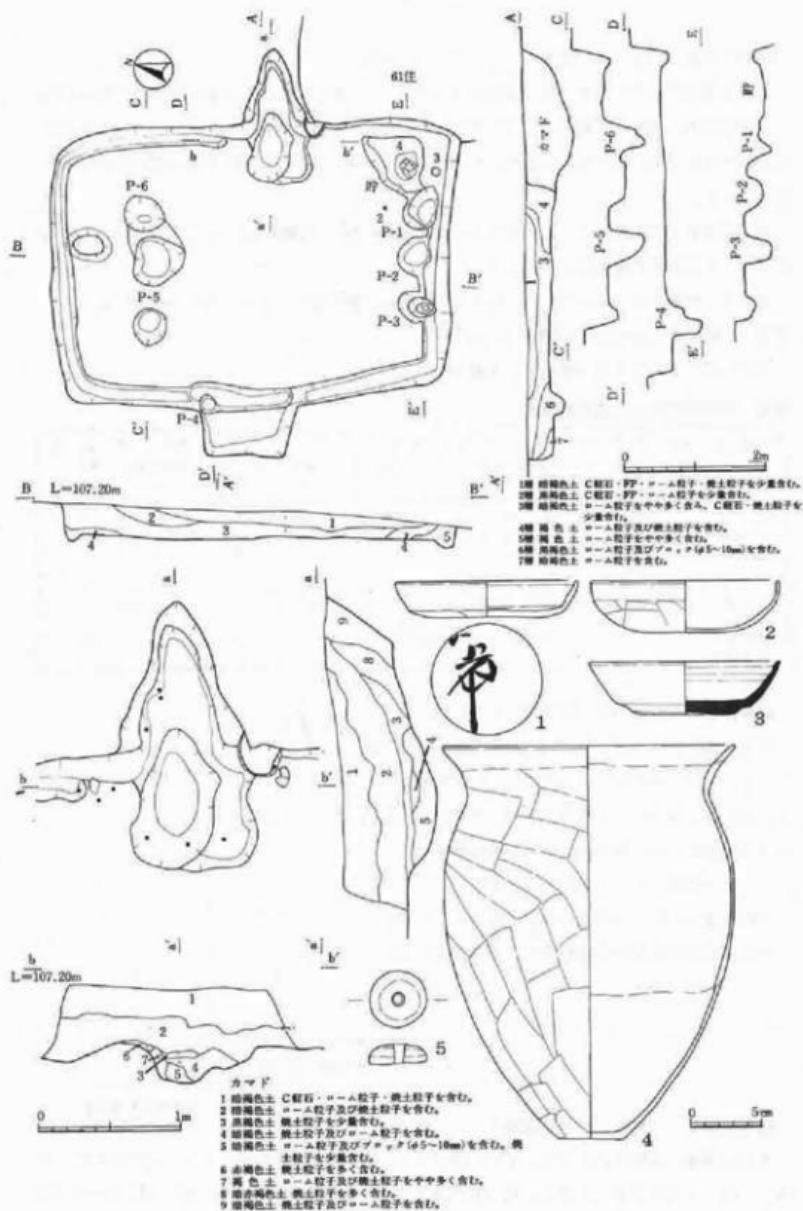
遺物は覆土中・床着共に少量ずつ出土している。

表49 62号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 番号	
1	土器 环	ほぼ完形	口径 器高	12.8 4.0	丸底。口縫部内側して立ち上がり、直立する。外面へラ削 りの後、内面ナナフ。指痕有。	砂粒を少 量含む。	良好	赤褐色	床着
2	土器 环	ほぼ完形	口径 器高	11.8 4.1	丸底。口縫部内側して立ち上がり、直立する。外面へラ削 りの後、内面ナナフ。	砂粒を少 量含む。	良好	赤褐色	床着
3	土器 甕	4/5	口径 器高 底径	22.0 25.6 6.1	早丸。平底。口縫部強く外反する。外面へラ削り。内面ナナフ。	砂粒・石 粒を多く 含む。	良好	赤褐色	床着
4	土器 甕	底脚欠	口径 残存高	20.8 29.6	口縫部強く外反する。外面縦方向へのラ削り。内面ナナフ。	砂粒を少 量含む。	良好	赤褐色	カマド
5	陶器 短腹甕	1/4	残存高	16.8	口縫部外反する。最大径は2胸中央部。ミクニ整形。内外面 ミクニ目。	砂粒を少 量含む。	やや 不良	灰色	床着
6	石製品 瓦石	長さ	9.5	5面に使用痕。1面はよく使われ内側している。	板状岩			床着	
7	鉄製品 刀子	刃先欠	残存長	5.2	木質部分残る。			床着	
8	鉄製品 鍔	刃先欠	残存長	11.5	柄部直角に折れ曲がる。			床着	
9	鉄製品 鍔	刃先欠	残存長	16.5	万字内側する。			床着	



第77図 62号住居址・出土遺物



第78図 63号住居址・出土遺物

63号住居址 (第78図 図版9-4・21・23 表50)

本址は調査区南側X150・151、Y105・106グリッドで検出された。東側で61号住居址と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN-74°-Eである。規模は長軸5.6m、短軸4.1mで方形を呈し、西壁中央部に張り出しが認められる。壁高は40cm。床面は平坦で全体に踏み固めがやや認められる。

ピットは6基検出されている。張り出し部は長軸1.2m、短軸0.6mで長方形を呈する。壁溝はカマドと南東側壁際を除いて回る。

カマド 東壁中央で検出された。袖は黒色粘質土で構築されていたと思われ一部残存する。壁外への掘り込みは100cmで急激に立ち上がる。

遺物は覆土中にやや多く集まり、床着のものは少ない。

表50 63号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、底・蓋形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土器 平	1/3	口徑 9 壁高 9	12.8 ほぼ平底。口縁部外反する。外面へテ割り。内面ナデ、指	砂粒を少 量含む	良好	褐褐色	覆土
2	土器 平	1/3	口徑 3.2 壁高 3.8	13.8 平底ぎみの底凹。口縁部内面ぎみに立ち上がり直立する。 外面へテ割り。内面ナデ。指痕。	砂粒を少 量含む	良好	褐褐色	床面 裏面(不明)
3	楕円 平	4/5	口徑 6.1 壁高 6.1	13.4 口縁部外反する。口ヨコ整形。底部凹陥へテ切り落、口縁 3.8 部へテ割り。	砂粒を少 量含む	良好	褐褐色	床面
4	土器 蓋	2/3	口徑 4.5 壁高 4.5 底径 2.0	20.6 口縁部「く」字状に外反する。器内薄い。外面斜上部裏方 向の、中-下部縦方向のヘタ割り。内面ナデ。輪すみ崩。	砂粒を含 む	良好	外表面 内面褐褐色	竪穴
5	石製品 鉗頭車	完形	直径 4.1	全面にガヤ、穿孔は裏側から。	滑石			覆土

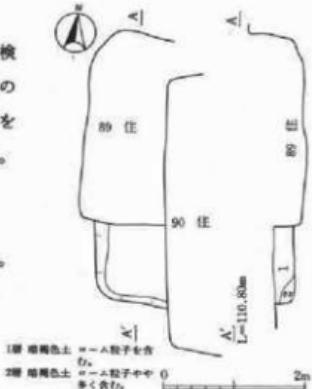
64号住居址 (第79図 図版12-1)

本址は調査区南東側X155・156、Y98グリッドで検出された。89・90号住居址と重複し、いずれも本址の方が古い。主軸方向。規模等は不明であるが、方形を呈すると思われる。壁高は25cm。床面は軟弱である。

ピット・壁溝・カマド等は不明である。

遺物は覆土中から土師器片が少量出土している。

本址は南西側隅角のみの検出で、不明な点が多い。



第79図 64号住居址

65号住居址 (第80・81図 図版9-5・22・23 表51)

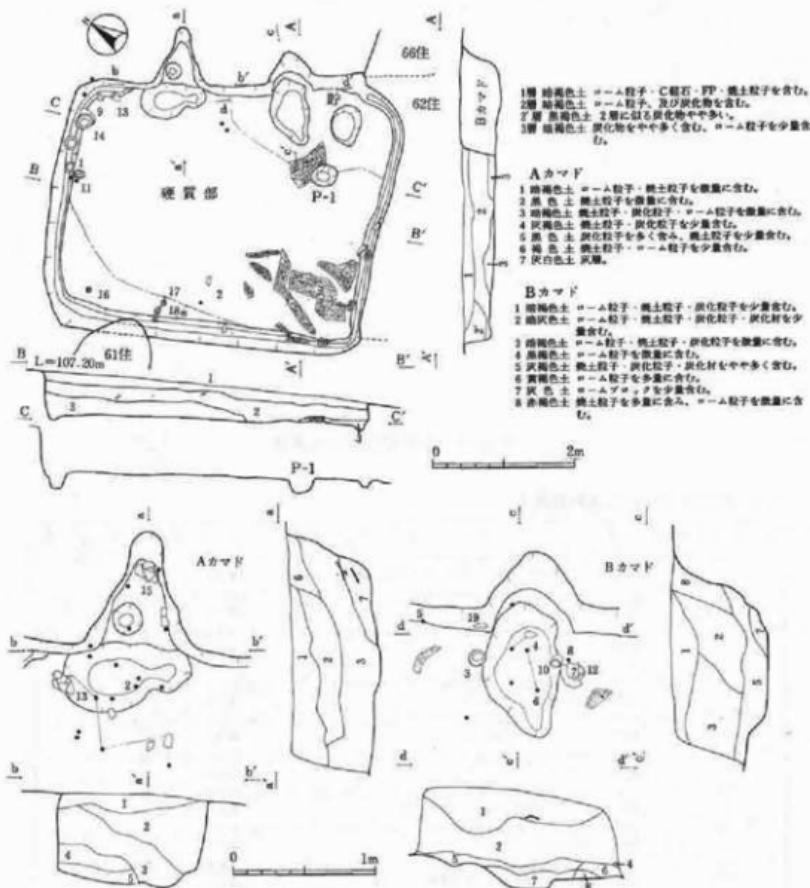
本址は調査区南側X152・153、Y105-107グリッドで検出された。61・62・63号住居址と重複し、61・66号住居址より古く、62号住居址より新しい。主軸方向はN-62°-Eである。規模は長軸4.8m、短軸3.7mで横長長方形を呈する。壁高は65cm。床面は平坦で踏み固めは隅角

を除いて良く認められる。

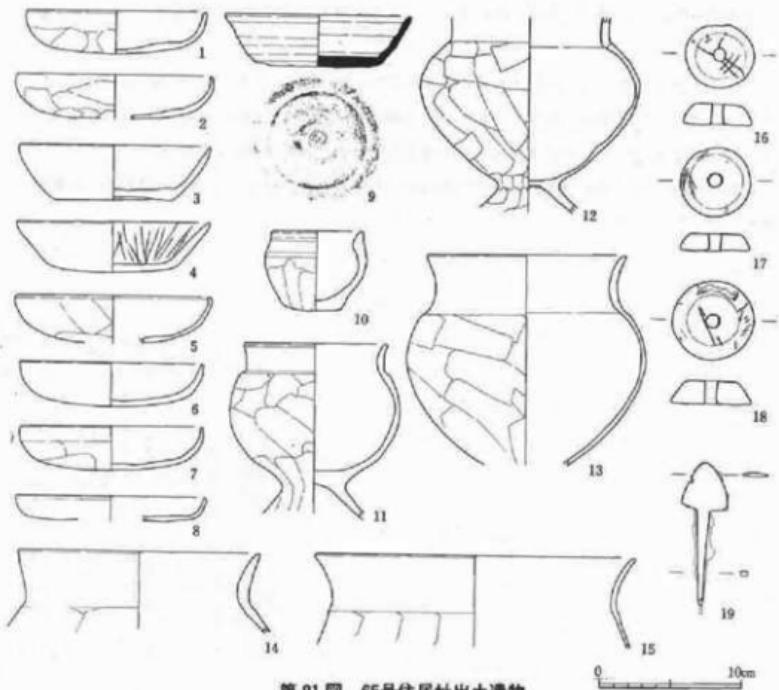
南東側壁際には貯藏穴があり、他に小ピット2基が検出されている。壁溝はカマド付近を除いて回る。

カマド 東壁北寄りと、南寄りと2ヶ所で検出された。北寄りのAカマドの袖は検出されず、壁外への掘り込みは80cm。南寄りのBカマドも袖は検出されず、壁外への掘り込みは40cmである。これら2基のカマドは使用状況・出土遺物などから、同時使用と思われる。

遺物は全体に多く出土している。床面南側には炭化材が多く出土しており、鉄製品、石製筋鍤車も出土している。



第80図 65号住居址

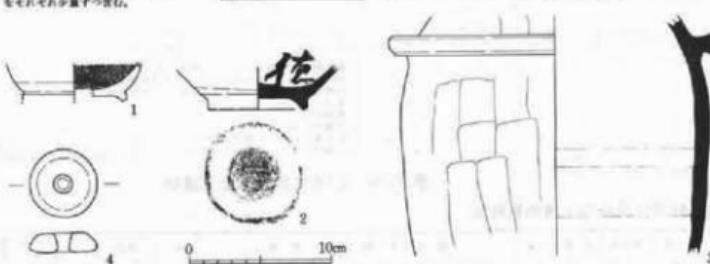
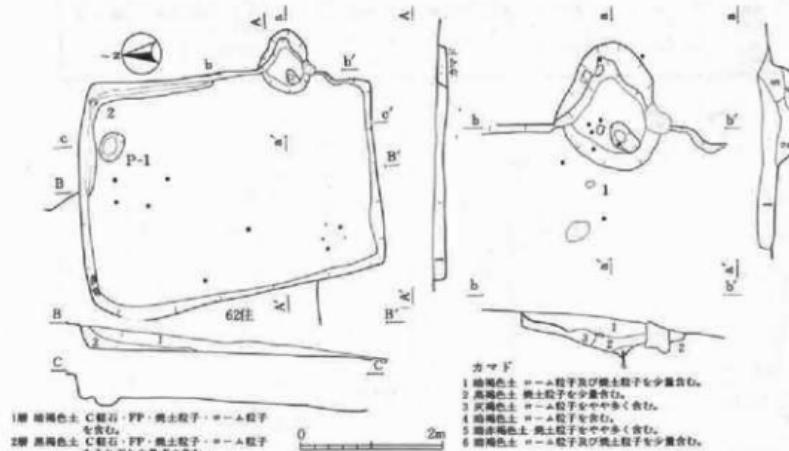


第81図 65号住居址出土遺物

表51 65号住居址出土遺物観察表

番号	器種	底存度	法量(cm)	器形、或・変形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 箇所
1	土器 环	ほぼ完形	口径 底高	12.6 内面内両ぎみに立ち上がり。やや外反する。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	床着
2	土器 环	1/4	口径 器高	13.6 ほぼ平底。口縁部内両ぎみに立ち上がり、直立する。外面 ヘタ削り。内面ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	カマドA
3	土器 环	定期	口径 器高 底径	13.5 平底。口縁部直線的に外反する。底面回転ヘタ削り。内面 ナデ。	赤色鉄物 を含む。	良好	褐色	カマドB
4	土器 环	2/3	口径 器高	13.6 ほぼ平底。口縁部直線的に外反する。外面ヘタ削り。内面 ナデ。放射状窓。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	カマドB
5	土器 环	1/4	口径 器高	13.6 丸底。口縁部内両ぎみに立ち上がる。外面ヘタ削り。内面 ナデ。指印痕。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	カマドB
6	土器 环	1/2	口径 器高	13.0 ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘタ削り。内面ナ デ。	砂粒。石 粉含む。	良好	褐色	カマドB
7	土器 环	1/3	口径 器高	12.8 ほぼ平底。口縁部内両ぎみに立ち上がり、直立する。外側 ヘタ削り。内面ナデ。指印痕。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	カマドB
8	土器 环	1/5	口径 器高 底径	13.0 ほぼ平底。口縁部外反する。外面ヘタ削り。内面ナデ、指 印痕。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	カマドB
9	裏窓 环	4/5	口径 器高 底径	13.2 口縁部直線的に外反する。ロクロ窓形。外面回転ヘタ削り 後、周縁部ヘタ削り調整。	石粒を少 量含む。	良好	灰色	床着

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、式・型の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 備考	
10	土器 小形甕	完形	口径 留存高 底径	6.5 5.8 4.1	口縁部短かく直立。外周縁方向へのテラ削り。底部、内面ナ カナデ。	赤色粒を少 量含む。	良好	褐色	カマドB
11	土器 台付甕	4/5	口径 残存高	10.0 12.5	口縁部短かく直立ぎみに立ち上がり、口唇部外反する。台 脚の内側にナカナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	赤褐色	床着
12	土器 台付甕	2/3	残存高	13.9	口縁部直立する。台脚「へ」の字状に開く。外周縁部底方向のテラ削り。内面ナ カナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	カマドB
13	土器 甕	1/2	口径 残存高	14.2 15.0	口縁部直立して立ち上がり、口唇部外反する。外周上部模 方向の、下斜斜・瓶方向のテラ削り。内面ナ カナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	深褐色	カマドA, カマドB
14	土器 甕		口径 残存高	17.0 5.7	口縁部やや外反する。外周縁部底方向のテラ削り。内面ナ カナデ。	砂粒を含 む。	良好	深褐色	床着
15	土器 甕	口縁部 1/3	口径 残存高	22.8 6.5	口縁部くの字状に外反する。外周縁部底方向のテラ削り。 内面ナカナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	赤褐色	カマドA
16	石製品 鋸鋸車	完形	直径	4.8	孔径9mm。薄刃多い。井の字が彫かれている。	磨石		床着、文字 (井)	
17	石製品 鋸鋸車	完形	直径	4.9	孔径10mm。やや扁平。	磨片		床着	
18	石製品 鋸鋸車	完形	直径	5.6	孔径9mm。断面台形を呈する。	磨片		床着、文字 (不規)	
19	鉄製品 鎌	基部 一部欠	長さ	10.2	刀部三角形。			カマドB	



第82図 66号住居址・出土遺物

66号住居址 (第82図 国版9-6・23 表52)

本址は調査区南側X153・154, Y106・107グリッドで検出された。62・65号住居址と重複し、本址の方が新しい。又67号住居址と近接し、本址の方が新しい。主軸方向はN-84°-Eである。規模は長軸4.3m、短軸3.2mで方形を呈する。壁高は北側で30cmを計る。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

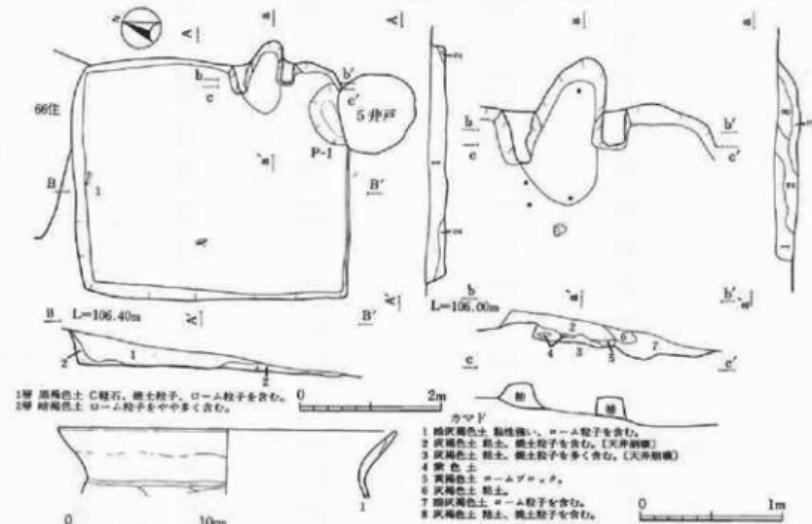
ピットは浅いものが1基検出されている。壁溝は北東壁の一部のみで検出されている。

カマド 東壁中央南寄りに位置する。右袖には石が利用されている。壁外への掘り込みは60cmで急激に立ち上がる。

遺物は少量出土している。

表52 66号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量(cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土器	1/6	西存高 2.6	口縁部外反するとと思われる。底部回転糸切り後竹高台。内 黒燒糊。1ガラ	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	カマド
2	須恵 瓦	底	残存高 6.9	口縁部外反する。底部回転糸切り後竹高台。	砂粒を少 量含む。	良好	灰色	床裏、墨面 (後)
3	須恵 瓦	1/5	残存高 16.9	調やや丸みを帯びる。外面縦方向のへつ割。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	灰色	壁下層
4	石製品 器脚	完形	直径 4.7	孔径1.3cm	石材不明			覆土



第83号 67号住居址・出土遺物

表53 67号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量(cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土器	口縁部 1/3	口径 23.8 残存高 4.7	口縁部「く」の字状に外反する。外表面縦方向のへつ割 り。内面ナゲ。	砂粒を含 む。	良好	褐色	床裏

67号住居址 (第83図 図版9-7 表53)

本址は調査区南側X153・154, Y107・108グリッドで検出された。主軸方向はN-71°-Eである。規模は長軸3.9m、短軸3.4mで方形を呈する。壁高は北側で50cm、南側は斜面のためほとんどけずり取られている。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東側壁際には浅いピットが検出されている。貯藏穴であろうか。壁溝はない。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは35cmでゆるやかに立ち上がる。

遺物は覆土中・床着共に少量ずつ出土している。

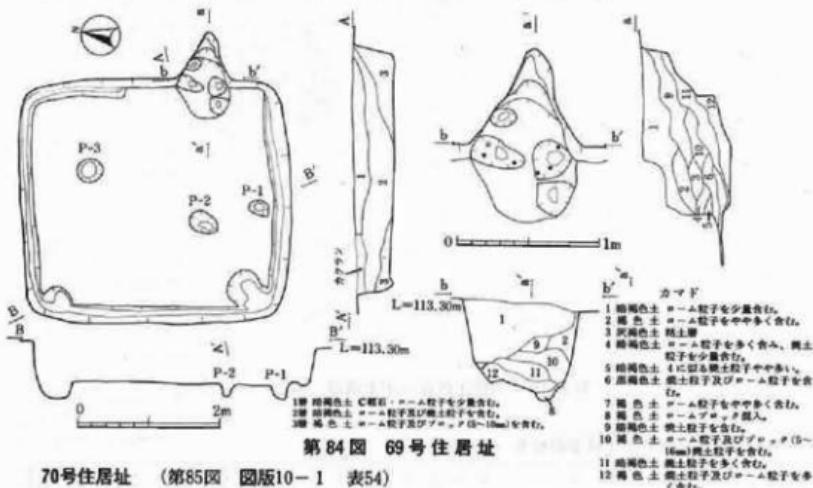
69号住居址 (第84回 図版9-8)

本址は調査区東側X157・158, Y86・87グリッドで検出された。主軸方向はN-77°-Eである。規模は長軸3.8m、短軸3.5mで方形を呈する。壁高は55cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

ピットは5基検出されているがいずれも浅い。壁溝はカマド付近を除いて回る。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは60cmで段を持って立ち上がる。

遺物は覆土中から細片がやや多く出土しているが、床着のものはない。



第84図 69号住居址

70号住居址 (第85図 図版10-1 表54)

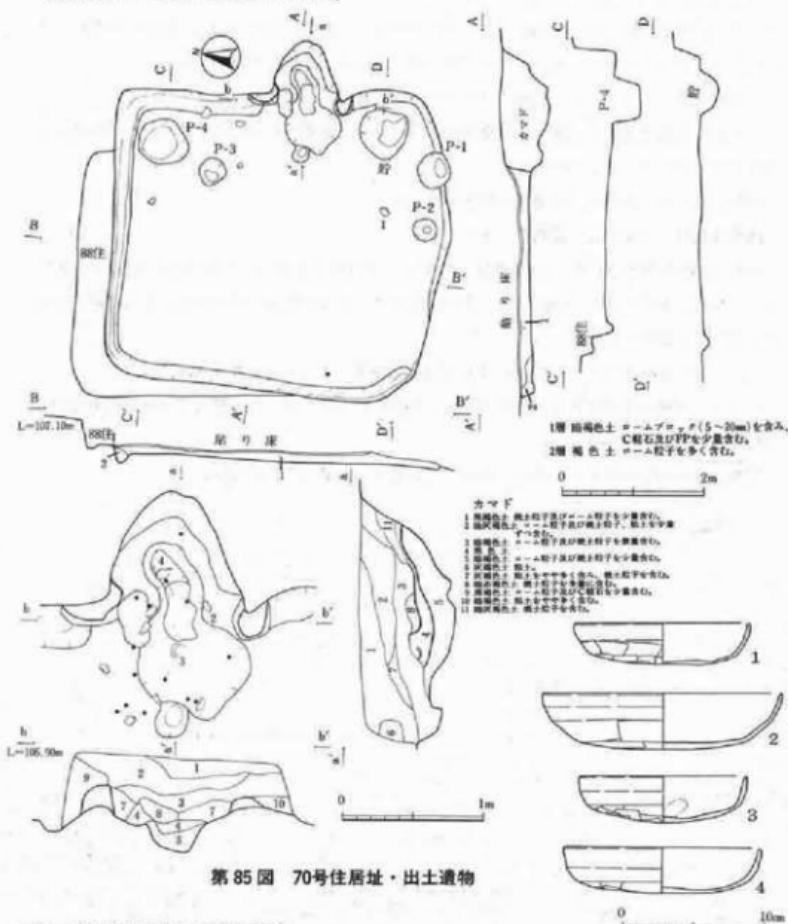
本址は調査区南側X147・148, Y105・106グリッドで検出された。88号住居址と重複し本址の方が古い。主軸方向はN-79°-Eである。規模は長軸4.8m、短軸4.1mで方形を呈する。壁高は55cm。床面は平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

ピットは5基検出されている。壁溝は南側を除いて回る。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土で構築されているが、依存状態は悪い。

壁外への掘り込みは80cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は床着・覆土中共にやや少ない。

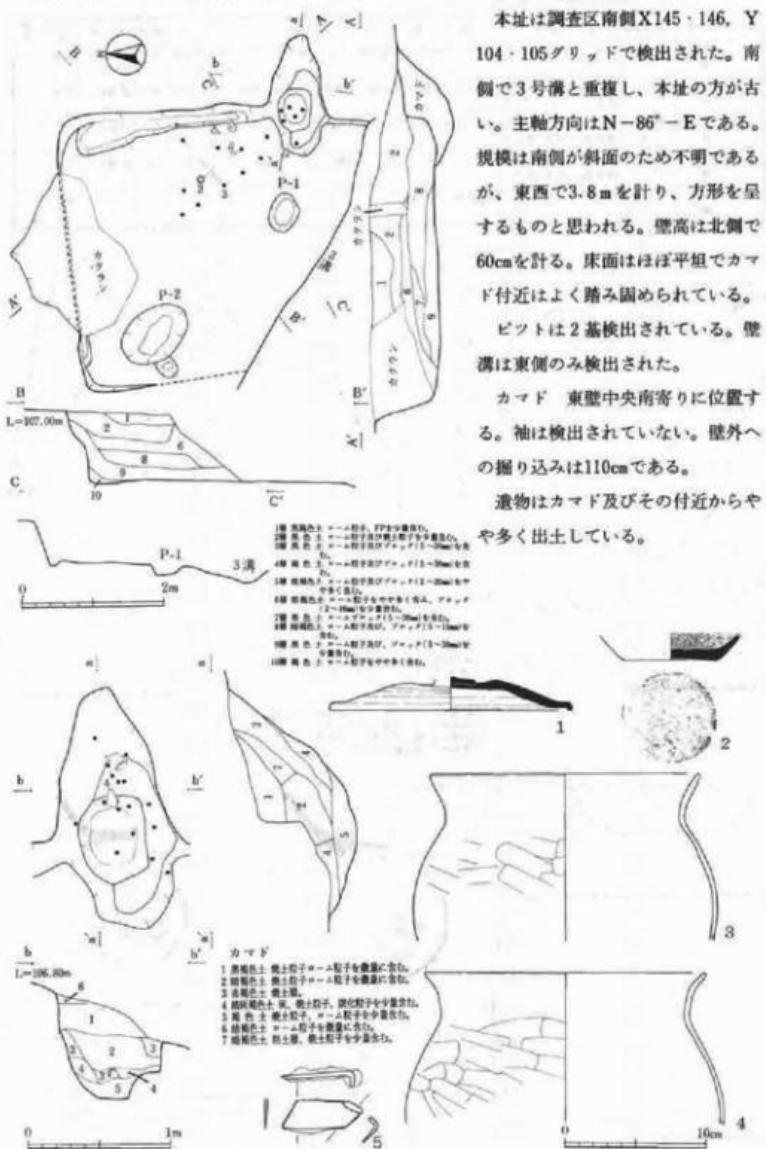


第85図 70号住居址・出土遺物

表54 70号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量(cm)	器形・式・蓋形の特徴		胎土	焼成	色調	出土位置 参考
				底	側面				
1	土器 环	4/5	口径 器高	12.4 2.9	底部ほぼ平底になる。外側底部へテ崩り。内面ナゲ。胎土 砂粒。石	良好	微褐色	床着	
2	土器 环	1/2	口径 器高	7.0 4.0	底部ほぼ平底になる。口縁部弱く2段の波を持つ。外側へ テ崩り。内面ナゲ。	砂粒を含む。	良好	微褐色	カマド
3	土器 等	2/3	口径 器高	12.0 3.3	底部丸底。口縁部ほぼ直立する。外側へテ崩り。内面ヘテ 崩りの後ナゲ。胎土。	砂粒を少 量含む。	良好	微褐色	カマド
4	土器 等	1/2	口径 器高	14.0 3.2	底部ほぼ平底になる。外側へテ崩り。内面丁寧なナゲ。	緻密	良好	微褐色	カマド

71号住居址 (第86図 図版10-2 表55)



本址は調査区南側X145・146、Y104・105グリッドで検出された。南側で3号溝と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN-86°-Eである。規模は南側が斜面のため不明であるが、東西で3.8mを計り、方形を呈するものと思われる。壁高は北側で60cmを計る。床面はほぼ平坦でカマド付近はよく踏み固められている。

ピットは2基検出されている。壁溝は東側のみ検出された。

カマド 東壁中央南寄りに位置する。袖は検出されていない。壁外への掘り込みは110cmである。

遺物はカマド及びその付近からやや多く出土している。

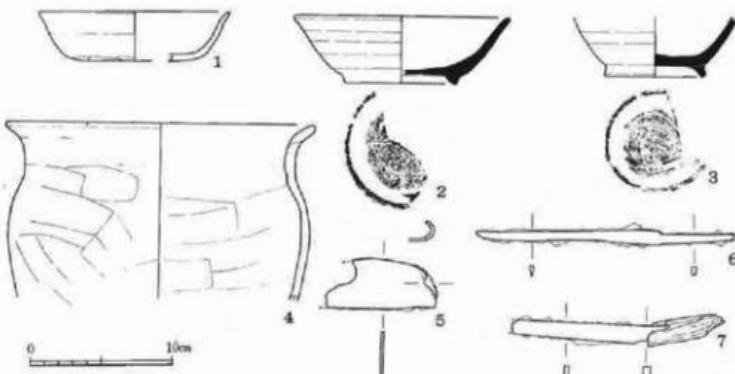
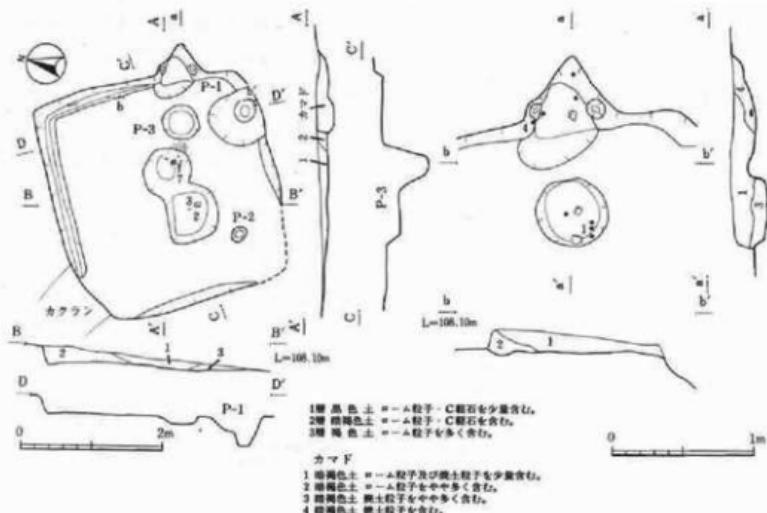
- 1 磁器灰土 ハンドル付平底盤。
- 2 磁器灰土 ハンドル付平底盤を有する茶碗底。
- 3 磁器灰土 ハンドル付平底盤。
- 4 磁器灰土 ハンドル付平底盤(1.5~2mm)を有する茶碗底。
- 5 磁器灰土 ハンドル付平底盤(1.5~2mm)を有する茶碗底。
- 6 磁器灰土 ハンドル付平底盤を有する茶碗底。
- 7 磁器灰土 ハンドル付平底盤(1.5~2mm)を有する茶碗底。
- 8 磁器灰土 ハンドル付平底盤(1.5~2mm)を有する茶碗底。
- 9 磁器灰土 カーブした脚子及び、ハンドル(3~20mm)。
- 10 骨角 カーブした脚子を有する。

- 1 磁器灰土 壁上部ローメン脚子を数個有する。
- 2 磁器灰土 壁上部ローメン脚子を数個有する。
- 3 磁器灰土 肉土。
- 4 磁器灰土 肉土、脚子を有する。炭化粒子を少量含む。
- 5 磁器灰土 脚子を有する。ハンドルを少量化。
- 6 磁器灰土 脚子を有する。
- 7 磁器灰土 肉土層。脚子を少量化。

第86図 71号住居址・出土遺物

表55 71号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法 異 (cm)	器 形、底・蓋 形 の 特 徴	胎 土	質 地	色 調	出土位置 号
1	須恵器	2/3	口徑 7.2	かえりを持つ。つまみの先端不明。口内整形。	石英を多く含む。	良好	灰褐色	床面
2	土器 甌	底部	残存高 1.9 底径 6.7	口縁部外反する。底盤回転系切り本調査。内面墨色處理。石粒を少く含む。	砂粒・石	良好	深褐色	床面
3	土器 甌	口縁部 1/4	口徑 19.0 残存高 11.9	口縁部「く」の字状に外反する。外面横方向へのハラ削り。内面墨色處理。砂粒を多く含む。	砂粒・石	良好	深褐色	カマド
4	土器 甌	口縁部 1/3	口徑 19.9 残存高 10.8	口縁部「く」の字状に近くなる。外面横方向へのハラ削り。内面墨色處理。砂粒を少く含む。	砂粒・石	良好	微褐色	カマド
5	鉄製品 鏃	刃先欠	鈎部長 5.8	柄部上端部直角に折れ曲がる。				覆土



第87図 72号住居址・出土遺物

72号住居址（第87号 図版10-3 表56）

本址は調査区南側X145・146, Y100・101グリットで検出された。主軸方向はN-68°-Eである。規模は長軸3.3m、短軸3.2mではば正方形を呈する。壁高は30cm。床面はば平坦でカマド付近は良く踏み固められている。

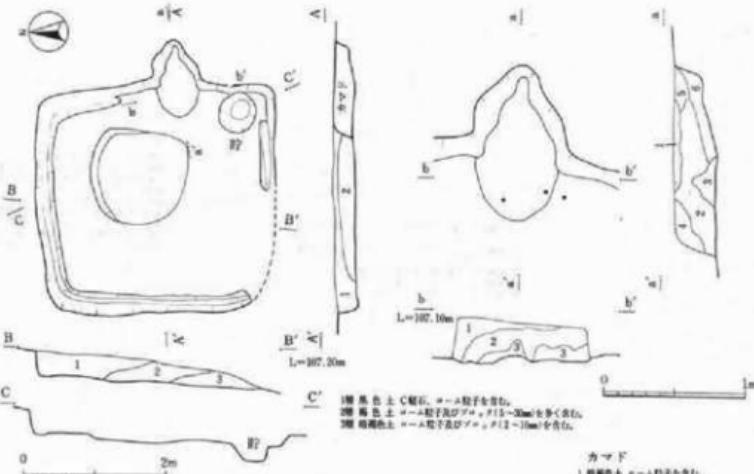
ピットは4基検出されているが主柱穴とは考えられない。壁溝は北側と東側の一部で検出されている。

カマド 東壁中央やや南寄りで検出された。袖は検出されていない。壁外への掘り込みは30cmでだらかに立ち上がる。

遺物は少量であるが鉄製品が出土している。

表56 72号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法縫(cm)	器形、成・整 形 の 特徴	胎 土	開成	色 調	出土位置 参考
1	土器 杯	1/4	口径 3.6 深さ 3.5	ほぼ平底。口縁部外反する。外縁へラ割り。内縁ナデ。	細密	良好	灰褐色	カマド
2	石器 塊	1/3	口径 15.3 深さ 4.7 底径 7.9	高台付。口縁部外反する。ロコモ形。底部回転余切りと思われる。	砂粒を多く含む。	良好	灰褐色	床着
3	石器 塊	1/3	残存高 4.3 底径 6.8	高台付。ロコモ形。底部回転余切り後付高台	石粒を少く含む。	良好	灰褐色	床着
4	土加 工	口縁部 1/3	口径 21.9 残存高 12.6	口縁部の字状を呈し、器内やや厚い。外縁へラ割り。内縁棒状工具による横方向の削り。	赤色粘物	良好	灰褐色	カマド
5	鉄製品 塊	刃先欠	残存長 7.9	柄部上端直角に折れ曲がる。				床着
6	鉄製品 刀子	納部 一部欠	残存長 18.2	両側				床着
7	鉄製品 不明	先端部 欠損	残存長 15.1	木質部分残る。				床着



第88図 73号住居址

73号住居址 (第88図 図版10-4)

本址は調査区南側X144・145, Y103・104グリッドで検出された。主軸方向はN-92°-Eである。規模は長軸3.4m、短軸3.3mでほぼ正方形を呈する。壁高は北側で35cmを計る。床面はほぼ平坦で踏み固めは全体にやや認められる。

南東側壁際には貯蔵穴があり、中央には浅い皿状の掘り込みがある。壁溝はカマド・貯蔵穴付近を除いて回ると思われるが、南側は斜面のため不明である。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは50cmで急激に立ち上がる。

遺物は覆土中から少量出土している。

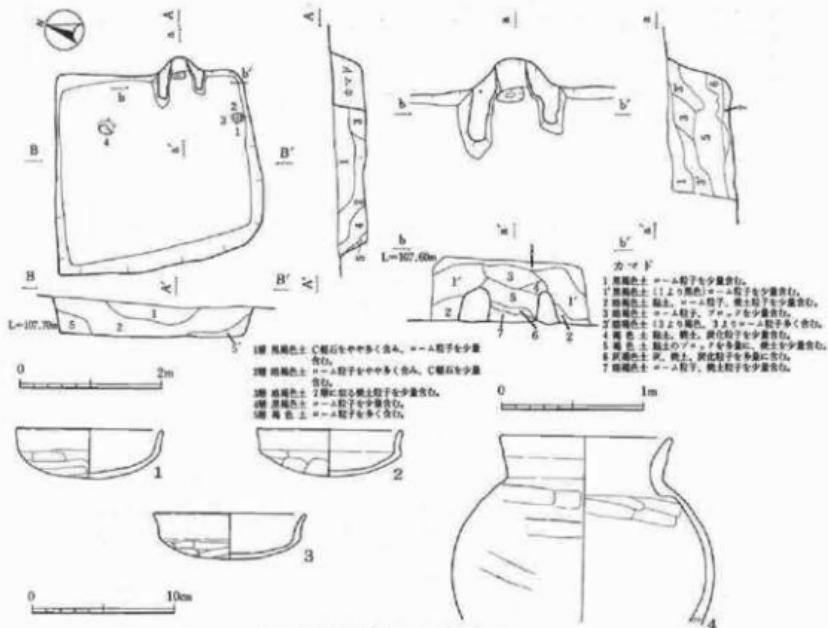
74号住居址 (第89図 図版10-5・22 表57)

本址は調査区南西側X141, Y106グリッドで検出された。主軸方向はN-71°-Eである。規模は1辺2.8mで、正方形を呈する。壁高は50cm。床面はほぼ平坦で踏み固めが認められる。

ピット・壁溝は検出されなかった。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは20cmで急激に立ち上がる。

遺物は南西側壁際で壺が3枚重なって出土しているが、他ほかほとんど出土していない。



第89図 74号住居址・出土遺物

表57 74号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	重量 (kg)	器形、成・整形の特徴	粘土	調査	色調	出土位置考
1	土器 平 身	完形	口径 断高	10.4 3.5 口縁部斜を持ち、直線的に立ち上がり、口唇部わずかに外反する。外面底部へラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	棕褐色	床着
2	土器 环	完形	口径 断高	10.3 3.3 口縁部強い後持ち、直線的に立ち上がり、口唇部わずかに外反する。外面底部へラ削り。内面ナデ。	緻密	良好	棕褐色	床着
3	土器 环	完形	口径 断高	10.7 3.3 口縁部斜を持ち、やや外反ぎみに立ち上がる。外面へラ削り。内面ナデ、指圧痕。	緻密	良好	棕褐色	床着
4	土器 甕	上半部 1/2	口径 断高	12.0 13.2 口縁部直線的に立ち上がり、口唇部外反する。側面部球形を呈する。外面底部へラ削り。内面へラ削りを複数し、他は丁寧なナデ。	緻密	良好	棕褐色	床着

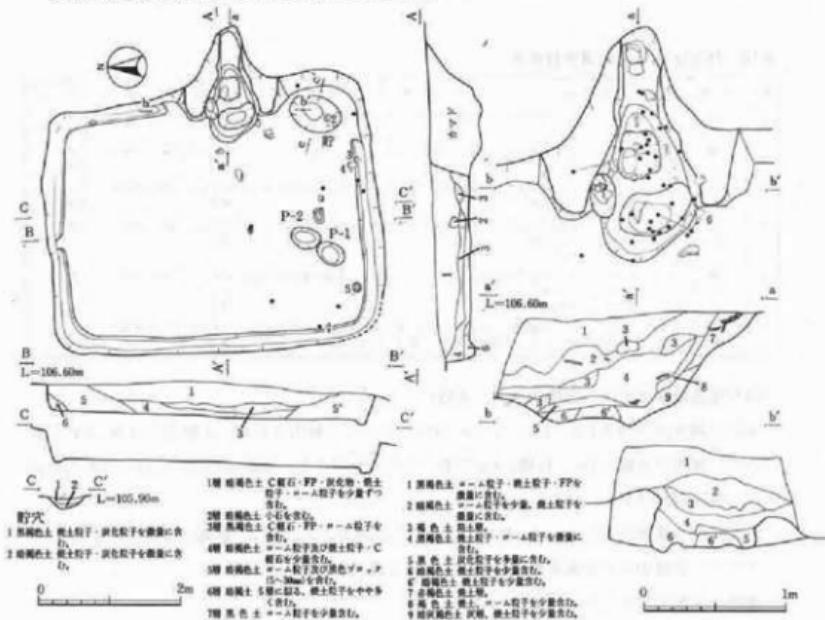
75号住居址 (第90・91 図版10-6・22・23 表58)

本址は調査区西側X137, Y99・100グリッドで検出された。主軸方向はN-86°-Eである。規模は長軸4.8m、短軸3.6mで方形を呈する。壁高は40cm。床面はほぼ平坦で踏み固めが認められる。

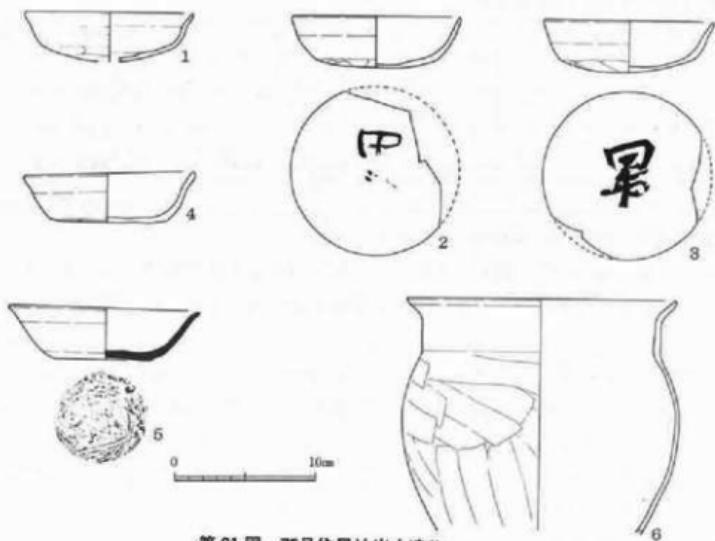
南東側壁際には貯蔵穴があり、他に小ピット2基が検出されている。壁溝はカマド・貯蔵穴があり、他に小ピット2基が検出されている。壁溝はカマド・貯蔵穴付近を除いて回るが、北側の中央で一部とされる。

カマド 東壁中央やや寄りに位置する。袖は粘土で構築され50cm程壁内に張り出す。壁外への掘り込みは70cmでなだらかに立ち上がる。

遺物は床着、覆土中共にやや多く出土している。



第90号 75号住居址



第91図 75号住居址出土遺物

表58 75号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	底面 径 (cm)	器形、底・壁・縁の特徴	胎土	陶皮	色調	出土位置 番号
1	土器 杯	1/3	口径 3.5	12.0 底部丸底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナゲ。	繊密 3.5	良好	微褐色	床着 墨書
2	土器 杯	3/4	口径 3.6	12.0 底部丸底。外面ヘラ削り。内面ナゲ、指圧痕	砂粒を少 量含む。	良好	微褐色	野廻穴 墨書
3	土器 杯	4/5	口径 3.5	12.0 底部丸底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面ナゲ、指 圧痕 正圧	砂粒を少 量含む。	良好	微褐色	床着 墨書
4	土器 杯	4/5	口径 3.8 底径 8.2	12.2 底部平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り、内面ナゲ、指 圧痕 正圧	砂粒を少 量含む。	良好	微褐色	床着
5	直腹 平	4/5	口径 3.7 底径 6.8	13.6 口縁部外反ぎみになる。ロクロ整形。底盤回転余切り未開 口	砂粒、石 3.7 6.8	良好	灰色	床着
6	土器 壺	上半部 1/2	口径 16.5	19.2 口縁部「コ」の字状になる。器内やや薄い。外面胴上部撇方 向へ、中部縱方向のヘラ削り。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	微褐色	カマド

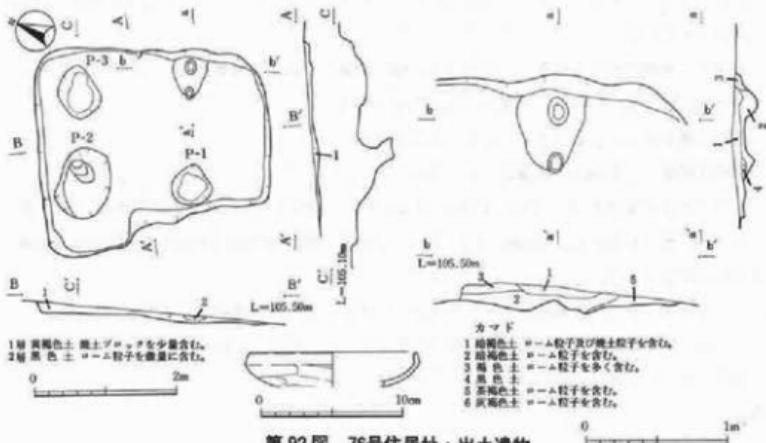
76号住居址 第92図 図版10-7 表59)

本址は調査区南側X151・152, Y109・110グリッドで検出された。主軸方向はN-64°-Eである。規模は長軸3.3m、短軸2.4mで正方形を呈する。壁高は15cm。床面はやや凹凸があり、踏み固めは弱い。

ピットは3基検出されている。P-1は斜方向の掘り込みである。壁溝は検出されなかった。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。依存状態が悪い。

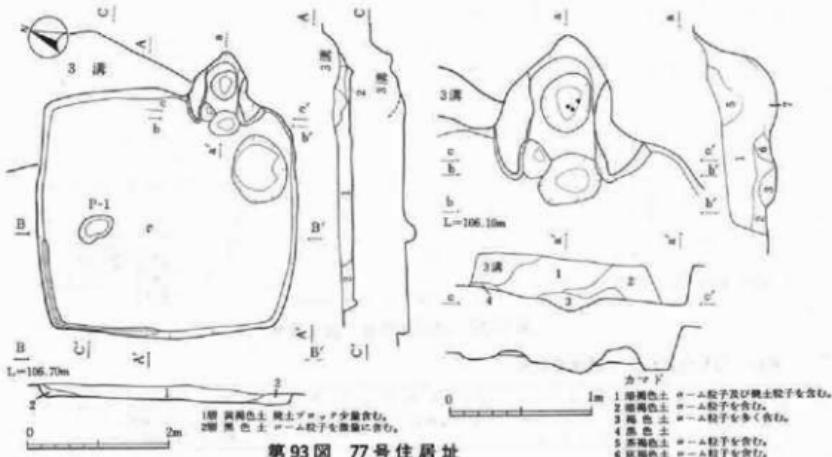
遺物は少量出土している。



第92図 76号住居址・出土遺物

表59 76号住居址出土遺物観察表

番号	部 領	遺存状	法 量 (cm)	形 形・式・整 形 の 特 徴		胎 土	施 成	色 調	出土位置
				胎 土	施 成				
1	土器 环	1/5 口径	11.8	口縁部内凹ざらに立ち上がる。外側へ7割り。内面ナメ。	無漆	直耳	黄褐色	灰褐色	床着



第93図 77号住居址

77号住居址 (第93図 図版10-8)

本址は調査区南側X148・149, Y107・108グリッドで検出された。3号溝と重複し本址の方が古い。主軸方向はN-81°-Eである。規模は長軸3.7m、短軸3.4mで方形を呈する。壁高は20cm。床面は平坦で踏み固めがやや認められる。

南東側壁際には貯藏穴があり、他に浅いピット1基が検出されている。壁溝は北西側の隅角で検出されている。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。袖は黒褐色粘質土で構築されていたものと思われるが依存状態は悪い。壁外への掘り込みは70cmである。

遺物は覆土中から少量出土しているのみである。

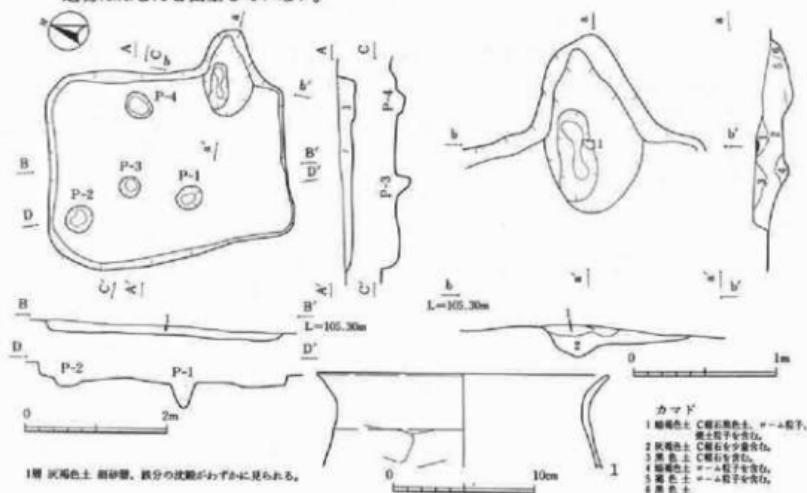
78号住居址 (第94図 図版11-1 表60)

本址は調査区南側X147・150, Y110・111グリッドで検出された。主軸方向はN-79°-Eである。規模は長軸3.4m、短軸2.6mで方形を呈する。壁高は25cm。床面はやや凹凸があり踏み固めは軟弱である。

ピットは浅いものが4基検出されているが、いずれも浅い。壁溝はない。

カマド 東壁南側に位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは20cm。

遺物はほとんど出土していない。



第94図 78号住居址・出土遺物

表60 78号住居址出土遺物観察表

番号	部 位	遺存度	法 量 (cm)	型 形・成・變 形 の 特 徴	胎 土	地 基	色 調	出土位置
1	土 製	口縁部 1/4	口径 6.4 底 高 4.4	口縁部外反する。外縁部上半横方向への張り出しがある。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	カマド

79号住居址 (第95図 図版11-2・22 表61)

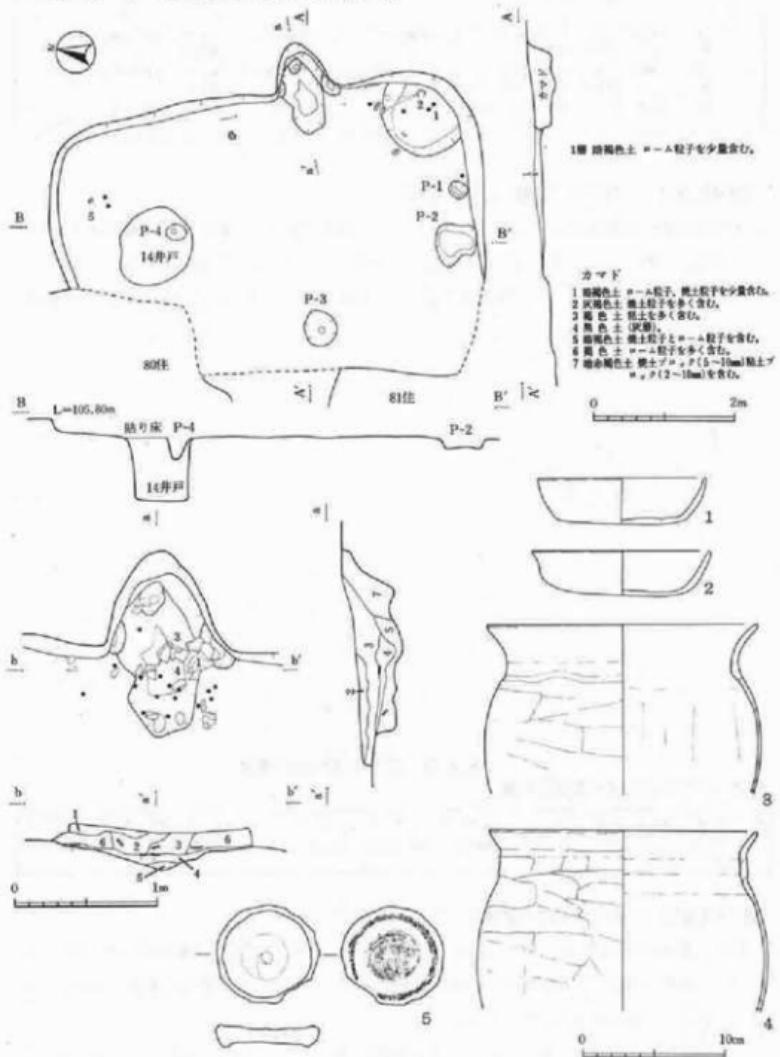
本址は調査区南側X145・146, Y105・106グリッドで検出された。80号住居址と重複し本址の方が古い。主軸方向はN-72°-Eである。西側は斜面のため立ち上がりが確認できなかつたが、南北6.2mを計り、方形を呈するものと思われる。壁高は北側で10cm。床面は検出され

た部分では良く踏み固められている。尚本址の貼り床の下から14号井戸が検出されている。

南東側には貯藏穴があり、他に小ピット3基が検出されている。壁溝はない。

カマド 東壁中央南寄りに位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは65cm。

遺物はカマド・貯藏穴付近にやや多く集まる。



第95図 79号住居址・出土遺物

表61 79号住居址出土遺物観察表

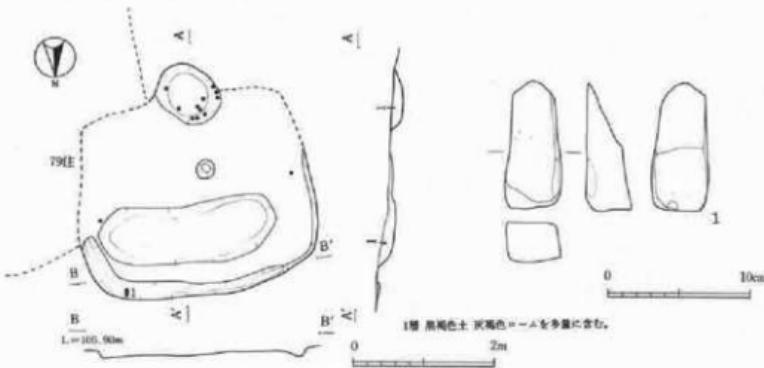
番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形・成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土器 环	ほぼ完形	口徑 底高	12.0 底部ほぼ平底になる。外面底部へラ削り。内面ナゲ、指圧 3.3cm。	石粉を少 量含む。	良好	褐色	カマド
2	土器 环	ほぼ完形	口徑 底高	12.7 底部ほぼ平底になる。外面へラ削り。内面ナゲ、指圧底 3.2cm。	砂粒を少 量含む。	良好	内面黒褐色、外面 褐色。	床面
3	土器 環	口縁部 1/2	口徑 残存高	19.1 口縁部外反する。外表面方向へラ削り。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	指圧褐色	カマド
4	土器 環	口縁部 1/4	口徑 残存高	14.0 口縁部「C」の字状を呈する。器内やや薄い。外表面方向の 12.8へラ削り。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	指圧褐色	カマド
5	粗唐 瓦	底部	底径	6.9 高台形、底内部、外面、周縁部ケズリ。底部内面ロクロ底 残す。	無	良好	灰色	ピット 埋蔵用

80号住居址 (第96図 図版11-2 表62)

本址は調査区南側X144・145、Y105グリッドで検出された。主軸方向・規模等は不明である。壁高は北側で5cm。床面は北側の一部のみ検出されており、やや凹凸がある。

ピットは検出されなかった。壁構造は北側のみに検出された。カマドは不明であるが、北側に焼土の分布が認められる。

出土遺物は砾石1点である。



第96図 80号住居址出土遺物

表62 80号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形・成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	石製品 砾石	完形	長さ 9.1	圓形口を再利用し、4面に使用痕が認められる。	無			床面

81号住居址 (第97・98図 図版11-3・23 表63)

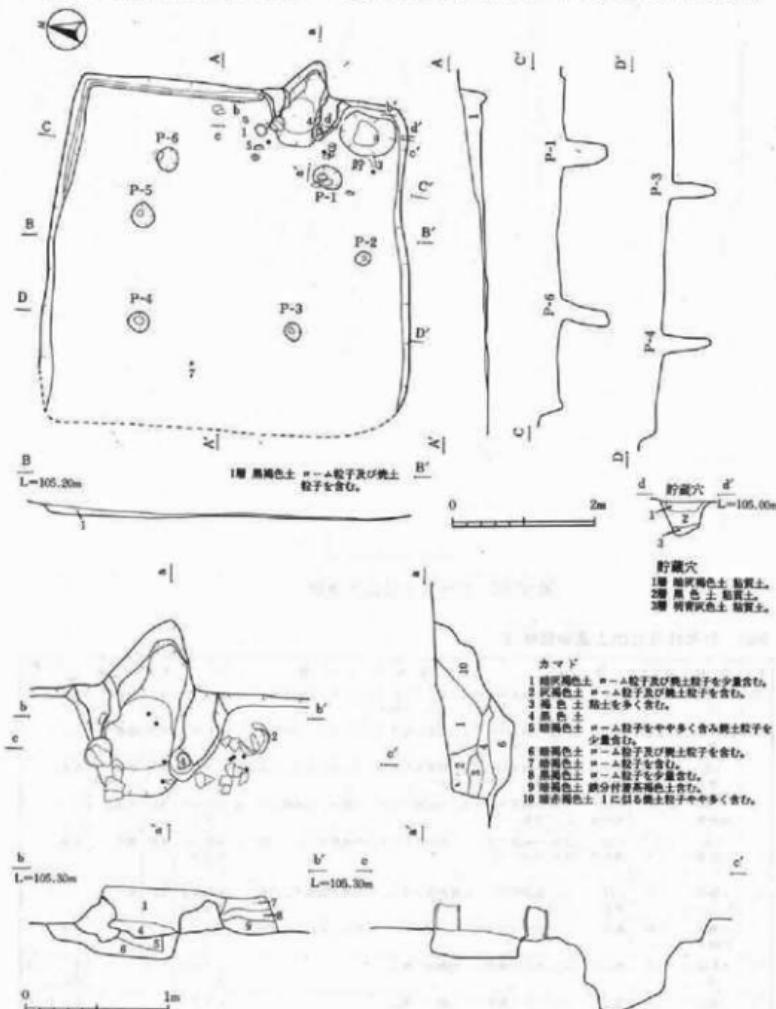
本址は調査区南側X144・145、Y107・108グリッドで検出された。主軸方向はN-96°-Eである。規模は南北で5.0mを計り、方形を呈するものと思われる。壁高は東側で30cm。床面はほぼ平坦で、踏み固めが認められる。

南東側壁際には貯藏穴があり、ピットは6基検出されている。そのうちP-1、P-3、P

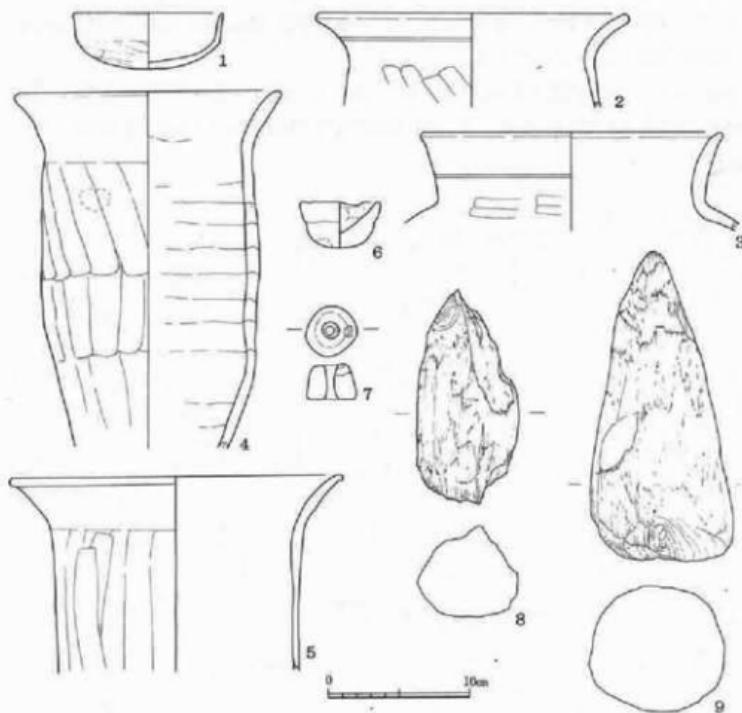
- 4, P-5は主柱穴である。壁溝は北東側隅角で検出されている。

カマド 東壁中央南寄りに位置する。袖は粘土で構築され、先端部には長胴妻が置かれている。壁外への掘り込みは40cmである。

遺物はカマド・貯蔵穴付近を中心にやや多く出土している。P-1, P-4の下部からは柱に使用したと思われる木材が出土している。木材は鑑定の結果クヌギであることが判明した。



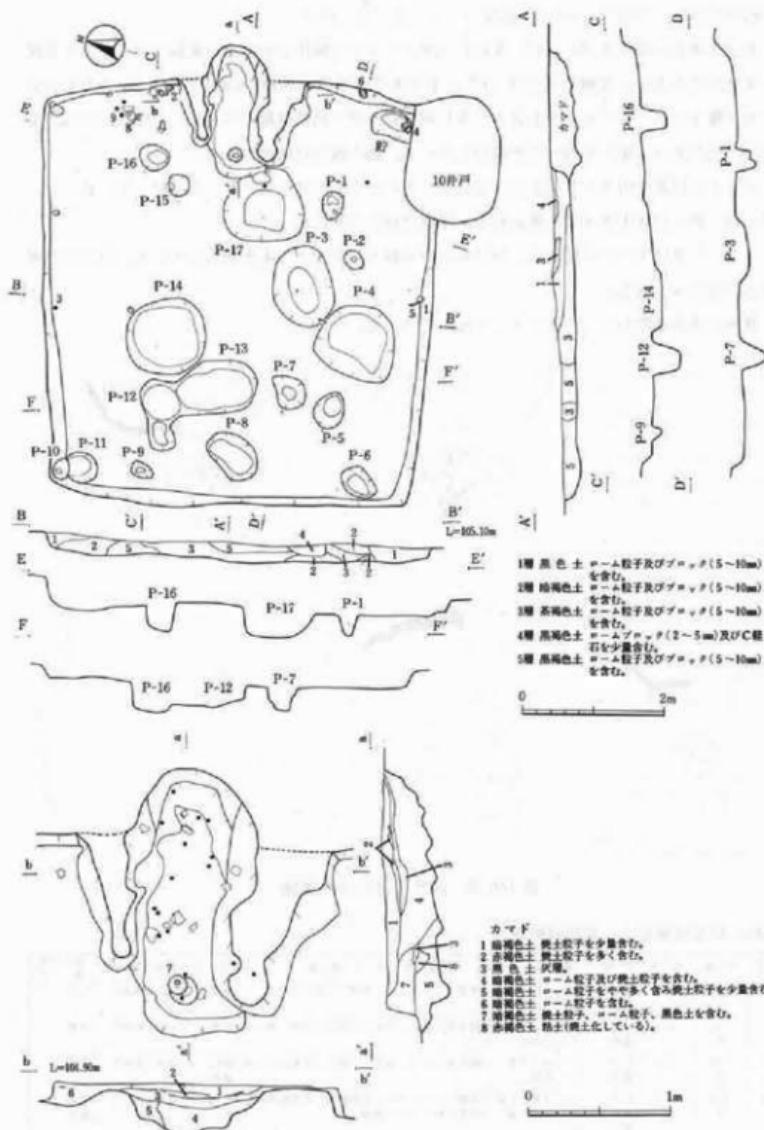
第97図 81号住居址



第98図 81号住居址出土遺物

表63 81号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量(cm)	器形、底・蓋形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土器 环	1/3	口径 4.0 高 10.4	口縁部後を折り、直立ぎみに立ち上がり、口唇部外反ぎみ に見える。外縁へテナリ、内面ナデ。	緻密 良好		褐色	床着
2	土器 甕	口縁部 4/5	口径 5.6 残存高 21.9	口縁部外反する。長胴を呈するとと思われる。外面斜方向の へタ削り、内面ナデ。			褐色	カマド
3	土器 甕	1/2	口径 7.0 残存高 21.1	口縁部外反する。胴部球形を呈するとと思われる。外面斜方 向のへタ削り、内面ナデ。			褐色 内面黒度	床着
4	土器 長胴甕	底部欠 合	口径 25.5 残存高 19.0	口縁部外反する。外面斜方向のへタ削り。内面輪すみの接 合部、ナデ。			褐色	カマド
5	土器 長胴甕	上半部 2/3	口径 14.0 残存高 23.6	口縁部外反し、口縁部折り返す。外面斜方向のへタ削り、 内面ナデ。			褐色	床着
6	土製品 手づくね	1/2	口径 3.3 高 5.5	底部肥厚し、口縁部直立する。外面擦痕有り。内面ナ デ。			褐色	カマド
7	石製品 砂輪車	完形	底径 3.6	穿孔は両方向から。肩部にも小孔ある。礫石の再利用。				床着
8	木製品 柱	一部	残存長 15.0	保存状態悪い。円錐状に残る。	クヌギの 木			P-4の底 部出土。
9	木製品 柱	一部	残存長 22.0	保存状態悪い。円錐状に残る。	クヌギの 木			P-3の底 部出土。



第99図 82号住居址

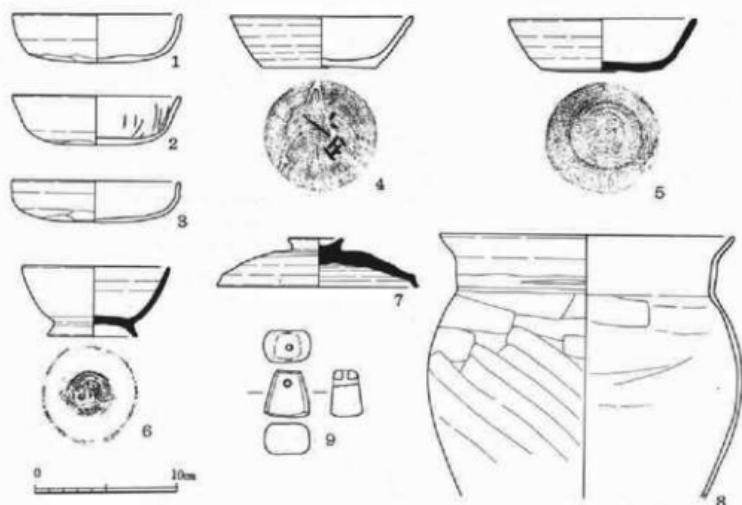
82号住居址 (第92・100図 図版11-4・22・23 表64)

本址は調査区南側X142・143, Y107・108グリッドで検出された。南東側で10号井戸と重複し本址の方が古い。主軸方向はN-67°-Eである。規模は長軸6.1m、短軸5.6mで方形を呈する。覆土はロームブロックを含み、本住居址群中唯一自然堆積を示さない。壁高は±25cm。床面は凹凸があり、東から西へやや傾斜している。踏み固めは軟弱である。

ピットは17基検出されているが、主柱穴と思われるものはない。P-3, P-7, P-8, P-12, P-13は床下土坑と思われる。壁溝は検出されなかった。

カマド 東壁中央に位置する。袖は地山の砂質ロームをそのまま利用している。壁外への掘り込みは50cmである。

遺物は東側壁際からややまとまって出土している。



第100図 82号住居址出土遺物

表64 82号住居址出土遺物観察表

番号	器種	深さ(度)	法量(cm)	器形・底形・特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土器 平底 耳	1/2	口径 3.5 壁高 3.5	ほぼ平底。口縁部や外反する。外面ヘラ削り。内面ナ ジテ。	緻密	良好	灰褐色	床着
2	土器 平底 耳	2/3	口径 3.5 壁高 3.5	ほぼ平底。口縁部外反する。外面ヘラ削り。内面一帯に培 土状の「ガキ」、ナデ。	緻密	良好	灰褐色	床着
3	土器 平底 耳	2/3	口径 3.0 壁高 3.0	ほぼ平底。口縁部直線的に外反する。底邊横張。外面底部回転 ナシ。	砂粒を少 量含む。	良好	灰褐色	床着
4	土器 平底 耳	4/5	口径 3.7 壁高 5.0	平底。口縁部直線的に外反する。底邊横張。外面底部回転ヘラ削り調整。	赤色粒を 含む。	良好	灰褐色	床着 墨書
5	陶器 平底 耳	1/2	口径 3.6 壁高 8.4	平底。口縁部外反する。ヨコヨコ形。外面底部回転ヘラ削り 後、周縁部回転ヘラ削り調整。	石粒を少 量含む。	良好	灰褐色	床着

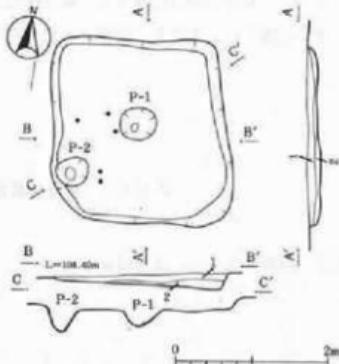
番号	器種	遺存部	法量 (cm)	器形・成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
6	瓶底	4/5	口径 10.6 器高 5.0 残径 6.4	口縁内両耳みに立ち上がり、やや外反する。底部回転木 切り後、付高台。内、外擦ケズ。	石粉を含む。	良好	青灰色	裏土
7	瓶底	13/14完形	口径 14.4 器高 3.5	つまみやや小さく、造りを持たない。マツロ整形。天井部 中央回転へ？残り。	石粉を少 量含む。	良好	灰白色	カマド
8	土師壺	口縁部 1/3	口径 21.0 残存高 18.7	口縁部「コ」の字状を呈する。器内や薄い。外表面上方の、中軸方向のヘラ削り。口縁部に擦痕残す。内 面ヘラ削り。ナダ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	床着
9	石製品	完形	長さ 3.3	孔が3方に開められる。小形で全面に使用。	無灰岩			床着

83号住居址 (第101図 図版11-5)

本址は調査区南側X144, Y109グリッドで検出された。11号掘立と重複し本址の方が古い。主軸方向はN-81°-Eである。規模は長軸2.4m、短軸2.3mではほぼ正方形を呈する。壁高は15cm。床面はやや凹凸があり、踏み固めは軟弱である。

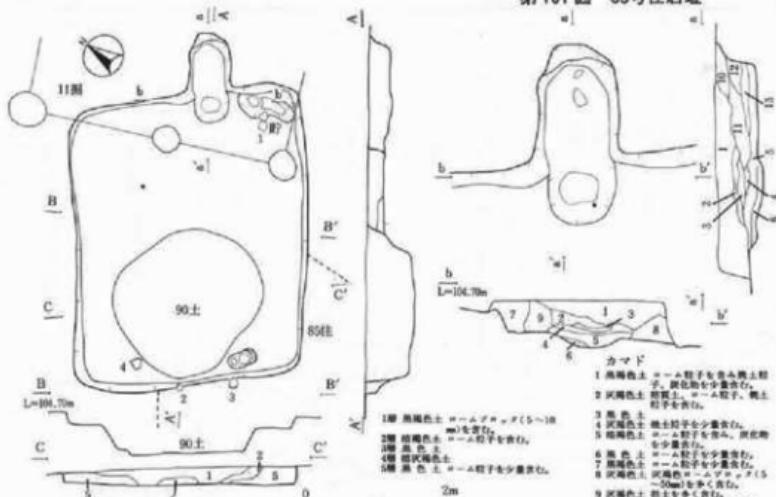
ピットは南西側に1基検出されている。壁溝・カマドは検出されなかった。

遺物はほとんど出土していない。



1層 灰褐色土・無土粒子・FPを微量に含む。
2層 灰褐色土・粘質土質、糞分の沈殿がわずかに見られる。

第101図 83号住居址



第102図 84号住居址

84号住居址 (第102・103図 図版11-6・22 表65)

本址は調査区南側X142・143, Y110・111グリッドで検出された。11号掘立柱建物址・85号住居址・90号土塙と重複し、11号掘立柱建物址・90号土塙より古く、85号住居址より新しい。主軸方向はN-58°-Eである。規模は長軸4.2m、短軸3.3cmで方形を呈する。壁高は25cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは軟弱である。

南東側壁際には浅いピットが1基検出されている。壁溝はない。

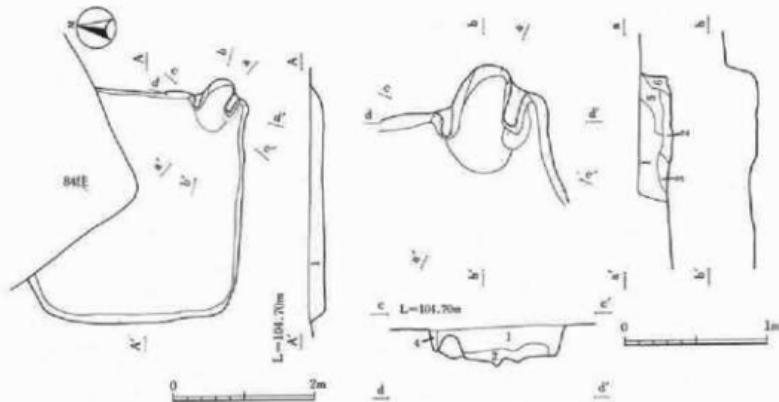
カマド 東壁中央に位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは80cmである。遺物は覆土中・床着共に少量ずつ出土している。



第103図 84号住居址 出土遺物

表65 84号住居址出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土器 环	ほぼ完形	口径 器高	12.5 3.5 cm	丸底。口縁部直立する。外面へテ割り。内面ナデ、指圧	砂粒を少 量含む。	良好	褐色 床着
2	土器 环	3/4	口径 器高	12.2 3.0 cm	ほぼ平底。口縁部や外反する。外面へテ割り。内面ナ デ、指圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色 床着
3	土器 环	3/4	口径 器高	12.2 3.0 cm	ほぼ平底。口縁部直立する。外面へテ割り。内面ナデ、指 圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色 床着
4	漆器 蓋	一部欠	口径 器高	14.1 2.8 cm	かぶりを持たない。つまみや小形。ロコ彫形。外面天 井部中央凹削へテ割り。	石粒を少 量含む。	良好	褐色 床着



1号 暗褐色土 C器石を含み、F器・漆土器を
多少量含む。

第104図 85号住居址

- 1 暗褐色土 ○ -ム粒子、地上粒子を含む。
- 2 暗褐色土 地上粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 地上粒子をやや多く含む。
- 4 暗褐色土 ○ -ム粒子を多量含む。
- 5 暗褐色土 地上粒子を多く含む(褐色)
- 6 暗褐色土 ○ -ム粒子を少量含む。

85号住居址 (第104図 図版11-6)

本址は調査区南側X142・143, Y111グリッドで検出された。84号住居址と重複し本址の方が古い。主軸方向はN-107°-Eである。規模は東西3.3mで方形を呈すると思われる。壁高は20cm。床面は平坦で踏み固めはやや認められる。

ピット・壁溝等は検出されなかった。

カマド 南東側隅角に位置する。袖は灰褐色粘土で構築されている。壁外への掘り込みは30cmで急激に立ち上がる。

遺物はほとんど出土していない。

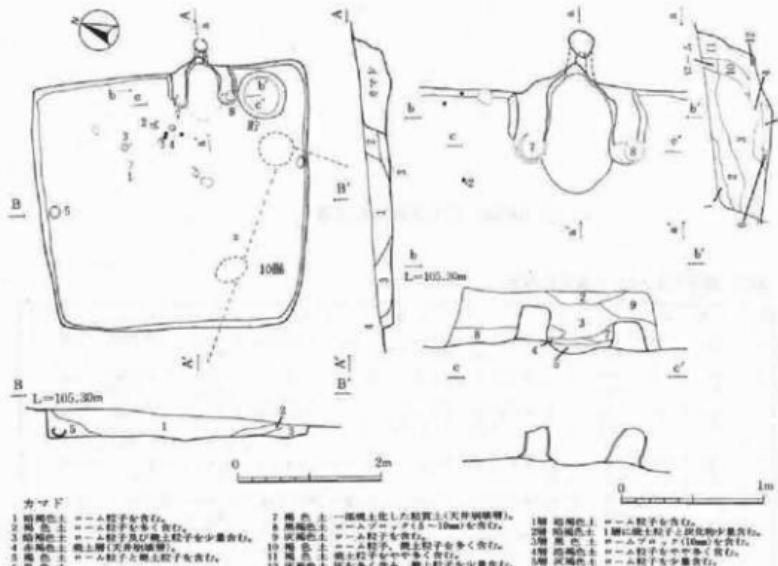
86号住居址 (第105・106図 図版11-7・22 表66)

本址は調査区南西側X140・141, Y105・106グリッドで検出された。10号掘立柱建物址と重複し、本址の方が古い。主軸方向はN-66°-Eである。規模は長軸3.8m、短軸3.6mで方形を呈する。壁高は40cm。床面はほぼ平坦で踏み固めが認められる。

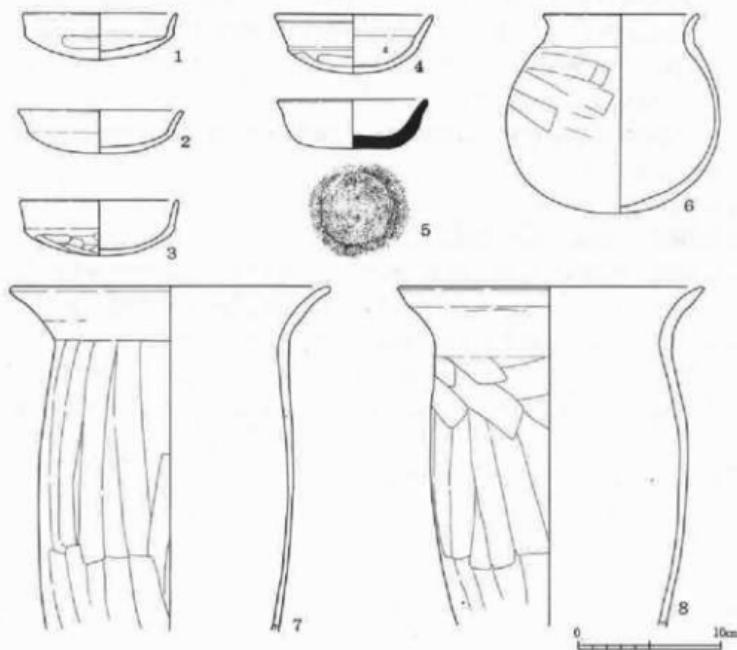
南東側壁際には貯藏穴がある。壁溝は検出されなかった。

カマド 東壁中央南寄りに位置する。袖は灰褐色粘土で構築され、先端部には長胴甕が利用されている。天井部は地山のロームで一部残っている。壁外への掘り込みは30cmである。

遺物はカマド及びその周辺からやや多く出土している。



第105図 86号住居址



第106図 86号住居址出土遺物

表66 86号住居址出土遺物観察表

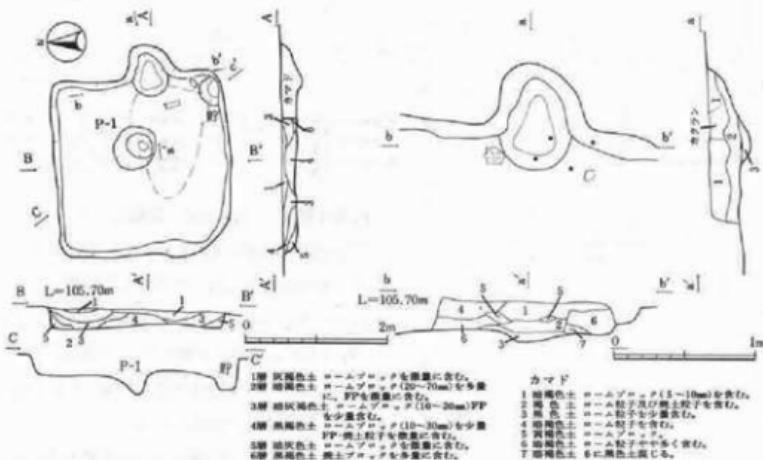
番号	器種	遺存度	法量(cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土器 杯	完形	口径 器高 3.8 3.3	口縁部腹を持ち、直立ぎみに立ち上がり。口唇部外反ぎみになる。外蓋へラ削り。内面ナグ。	石粒を少 量含む。	良好	褐褐色。	床着
2	土器 杯	完形	口径 器高 3.1	口縁部腹を持ち、外反する。外蓋へラ削り。内面ナグ。	石粒を少 量含む。	良好	褐褐色。	床着 外蓋黒斑
3	土器 杯	完形	口径 器高 4.0	口縁部腹を持ち、直立ぎみに立ち上がり。口唇部外反ぎみになる。外蓋へラ削り。内面ナグ。	無	良好	褐褐色。 内・外面 黒斑あり。	床面
4	土器 杯	完形	口径 器高 4.2	口縁部腹を持ち、外反する。外蓋へラ削り。内面ナグ。	砂粒を含 む。	良好	にじい褐色	床着 一色
5	亂形	未決定形	口径 器高 4.5	口縁部外反する。器肉厚い。ロコモ形態。底部、回転へラ 切り。	石粒を少 量含む。	灰色	床着	
6	土器 小形壺	完形	口径 器高 14.2	胴部球形を呈する。底部丸底。外面腹方向へテ削り。底 部へラ削り。内面ナグ。	砂粒を含 む。	良好	赤褐色	床着
7	土器 長颈壺	底埋欠	口径 機存高 24.5	口縁部強く外反する。外面縦方向へラ削り。内面ナグ。	砂粒・雲 母を含む	良好	褐褐色	カマド焼材
8	土器 長颈壺	底埋欠	口径 機存高 24.2	口縁部外反する。外面胴上部横方向の、他は縦方向のヘラ 削り。内面ナグ。	石粒を少 く含む	良好	褐褐色	カマド焼材

87号住居址 (第107図 図版11-8)

本址は調査区南西側X138、Y102グリッドで検出された。主軸方向はN-81°-Eである。規模は長軸2.6m、短軸2.5mではば正方形を呈する。壁高は30cm。床面はカマド付近は良好踏み固められている。他はやや凹凸があり、踏み固めは軟弱である。

南東側壁際には貯蔵穴があり、中央にピット1基が検出されている。壁溝はない。

カマド 東壁中央やや南寄りに位置する。袖は検出されなかった。壁外への掘り込みは40cm。遺物は覆土中・床着共にほとんど出土していない。



第107図 87号住居址

88号住居址 (第108図 図版10-1 表67)

本址は調査区南側X147・148、Y105・106グリッドで検出された。70号住居址と重複し本址の方が新しい。主軸方向はN-85°-Eである。規模は長軸4.4m、短軸3.3mで方形を呈する。壁高は北側で35cm。床面はほぼ平坦で踏み固めは軟弱である。

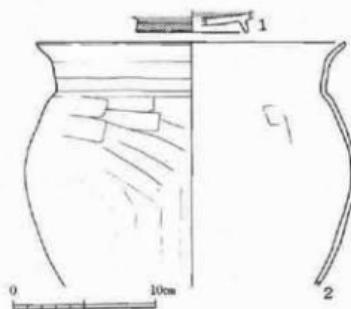
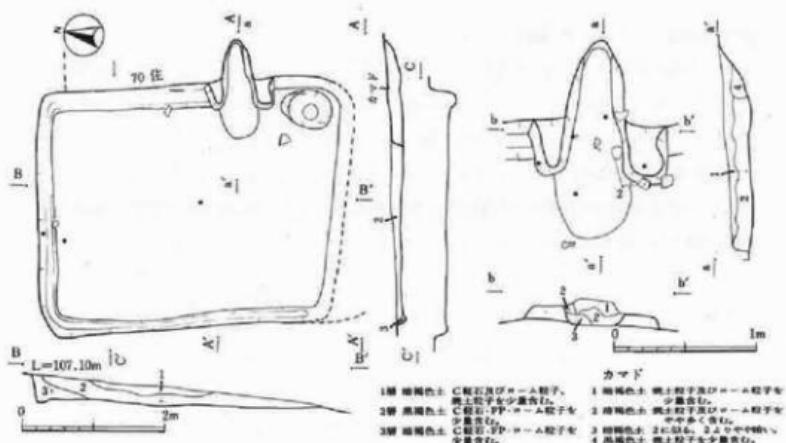
南東側壁際には貯蔵穴がある。壁溝はカマド・貯蔵穴付近を除いて回ると思われるが、南側は斜面のため不明である。

カマド 東壁中央南寄りに位置する。袖は粘土で構築されている。壁外への掘り込みは60cm。

遺物は覆土中・床着共に少量ずつ出土している。

表67 88号住居址出土遺物観察表

番号	部 構	遺存度	法 量 (cm)	器 形、成・整 形 の 特 徴	袖 土	袖 成	色 調	出土位置
1	灰陶陶器 环	底部 1/3	残存高 1.0 底径 8.0 抜け挿し	高台付。底の可能性あり。底部回転あたり後、付高台付。	緻密	良好	灰白色	床着
2	土器 甕	1/4	口径 22.0 残存高 17.5	口縁部「J」の字状を呈する。外面背面横方向の、胴部斜傾方向のヘラ削り。内面ヘラ削動、口縁部指正絞。	緻密	良好	深褐色	カマド



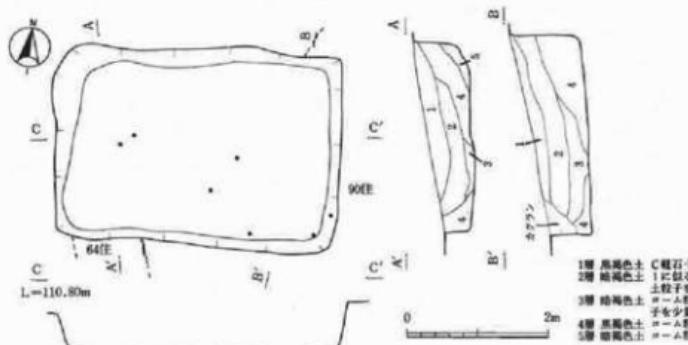
第108図 88号住居址・出土遺物

89号住居址 (第109図 図版12-1)

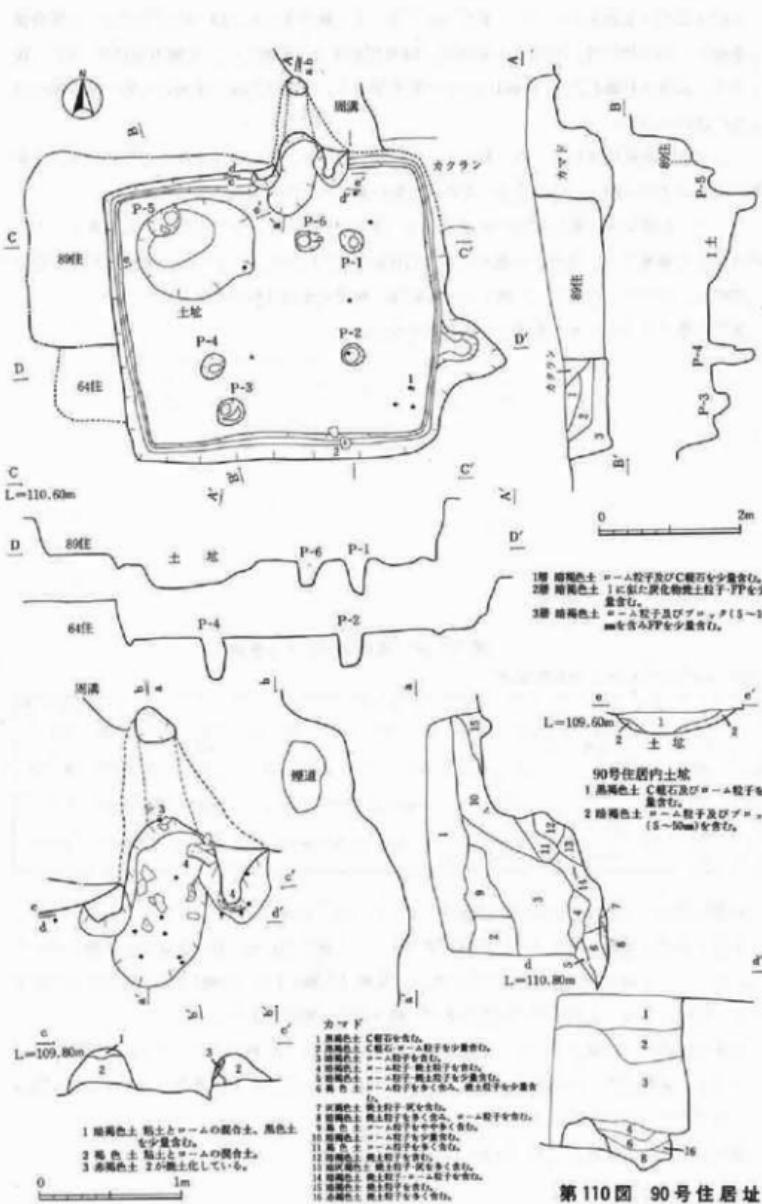
本址は調査区東側X155・156、Y97・98グリッドで検出された。64・90号住居址と重複し、いずれも本址の方が新しい。主軸方向はN-12°-Wである。規模は長軸4.2m、短軸2.7mで長方形を呈する。壁高は北側で70cm。床面はほぼ平坦で踏み固めが認められる。

貯藏穴・ピット・壁溝・カマドは検出されなかった。

遺物は少量出土している。



第109図 89号住居址



第 110 図 90号住居址

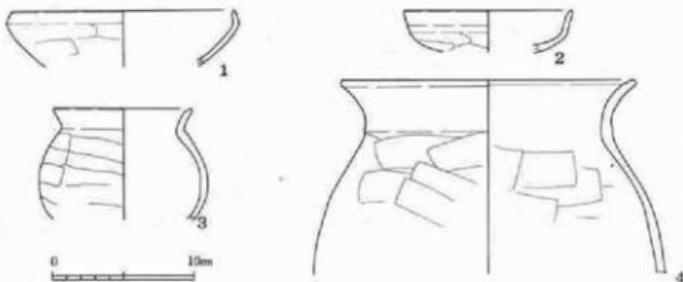
90号住居址 (第110・111図 図版12-1 表68)

本址は調査区東側X156・157, Y97・98グリッドで検出された。64・89号住居址、古墳周溝と重複し、89号住居址、周溝よりも古く、64号住居址よりも新しい。主軸方向はN-12°-Wである。規模は長軸4.7m、短軸4.3mで方形を呈する。壁高は70cm。床面は平坦で踏み固めは全体に認められる。

ピットは6基検出されている。P-1, P-3, P-4, P-6が主柱穴と思われる。北東側にはやや大形の掘り込みがある。壁高は北側の新カマド付近を除いて回る。

カマド 北壁中央と東壁南側で検出された。北側のものが新カマドと思われる。新カマドの袖は粘土で構築され、壁外への掘り込みは120cmでなだらかに立ち上がる。煙道部分は天井が一部残る。旧カマドの壁外への掘り込みは60cm。袖等の施設は検出されなかった。

遺物は覆土中にやや多く集まり、床着は少ない。



第111図 90号住居址出土遺物

表68 90号住居址出土遺物観察表

番号	器種	深さ	法量 (cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土器 片	1/5	口径 残存高	丸底。口縁部後を有し、内傾する。外面へラ削り。内面ナ ジ。	砂粒少 量含む。	良好	褐色	床着
2	土器 片	1/5	口径 残存高	丸底。口縁部2段の腰を有し、やや外反する。外面へラ削 り。内面ナジ。	砂粒少 量含む。	良好	褐色	壁下部
3	土器 小片	1/3	口径 残存高	口縁部外反する。外面横方向のヘラ削り。内面ナジ。	緻密	良好	褐色	新カマド
4	土器 片	1/3	口径 残存高	口縁部外反する。蝶形の脚部、外縁上部横方向のヘラ削 り。内面へラ削り。ナジ。	石粒多 く含む。	良好	褐色	新カマド

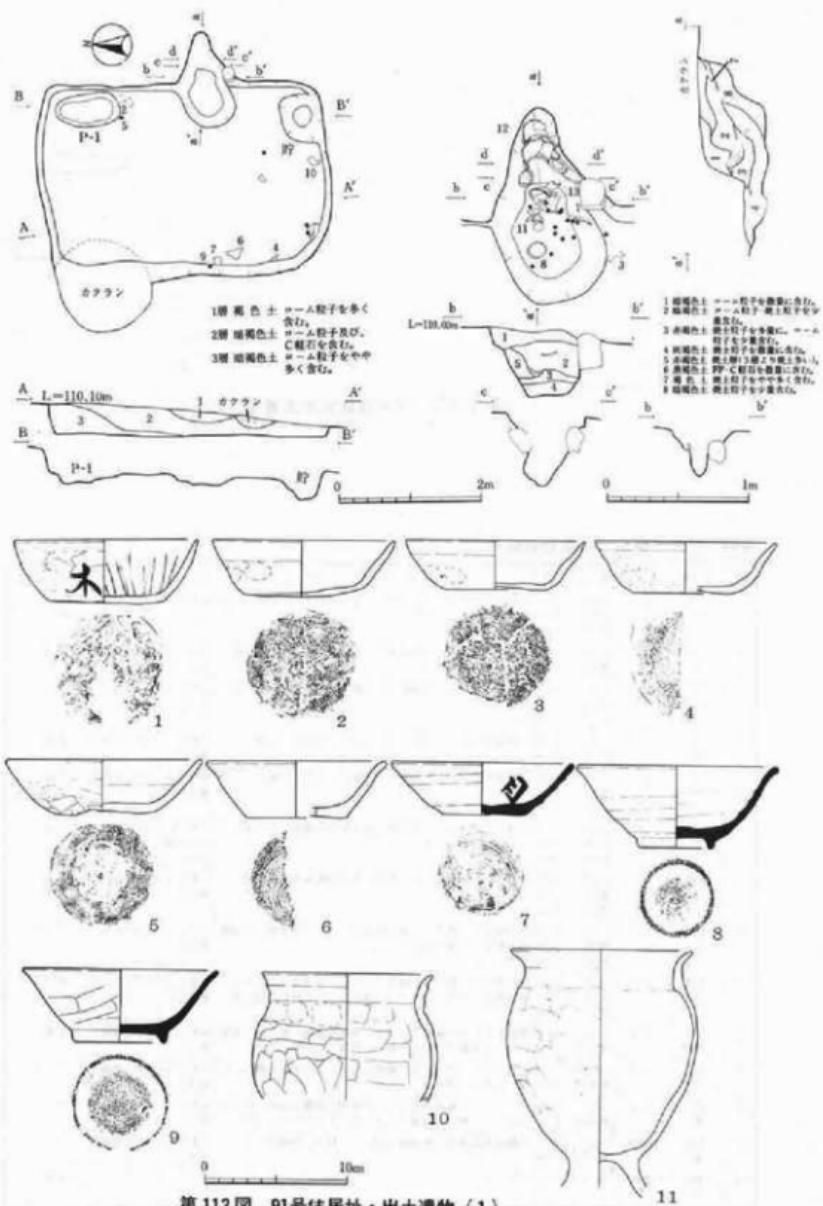
91号住居址 (第112・113図 図版12-2・22・23 表69)

本址は調査区東側X153・154, Y98・99グリッドで検出された。43号住居址と重複し本址の方が新しい。主軸方向はN-86°-Eである。規模は長軸4.1m、短軸2.8mで横長長方形を呈する。壁高は35cm。床面はやや凹凸があり、踏み固めは軟弱である。

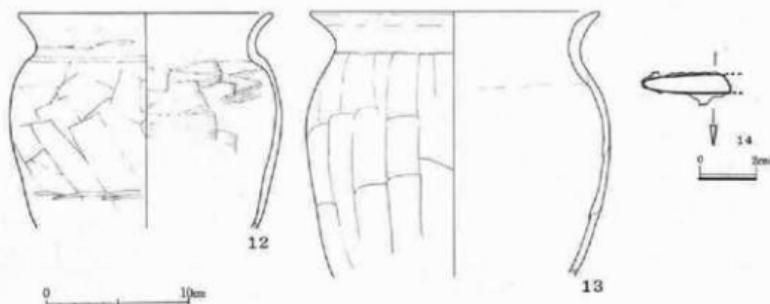
南東外壁際には貯蔵穴があり、他に浅い皿状のピット1基が検出されている。壁溝はない。

カマド 東壁中央に位置する。石組のカマドであったと思われる。壁外への掘り込みは70cmで、段を有して立ち上がる。

遺物は覆土中、床着共に多く出土している。



第112図 91号住居址・出土遺物 (1)



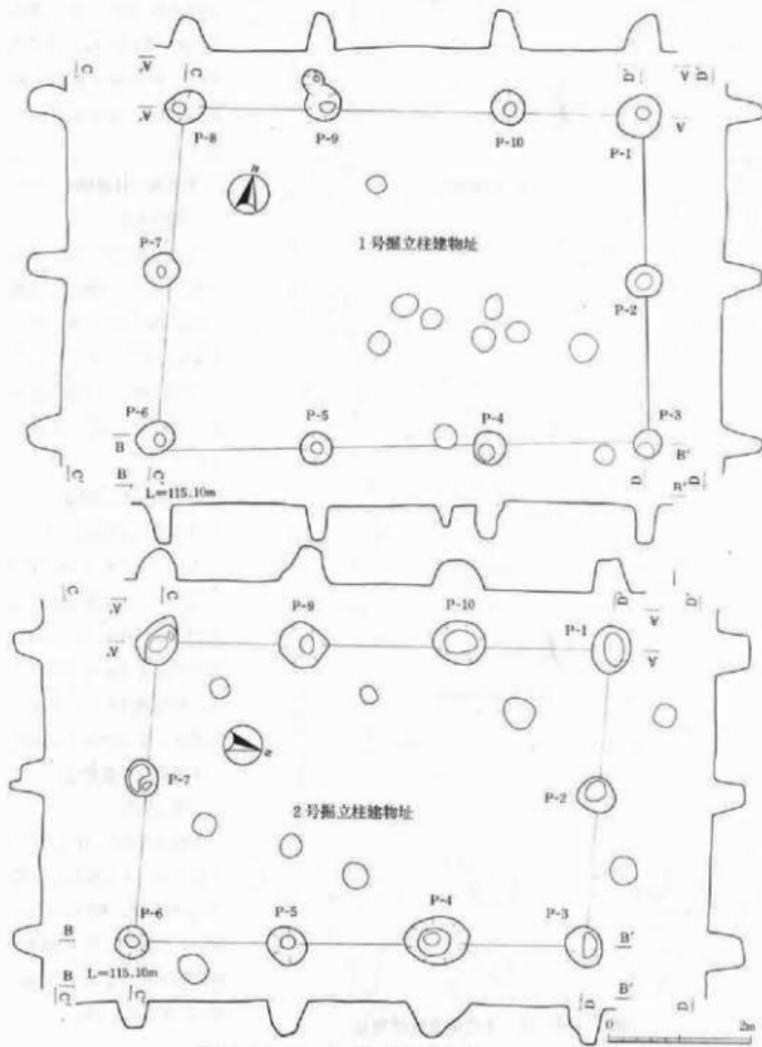
第113図 91号住居址出土遺物(2)

表69 91号住居址出土遺物観察表

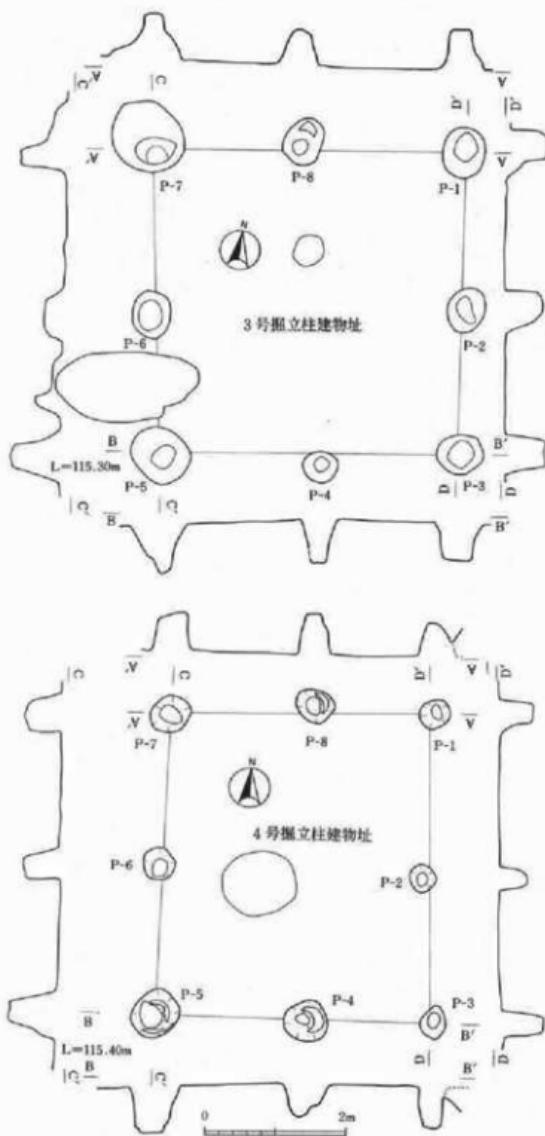
番号	器種	遺存度	法量(cm)	器形・底・輪郭の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	
1	土器 环	4/5	口径 器高 底径	13.1 4.5 8.2	口縁部外反する。外面底部へラ削り。内面ナデ。指圧痕。	砂粒を含む。	良好	赤褐色	カマド 墨書き
2	土器 环	4/5	口径 器高 底径	13.0 4.0 内面ナデ。	口縁部外反する。外面底部へラ削り。外側ナデ。指圧痕。	砂粒を少 量含む。	褐色	床着	
3	土器 环	2/3	口径 器高 底径	12.8 3.5 7.2	口縁部外反する。外面底部へラ削り。外側ナデ。指圧痕。	砂粒を少 量含む。	褐色	床着	
4	土器 环	1/3	口径 器高 底径	13.0 3.7 内面ナデ。	口縁部外反する。外面底部へラ削り。指圧痕。内面ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	床着
5	土器 环	2/2	口径 器高 底径	13.7 3.7 7.3	口縁部外反する。外面底部へラ削り。内面ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	床着
6	土器 环	1/3	口径 器高 底径	12.4 4.1 6.8	口縁部外反する。外面底部回転未切り未調整。内面ナ デ。	砂粒・石 粒を少量 含む。	褐色	褐色	床着
7	瓦		口径 器高 底径	12.7 3.7 6.0	口縁部外反する。口縁部整形。底部回転未切り無調整。	石粒を少 量含む。	良好	灰色	床着 墨書き
8	瓦	変形	口径 器高 底径	14.0 5.9 5.4	高台部凹く直立。口縁部外反する。口縁部整形。外面底 部切欠き後材高台。	石粒を少 量含む。	良好	褐色	カマド
9	瓦	2/3	口径 器高 底径	13.6 5.2 6.4	高台部凹く直立。口縁部外反する。外面底部切欠き後 材高台。内面ナデ。赤色塗料一部付着。	砂粒を少 量含む。	灰白色	床着	
10	土器 小形便	1/4	口径 残存高	12.0 9.0	瓶頭しまり、口縁部外反する。外面底部指圧痕。頂上部横 方向。中底部方向へのラ削り。内面ナデ。ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	床着
11	土器 古付便	3/4	口径 残存高	13.0 17.5	口縁部凹く外反する。脚部造形「く」の字状に開く。外 面ナデ。脚部ナド。内面ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	カマド
12	土器 便	1/4	口径 残存高	18.2 15.3	肩がはり、口縁部外反する。外表面側上部横方向の、中底部横 方向へのラ削り。内面小口状工具によるケズリ、ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	カマド
13	土器 便	底付欠	口径 残存高	20.6 18.9	口縁部外反する。外面底部方向へのラ削り。内面ナデ。	石粒を少 量含む。	良好	褐色	カマド
14	鉄製品 刀子	先端部のみ	残存長	3.2	刃身のみ				床着

第2項 据立建物址

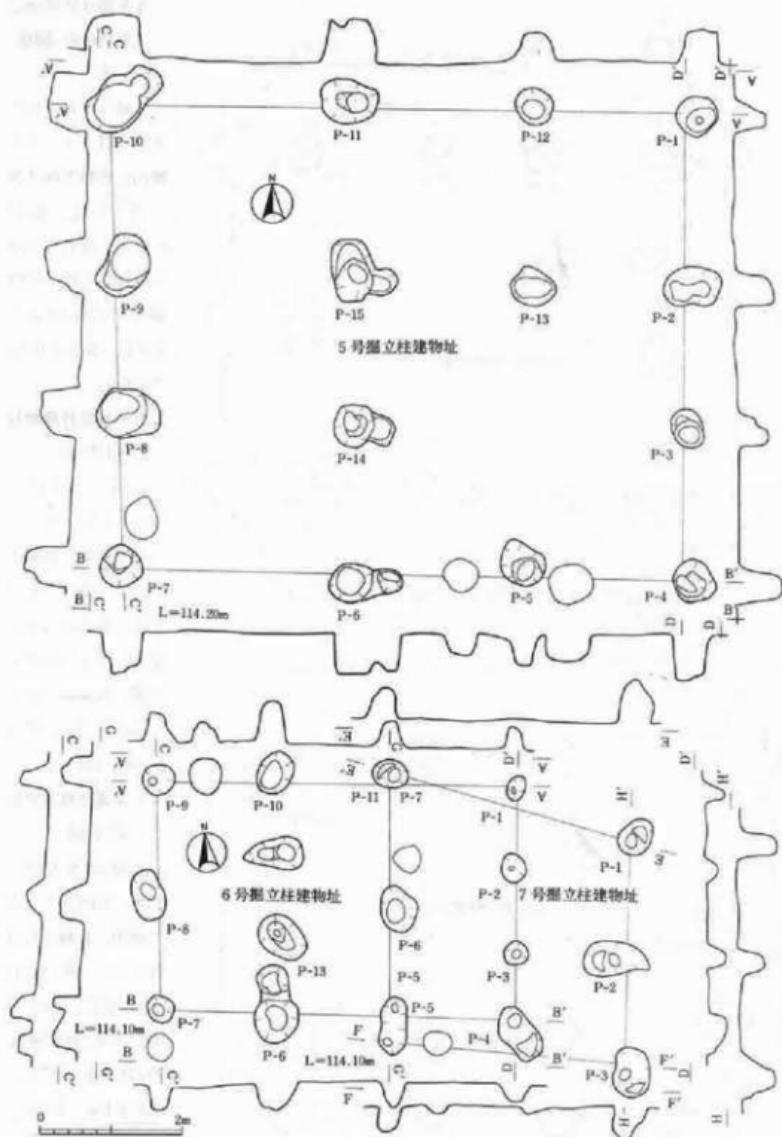
13棟が検出されている。1号と2号、3号と4号、5号と8号は互いに近接し、同一時期の建物址の可能性が強い。



第114図 1・2号据立柱建物址



第115図 3・4号掘立柱建物址



第116図 5・6・7号据立柱建物址

5号掘立柱建物址

(第116図 図版

12-5)

本址はX45~147、
Y76~77グリットで
検出。長軸方向はN
- 5° - E。桁行
8.05m、梁行6.55m
の3間×3間。柱間
隔は桁行2.25m~
3.3m、梁行2.05m
~2.5m。

6号掘立柱建物址

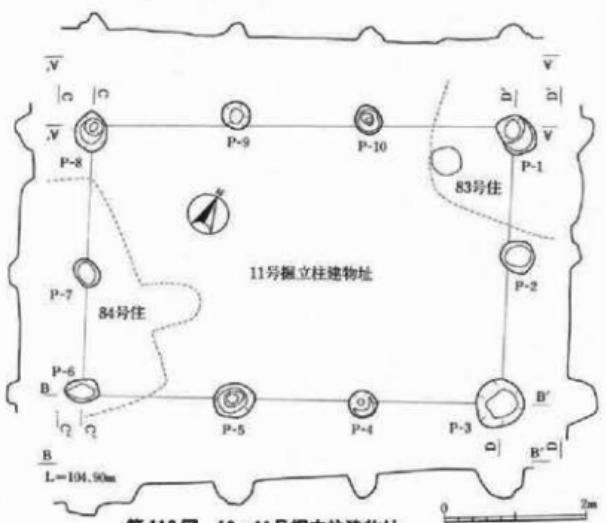
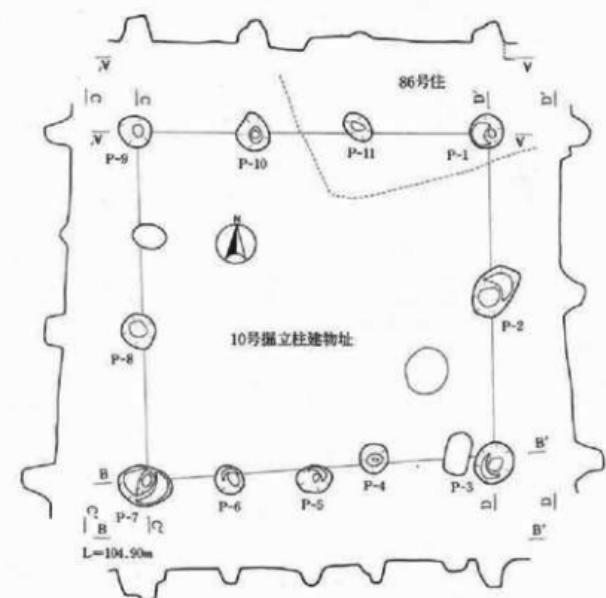
(第116図)

本址はX148~
149、Y79~80グリ
ッドで検出。長軸方
向はN - 8° - Eで
ある。桁行3.5m、
梁行3.4mの3間×
2間。柱間隔は桁行
1.5m~1.7m、梁行
1.2m~1.7m。

7号掘立柱建物址

(第116図)

本址はX147~
149、Y79グリッド
で検出。長軸方向は
N - 82° - W。桁行
5m、梁行3.3mの2
間×2間。柱間隔は
桁行1.5m~1.7m、
梁行1.0m~1.7m。
掘り方には炭化物、
焼土が検出された。



第118図 10・11号掘立柱建物址

8号掘立柱建物址

(第117図 図版12-6)

本址はX 145・146, Y 78・79グリッドで検出。長軸方向はN=0°。桁行5.55m、梁行4.55mの2間×2間。柱間隔は桁行2.75~2.9m、梁行2.2m~2.35m。

9号掘立柱建物址

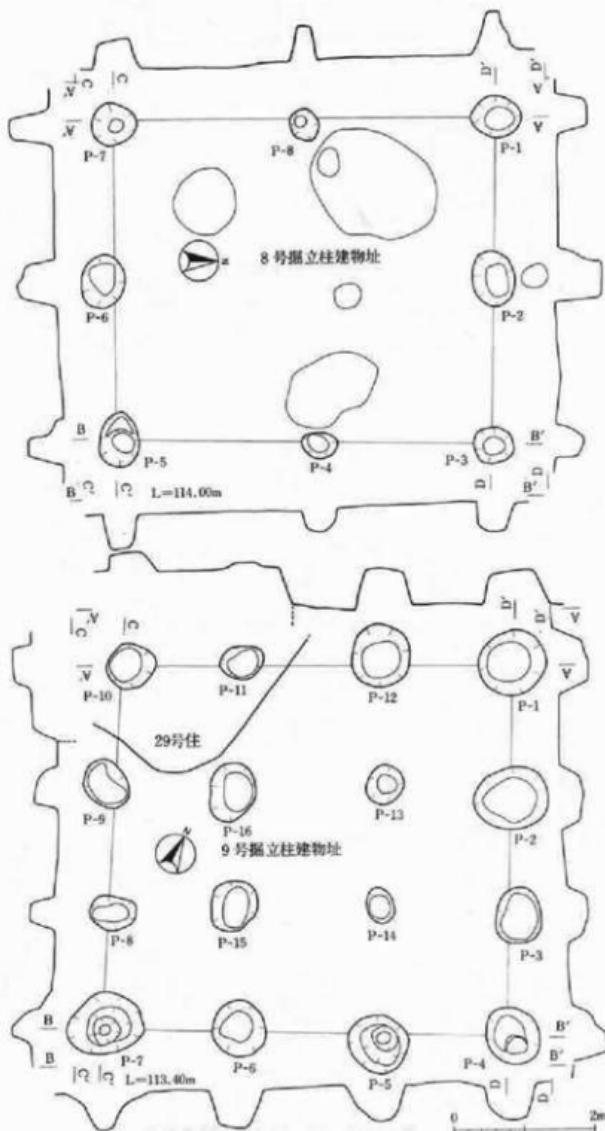
(第117図 図版12-7)

本址はX 155~157, Y 85~87グリッドで検出。長軸方向はN=70°~E。桁行5.65m、梁行5.25mの3間×3間の矩柱である。西側で29号住居址と重複し、本址の方が古い。柱間隔は桁行1.15m~2.05m、梁行1.7m~1.8m。

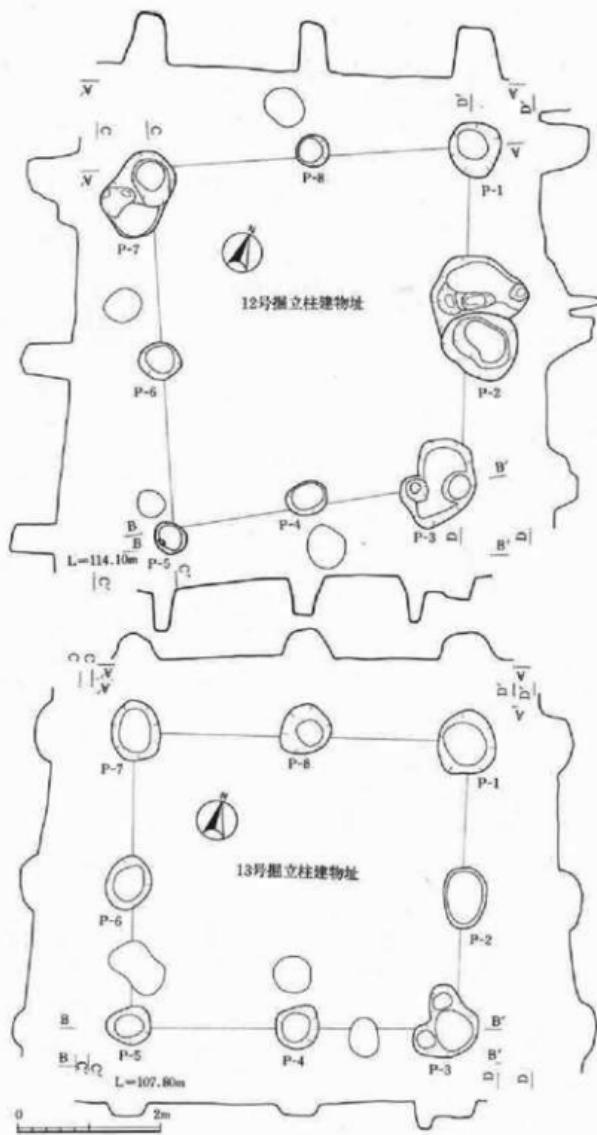
10号掘立柱建物址

(第118図 図版12-8)

本址はX 139・140, Y 105~107グリッドで検出。長軸方向はN=87°~E。桁行5m、梁行4.80mの2間×3間。柱間隔は桁行1.2m~2.0m、梁行2.2m~2.3m。



第117図 8・9号掘立柱建物址



第119図 12・13号据立柱建物址

11号据立柱建物址

(第118図)

本址は X 148・
149, Y 109~111 グリッドで検出。83・
84号住居址と重複し、本址の方が新し
い。長軸方向は N-
68° - E. 桁行 6 m、
梁行 3.9 m の 4 間 ×
3 間。柱間隔は桁行
1.9 m ~ 2.15 m、梁
行 1.65 m ~ 2.2 m。

12号据立柱建物址

(第119図)

本址は X 154・
155, Y 82~84 グリッドで検出。長軸方
向は N-30° - W.
桁行 5 m、梁行 4.3
m の 2 間 × 2 間。柱
間隔は桁行 1.85 m ~
2.9 m、梁行 1.9 m ~
2.2 m。

13号据立柱建物址

(第119図)

本址は X 153・
154, Y 104 グリッドで検出。長軸方向は
N-76° - E. 桁行 5.3
m、梁行 4.9 m の 2
間 × 2 間。柱間隔は
桁行 2 m ~ 2.2 m、
梁行 2.2 m ~ 2.3 m。

第3項 井 戸 (第120・121・135図 図版13-1~6・24 表70・71)

12基検出されている。1・2・13号井戸以外は南側の湧水地区に集まる。

表70 井戸一覧表

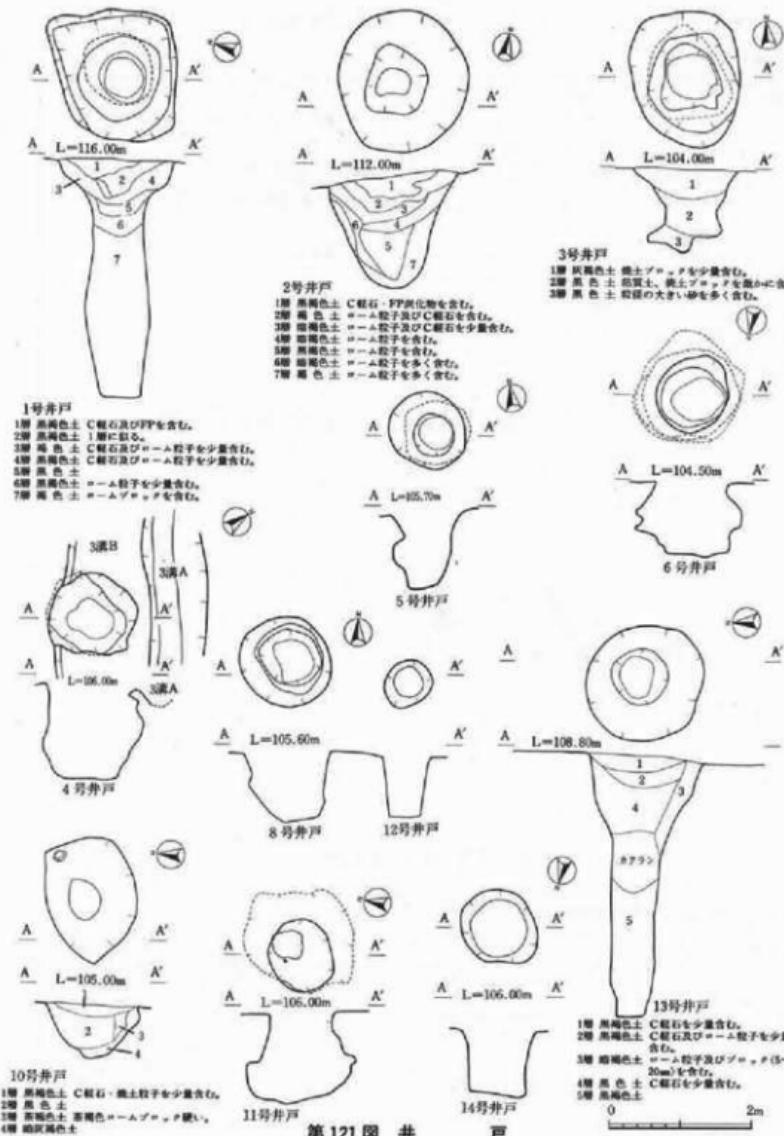
番号	検出ブリュ	平面形	周長(m) 井深(m)		深度(cm)	備 考
			内	外		
1	X155, Y 66	円 形	1.2	1.2	3.3	調査区北東側、単独で検出。
2	X135, Y 77	円 形	2.0	1.8	1.6	
3	X143, Y 112	椭 圆 形	2.0	1.5	1.1	木片(井戸枠)出土。
4	X147, Y 106	円 形	1.2	1.3	1.3	3号溝と重複し本井戸の方が古い。
5	X154, Y 109	円 形	1.1	1.1	1.2	
6	X142, Y 110	椭 圆 形	1.4	1.6	1.0	墨書き土器出土。
8	X153, Y 109	円 形	1.3	1.3	1.0	
10	X143, Y 106	椭 圆 形	1.3	1.8	0.7	木片出土。
11	X142, Y 111	円 形	1.6	1.5	1.2	
12	X154, Y 109	円 形	0.7	0.7	0.9	
13	X141, Y 98	椭 圆 形	1.2	1.7	3.7	木片出土。
14	X145, Y 106	円 形	1.1	1.0	0.9	79号住居址の築り床の下から検出。



第120図 井戸出土遺物

表71 井戸出土遺物観察表

番号	器 物	遺存状	底 高 (cm)	器 形、底・蓋 形 の 特 徴		始 土	焼成	色 調	出土位置 考
				内	外				
2号 井戸 1	土師 耳 杯	4/5	口径 脚高 底径	12.6 4.0 5.1	口縁部外反し、口縁部肥厚する。外面底部へク崩り。外面 ヘラ削り。内面ナガ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	覆土
6号 井戸 1	土師 耳 杯	1/3	口径 脚高 底径	13.7 3.1	ほぼ平底。口縁部両脇ぎみに立ち上がり直立する。外面へ ヘラ削り。内面ナガ。指圧痕。	無	良好	褐褐色	覆土中 地盤
10号 井戸 1	陶底 片	12.12完形	口径 脚高 底径	17.6 7.5 9.2	高台部への字形に開く。口縁部外反する。口ノコ型。底 部回転系切り抜竹高台。	石粒を少 量含む。	良好	灰白色	覆土 場所
13号 井戸 1	木製品 不明	完形	長さ 幅	29.0 12.3	枕状。表面はなめらかである。	ナリの木			底部出土



第121図 井 戸

第4項 土 坡 (第122・123・134図 図版 13-7, 8・15-1, 2・24 表72
~74)

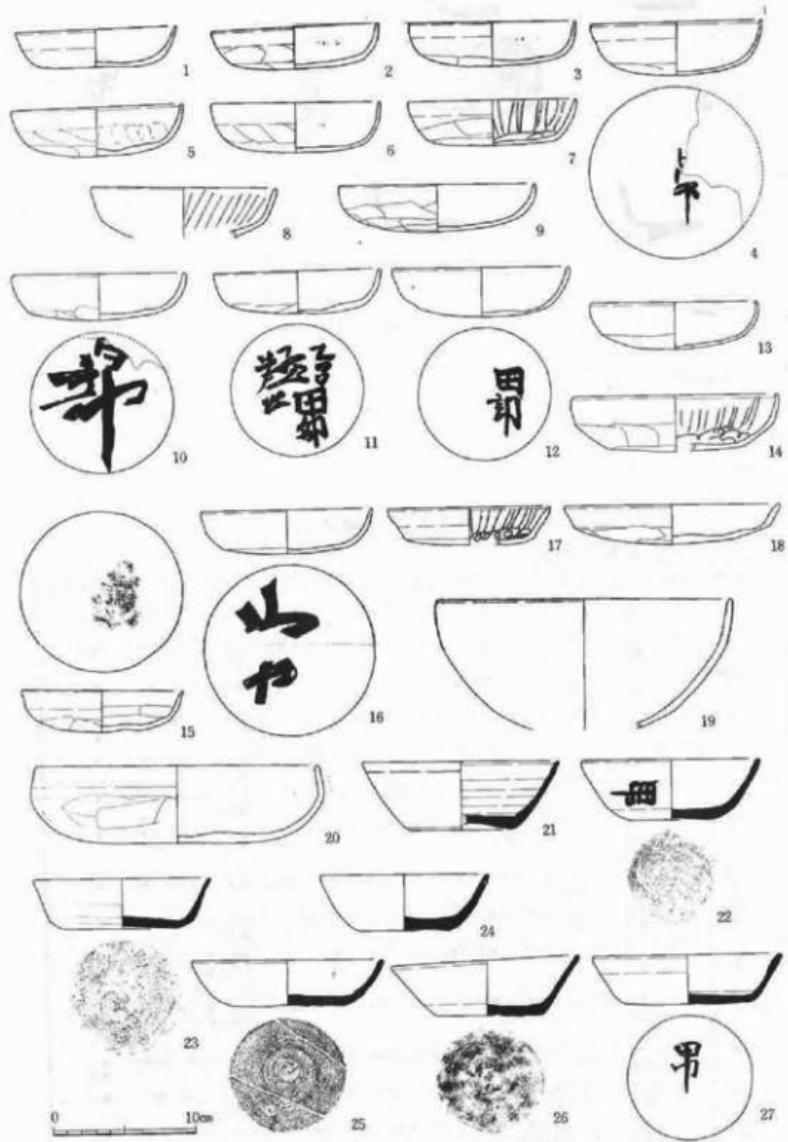
本跡で検出された古墳・歴史時代にかかる土坡は76基である。ほとんどの土坡からは出土遺物もなく、時代不明のものが多い。

表72 古墳・歴史時代土坡一覧表 (1)

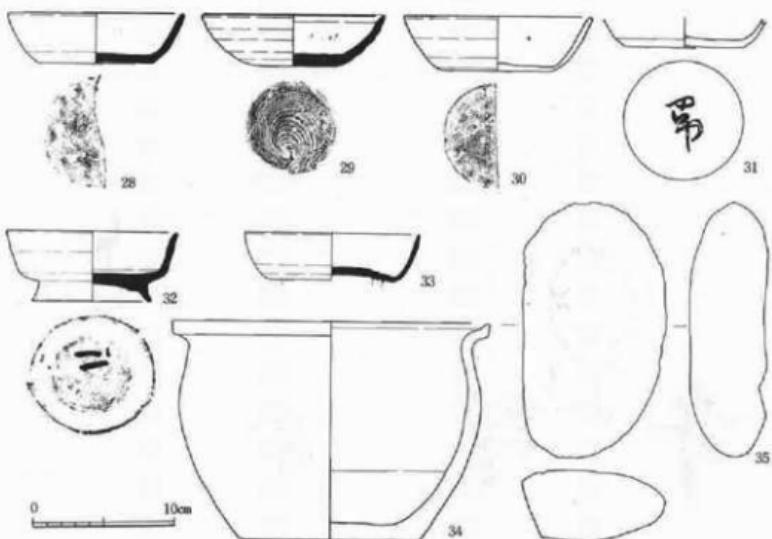
土坡番号	検出グリッド	主軸方向	平面形	幅員(m) 共通	深さ(cm)	備考
1	x=140 Y=66	N-76°-E	不整形	1.32×1.00	28	鉄物出土。近畿化の初期土坡
2	x=158 Y=63	N-45°-W	橢円形	1.35×0.85	43	X=159 Y=63にまたがる。 ビット1個有す。
3	x=159 Y=63	N-50°-W	橢円形	0.82×0.65	37	
4	x=159 Y=63	N-26°-W	橢円形	1.40×0.43	30	ビット2個を有す。
5	x=160 Y=63	N-60°-E	橢円形	1.40×0.50	53	X=160 Y=64にまたがる。
6	x=151 Y=62	N-43°-E	不整形	0.95×0.61	41	X=152 Y=62にまたがる。
7	x=156 Y=63	N-49°-E	不整形	1.14×0.95	49	
8	x=158 Y=66	-	不整形	0.97×0.93	48	
10	x=157 Y=71	N-50°-W	橢円形	1.14×0.80	20	3号墳立土面復し本坡の方が削し た。
11	x=157 Y=72	N-80°-E	不整形	1.95×1.00	18	
12	x=159 Y=74	-	円形	1.11×1.00	26	
13	x=156 Y=70	N-10°-E	不整形	1.53×0.94	53	X=150 Y=71にまたがる。
14	x=152 Y=72	N-82°-W	橢円形	1.20×1.86	26	X=153 Y=72にまたがる。
15	x=152 Y=73	N-9°-W	橢円形	1.13×0.80	53	
16	x=152 Y=72	N-13°-E	橢円形	0.92×0.57	16	
17	x=152 Y=74	N-67°-W	不整形	2.05×1.66	43	X=151 Y=74にまたがる。
18	x=142 Y=75	N-26°-E	橢円形	0.94×0.86	15	X=143 Y=76にまたがる。
19	x=142 Y=78	N-21°-E	不整形	1.30×0.95	13	ビット2個を有す。
20	x=144 Y=77	N-36°-W	橢円形	1.06×0.88	38	
21	x=145 Y=78	N-32°-E	不整形	1.88×1.52	23	ビット1個を有す。
22	x=145 Y=78	-	円形	0.98×0.94	23	
23	x=146 Y=78	N-36°-W	橢円形	1.40×0.78	19	
24	x=149 Y=78	N-79°-W	不整形	1.26×0.98	10	X=148 Y=78にまたがりビット 3個を有す。
25	x=151 Y=77	N-5°-E	不整形	1.70×0.68	30	X=151 Y=78にまたがる。 ビット2個有す。
26	x=151 Y=77	-	橢円形	0.94×0.79	8	
27	x=152 Y=77	N-22°-W	不整形	0.94×0.71	15	
28	x=154 Y=76	N-45°-E	不整形	1.43×1.26	50	X=154 Y=77にまたがる。 ビット2個有す。
29	x=154 Y=78	N-23°-E	不整形	0.96×0.74	24	ビット2個を有す。
30	x=155 Y=76	-	円形	0.93×0.84	20	
31	x=156 Y=75	-	不整形	1.20×0.98	26	ビット1個を有す。
32	x=157 Y=75	N-50°-W	橢円形	1.54×0.74	6	ビット1個を有す。
33	x=157 Y=76	N-56°-W	橢円形	2.46×1.21	10	ビット3個を有す。
34	x=159 Y=80	N-23°-E	不整形	0.80×0.41	27	
35	x=140 Y=82	N-66°-W	橢円形	1.24×0.97	74	
36	x=148 Y=82	N-42°-E	不整形	1.01×0.51	26	X=148 Y=83にまたがる。
37	x=152 Y=83	N-29°-E	不整形	1.67×0.97	24	

表73 古墳・歴史時代土壤一覧表(2)

土石号	検出グリッド	主軸方向	平面形	面積(m ²) 長軸×短軸	深さ(cm)	備考
38	X=155 Y=83	—	不整形	1.35×0.86	35	X=155 Y=84にまたがる。
39	X=160 Y=80	N-90°-E	橢円形	0.80×0.77	40	
40	X=140 Y=91	N-56°-E	不整形	1.17×1.13	16	X=139 Y=91にまたがる。
41	X=141 Y=93	N-44°-E	橢円形	1.19×0.66	11	
42	X=148 Y=94	N-37°-E	不整形	1.22×0.60	21	ピット1個を有す。 43号土塁と重複する。
43	X=148 Y=94	N-90°-E	不整形	2.85×2.00	11	ピット3個を有す。 42号土塁より新しい。
44	X=140 Y=84	N-76°-E	不整形	1.58×1.03	23	
45	X=139 Y=85	N-85°-W	楕丸長方形	1.17×0.90	50	ピット1個を有す。
46	X=140 Y=86	N-90°-E	不整形	0.77×0.94	25	X=140 Y=85にまたがる。
47	X=140 Y=85	—	不整形	0.90×0.68	8	
48	X=141 Y=85	N-60°-E	橢円形	0.95×0.68	36	
49	X=140 Y=87	N-34°-W	橢円形	1.57×1.14	11	X=140 Y=88にまたがる。
50	X=145 Y=85	N-73°-W	不整形	1.56×1.02	26	X=144 Y=85にまたがる。
51	X=148 Y=85	N-25°-E	不整形	0.95×0.81	20	
52	X=148 Y=94	N-60°-E	不整形	1.35×0.85	63	
53	X=154 Y=86	N-90°-E	橢円形	0.85×0.77	21	
54	X=157 Y=86	—	不整形	1.52×0.60	33	X=157 Y=85にまたがる。 ピット1個を有す。
55	X=143 Y=84	N-34°-E	楕丸長方形	2.16×1.61	11	ピット1個を有す。
56	X=148 Y=94	N-90°-E	橢円形	1.34×0.70	23	X=149 Y=94にまたがる。
57	X=142 Y=75	—	橢円形	1.35×0.60	16	
58	X=144 Y=96	N-34°-W	不整形	2.25×2.30	53	X=145 Y=96にまたがる。
59	X=151 Y=101	N-69°-E	橢円形	1.37×1.16	27	58号住居跡と重複し本塁の方が多い。
60	X=151 Y=105	—	円形	1.25×1.16	45	58号住居跡と重複し本塁の方が多い。
61	X=152 Y=103	—	不整形	1.20×1.14	21	
62	X=154 Y=101	N-6°-W	楕丸長方形	2.35×1.23	28	X=155 Y=101にまたがる。 ピット1個を有す。
63	X=153 Y=105	N-63°-W	円形	1.11×1.06	28	X=153 Y=106にまたがる。
65	X=159 Y=100	N-73°-W	不規則形	1.23×1.00	23	X=160 Y=100にまたがる。 51号住居より新しい。
66	X=158 Y=104	N-19°-W	橢円形	2.35×1.10	18	
67	X=157 Y=106	N-86°-E	長方形	2.14×1.18	48	
68	X=155 Y=104	—	不整形	1.12×0.93	15	
69	X=147 Y=111	—	円形	0.80×0.80	51	
70	X=150 Y=112	N-73°-E	橢円形	2.10×1.40	33	
72	X=158 Y=103	N-12°-W	長方形	2.36×2.20	20	
73	X=142 Y=101	N-70°-W	不整形	2.40×1.74	25	74号土塁(鐵文時代)と重複する。
77	X=159 Y=98	N-46°-W	不規則形	1.05×1.05	23	X=159 Y=97にまたがる。 ピット5個を有す。
80	X=137 Y=107	N-48°-E	不整形	2.16×1.50	20	X=138 Y=107にまたがる。
81	X=157 Y=107	—	円形	1.53×1.44*	35	
82	X=156 Y=107	—	不整形	1.27×1.25	40	X=157 Y=107にまたがりピット1個を有す。
89	X=139 Y=71	N-37°-W	不整形	1.55×1.04	15	ピット1個を有す。
90	X=142 Y=111	N-90°-E	橢円形	2.15×1.85	70	84号住居跡と重複し本塁の方が多い。 投棄と認為される大量の土器片出土。遺物土器も多い。



第 122 図 90号土塙出土遺物 (1)



第123図 90号土塙出土遺物(2)

表74 90号土塙出土遺物觀察表

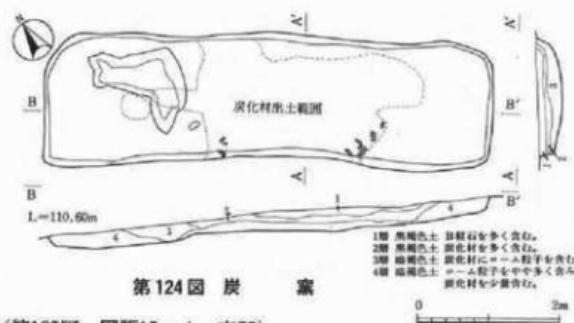
番号	器種	保存度	法量(cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	
1	土師 环	4/5	口径 器高	11.3 2.7	ほぼ平底。口縁部外反する。外面へテ割り。内面ナデ。	砂粒を含む。	良好	褐褐色	覆土
2	土師 环	3/4	口径 器高	11.8 2.9	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面ヘテ割り。内面ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	覆土
3	土師 环	3/4	口径 器高	11.7 3.1	ほぼ平底。口縁部直立する。外面へテ割り。内面ナデ。	細密	良好	褐色	覆土
4	土師 环	3/4	口径 器高	12.0 3.4	ほぼ平底。口縁部直立する。外面へテ割り。内面ナデ。	細密	良好	褐色	覆土 基壇
5	土師 环	ほぼ完形	口径 器高	12.0 3.7	ほぼ平底。口縁部直立する。外面へテ割り。内面ナデ、微 圧痕	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	覆土
6	土師 环	ほぼ完形	口径 器高	11.9 3.5	ほぼ平底。口縁部直立する。外面へテ割り。内面ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	覆土
7	土師 环	2/3	口径 器高 底径	11.9 3.2 8.6	平底。口縁部外反する。外面へテ割り。内面ナデ。放射状 ラセン状暗文。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	覆土
8	土師 环	1/5	口径 器高	13.0 3.6	丸底。口縁部外反する。外面へテ割り。内面ナデ。放射状 暗文。	細密	良好	赤褐色	覆土
9	土師 环	4/5	口径 器高	14.0 3.4	ほぼ平底。口縁部直立する。外面へテ割り。内面ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	覆土
10	土師 环	3/4	口径 器高	12.1 3.3	ほぼ平底。口縁部ほぼ直立する。外面へテ割り。内面ナ デ。	砂粒、實 母を少量 含む。	良好	褐褐色	覆土 基壇
11	土師 环	2/3	口径 器高	11.7 3.0	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面へテ割り。内面ナ デ。指圧痕。	砂粒、實 母を少量 含む。	良好	褐色	覆土 基壇
12	土師 环	2/3	口径 器高	12.5 3.5	ほぼ平底。口縁部やや外反する。外面へテ割り。内面ナ デ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	覆土 基壇
13	土師 环	3/4	口径 器高	11.8 3.4	丸底。口縁部内側ぎみに立ち上がり直立する。外面へテ割 り。内面ナデ。指圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	覆土
14	土師 环	1/2	口径 器高	14.5 4.0	ほぼ平底。口縁部直立する。外面へテ割り。内面ナデ。放 射状暗文。	細密	良好	赤褐色	覆土
15	土師 环	1/4	口径 器高	11.4 3.0	ほぼ平底。口縁部外反する。外面へテ割り。内面ナデ。指 圧痕。底部に布目痕。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	覆土

番号	器種	遺存度	底 高 (cm)	器 形、底・盤 形 の 特 徴	胎 土	焼成	色 調	出土位置
16	土器 环	2/3	口径 盤高 3.1	ほぼ平底。口縁部や外反する。外面へテ削り。内面ナ ゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐色	覆土
17	土器 环	1/4	口径 盤高 2.7	ほぼ平底。口縁部外反する。外面へテ削り。内面放射状 ラセン状陶文、ナゲ。	緻密	良好	褐色	覆土
18	土器 盤状环	1/2	口径 盤高 2.8	ほぼ平底。口縁部近く外反する。外面へテ削り。内面ナ ゲ、曲压痕。	砂粒を少 量含む。	良好	棕褐色	覆土
19	土器 环	1/4	口径 残存高 9.2	ほぼ平底。口縁部内両ぎみに立ち上がり、直立する。外面へテ削り。 内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	棕褐色	覆土
20	土器 环	2/3	口径 盤高 5.5	ほぼ平底。口縁部内両ぎみに立ち上がり直立する。外面へ テ削り、内面ナゲ、指压痕。	砂粒を少 量含む。	良好	棕褐色	覆土
21	須恵 环	1/2	口径 盤高 4.8 底径 6.9	底部上げ底。口縁部や外反する。ロクロ彫形。底部へテ 削り。	緻密	良好	灰褐色	覆土
22	須恵 环	3/4	口径 器高 4.3 底径 6.4	ロ縁部外反する。ロクロ彫形。底部回転未切り未調整。	砂粒を含 む。	良好	灰色	覆土 墨青
23	須恵 环	3/4	口径 器高 3.5 底径 7.7	ロ縁部外反する。ロクロ彫形。底部回転へテ削り。	砂粒を少 量含む。	良好	灰色	覆土
24	須恵 环	1/2	口径 盤高 4.0 底径 6.8	ロ縁部外反する。ロクロ彫形。底部回転へテ削り。	砂粒を少 量含む。	やや 不良	灰褐色	覆土
25	須恵 环	3/4	口径 器高 3.3 底径 8.0	ロ縁部内両ぎみに立ち上がり、やや外反する。底部切り離 し柱抜。周縁部回転へテ削り、内外面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	灰白色	覆土
26	須恵 环	完形	口径 器高 3.9 底径 7.5	ロ縁部外反する。ロクロ彫形。底部回転へテ削り。	砂粒を少 量含む。	良好	灰褐色	覆土
27	須恵 环	2/3	口径 器高 3.5 底径 8.8	ロ縁部外反する。ロクロ彫形。底部回転へテ削り。	砂粒を少 量含む。	良好	灰白色	覆土 墨青
28	須恵 环	1/2	口径 器高 3.6 底径 8.0	ロ縁部外反する。ロクロ彫形。底部回転へテ削り。	砂粒を少 量含む。	良好	灰色	覆土
29	須恵 环	2/3	口径 器高 3.6 底径 6.0	ロ縁部外反する。ロクロ彫形。底部回転未切り未調整。	砂粒を少 量含む。	良好	灰白色	覆土
30	須恵 环	1/2	口径 器高 3.9 底径 7.6	ロ縁部内反する。ロクロ彫形。底部回転未切り後、周縁部 回転へテ削り。	緻密	良好	灰褐色	覆土
31	須恵 环	底部	残存高 8.5	口縁部外反するとと思われる。ロクロ彫形。底部回転未切り 後、周縁部回転へテ削り。	緻密	良好	灰白色	覆土 墨青
32	須恵 环	一部欠	口径 器高 5.9 底径 6.4	高台「ハ」の字状に開く。ロ縁部や外反する。ロクロ彫 形。底部回転未切り後、付高台。	緻密	良好	灰白色	覆土 墨青
33	須恵 环	2/3	口径 残存高 3.4	ロ縁部外反する。ロクロ彫形。底部回転未切り後、付高 台。	砂粒を少 量含む。	良好	灰褐色	覆土
34	須恵 鉢	2/3	口径 器高 15.7 底径 12.8	ロ縁部近く外反する。器内厚い。ロクロ彫形。底部平坦 にナガらわれている。	砂粒を少 量含む。	良好	灰褐色	覆土
35	石製品 鉢石	完形	長さ 13.3	使用面 2 面。1面は平坦になっている。	角閃石安 山岩			覆土

第5項 炭 窯 (第124図 図版15-3)

炭窯は調査区北西側X 134・135、Y 69-70グリッドで検出された。主軸方向はN-32°-Eである。

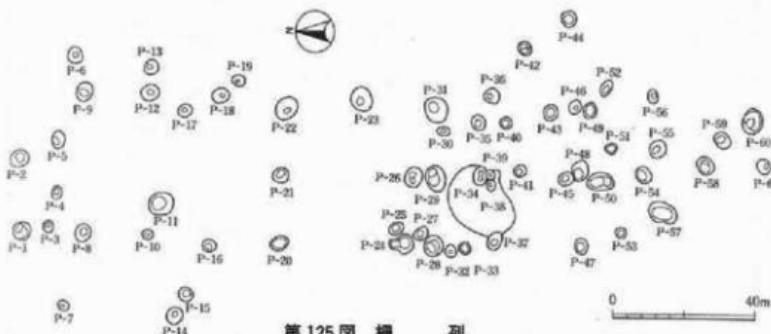
規模は長軸6.35m、短軸1.8mで長方形を呈する。遺物は炭化材以外出土していない。



第124図 炭 窯

第6項 樋 列 (第125図 図版15-4 表75)

樋列は調査区南西側で検出されている。北側から南側へゆるく傾斜し、比高は85cmである。



第125図 樋 列

表75 樋列(ピット)計測表

												深さ(cm)					
P-1	20	P-2	20	P-3	24	P-4	11	P-5	40	P-6	44	P-7	11	P-8	24	P-9	26
P-10	12	P-11	27	P-12	25	P-13	33	P-14	24	P-15	18	P-16	25	P-17	21	P-18	22
P-19	17	P-20	27	P-21	31	P-22	36	P-23	26	P-24	40	P-25	19	P-26	39	P-27	33
P-28	45	P-29	46	P-30	31	P-31	36	P-32	36	P-33	12	P-34	34	P-35	33	P-36	26
P-37	33	P-38	15	P-39	24	P-40	18	P-41	21	P-42	26	P-43	17	P-44	21	P-45	18
P-46	31	P-47	37	P-48	29	P-49	50	P-50	29	P-51	22	P-52	38	P-53	36	P-54	49
P-55	45	P-56	18	P-57	54	P-58	29	P-59	25	P-60	16	P-61	47				

第7項 溝

3条が検出されている。いずれも東から西へ傾斜している。

1号溝 (第4図)

調査区北側で検出された。溝巾は東側で1.4m西側で3.1mを計り、深さは西側で45cm。

2号溝 (第4図)

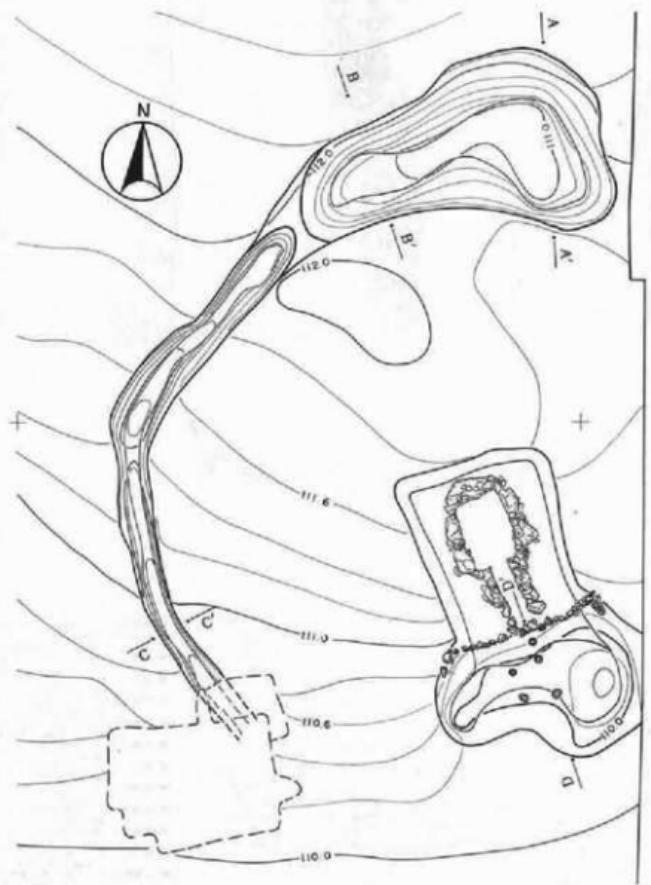
調査区中央で検出された。溝巾は東側で0.8m西側で1mを計り、深さは20cm。

3号溝 (第4図)

調査区南側で検出された。溝巾は東側で1.9m西側で1.3mを計り、深さは最大で50cm。

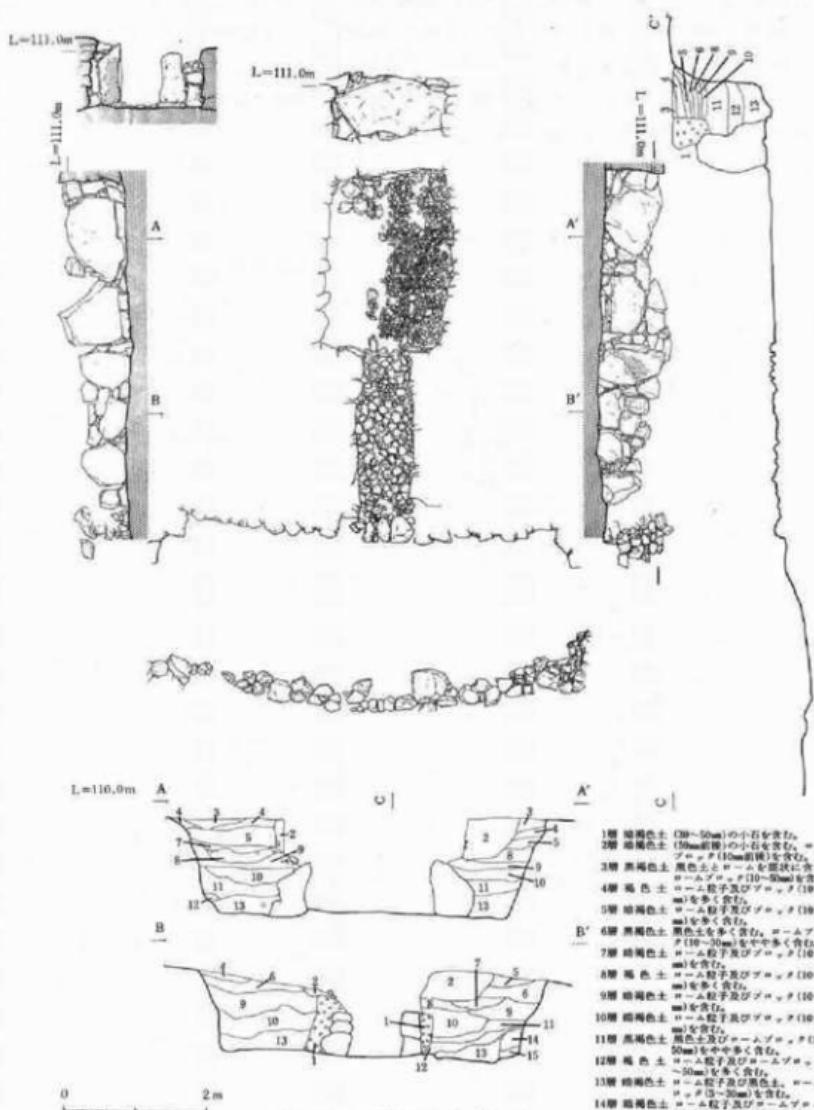
第8項 古 墳 (第126図～131図 図版 15-5・16・25 表76・77)

本古墳は調査区東側、北から南へ傾斜する斜面上に位置する。上毛古墳綜覧には記載もれの古墳である。南側の傾斜地を掘り込んで山寄せで築造されている。すでに盛土ではなく、調査前には表土上面に石が散乱していた。調査の結果この古墳は前庭と胴張形の横穴式石室を有する、直径21～22m前後の円墳であることが判明した。



第126図 古 墳 全 测 図

0 5 10m



第127図 古墳展開図・掘り方

石室は輝石安山岩の自然石乱石積みである。天井石ではなく、石室・羨道の一部もすでに耕作等により取り除かれている。玄門に利用されている石は一部削られており、奥壁・側壁の一部には割り石を用いている。

石室の全長は5m25cm、玄室は中央で2m55cm、巾は1m80cmで南側に開口している。羨道は2m70cm、巾は60cmである。羨道につづく前庭部には道程10~30cm前後の石が積まれており、巾は5m95cmである。

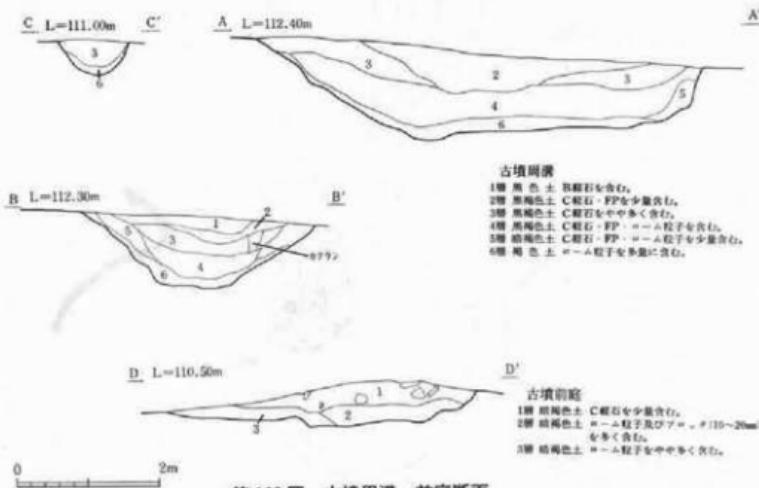
周溝は東側が調査区外になっており、不明であるが、北側の最大部分で6~7m、南西側は1m前後である。北側の掘り込みの両側にはブリッジ状の高まりが検出されている。掘り込みは北側の最大部で1m~1m50cm、南西側で50cm前後である。

前庭部は20~60cmの掘り込みで覆土中に石が散乱している。

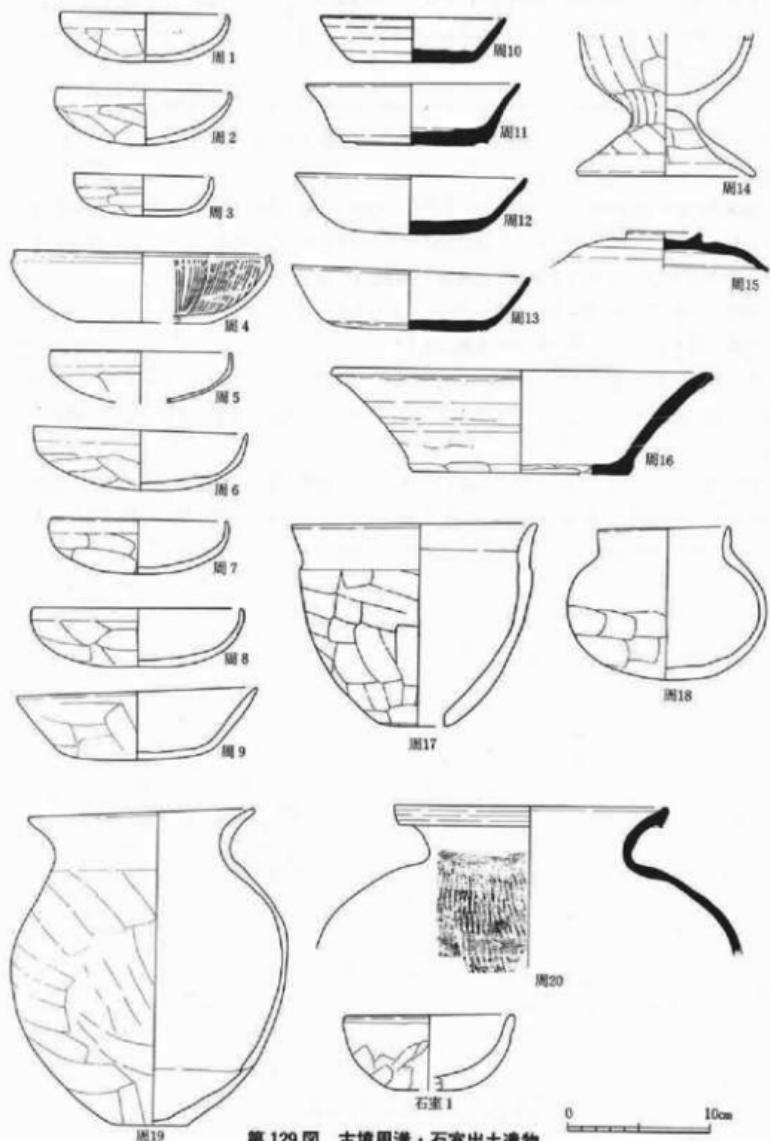
周溝の覆土上層には浅間B絆石が多量に含まれている。

出土遺物は石室内ではなく、前庭と周溝北側からやや多く出土している。前庭部出土の長頭壺と杯身と蓋のセットは北東側の中層から出土しており、周溝出土遺物は北側の覆土下層から出土している。

本古墳はドーム形を呈する胴張りが認められること、玄門に削り石を用いていること、前庭を有すること、石室を地下に落しこんだ築造をしていることなどから7世紀後半代の築造と考えられ、その出土遺物などから8世紀初頭前後まで機能していたと考えられる。



第128図 古墳周溝・前庭断面

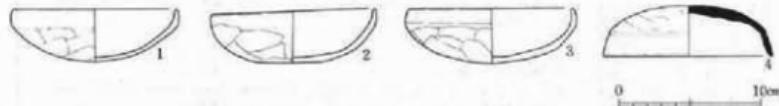


第129図 古墳周溝・石室出土遺物

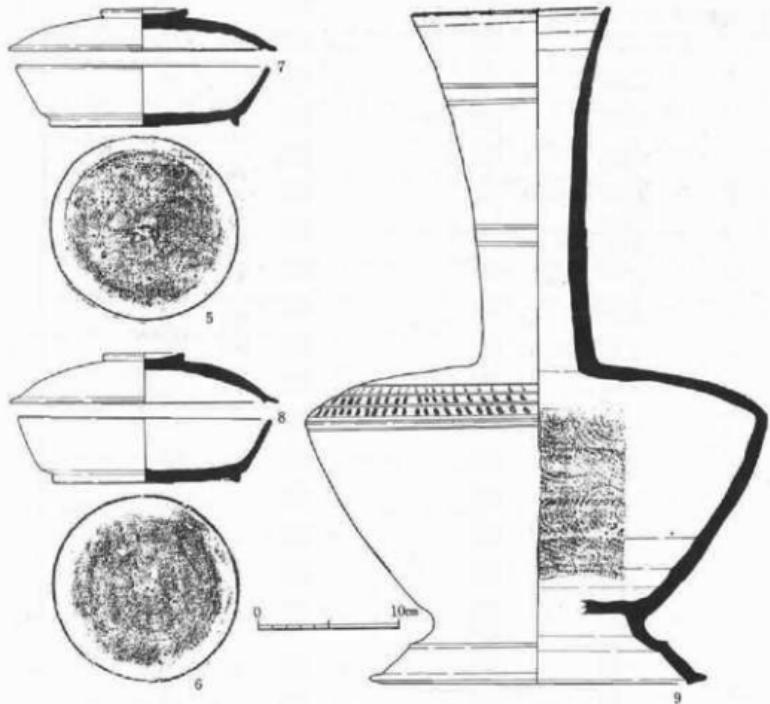
0 10cm

表76 古墳周溝・石室出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	法量(cm)	器形、成・整形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 圖
1	土師 环	完形	口径 底高 3.4	丸底。口縁部内側して立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。指圧痕。	石粒を含む。	良好	褐褐色	周溝北側
2	土師 环	完形	口径 底高 3.9	丸底。口縁部内側して立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。指圧痕。	石粒を含む。	良好	褐褐色	周溝北側
3	土師 环	残存形	口径 底高 3.0	丸底。口縁部内側して立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面放状弦文。	砂粒を含む。	良好	褐褐色	周溝北側
4	土師 环	1/3	口径 底高 5.0 底径 9.1	平底。口縁部底を折り直立する。外面ヘラ削り後ガタ。内面ナデ。指圧痕。	頗る密	良好	赤褐色	周溝北側
5	土師 环	2/3	口径 底高 3.6	丸底。口縁部直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。指圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	周溝北側
6	土師 环	4/5	口径 底高 4.3	丸底。口縁部や外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。指圧痕。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	周溝北側
7	土師 环	3/4	口径 底高 3.9	丸底。口縁部内側して立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	周溝北側
8	土師 环	1/3	口径 底高 4.2	丸底。口縁部内側して立ち上がり直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	周溝北側
9	土師 环	3/4	口径 底高 4.8	ほぼ平底。口縁部直線的に外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	周溝北側
10	瓦 环	2/3	口径 底高 3.2 底径 8.6	口縁部直線的に外反する。ロクヨ整形。底部回転ヘラ削り。	石粒を含む。	やや 不良	灰褐色	周溝北側
11	須恵 环	4/5	口径 底高 8.2	ロクヨ直く外反する。ロクヨ整形。底部回転ヘラ削り調整。	頗る密	良好	灰白色	周溝北側
12	須恵 环	3/4	口径 底高 4.1	ロクヨ外反する。底部回転ヘラ削り。内面ナデ。	石粒・雲母を含む。	良好	灰白色	周溝北側
13	須恵 环	1/2	口径 底高 11.3	ロクヨ外反する。ロクヨ整形。底部回転ヘラ削り。	石粒を含む。	良好	灰白色	周溝北側
14	土師 高环	口縁部欠	残存高 底径 10.1 12.3	脚部八の字状に開く。环部内側ぎみに立ち上がる。外面ヘラ削り。脚部下部ナデ。内面脚部上部ヘラ削り。脚部下部、环部ナデ。	砂粒を含む。	良好	褐色	周溝北側
15.	須恵 蓋	1/2	残存高 2.5	つまみ大きく、かぶりを有する。ロクヨ整形。外面天井部中央回転ヘラ削り。	頗る密	不良	淡灰褐色	周溝北側
16.	須恵 鉢	1/3	口径 底高 7.4	本式大形の孔(径10.2cm)を有する。ロクヨ直く外反する。	石粒を少 量含む。	良好	褐褐色	周溝西側
17.	土師 鉢	完形	口径 底高 14.3	ロクヨ整形。外面底部ヘラ削り。	石粒を含む。	良好	褐褐色	周溝北側
18.	土師 小形甕	完形	口径 底高 19.8	ロクヨ直く直立する。外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒を少 量含む。	良好	赤褐色	周溝北側
19.	土師 甕	完形	口径 底高 5.0	ロクヨの字状に外反する。外面ヘラ削り。内面ナデ。輪 足の接着部。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	周溝北側
20.	須恵 甕	口径 1/2	底高 10.4	脚部強く張る。ロクヨ折り返す。外面タタキ口。内面布あ く底。	頗る密	やや 不良	灰色	周溝北側
石室 1	土師 鉢	4/5	口径 底高 12.0 5.5	体側内側して立ち上がり、ロクヨ外反ぎみになる。器身厚 い。外面ヘラ削り。内面ナデ。	石粒・雲 母を含む。	良好	褐色	石室裏方 内



第130図 古墳前庭出土遺物（1）



第131図 古墳前庭出土遺物(2)

表77 古墳前庭出土遺物観察表

番号	器種	遺存度	灰量 (cm)	器形、底・蓋形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置
1	土師 环	3/4	口徑 器高	11.6 3.7 丸底。口縁部内面ぎみに立ち上がり、直立する。外縁へラ 削り。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	前庭
2	土師 环	4/5	口徑 器高	11.6 4.0 丸底。口縁部内面ぎみに立ち上がり、直立する。外縁へラ 削り。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	赤褐色	前庭
3	土師 环	4/5	口徑 器高	11.6 3.9 丸底。口縁部内面ぎみに立ち上がり、内傾する。外縁へラ 削り。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	褐褐色	前庭
4	須恵 蓋環	3/4	口徑 器高	12.0 3.6 口縁部後を斜め外反する。天井部へラ削り。内面ナゲ。	砂粒を少 量含む。	良好	灰色	前庭南側壁 土上層
5	須恵 环身	完形	口徑 器高 底径	17.7 4.4 13.2 断面三角形の傾かい高台。口縁部鋸歯的に外反する。ロクロ蓋形。 外縁底部回転へラ削り後、付高台。	石粒を少 量含む。	良好	灰白色	前庭
6	須恵 环身	完形	口徑 器高 底径	17.8 4.6 13.1 断面三角形の傾かい高台。口縁部外反する。ロクロ蓋形。 外縁底部回転へラ削り後、付高台。	細密	良好	灰白色	前庭
7	須恵 蓋	完形	口徑 器高	19.0 2.9 底径 13.1 扁平。つまみ大きく、かえりを有す。ロクロ蓋形。天井中央部回 転へラ削り。	石粒を少 量含む。	良好	赤褐色	前庭
8	須恵 蓋	完形	口徑 器高	18.9 3.6 底径 13.2 台付。肩部張る。最大径38cm。肩部ツバ状に広がる。内 面カタキ目。	石粒を少 量含む。	良好	灰白色	前庭
9	須恵 長颈甕	洋瓦完形	口徑 器高 底径	34.2 48.0 24.0 台付。肩部張る。最大径38cm。肩部ツバ状に広がる。内 面カタキ目。	砂粒を少 量含む。	良好	灰白色	前庭

第V章 まとめ

本遺跡検出の遺構・遺物は縄文時代から平安時代に及ぶ。

縄文時代

土塙14基と早期末から中期後半に至る土器片、石器類が検出された。土塙は2基が円形で貯蔵穴状を呈し、12基が椭円形で陥没穴状を呈する。本期の遺構は全面調査を行なっていないので全体の分布は不明である。本遺跡と南側に対峙した頭無遺跡で35基の陥没穴状の土塙が検出されており^{注1}、この付近は狩猟の場であったと考えられる。

弥生時代

後期の土器片が数点検出されている。遺構は検出されていない。出土地点は調査区東側の古墳の周辺である。

古墳時代

住居址18軒と古墳1基が検出されている。住居址は後期後半と考えられる。カマドは東側に位置するものが多く、4軒は袖の先端に窓を利用している。分布は主に南側である。37・38・90号住居址はいずれも古墳の周溝と重複し、住居址の方が古い。古墳は前庭を有すること、石室が洞張りであること、出土遺物などから古墳時代末期の所産と考えられる。

奈良・平安時代

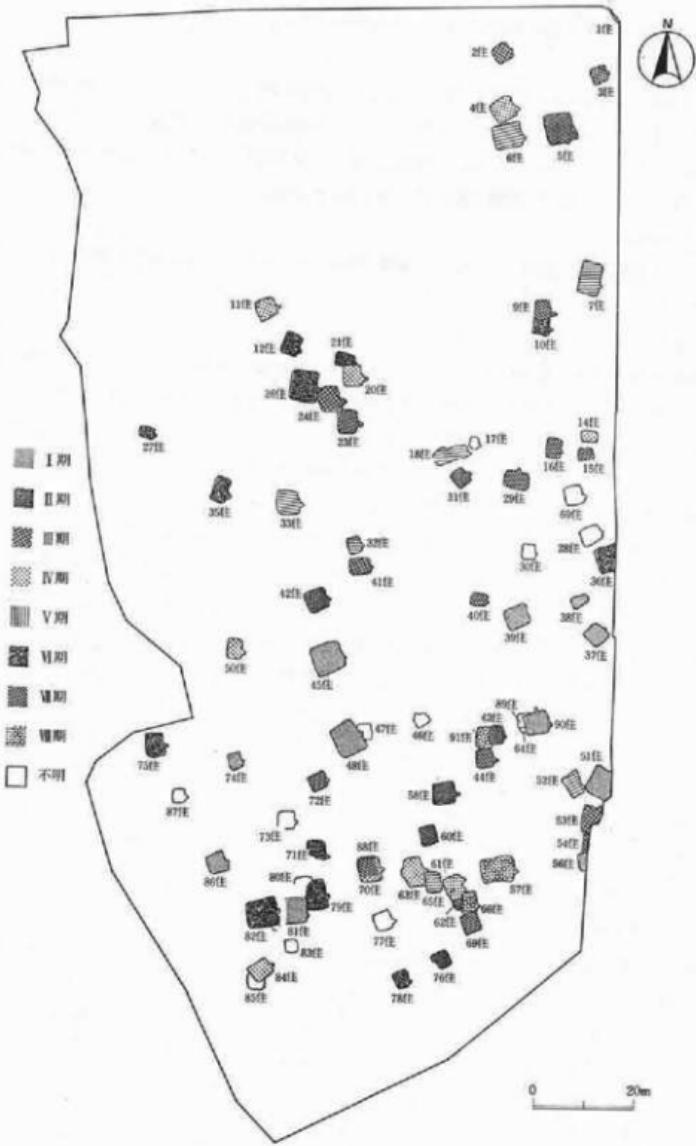
住居址49軒と掘立柱建物址13棟、井戸12基、炭窯1基、土塙、溝が検出されている。住居址は東側にカマドを持つものが多く、カマドの構築材として石が多く利用されている。掘立柱建物址は出土遺物がほとんどないが、9号掘立柱建物址が平安時代の住居址よりも古いくことや、1～9号掘立柱建物址の柱穴内から8～9世紀代と思われる土師器の杯の細片が出土していることなどから、これら北側に位置する掘立柱群は奈良時代後半から平安時代の初めにかけての所産と考えられる。また南側に位置する10・11・12号掘立柱址は時代がやや下るものと思われる。又1と2、3と4、5と8号掘立柱址は近接し、位置関係などから同一時期の建物址と考えられる。井戸はその出土遺物から平安時代に併用なものが多いと考えられる。炭窯と1号溝は浅間B軽石を覆土中に含み、平安時代の所産と考えられる。土塙のうち明らかにこの時代に併用と思われるものは90号土塙1基である。90号土塙はその出土遺物から8世紀末葉から9世紀初頭にかけての所産と考えられる。

時代不明の遺構

住居址14軒、土塙73基、溝2条、柵列は出土遺物が少なく、時代不明である。住居址は古墳時代後期から奈良・平安時代のものと考えられる。土塙はそのほとんどが出土遺物がなく時代不明である。溝は2号溝が覆土や住居址との切り合い関係から中世以降、3号溝は近世以降と考えられる。柵列は時代不明であるが、ビットの覆土中に浅間C軽石を少量含むことから、集落址に併用と考えられる。

以上本遺跡は古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落址が中心となる。

注1 前橋市教育委員会前原豊氏の調査による。



第132図 集落変遷図

第VI章 考 察

I 集落の変遷について（第132図）

本遺跡では81軒の住居址を検出した。これらの住居址は7世紀の後半から10世紀初頭にかけての約2世紀半にわたり続いた集落と考えられる。ここではカマドの形態、出土遺物（変遷がたどりやすい土師器の甕と杯を中心とする。）から集落の変遷をさぐってみる。

第I期の集落 37・38・39・45・48・51・56・74・81・86・90号住居址

分布は調査区中央からやや南寄りである。これらのうち39・48・81・86号住居址の4軒ではカマドの袖の先端部に長胴甕を利用している。カマドの位置は東側が10軒と多く、北側が1軒、不明が1軒である。煙道は90号住居址を除き短かく、急激に立ち上がる。袖の構築材は粘土を主体とする。

遺物（第133図1・9）口縁部が強く外反する長胴甕と稜を有する丸底の杯を指標とする。

第II期の集落 5・31・42・43・58・60・76号住居址

分布は南東側を中心とする。カマドは2軒が北側で他は東側に位置する。煙道は急激に立ち上がるものが多い。構築材は粘土もしくは石を利用している。

遺物（第133図2・10）長胴甕はI期と変化はさほどないが、頸部がややしまっているものが出る。杯は丸底で縁を持たず口唇部が内湾するものが主体となる。

第III期の集落 2・3・24・41・53・52号住居址

分布はバラツキがあるが2軒づつが一単位となっている。カマドは5軒が東側で1軒が北側である。構築材は粘土である。

遺物（第133図3・11）フットボール形の胴部と「く」の字状に外反する口縁部を有する甕と丸底で口唇部が直立又は内湾する杯が主体をなす。

第IV期の集落 1・4・11・14・20・50・63・70・84号住居址

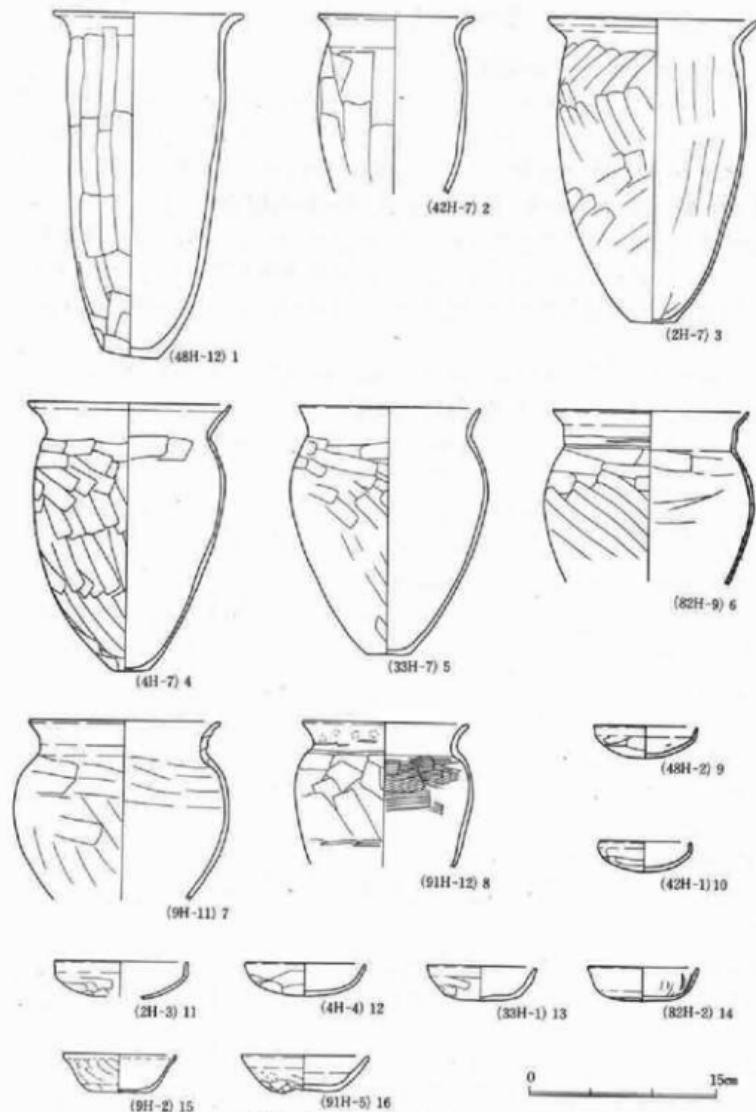
分布は北側と南側に分かれれる。カマドは不明の2軒を除きすべて東側に位置する。構築材は粘土又は石である。

遺物（第133図4・12）甕は器肉が薄くなり、胴上半部がふくらむ。頸部はしまり一段と「く」の字状が強くなる。杯は平底に近い丸底で口縁部はやや外反する。墨書き器が出現する時期である。

第V期 6・7・18・32・33・52・61号住居址

分布は北側と南側に分かれれる。カマドの位置はすべて東側である。構築材は粘土又は石を利用している。

遺物（第133図5・13）甕は器肉が薄く、口縁部は「く」の字状がやや弱まり、「コ」の字状に近くなり、胴上半部に最大径をとる。杯はほぼ平底で、口縁部の外反は直線的になる。90号土坑出土遺物はV期と考えられる。



第133図 I～VII期出土遺物

第VI期の集落 10・12・21・26・27・35・36・71・75・78・79・82号住居

分布は調査区中央をとりまく様に縁辺部に集まる。カマドは不明の1軒を除いてすべて東側に位置する。構築材は粘土又は石を利用している。大形の住居址(26・79・82号住居址)がやや多いのも特徴である。

遺物(第133図6・14) 壺は「コ」の字状口縁を呈し、器肉は薄い。杯は平底で、口縁部の外反は直線的になる。

第VII期の集落 9・15・16・23・27・35・36・71・75・78・79・82号住居址

分布は東側に多い。カマドは東側に8軒、北側と南側が1軒、不明が1軒である。構築材は粘土又は石を利用している。

遺物(第133図7・15) 壺は「コ」の字状を呈するが、器肉が厚くなっている。杯はやや薄手の平底で口縁部は外反するが、口唇部は直立気味となる。この時期から灰釉陶器が併用。

第VIII期の集落 57・66・91号住居址

分布は南東側である。カマドは東側に位置し、構築材として石が利用されている。

遺物(第133図8・16) 壺は「コ」の字状がくずれ器肉は厚い。杯はやや厚手の平底で、口縁部は直線的に外反する。又羽釜が出現する時期であり、3軒共に墨書き土器が出土している。

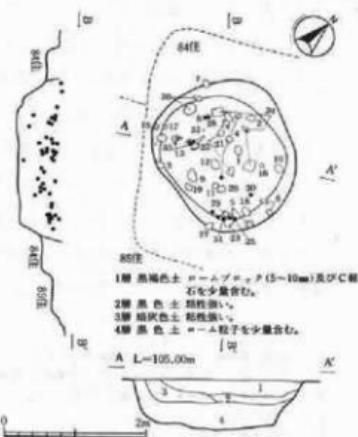
以上概略したが、Ⅲ期の集落は古墳時代から奈良時代への移行期、V期の集落は奈良時代から平安時代への移行期にあたると考える。本遺跡西側の谷地では昭和61年度に浅間B輕石下の水田址の調査を行なったが、水田址は検出されなかった。本集落は構成する人々は10世紀頃にこの地を放棄し他へ移動したものと考えられる。

II 墨書き土器について(表78)

本遺跡では住居址、土塙、井戸から56点の墨書き土器が出土した。そこで、墨書き土器の文字の種類、器種と部位、出土状況、時期について整理してみたい。

文字の種類は「田」、「田部」・「田_上」、「大田」、「下田」、「上田口寺」、「若公」、「乙公」、「乙呂」、「泰」、「徳」、「目」、「木」、「二」、「存_ニ」、「刑_ニ」、「大_ニ」、「燒_ニ」、があり、「田」と関連する文字が種類、点数とも圧倒的に多い。また、65号住居出土の勘定車には、「田」とその他、判読不明の文字が線刻されている。

器種は、土師器が43点、須恵器の杯が12点、壺が1点である。墨書きの記されている部位は、体部外面が10点、体部内面が1点、底部外面が35点、底部内面が6点、底部内外面が2点、体部外面・底部内面が2点である。



第134図 90号土塙

同一遺構から同じ文字が出土しているのは、9号住

居の「存」、27号住居の「上田口寺」、75号住居の「田」、11号井戸の「田」、90号土塙の「田部」・「田」である。また、同時期あるいは、ほぼ同時期の遺構から同一文字が出土しているのは、52・61・75・82号住居、6・11号井戸、90号土塙の「田部」・「田」、12・26号住居の「下田」、91号住居、10号井戸の「木」である。特に、90号土塙は本遺跡で最も点数の多かった「田部」・「田」の記された墨書き土器が多く出土している。ここで、90号土塙の遺物と出土状況について若干の説明を加えておく。

90号土塙(第122・123図、図版24、表73・74)は、遺跡南端の沖積地にあり、本址より古い84号住居と重複している。遺物は100点以上の土器片、須恵器片や細かい木片、種が出土した。土器の出土状況で注目される点は、ほとんどの土器が覆土上層より出土し、一括投棄されたと考えられる点である。さらに、須恵器の鉢1点以外は坏で、その中に墨書き土器が11点含まれている。文字の種類は、「田部」・「田」・「二」の他、人名と思われる「若公」、「乙公」、「乙昌」の下に「田部」と記されている墨書き土器がある。

墨書き土器の時期は、Ⅳ期からⅥ期で、Ⅴ期が最も多い。文字の種類は、Ⅳ期が「大田」、Ⅴ期が「田」・「田部」・「田」・「二」・「泰」、Ⅵ期が「田部」・「田」・「下田」・「上田口寺」・「刑」、Ⅶ期が「存」・「大」、Ⅷ期が「徳」・「木」・「目」である。

上述したように、本遺跡出土の墨書き土器は、「田」に関連した文字が多く、Ⅳ期からⅧ期に見られる。特に「田部」・「田」が多く、Ⅴ・Ⅵ期の調査区南側の沖積地とその周辺の遺構から出土し、柳久保水田址との関連を窺わせる。また、同水田址において、祭祀遺跡が検出され、5枚重ねの状態で出土した杯、墨書き土器、馬の歯、ブタの焼骨が出土している。^{注1} 時期の違いはあるが、90号土塙に投棄された土器も祭祀的性格を持ち、Ⅴ・Ⅵ期に見られる「田部」の墨書き土器を有する集団が関与していたと思われる。その他、12・26号住居と同じ「下田」と記された杯が、B軽石下の溝から出土している。

また、本遺跡の北東約800mには上西原遺跡があり、8世紀後半から10世紀初頭頃まで機能したとみられる勢田郡衙跡と推定されている。同遺跡では、住居址を中心に、「大」・「田」や「寺」・「泰」・「目」・「田」・「部」などの墨書き土器が多数出土している。^{注2} さらに、堤東遺跡で「平」・「市」・^{注3} 川皆籠戸遺跡で「寺」と記された墨書き土器が、大久保遺跡では「大田刀口正子」と線刻された紡錘車が出土している。^{注4} これらの遺跡では住居址が多数検出されており、大集落を形成している。本遺跡の墨書き土器は、このような集落の広がりの中で、郡衙跡と推定される上西原遺跡の影響を受けていたと考えられる。

注1 前橋市教育委員会「柳久保遺跡群」1985

注2 松田 駿「信濃」第38巻第1号通巻第443 群馬県における文字瓦と墨書き土器——前橋市上西原遺跡の文字資料——

注3 群馬県教育委員会「堤東遺跡」1985

注4 前掲注1

注5 群馬県教育委員会「昭和58年度荒砥北部遺跡群発掘調査報告」1984

注6 前掲注3、注5

群馬県教育委員会「昭和59年度荒砥北部遺跡群発掘調査報告」1985

群馬県教育委員会「上西原・向原・谷津——昭和60年度荒砥北部遺跡群発掘調査報告——」1986

表78 墨書土器一覽表

No.	遺構名	器種	器形	墨書部位	軒文	遺構年代	No.	遺構名	器種	器形	墨書部位	軒文	遺構年代	
1	7住	土師	坏	底 部 外	「泰」	V期	31	75住3	土師	坏	底 部 外	「田○」(体)	早期	
2	*	土師	坏	底 部 外	不詳	*	32	82住4	土師	坏	底 部 外	「田○」(底)	*	
3	9住4	須恵	坏	体 部 外	「存○」	遺期	33	91住1	土師	坏	体 部 外	「木」	遺期	
4	*	須恵	坏	体 部 外	「存○」	*	34	*	7	須恵	坏	底 部 内	「日」	*
5	*	須恵	坏	体 部 内	「存○」	*	35	90土4	土師	坏	底 部 外	「田○」	V期	
6	*	須恵	坏	体 部 外	「存○」	*	36	*	10	土師	坏	底 部 外	「田○」	*
7	11住1	土師	坏	底 部 外	「大田」	V期	37	*	11	土師	坏	底 部 外	「乙呂」「田部」	*
8	12住2	須恵	坏	底 部 内外	「下田」(外)	V期	38	*	12	土師	坏	底 部 外	「乙公」「若公」	*
9	16住	土師	坏	底 部 外	不詳	遺期	39	*	16	土師	坏	底 部 外	「田○」	*
10	21住	土師	坏	底 部 内	不詳	V期	40	*	22	須恵	坏	底 部 外	「田○」	*
11	*	土師	坏	底 部 内外	「口」(外)	*	41	*	27	須恵	坏	底 部 外	「田○」	*
12	26住2	土師	坏	底 部 外	「下田」	V期	42	*	31	須恵	坏	底 部 外	「田○」	*
13	*	須恵	坏	体 部 外	「刑○」	*	43	*	32	土師	坏	底 部 外	「二○」	*
14	27住1	土師	坏	底 部 外	「上田口寺」	V期	44	*	33	土師	坏	底 部 外	不詳	*
15	*	土師	坏	底 部 外	不詳	*	45	*	34	土師	坏	底 部 外	不詳	*
16	*	土師	坏	底 部 外	「上田口寺」	*	46	6井1	土師	坏	底 部 外	「田○」	V期	
17	*	土師	坏	底 部 内外	不詳	*	47	*	35	土師	坏	底 部 内	不詳	*
18	44住	土師	坏	体 部 外	「大○」	V期	48	*	36	土師	坏	底 部 外	「田○」	*
19	52住1	土師	坏	底 部 外	「口」	V期	49	10井1	須恵	坏	体 部 外	「木」	遺期	
20	*	土師	坏	底 部 外	「田○」	*	50	11井	土師	坏	底 部 外	「田○」	V期	
21	57住2	土師	坏	体 部 外	不詳	遺期	51	*	12	土師	坏	底 部 外	「田○」	*
22	*	土師	坏	底 部 外	不詳	*	52	*	13	土師	坏	底 部 外	「田○」	*
23	*	土師	坏	底 部 外	不詳	*	53	*	14	土師	坏	底 部 外	不詳	*
24	*	土師	坏	体 部 外	不詳	*	54	*	15	土師	坏	底 部 外	不詳	*
25	61住1	土師	坏	体 部 外	「田部○」(体)	V期	55	*	16	土師	坏	底 部 外	不詳	*
26	63住1	土師	坏	底 部 外	不詳	V期	56	13井	土師	坏	底 部 外	不詳	*	
27	66住2	須恵	坏	底 部 内	「穗○」	遺期							不明	
28	69住	土師	坏	底 部 外	「夷○」	不明								
29	75住1	土師	坏	底 部 内	不詳	V期								
30	*	土師	坏	底 部 内	「田○」	*								

附 章 科学分析

中鶴谷遺跡出土の木片・種

ク リ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.

3号井戸 Nos. 1-6 (6点)

13号井戸 No. 1 (1点)

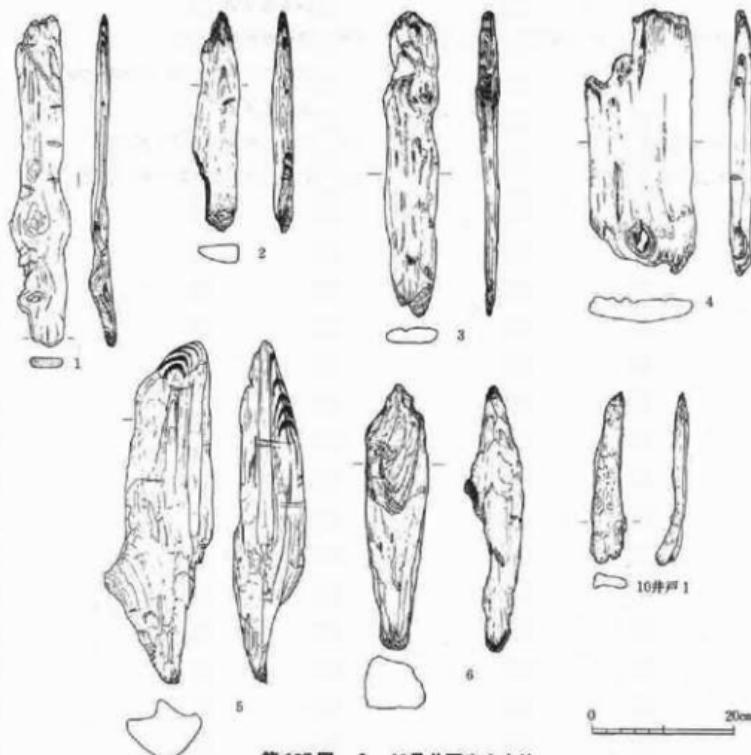
10号井戸 Nos. 1-3 (3点)

クスギ *Quercus acutissima* Carr.

81号住居址 Nos. 1-2 (2点)

タ ノ ヒ ウタノ属 1種 *Lagemaria* sp.

90号土塙



第135図 3・10号井戸出土木片

引用参考文献

- | | |
|------------------------|---|
| 荒砥島原遺跡 | 1980 群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 本宿・郷土遺跡 | 1981 富岡市文化財保護協会 |
| 清里・陣場遺跡 | 1981 群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 荒砥北部遺跡群発掘調査概報 | 1984 群馬県教育委員会 |
| 芳賀田地遺跡群第Ⅱ巻 | 1984 前橋市教育委員会 |
| 堤東遺跡 | 1985 群馬県教育委員会 |
| 柳久保館跡群Ⅰ | 1985 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 柳久保遺跡群Ⅱ | 1985 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 三ツ寺Ⅲ・保渡田遺跡・中里天神場古墳 | 1985 群馬県教育委員会
日本鉄道建設公団 群馬県埋蔵文化財
調査事業団 |
| 下佐野遺跡Ⅱ地区(2) 平安時代・中・近世編 | 1986 群馬県教育委員会
日本鉄道建設公団 群馬県埋蔵文化財
調査事業団 |
| 柳久保遺跡群Ⅲ | 1986 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 柳久保遺跡群Ⅳ | 1987 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |

写真図版



1. 調査前全景（南側から）



2. 確認全景（南側から）

図版 2



1. 全景南側（東側から）



2. 終了全景（空撮）



1. 1号住居址



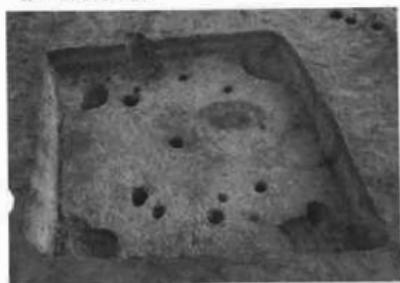
2. 2号住居址



3. 3号住居址



4. 4号住居址



5. 5号住居址



6. 6号住居址



7. 7号住居址



8. 9号住居址

図版 4



1. 10号住居址



2. 11号住居址



3. 12号住居址



4. 手前14、奥15号住居址



5. 16号住居址



6. 17号住居址



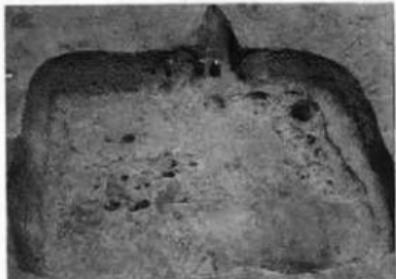
7. 18号住居址



8. 20号住居址



1. 21号住居址



2. 23号住居址



3. 24号住居址



4. 26号住居址



5. 27号住居址



6. 28号住居址

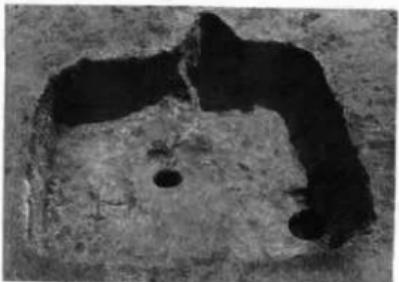


7. 29号住居址



8. 30号住居址

圖版 6



1. 31号住居址



2. 32号住居址



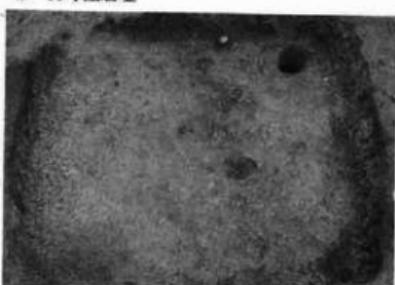
3. 33号住居址



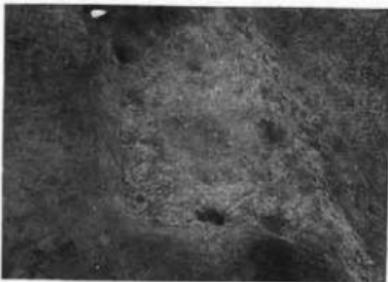
4. 35号住居址



5. 36号住居址



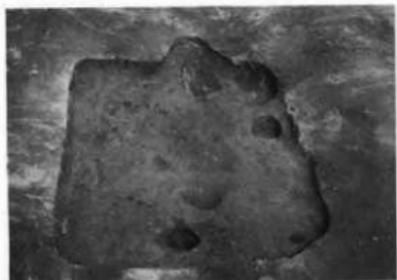
6. 37号住居址



7. 38号住居址



8. 39号住居址



1. 40号住居址



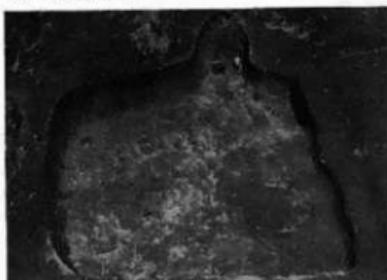
2. 41号住居址



3. 42号住居址



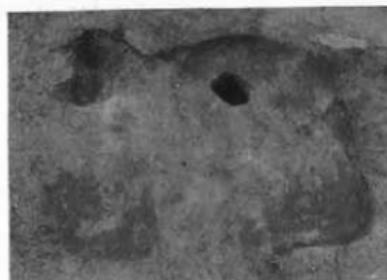
4. 43号住居址



5. 44号住居址



6. 45号住居址



7. 46号住居址



8. 47号住居址

圖版 8



1. 48号住居址



2. 50号住居址



3. 51号住居址



4. 52号住居址



5. 53号住居址



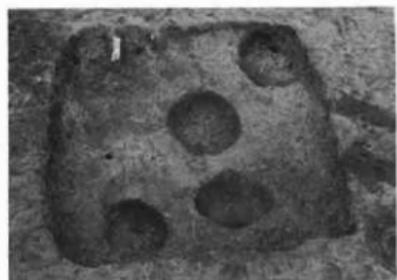
6. 左54·右56号住居址



7. 57号住居址



8. 58号住居址



1. 60号住居址



2. 61号住居址



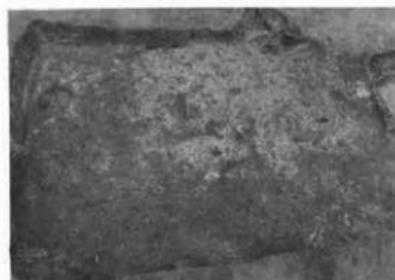
3. 62号住居址



4. 63号住居址



5. 65号住居址



6. 66号住居址



7. 67号住居址



8. 69号住居址

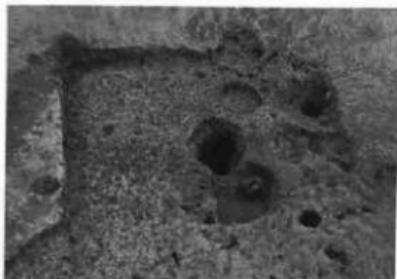
図版 10



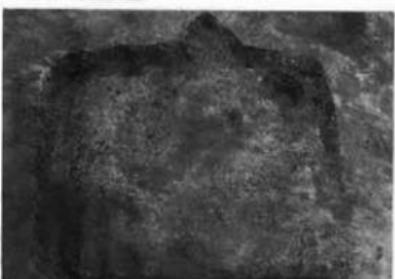
1. 右70・左88号住居址



2. 71号住居址



3. 72号住居址



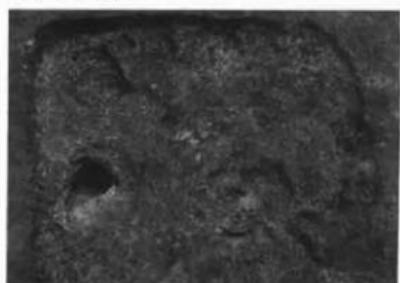
4. 73号住居址



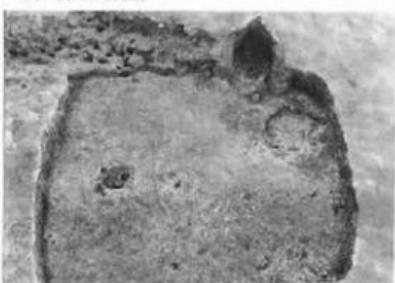
5. 74号住居址



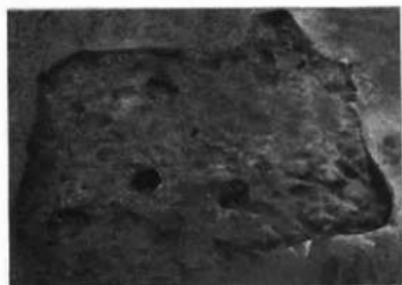
6. 75号住居址



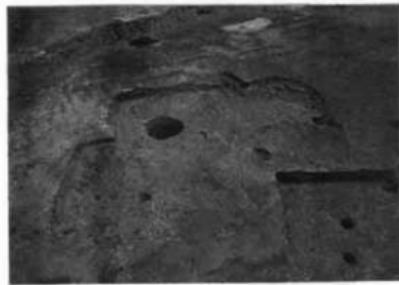
7. 76号住居址



8. 77号住居址



1. 78号住居址



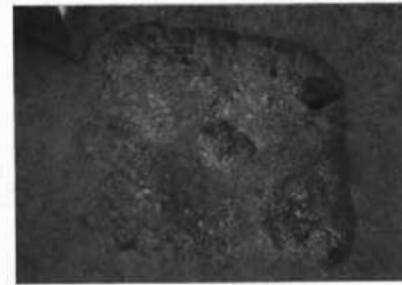
2. 左80・右79号住居址



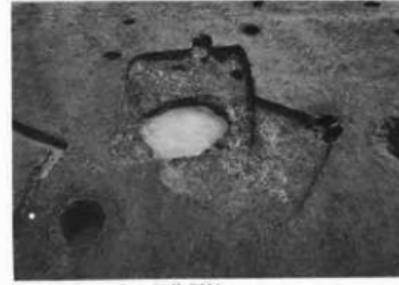
3. 81号住居址



4. 82号住居址



5. 83号住居址



6. 左84・右85号住居址



7. 86号住居址

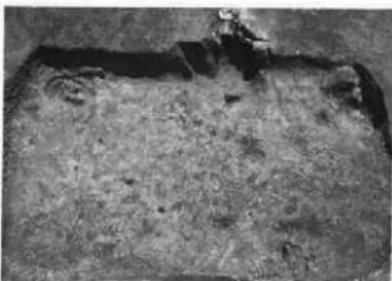


8. 87号住居址

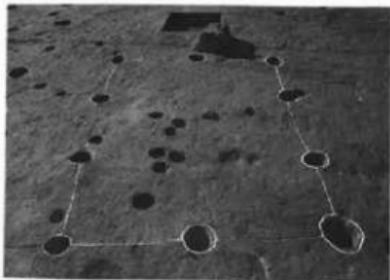
圖 版 12



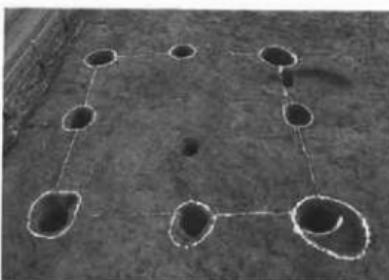
1. 左上89・左下64・中央90号住居址



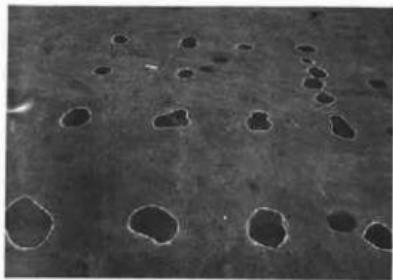
2. 91号住居址



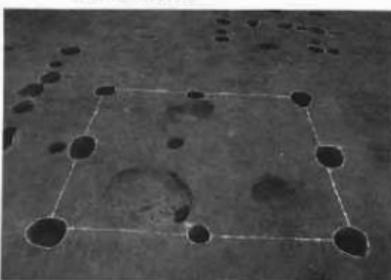
3. 1号掘立柱建物址



4. 3号掘立柱建物址



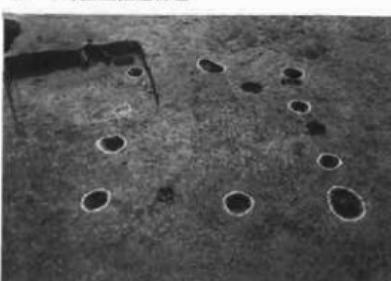
5. 5号掘立柱建物址



6. 8号掘立柱建物址



7. 9号掘立柱建物址

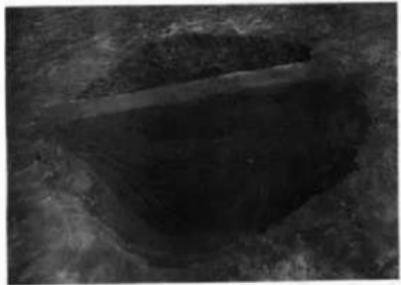


8. 10号掘立柱建物址

図版 13



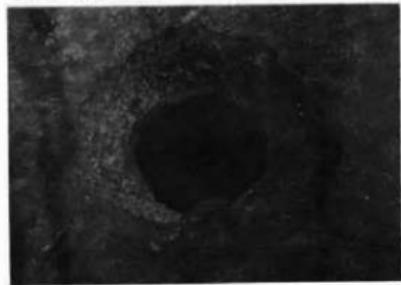
1. 1号井戸



2. 2号井戸断面



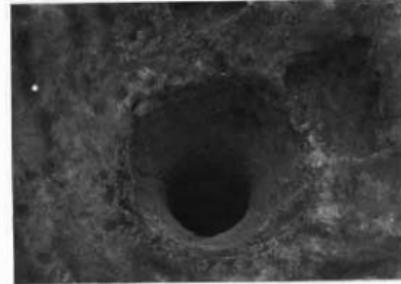
3. 3号井戸



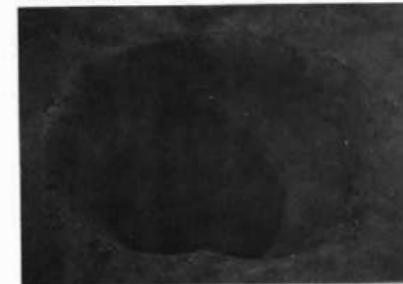
4. 5号井戸



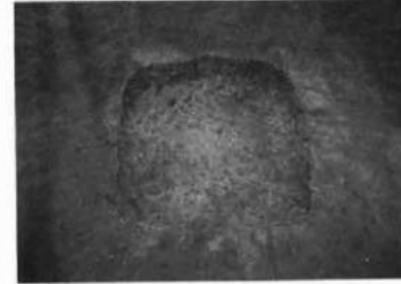
5. 6号井戸



6. 13号井戸

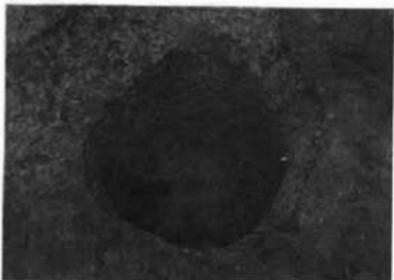


7. 35号土塙



8. 72号土塙

圖版 14



1. 64号土坡



2. 75号土坡



3. 76号土坡



4. 78号土坡



5. 83号土坡



6. 84号土坡



7. 85号土坡

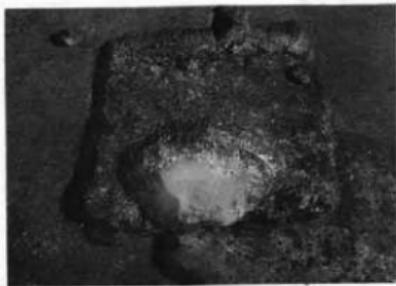


8. 87号土坡

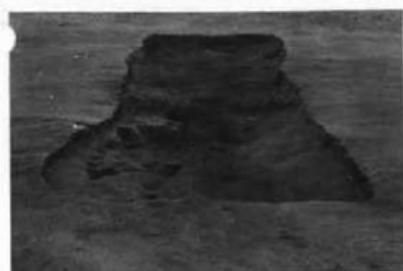
図版 15



1. 90号土塚遺物出土状況



1 2. 90号土塚



3. 炭 塚



4. 棚 列

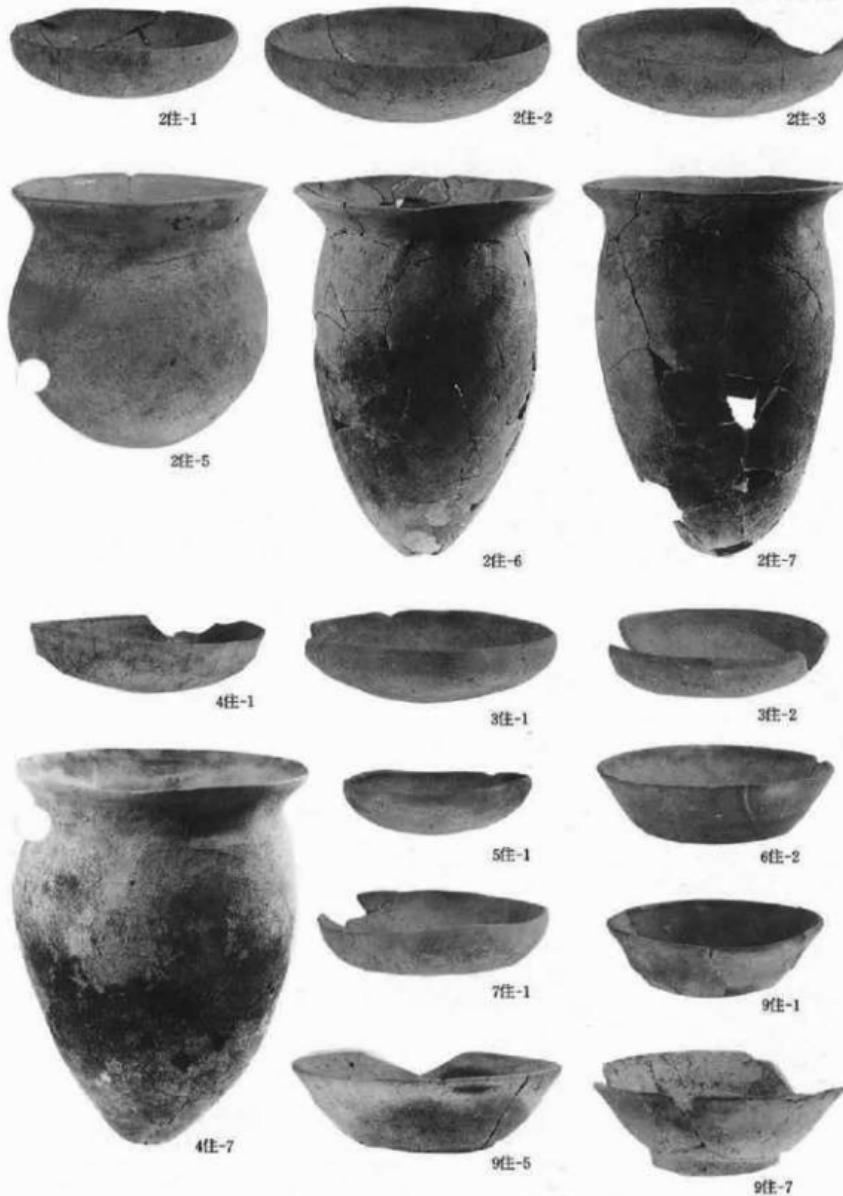


5. 古墳全景

図版 16

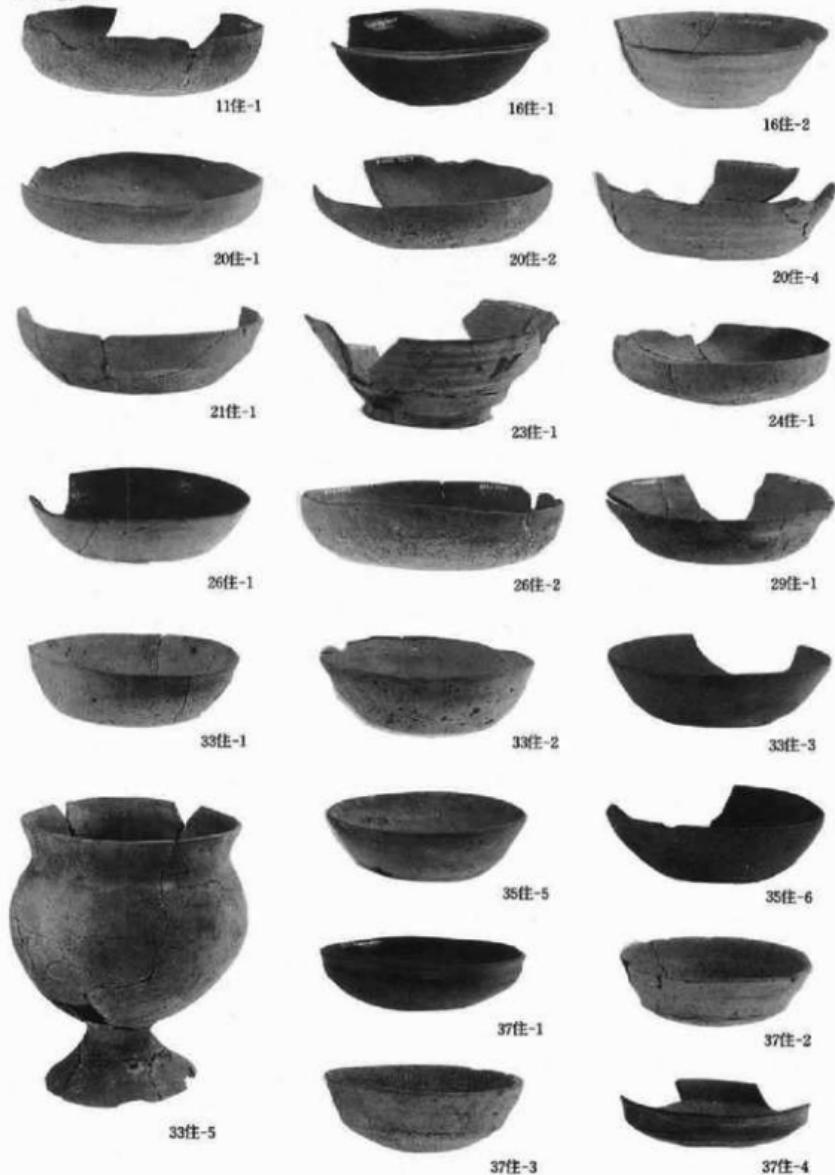


図版 17



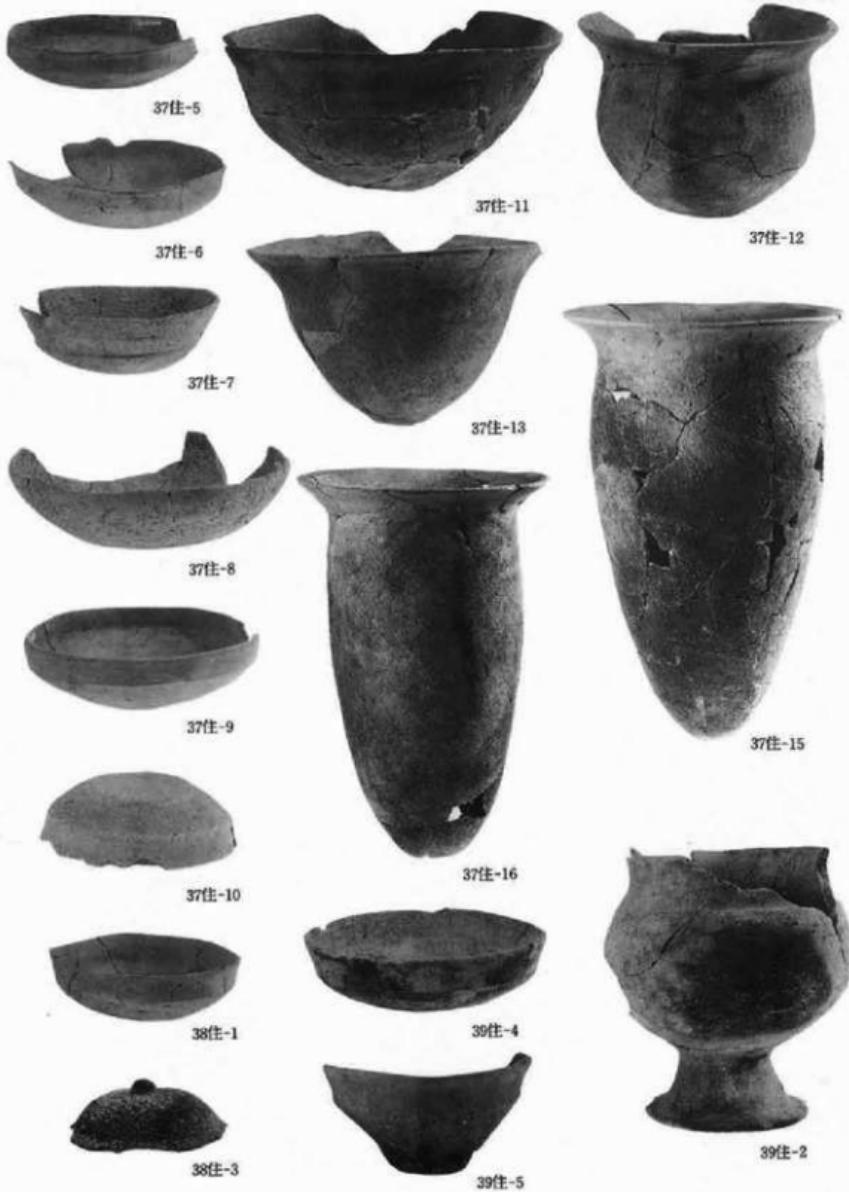
2・3・4・5・6・7・9号住居址出土遺物

図版 18



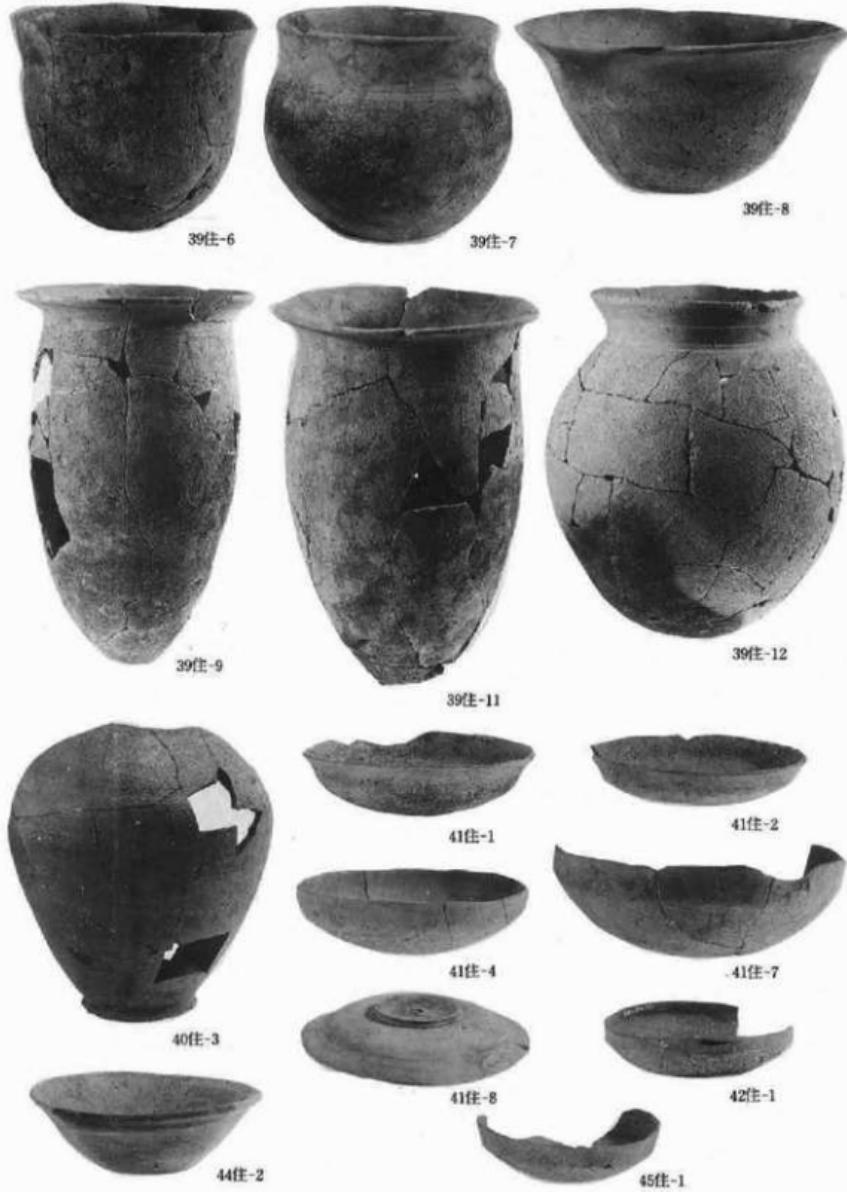
11・16・20・21・23・24・26・29・33・35・37号住居址出土遺物

図版 19

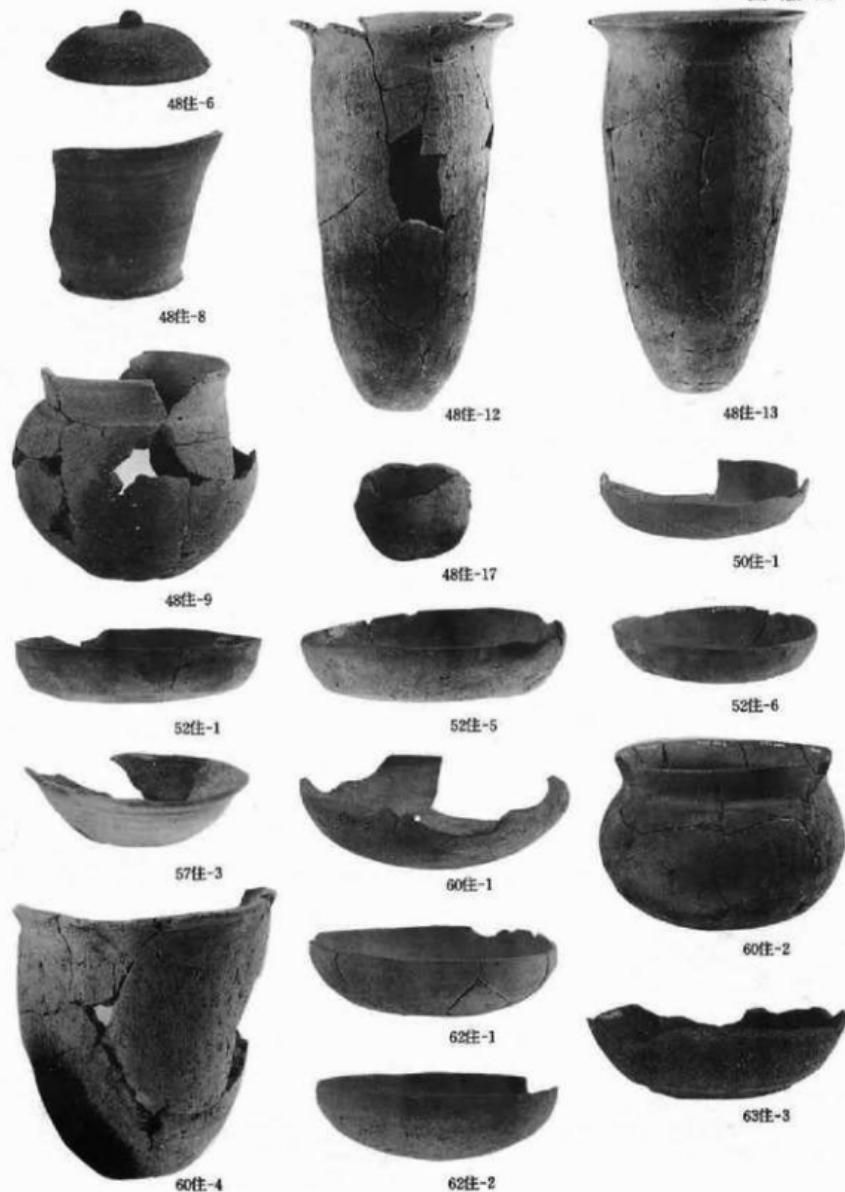


37・38・39号住居址出土遺物

圖版 20

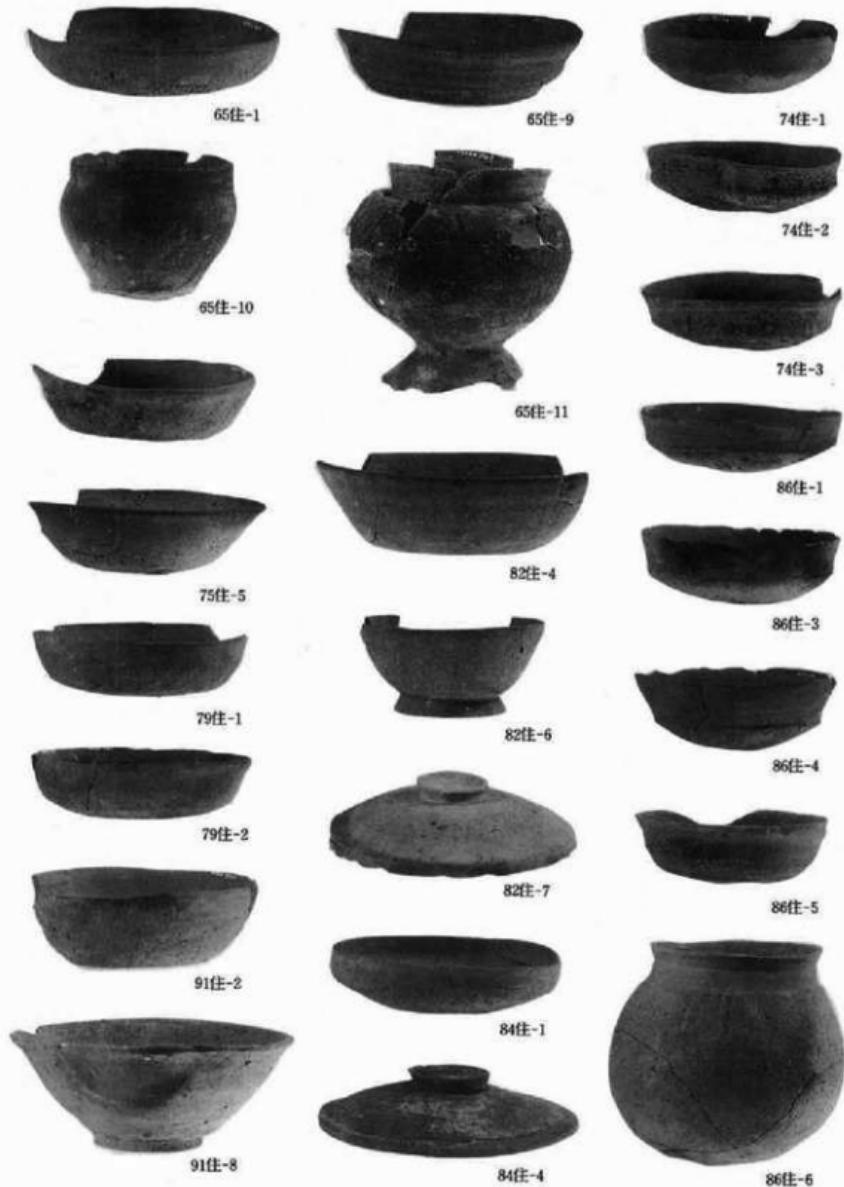


39・40・41・42・44・45号住居址出土遺物

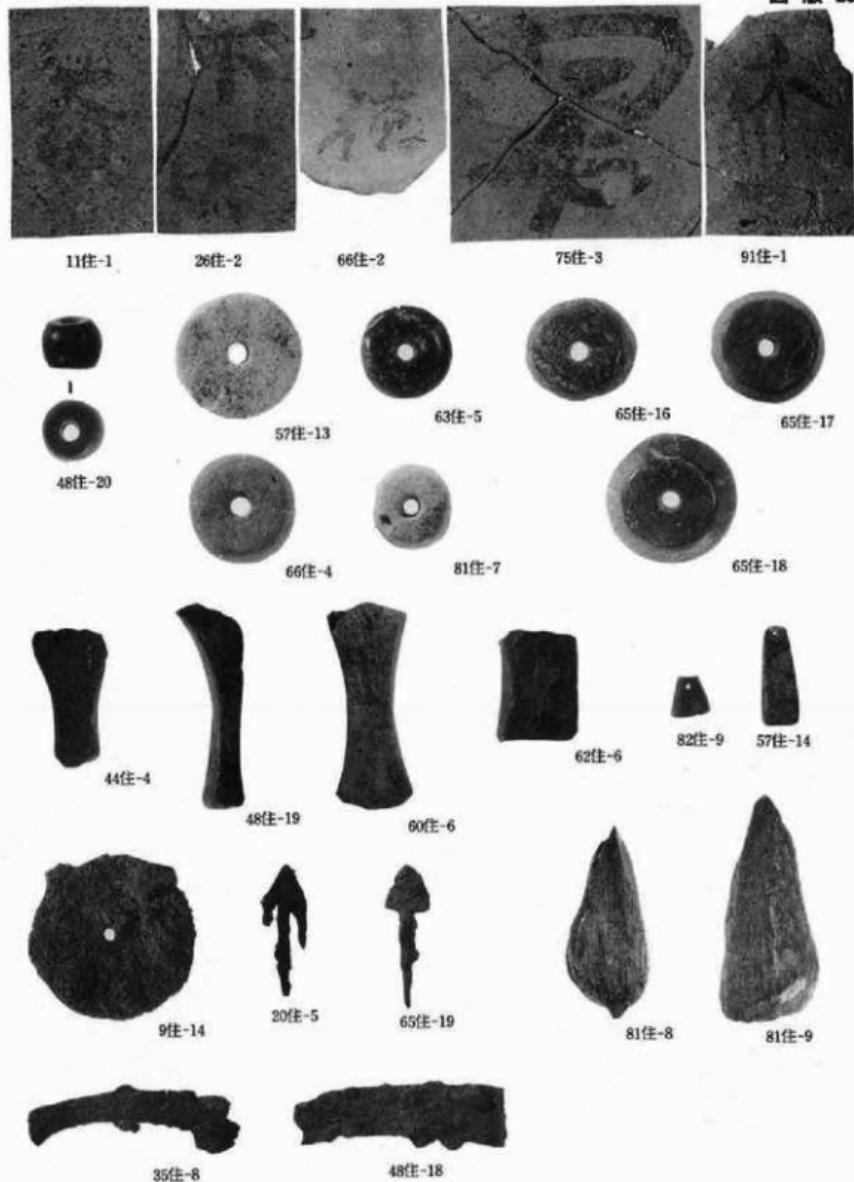


48・50・52・57・60・62・63号住居址出土遺物

図版 22

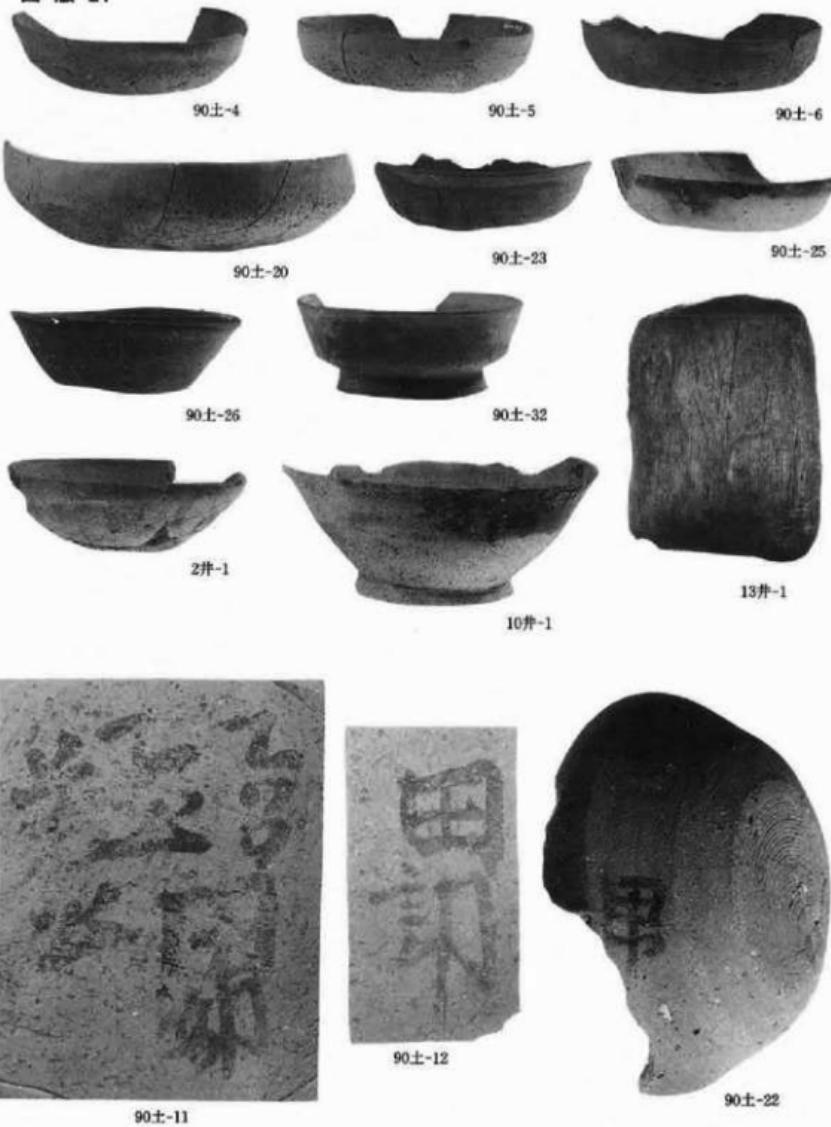


65・74・75・79・82・84・86・91号住居址出土遺物



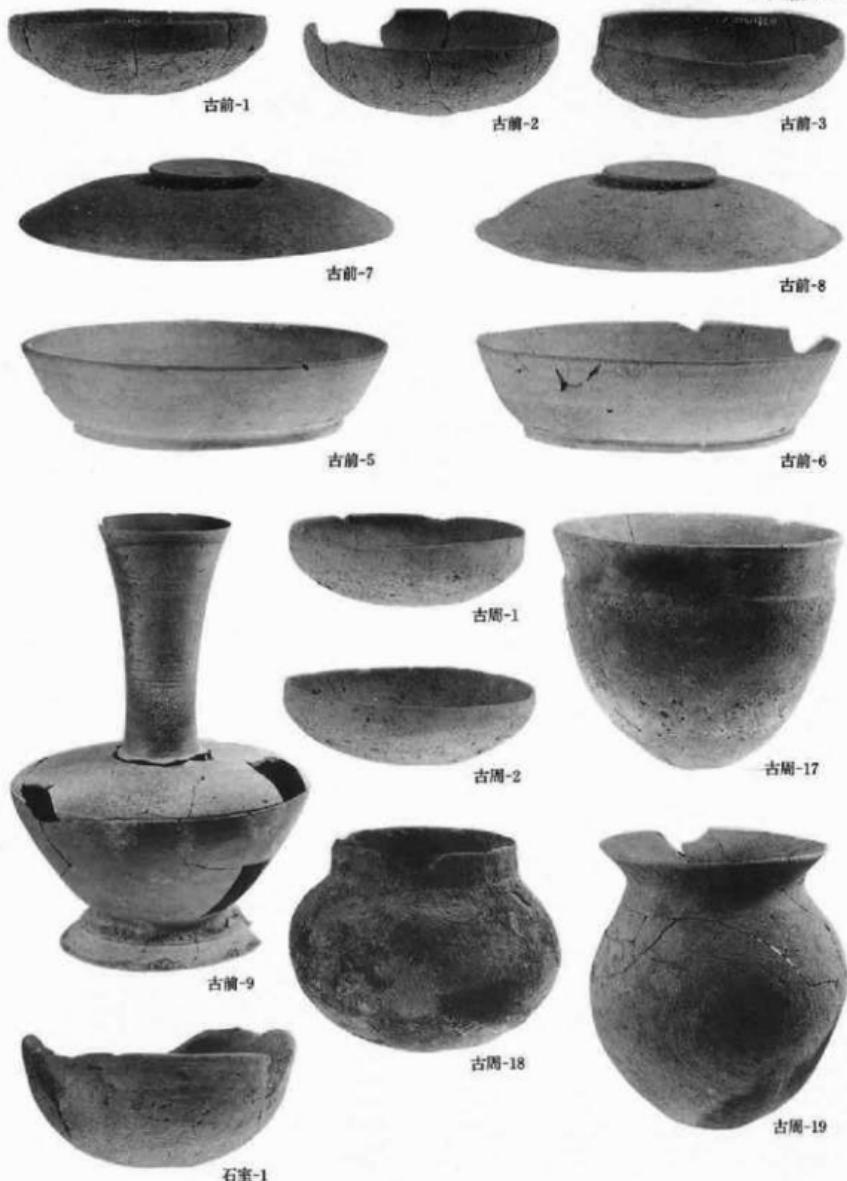
住居址出土墨書き器・石製品・鉄製品・木製品

図版 24



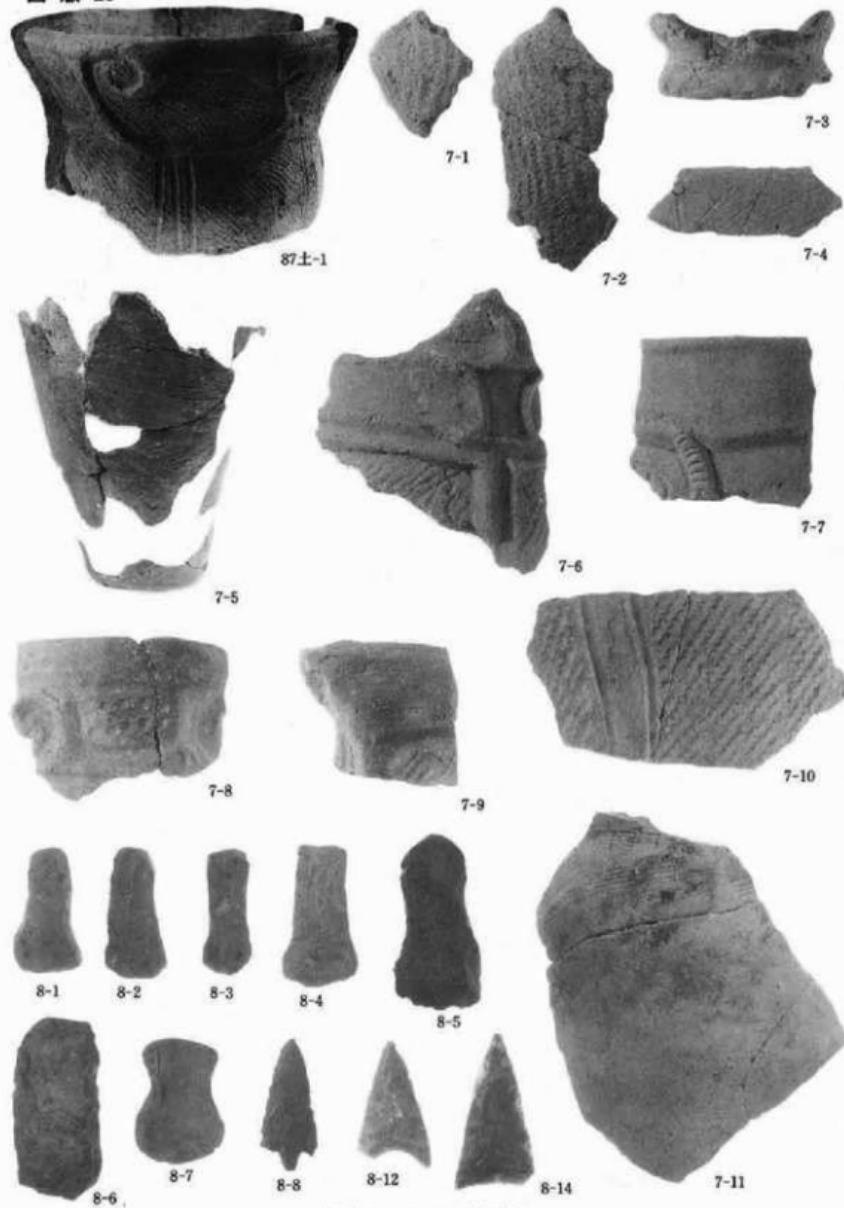
井戸・土塙出土遺物

圖版 25



古 墓 出 土 遺 物

図版 26



縄文土器・石器・劣生土器

群馬県前橋市柳久保遺跡群VI
発掘調査報告書

昭和63年3月25日

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市教育委員会
編集 山武考古学研究所
印刷 桃文化総合企画
TEL. 0476 (24) 1563

